

ISSN 1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

(平成26年度版)

No.8

2016

沖縄県立博物館・美術館

ISSN 1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

(平成26年度版)

No.8

2016

沖縄県立博物館・美術館

目 次

序

概要	1
I 沿革	2
II 日誌抄	7
III 施設・設備	10
IV 組織	13
V 予算	17
VI 収蔵資料現在高	18

利用統計

I 入館者統計	20	
1. 総入館者集計	2. 団体別入館者月別集計	3. 展覧会別入館者集計
4. 2014（平成26）年度月間入館者数	5. 年間入館者数の年次推移	6. 減免申請集計
7. 団体入館内訳		
II 施設利用者統計	26	
1. 月別施設利用集計	2. 施設貸出内訳	

博物館

I 調査研究等の活動	52	
1. 調査研究の概要	2. 博物館総合調査―鳩間島・黒島・新城島総合調査―	
3. 博物館共同研究事業	4. 調査・研究・講演・著作論文等	5. 職員研修
II 展示活動	65	
1. 展示活動概要	2. 常設展	3. 常設展 展示替え
4. 特別展 「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」		
5. 企画展 「大嶺薫コレクション展―アジアへのまなざし―」		
6. 企画展 「新収蔵品展―平成25年度新収蔵資料―」		
7. 企画展 「久米崇聖会創立100周年記念『久米村（クニンダ）―琉球と中国の架け橋―』		
8. 企画展 「イノシシとブタと私たち」		
III 教育普及活動	81	
1. 博物館教育普及活動の概要	2. 学校連携事業	3. 博物館体験学習教室
4. 博物館文化講座	5. 学芸員講座	6. 展示解説会
7. バックヤード・ツアー	8. 夏休み！博物館学芸員教室	9. 博物館ボランティア活動
10. ふれあい体験室	11. 企画展関連事業	12. 常設展に関する取り組み
13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス		14. 普及資料の貸出
15. 共催事業		
IV 資料収集・保存管理	90	
1. 収蔵資料現在高	2. 2014（平成26）年度新収蔵資料高	
3. 2014（平成26）年度新収蔵資料目録		
4. 所蔵指定文化財	5. 修理事業	6. 資料収集事業
7. 資料貸出	8. 写真貸出	

美術館

I 調査研究等の活動	100	
1. 調査研究の概要	2. 調査・研究・講演・著作論文等	
II 展示活動	103	
1. 展示活動概要	2. コレクション展（常設展）	
3. 企画展1 「色彩と風のシンフォニー―内間安理の世界」Symphony of Colors and Wind The World of Ansei Uchima		
4. 企画展2 「ゴー・ビトゥイーンズ展 こどもを通して見る世界」Go-Betweens: The World Seen through Children		
III 教育普及活動	111	
1. 美術館教育普及活動の概要	2. 鑑賞活動支援	3. バックヤード・ツアー
4. 美術講座	5. コレクション・企画展関連シンポジウム	
6. ワークショップ	7. アウトリーチ（出前講座）	
8. 美術館招待事業（美術館へ行こう）		

9. 図工・美術担当教職員等講座	10. 鑑賞用ワークシート作成	
11. 団体鑑賞ツアーのパンフレット（美術館は教室だ）		
12. 美術館監視ボランティア／鑑賞ボランティア対象事前展示説明会		1 3. 研修対応
IV 資料収集・保存管	120	
1. 収蔵作品現在高	2. 2014（平成26）年度新収蔵作品高	
3. 2014（平成26）年度新収蔵作品目録	4. 作品収集事業	
5. 保存管理事業	6. 作品貸出	

文化の杜共同企業体（指定管理者）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129

I 文化の杜共同企業体概要	130	
II 運営方針	130	
III 組織	131	
IV 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議	133	
V 展示活動	133	
1. 展示活動概要（美術館企画展）		
(1) 「木下晋展 生命の旅路」		
(2) 「麗しき琉球の記憶－鎌倉芳太郎が発見した“美”」		
(3) 「20世紀フランス絵画展－山形美術館 服部コレクション－」		
VI 教育・イベント活動	142	
1. ワークショップ等	2. 展示会等	3. しまくとぅばプロジェクト
4. おもろ夜会	5. その他	
VII 広報・交流事業活動	149	
1. 広報事業	2. 地域イベントへの参加	
VIII 調査・研究等の活動	152	
1. 調査・研究等		
IX その他	153	
1. 職員研修	2. 企画展・特別展研修	3. 消防訓練等

全館共同事業・・ 155

I 学芸員実習及び職場体験学習	156	
1. 博物館実習	2. 美術館実習	3. 職場体験受け入れ
II 国際博物館の日	158	
III 移動展	159	
IV 燻蒸・消毒処理	163	
V 刊行物	166	

その他の活動・・ 167

I 沖縄県博物館協会	168	
II 全国組織との関わり	168	
1. 日本博物館協会	2. 全国科学博物館協議会	3. 九州博物館協議会
4. 美術館連絡協議会		
III 沖縄博物館友の会	169	
IV 特定非営利活動法人沖縄県立美術館支援会 happ	170	

関係法規抄録・・ 175

- 博物館法
- 博物館法施行令
- 博物館法施行規則
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

概 要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 予算
- VI 収蔵資料現在高

I. 沿革

【前史】

1936年（昭和11）、旧首里城北殿に沖縄県教育会附設郷土博物館が創設されたが、沖縄戦により全焼した。

終戦後、米国海軍軍政府ウィラード・A・ハンナ少佐とJ・T・ワトキンス少佐が、アメリカに沖縄の歴史文化を紹介するために焼土の中から仏像や陶器などの文化財を収集し、1945年（昭和20）8月石川市（現うるま市）東恩納に沖縄陳列館を創設した。

一方、首里城周辺では、廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）3月頃、首里市汀良に首里市立郷土博物館が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、東恩納博物館と改称した。また、1947年12月には、首里市立郷土博物館も沖縄民政府に移管され、首里博物館と改称した。

【発展】

1953年（昭和28）、東恩納博物館が移転して、首里博物館と合併した。5月には、龍潭池畔に赤瓦屋根の本館とペルリ記念館が建設され、落成式の当日、戦後アメリカに持ち去られていた「おもろさうし」等の文化財が返還された。

1955年（昭和30）9月、沖縄民政府立首里博物館から琉球政府立博物館に改称した。さらに、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。

1972年（昭和47）の日本復帰に伴い、名称を沖縄県立博物館と改め、1973年（昭和48）に2階部を増築し、展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。

2004年（平成16）、那覇新都心（おもろまち）に新館の建設を着工した。首里在の博物館（旧博物館）は新館への移転準備のため、2006年（平成18）3月に閉館した。

2007年（平成19）11月1日、美術館を併設した沖縄県立博物館・美術館として開館した。

【あゆみ】

- | | | |
|------------|-----|--|
| 1946（昭和21） | 4月 | 沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（24日） |
| 1947（昭和22） | 12月 | 前年3月に首里汀良町に設立された「首里市立郷土博物館」が民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。 |
| 1953（昭和28） | 3月 | 「東恩納博物館」を「首里博物館」に移転合併する。 |
| | 5月 | 「首里博物館」は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、「ペルリ記念館」を附設して落成、贈呈される。落成当日、米国大統領から戦後にアメリカに渡っていた「おもろさうし」等文化財が返還された。（26日） |
| 1954（昭和29） | 8月 | ハワイから三線「江戸与那」が返還される。 |
| 1955（昭和30） | 9月 | 「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。 |
| 1963（昭和38） | 4月 | 米国民政府から河島コレクションが贈呈される。 |
| 1965（昭和40） | 9月 | 大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。 |
| 1966（昭和41） | 10月 | 米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。 |
| | 11月 | 新館開館記念「現代美術展」が開催され、同時に尚家所蔵文化財も特別陳列された。（3日） |
| 1968（昭和43） | 9月 | 太宰府天満宮から鄭元偉書「徳高」扁額が寄贈される。（30日） |
| 1970（昭和45） | 10月 | 沖縄タイムス社及びG.H.カー博士より前庭に花園を贈呈される。 |
| 1971（昭和46） | 2月 | 八重山出土の陶器類約500点、検察庁より譲渡される。 |
| 1972（昭和47） | 2月 | サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展が開催される。サントリー美術館寄贈の植樹造園譲与式が行われた。（27日） |
| | 5月 | 琉球切手原画及び切手類、郵政庁より譲渡される。（13日）日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」と改称する。 |
| 1973（昭和48） | 2月 | 国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設する。 |
| | 5月 | 「田名家文書」の寄託をうける。（9日） |
| | 7月 | 琉球切手原画が沖縄郵政管理事務所より譲渡される。（16日） |

- 1973 (昭和48) 12月 琉球新報社から映画フィルム「沖縄」「海の民・沖縄島物語」「南の島・琉球」の3巻を寄贈される。(17日)
多和田真淳氏考古資料の寄託をうける。(19日)
- 1974 (昭和49) 11月 大阪天満宮から浦添王子朝熹書「徳馨」の寄託をうける。(27日)
糸満市摩文仁の平昌博物館から全資料譲与される。
- 1976 (昭和51) 4月 創立30周年記念式典を行う。(24日)
7月 大英博物館から皇太子殿下に贈られた始祖鳥のレプリカ標本が寄贈される。
12月 『博物館30年の歩み展』開催。
- 1977 (昭和52) 9月 玉陵石獅子を玉陵へ移管。
11月 円覚寺の鐘、前庭に展示。
- 1978 (昭和53) 3月 G.H.カー博士より資料寄贈。
7月 円覚寺の鐘楼が前庭に完成。
- 1979 (昭和54) 2月 尚裕氏より玉陵石獅子レプリカ2体が寄贈される。
6月 特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催。
- 1980 (昭和55) 1月 特別展『日本の美—救世熱海美術館名品展—』及び『沖縄県立博物館名品展』開催
2月 「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する(2008年度からは「移動展」に改称)。
8月 特別展『琉球のシダ植物』開催。
11月 特別展『失われた生物たち—大恐竜展』開催
- 1981 (昭和56) 3月 博物館法に基づき「登録博物館」として登録される。(3月30日付け)
5月 仲嶺俊子氏より貝類標本約2,000点が寄贈される。
8月 G.H.カー博士より図書、写真等が寄贈される。
10月 特別展『沖縄の美—日本民芸館蔵—』及び『戦前の沖縄写真展』開催。
- 1982 (昭和57) 5月 新たに常設展として自然部門を設置。
7月 企画展『沖縄の昆虫』開催。
10月 特別展『熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化』開催。
- 1983 (昭和58) 5月 企画展『琉球の漆工芸』開催。
11月 特別展『沖縄県・熊本県交流展—沖縄の美 風土と美術工芸』を熊本県立美術館にて開催。
- 1984 (昭和59) 6月 企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展—琉球芸能の世紀』開催。
7月 企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催。
10月 企画展『今帰仁グスク展』開催。
- 1985 (昭和60) 2月 企画展『紅型衣装と型紙展』開催。
3月 大嶺薫コレクションが贈呈される。
11月 特別展『グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン』開催。
- 1986 (昭和61) 2月 特別展『大嶺薫コレクション—美術工芸の美を求めて』開催。
12月 天野鉄夫コレクション1,588点の寄贈をうける。
- 1987 (昭和62) 7月 「旧大安禅寺の鐘」が米国より返納寄贈され、泊高校で贈呈式が行われる。
天野ハル氏より亡夫鉄夫氏収集コケ類1,562点が寄贈される。
10月 スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画—物故作家』開催。
企画展『田名家収蔵品展—ある首里士族の400年』開催。
12月 企画展『現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション』開催。
- 1988 (昭和63) 8月 特別展『ヤンバルの自然』開催。
11月 特別展『三線名器100挺展』開催。
- 1989 (平成元) 11月 特別展『岡田コレクション・インドネシア更紗展』開催。
12月 企画展『真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」』開催。
- 1990 (平成2) 1月 特別展『大アンデス文明展』開催。
6月 湧田窯搬入。
8月 企画展『沖縄の野鳥』開催。
11月 企画展『沖縄の祭り』開催。
- 1991 (平成3) 2月 企画展『技と美—大城志津子の世界—』開催。
8月 企画展『沖縄のチョウ展』開催。
9月 企画展『壺屋陶工遺作展』開催。
10月 特別展『アジアの祭りと芸能』開催。
- 1992 (平成4) 2月 企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催。
3月 仲嶺俊子氏より貝類コレクションを寄贈される。

- 1992 (平成4) 4月 旧中城御殿の石牆整備工事に伴う第1次埋蔵文化財発掘調査開始(～7月3日)
6月 特別展『古代メキシコ至宝展』開催。
8月 特別展『沖縄の貝類—海からの贈りもの』開催。
10月 復帰20周年記念特別展『琉球王国—大交易時代とグスク』開催。
- 1993 (平成5) 1月 特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催。
2月 企画展『謝花雲石展』開催。
3月 ハワイ在住の伊福盛寿氏から50点余のコレクション寄贈された。
7月 旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査開始(～9月2日)
企画展『芭蕉布と平良敏子』開催。
8月 特別展『沖縄の川と生きもの』開催。
10月 企画展『刻まれた歴史—沖縄の石碑と拓本』開催。
企画展『琉球王朝時代の楽器—三線と御座楽』開催。
- 1994 (平成6) 7月 特別展『子どもの世界』開催。
旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査開始(～8月20日)
- 1995 (平成7) 3月 横浜国立大学教授長谷川善和氏より鹿類の化石約25,000点が寄贈された。
6月 戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催。
- 1996 (平成8) 3月 栗田文子氏よりワラザン資料を寄贈される。
7月 特別展『大久米島展—しぜん・ひと・もの』開催。
10月 『新収蔵品展・ワラザン展』開催。
福田経子氏より「フクダコレクション」贈呈
12月 企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
- 1997 (平成9) 4月 特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催。
- 1998 (平成10) 7月 企画展『琉球王国時代の植物標本—ベリリーが持ち帰った植物たち』開催。
11月 特別展『包むところ ふろしき』開催。
- 1999 (平成11) 8月 特別展『三線のひろがり可能性』開催。
10月 企画展『日本の技—伝統のかたち』開催。
(第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展)
11月 ホノルル美術館からG.H.カー博士コレクション(考古資料6,000点余)寄贈。
- 2000 (平成12) 2月 企画展『工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から』開催。
7月 サミット開催記念特別展『大琉球展』開催。
11月 ハワイ移民100周年記念特別展『日系移民1世紀展—From Bento to Mixed Plate』開催。
- 2001 (平成13) 2月 企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催。
3月 企画展『工芸王国—人・技・心』開催。
11月 特別展『かざりとかたち』開催。
- 2002 (平成14) 8月 特別展『港川人展』開催。
10月 企画展『沖縄の文化財展』開催。
- 2003 (平成15) 2月 企画展『おきなわナースものがたり』開催。
7月 企画展『旅する種子—運ばれるための巧妙なしかけ』開催。
10月 企画展『あじまあ 沖縄の伝統とくらし—沖縄県立博物館収蔵資料展』を国立民族学博物館で開催。
特別企画展『沖縄織物へのメッセージ—田中俊雄の研究』開催。
- 2004 (平成16) 2月 企画展『戦前・戦後の文化財保護—仲座久雄の活動をとおして』開催。
3月 企画展『工芸王国—てわざの今、そして未来へ』開催。
8月 企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』(沖縄コレクター友の会主催)開催。
11月 企画展『自然界のエイリアン—海をこえて持ちこまれた動物たち』開催。
- 2005 (平成17) 2月 特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会—入江正彦 児童文化史コレクション』開催。
- 2006 (平成18) 2月 閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼—柳宗悦の民藝と巨匠たち展』開催。
3月 『ありがとう・さよなら』キャンペーン(22日～31日 無料入館)
企画展『わたしの宝もの展』(博物館友の会主催)開催。
4月1日から博物館新館移転準備のため2007年(平成19)10月末まで休館する。
7月 博物館新館展示工事安全祈願祭(於:波之上)
8月 鳥籠7点寄贈(11日)
10月 尚順男爵関係資料寄贈(19日)
謝花雲石書「萬國陽和」屏風の寄贈(26日)
12月 稲嶺一郎関係資料寄贈(26日)

- 2007 (平成19) 2月 坂口總之輔氏カメラ寄贈(16日)
- 3月 新館へ事務所移転(29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30日)を行い、全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31日)。
- 4月 新館での事務を開始する。(1日)
- 7月 沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として文化の杜共同企業体が指定を受ける。
- 8月 指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめめる。
- 11月 那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。(1日)
同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅ー港川人の来た道ー』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』を開催する。
- 2008 (平成20) 2月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成17・18年度収蔵資料』開催。
- 3月 指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催。
美術館常設展開会式(25日)
- 5月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成19年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間でー無言館・沖縄・画家たちの表現』開催。
美術館企画展『新収蔵品展 ポリエドールー沖縄・アジアの多様性』開催。
- 7月 指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催。
指定管理者企画展『しまくとぅば』開催。
- 9月 博物館企画展『ずしがめの世界』開催。
開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催。
- 11月 美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催。
- 2009 (平成21) 1月 博物館企画展『発掘された日本列島2008』開催。
博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催。
美術館企画展『移動と表現ー変容する身体・言語・文化』開催。
- 4月 指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ in 沖縄』開催。
- 5月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成20年度資料』開催。
指定管理者自主事業『王昭展』開催。
- 7月 指定管理者企画展『豊潤の美を求めてー金城安太郎と高島華宵』開催。
指定管理者企画展『琉球絵画展』開催。
- 9月 指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催。
- 10月 博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く!』開催。
美術館企画展『名渡山愛順展ー名渡山愛順が見た沖縄』開催。
- 12月 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
- 2010 (平成22) 1月 美術館企画展『タカエズトシコ展』開催。
- 2月 博物館企画展『造礁サンゴ展ー楽園をつくった偉大な建築家』開催。
博物館企画展『ものづくり今昔』開催。
- 4月 総務班が設置され、三班体制となる
指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催。
指定管理者自主事業『石川直樹写真展』開催。
- 5月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成21年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『遠き道ーはて無き精進の道程』開催。
- 7月 指定管理者企画展『沖縄マンガ』展開催。
- 9月 指定管理者企画展『風土と建築』開催。
博物館特別展『海のクロスロード 八重山展』開催。
- 11月 美術館企画展『母たちの神ー比嘉康雄』展開催。
- 12月 博物館・指定管理者企画展『アイヌー美を求める心』開催。
- 2011 (平成23) 1月 美術館企画展『安谷屋正義』展開催。
博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催。
- 2月 博物館企画展『骨の科学』開催。
- 3月 博物館企画展平成22年度『大嶺薫コレクション展』開催。
- 4月 博物館企画展平成23年度『大嶺薫コレクション展』開催。
指定管理者企画展『國吉清尚』開催。
- 5月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成22年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『生誕100年記念展 岡本太郎と沖縄ーここが世界の中心だ』開催。
- 7月 指定管理者企画展『ロボット展』開催。
指定管理者企画展『印象派の誕生展』開催。

- 2011 (平成23) 9月 美術館企画展『東松照明展<太陽へのラブレター>』開催。
 10月 博物館企画展『第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」』開催。
 博物館企画展『沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年記念「工芸王国一受けつがれる琉球のわざと美」』開催。
- 2012 (平成24) 11月 博物館特別展『宇宙一遙かなるロマンを求めて』開催。
 1月 博物館企画展『檀王法林寺開創400年記念「琉球と袋中上人－エイサーの起源をさぐる」』開催。
 美術館企画展『沖縄の美術シリーズ3 玉那覇正吉』開催。
 3月 指定管理者企画展『本土復帰40周年記念「田中一村展－琉球弧で開花した美の世界」』開催。
 4月 博物館企画展『沖縄復帰40周年記念「紅型BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」』開催。
- 2012 (平成24) 5月 指定管理者企画展『土門拳の昭和と沖縄』開催。
 6月 博物館企画展『新収蔵品展－平成23年度収蔵資料』開催。
 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
 7月 指定管理者企画展『旅する仮面』開催。
 指定管理者自主事業『お化け屋敷で科学する』展開催。(沖縄テレビ共催)
 9月 美術館企画展『山田實展一人と時の往来』開催。
 博物館特別展『本土復帰40年記念「OKINAWAから沖縄へ」』開催。
 11月 美術館企画展『復帰40周年記念「アジアをつなぐ－境界を生きる女たち1984-2012」』開催。
 12月 博物館企画展『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』開催。
- 2013 (平成25) 2月 指定管理者自主事業『マリー・アントワネット物語』展開催。(沖縄タイムス共催)
 指定管理者企画展『スタジオジブリ・レイアウト展』開催。
 5月 博物館企画展『大嶺薫コレクション－探求する心とその世界－』展開催。
 博物館企画展『新収蔵品展－平成24年度収蔵資料』開催。
 指定管理者企画展『佐川美術館蔵 平山郁夫－大唐西域画への道－』開催。
 7月 博物館特別展『海山川のおくりもの 目からウロコの大生き物展－生物多様性ホットスポットJAPAN』開催。
 指定管理者自主事業『ジミー大西作品展－挑戦と革新－』開催。
 9月 美術館企画展『沖縄の美術シリーズ4 安次嶺金正展－緑の抒情－』開催。
 11月 指定管理者企画展『京都 清水寺展』開催。
- 2014 (平成26) 1月 美術館企画展『森山大道 終わらない旅 北/南』開催。
 2月 博物館企画展『サキタリ洞遺跡発掘調査速報展』開催。
 博物館企画展『三線のチカラ－形の美と音の妙－』開催。
 4月 指定管理者企画展『木下晋展 生命の旅路』開催。
 5月 指定管理者企画展『麗しき琉球の記憶－鎌倉芳太郎が発見した“美”』開催。
 博物館企画展『新収蔵品展－平成25年度収蔵資料』開催。
 7月 指定管理者企画展『20世紀フランス絵画展－山形美術館 服部コレクション－』開催。
 9月 博物館企画展 久米崇聖会創立100周年記念『久米村(クニンダ)－琉球と中国の架け橋－』開催。
 美術館企画展『色彩と風のシンフォニー 内間安理の世界』開催。
 11月 博物館企画展『大嶺薫コレクション－アジアへの眼差し－』開催。
 博物館特別展『水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～』開催。
- 2015 (平成27) 1月 美術館企画展『ゴー・ビトゥイーニズ展 こどもを通して見る世界』開催。
 2月 博物館企画展『イノシシとブタと私たち』開催。

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺 薫 (1946年4月～1953年3月)

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (1953年3月～1955年5月)

琉球政府立博物館

山里 永吉 (1955年5月～1958年8月)

大城 知善 (1962年2月～1969年11月)

沖縄県立博物館

外間 正幸 (1972年5月～1981年3月)

大城 立裕 (1983年4月～1986年3月)

宜保榮治郎 (1992年4月～1994年3月)

當間 一郎 (1996年4月～1999年3月)

平田 與進 (2000年4月～2002年3月)

名嘉 政修 (2005年4月～2006年3月)

新垣 隆雄 (2007年4月～2007年10月)

沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆 (2007年11月～2011年3月)

安里 進 (2012年5月～)

首里博物館

豊平 良顕 (1947年12月～1948年3月)

原田 貞吉 (1948年8月～1953年3月)

金城増太郎 (1958年9月～1961年12月)

外間 正幸 (1969年12月～1972年4月)

大城徳次郎 (1981年4月～1983年3月)

大城 宗清 (1986年4月～1992年3月)

糸数 兼治 (1994年4月～1996年3月)

大城 将保 (1999年4月～2000年3月)

當眞 嗣一 (2002年4月～2005年3月)

宮城 清志 (2006年4月～2007年3月)

白保 台一 (2011年4月～2012年2月)

II. 日誌抄 (2014年4月1日～2015年3月31日)

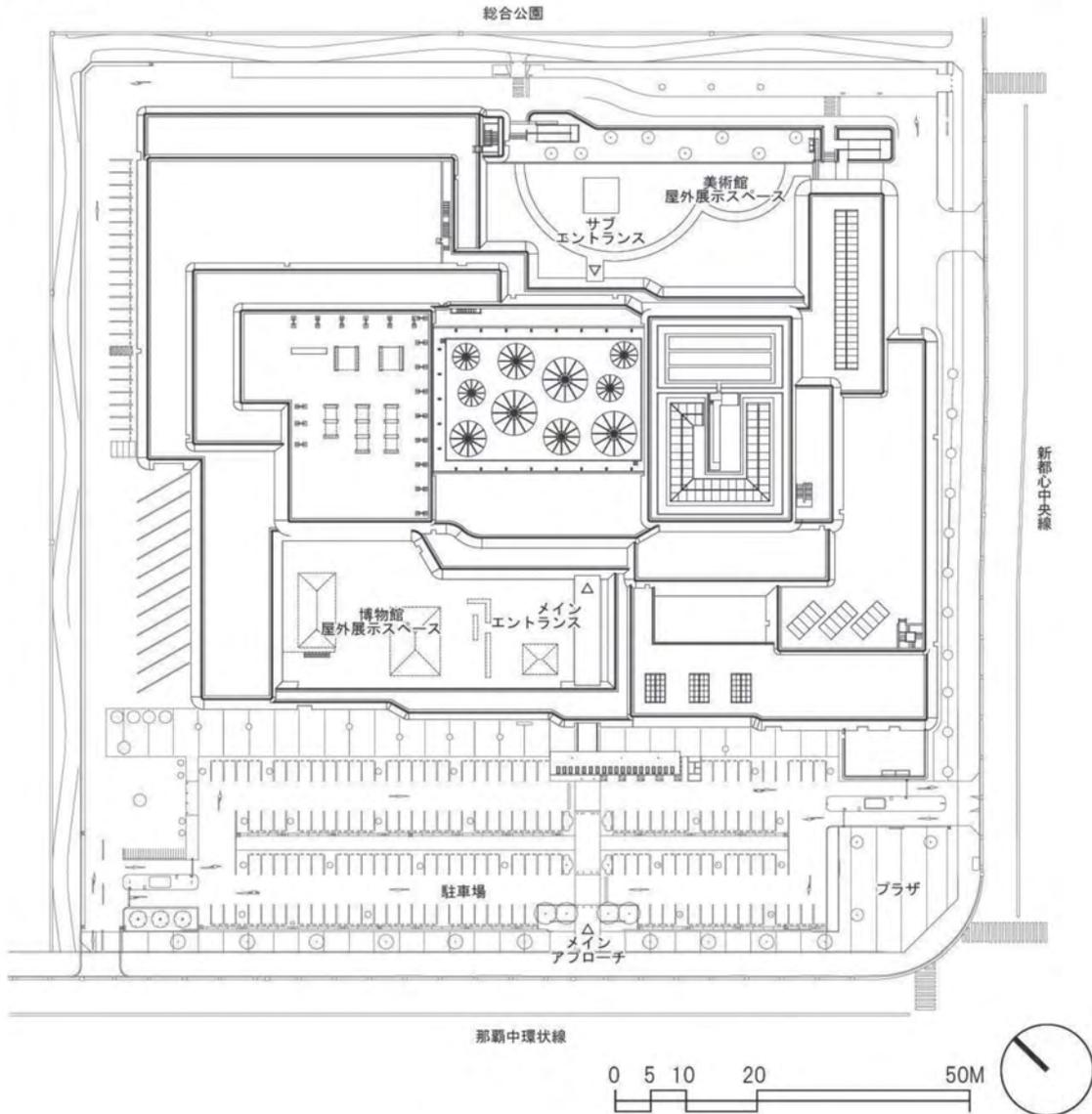
2014年(平成26)

- 4月 1日 博物館・美術館全体会議
- 4日 木下晋展「生命の旅路」開会式
- 11日 日本銀行那覇支店内展示広場リニューアル視察(館長、参事兼副館長)
- 16日 経営調整会議
視察来館(名古屋港管理組合)
- 18日 表敬来館(熊本市現代美術館館長)
- 20日 博物館・美術館スタッフ全体研修
- 24日 表敬来館(米国モンタナ大学学長)
- 25日 ボランティア登録証交付式
- 28日 サキタリ洞発掘調査現場視察(沖縄県文化観光スポーツ部新職員)
- 5月 8日 視察来館(沖縄県文化観光スポーツ部新職員)
表敬来館(読谷村長)
観宝堂厨子寄贈
視察来館(鳥取県議会)
- 12日 博物館・美術館全体会議
- 14日 博物館ボランティア養成講座開講式
- 15日 沖縄県博物館協会理事会出席(館長)
- 19日 紅型贈呈式
意見交換会(博物館・美術館支援組織)
- 20日 企画展「鎌倉芳太郎が発見した“美”」(指定管理者主催)開会式
経営調整会議
- 21日 九州博物館協議会理事会・総会出席(館長)～23日
- 23日 博物館新収蔵品展開会式
- 27日 IPM会議
- 29日 沖縄県博物館協会総会出席(館長)～30日
- 30日 視察来館(九州地方教育委員長協議会)
- 6月 2日 博物館・美術館全体会議

- 3日 メディアとの懇談（館長）
- 4日 平成26年度第1回美術品等取得収集委員会（美術館）
- 10日 全国博物館館長会議（館長）～13日
- 11日 美術館ボランティア養成講座開講式
- 15日 原田マハ講演会
- 16日 博物館・美術館燻蒸・消毒説明会
- 17日 JICA横浜移民展沖縄巡回展開会式
学芸員実習開講式
- 18日 経営調整会議
- 26日 表敬来館（全国歴史民俗系博物館協議会会長）
- 28日 第1回美術館公開意見交換会
- 7月 9日 メディアとの懇談（館長）
視察来館（岡山県津山市議会）
- 15日 企画展「20世紀フランス絵画展」（指定管理者主催）開会式
- 16日 全国歴史民俗系博物館協議会総会（館長）～18日
- 18日 企画展「篠山紀信写真力」（沖縄テレビ主催）開会式
視察来館（沖縄県知事公室主催万国津梁フォーラム出席者）
指定管理者制度運用委員会
- 23日 表敬来館（川口洋一郎東京大学教授）
経営調整会議
- 19日 IPM会議
- 8月 4日 博物館・美術館全体会議
- 6日 メディアとの懇談（館長）
- 7日 視察来館（内閣府沖縄担当部局）
- 12日 学芸員実習開講式
- 13日 表敬来館（横浜市歴史博物館）
- 17日 美術館高校生ダンスプロジェクト
- 20日 経営調整会議
- 21日 視察来館（岡山県津山市議会）
- 25日 学芸員実習閉校式
- 28日 学芸員実習開講式
- 9月 8日 博物館・美術館全体会議
- 9日 第1回万国津梁の鐘検討委員会
- 11日 美術館ボランティア講座修了式
- 12日 博物館企画展「久米村（クニンダ）」開会式
美術館企画展「内間安理の世界」開会式
- 17日 経営調整会議
- 23日 博物館企画展「久米村（クニンダ）」特別芸能公演会
- 25日 サキタリ洞遺跡検討会議～26日
- 27日 糸数弘樹公演会
- 29日 JICA沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」研修開講式
- 30日 IPM会議
- 10月 2日 サキタリ洞遺跡検討会議～3日
- 6日 博物館・美術館全体会議
- 15日 表敬来館（米国テキスタイル博物館タルボット氏）
- 18日 第2回美術館公開意見交換会
- 20日 視察来館（対馬市宮脇室長）
- 21日 IPM会議
- 23日 全国美術館連絡協議会総会（副館長）～24日
- 24日 総合展示部門解説ガイド養成講座開講式
- 27日 県副知事表敬（「JICAカンボジア協力」研修生）
- 28日 写真企画展「カンボジア王国の光と影Ⅲ」展開会式（JICAカンボジア協力関係）
- 11月 4日 博物館・美術館全体会議
- 7日 博物館特別展「水中文化遺産展」開会式
- 8日 博物館・美術館ブース出展（JICA沖縄国際協力フェスティバル）～9日

- 18日 第1回中長期計画策定調査検討委員会
- 19日 経営調整会議
- 20日 表敬来館（中国歴史館）
- 22日 沖縄県芸術文化祭開会式
- 25日 博物館・美術館全館消防防災訓練
- 26日 視察来館（茨城県教育委員会）
- 27日 表敬来館（船の科学館）
- 28日 博物館・美術館移動展in西表島～30日
- 29日 表敬来館（明星大学学長）
- 12月 1日 平成26年度第2回美術品等取得収集委員会（美術館）
- 2日 表敬来館（韓国国立潰瘍博物館）
- 4日 サキタリ洞遺跡検討会議
- 11日 記者発表（サキタリ洞発掘調査）
- 16日 IPM会議
- 17日 経営調整会議
- 1月 15日 第2回中長期計画策定調査検討委員会
美術館企画展「ゴー・ビトゥイーンズ展」開会式
- 16日 奈良美智講演会
- 19日 博物館・美術館燻蒸・消毒説明会
- 21日 経営調整会議
「みんなでももるミュージアム」会議（参事兼副館長）～23日
- 2月 2日 博物館・美術館全体会議
- 6日 沖縄県文化協会委員会出席（館長）
- 9日 紺綬褒章伝達式出席（館長）
- 17日 定期監査
- 18日 経営調整会議
- 24日 IPM会議
- 25日 三線寄贈贈呈式（人間国宝照喜名朝一）
- 26日 第3回中長期計画策定調査検討委員会
- 27日 表敬来館（台湾故宫博物館）
- 3月 3日 カンボジア出張（館長）～11日
- 10日 委員監査
- 13日 寄贈者感謝状贈呈式（美術館）
- 17日 人事委員会「労働基準及び労働安全衛生に関する実地調査」
- 18日 経営調整会議
- 24日 IPM会議
- 28日 企画展「報道カメラマン写真展」（指定管理者主催）開会式

Ⅲ. 施設・設備



建築概要

●敷地面積	31,287㎡
●建築面積	13,452㎡
●延床面積	23,721㎡
博物館専有面積	10,478㎡
美術館専有面積	7,537㎡
共有面積	5,708㎡
●高さ・最高高さ	GL+21.8m
●駐車場	
一般駐車場	140台
(うち身障者用4台)	
大型バス駐車場	10台
駐輪場	25台
関係者駐車場	22台

供用施設

●エントランスホール	724㎡
●情報センター	217㎡
●講堂 (212席)	349㎡

博物館の主たる施設

●展示施設	
総合展示室	1,252㎡
部門展示室	1,344㎡
自然史部門	360㎡
考古部門	262㎡
美術工芸部門	180㎡
歴史部門	120㎡
民俗部門	421㎡
屋外展示場	1,425㎡
企画展示室	351㎡
特別展示室	459㎡
●教育普及施設	
ふれあい体験室	110㎡
博物館講座室	191㎡
実習室	108㎡

●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

自然史収蔵庫	417㎡
化石収蔵庫	245㎡
考古・陶磁器収蔵庫	613㎡
特別収蔵庫	439㎡
民俗収蔵庫	668㎡
大型収蔵庫	358㎡
液浸標本室	97㎡
一時保管庫	119㎡

●調査研究施設

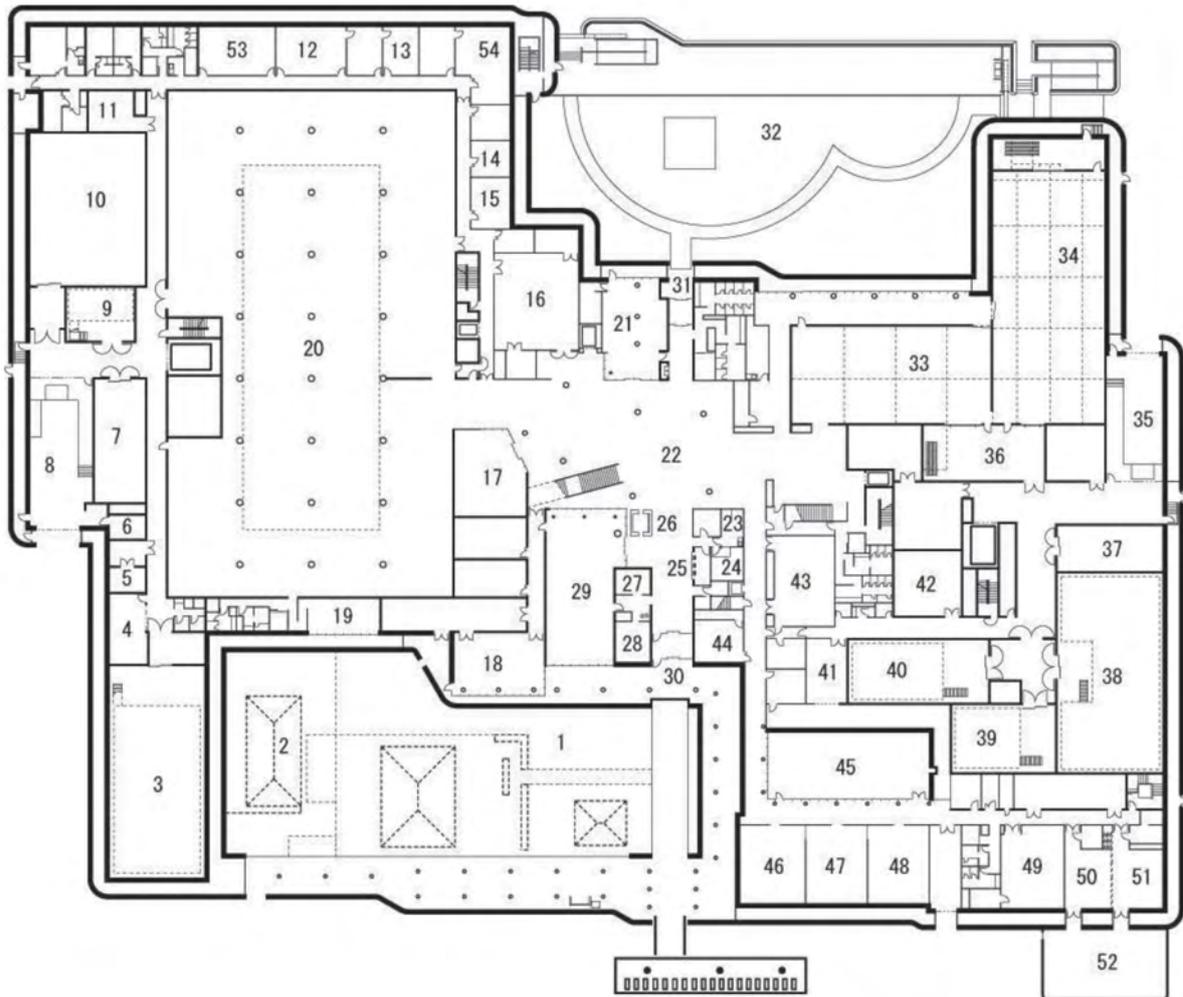
研究室	176㎡
研究資料室	111㎡
会議室	72㎡

美術館の主たる施設

●展示施設	
企画ギャラリー1	394㎡
企画ギャラリー2	490㎡
コレクションギャラリー1	164㎡
コレクションギャラリー2	284㎡
コレクションギャラリー3	370㎡
県民ギャラリー(1~3)	277㎡
県民ギャラリー(スタジオ)	111㎡
県民アトリエ	65㎡
こどもアトリエ	70㎡
屋外展示場	1,368㎡
●教育普及施設	
美術館講座室	109㎡
●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)	
収蔵庫A	683㎡
収蔵庫B	248㎡
収蔵庫C	204㎡

●調査研究施設

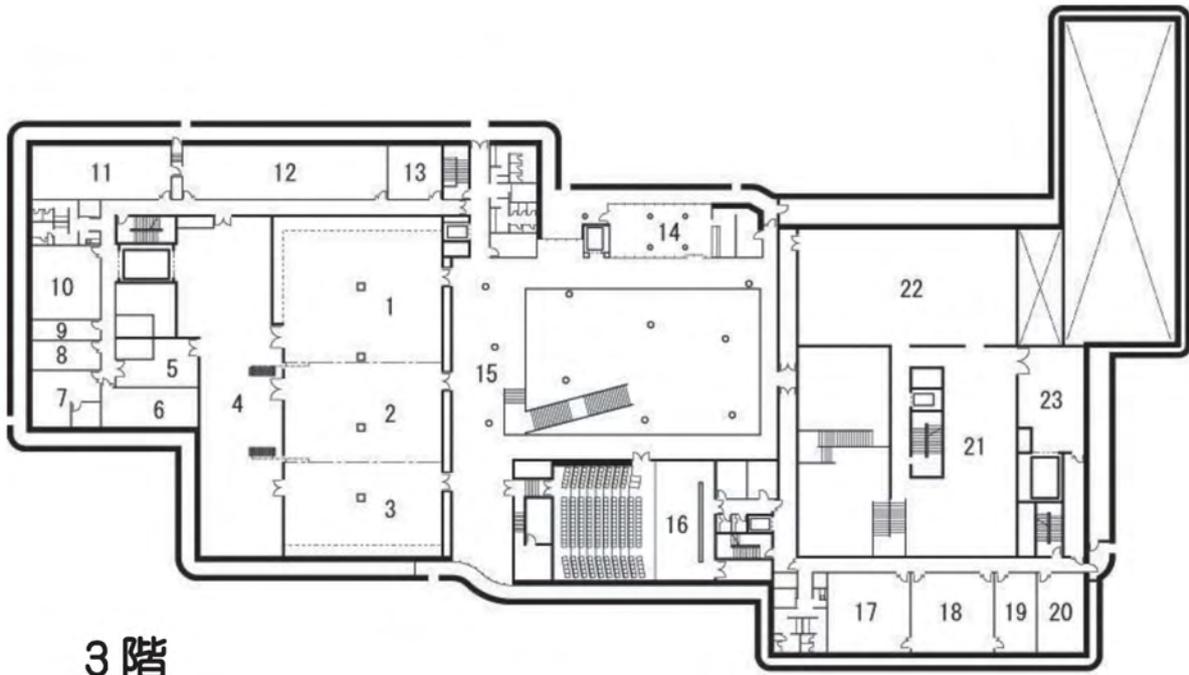
研究室	98㎡
研究資料室	98㎡
会議室	58㎡



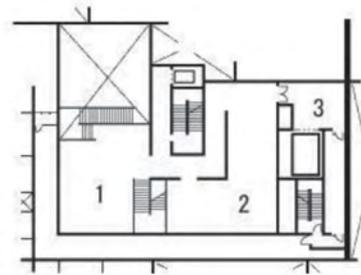
1階

1階

(博物館)	(共有)	(美術館)	(文化の社共同企業体・指定管理者)
1 博物館野外展示	21 ミュージアムショップ	32 美術館野外展示	53 会議室
2 湧田古窯	22 エントランスホール	33 美術館企画ギャラリー1	54 事務室
3 民俗収蔵庫	23 授乳室	34 美術館企画ギャラリー2	55 展示交流員控室
4 写真撮影室	24 託児室	35 トラックヤード	
5 冷凍庫	25 券売	36 展示準備室	
6 石工室	26 総合案内	37 一時保管庫	
7 一時保管庫	27 救護室	38 収蔵庫A	
8 トラックヤード	28 コインロッカー	39 収蔵庫B	
9 液浸標本室	29 情報センター	40 収蔵庫C	
10 大型収蔵庫	30 メインエントランス	41 保存修復室	
11 修理修復室	31 サブエントランス	42 工作室	
12 博物館・美術館庶務室		43 美術館講座室	
13 館長室		44 美術館ボランティア室	
14 支援会室		45 中庭	
15 博物館ボランティア室		46 県民ギャラリー1	
16 博物館講座室		47 県民ギャラリー2	
17 博物館ふれあい体験室		48 県民ギャラリー3	
18 博物館実習室		49 県民ギャラリー (スタジオ)	
19 博物館常設展示休憩室		50 県民アトリエ	
20 博物館常設展示室		51 こどもアトリエ	
		52 屋外活動スペース	



3階



2階



地階

3階

(博物館)

地階

(博物館)

2階

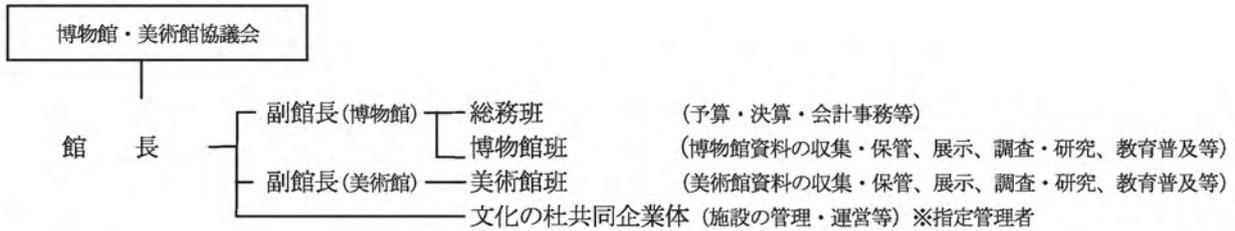
(美術館)

3階 (博物館)	(共有)	地階 (博物館)	2階 (美術館)
1 企画展示室	14 喫茶室	1 特別収蔵庫	1 ホワイエ
2 特別展示室1	15 ホワイエ	2 考古陶磁器収蔵庫	2 コレクションギャラリー1
3 特別展示室2	16 講堂	3 自然史収蔵庫	3 展示準備室
4 展示準備室		4 劣化フィルム収蔵庫	
5 工作室	(美術館)	5 写真パネル収蔵庫	
6 自然史実験室	17 研究資料室	6 化石収蔵庫	
7 保存科学室	18 学芸員研究室		
8 フィルム保管庫	19 情報処理室		
9 映像編集室	20 学芸員会議室		
10 学芸員会議室	21 コレクションギャラリー2		
11 研究資料室	22 コレクションギャラリー3		
12 学芸員研究室	23 展示準備室		
13 研修室			

IV. 組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館の組織は、「総務班」「博物館班」「美術館班」の県組織と、指定管理者である文化の杜共同企業体の4つにより構成されている。なお、文化の杜共同企業体に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】

2014年4月1日 現在

職名	氏名	担当業務
館長	安里 進	◎博物館・美術館の総括に関する事。
参事兼副館長	嵩原 安伸	◎博物館・美術館の事務の統括に関する事。 ◎総務・博物館業務の指揮監督に関する事。
副館長兼美術館班長	前田 比呂也	◎美術館業務の指揮監督に関する事。 ◎美術館藩の総括に関する事。

(総務班)

班長	山川 優	◎総務班の総括に関する事。 ◎出納員に関する事。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（中長期計画策定事業）に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎指定管理者制度に関する事。 ◎視察対応の総括に関する事。 ◎博物館・美術館協議会に関する事。 ○その他特に上司が命ずる事項に関する事。
主査	古我知 泉	◎予算に関する事。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（来館者サービス向上事業）に関する事。 ◎備品の登録業務に関する事（正）。 ◎出納業務に関する事。 ◎歳入（施設・財産関係を除く）に関する事。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関する事。 ○情報管理に関する事（副）。 ○その他特に上司が命ずる事項に関する事。
主査	宮野 陽子	◎会計業務（旅費、消耗品費を除く）に関する事。 ◎職員の給与、福利、サービス及び研修業務に関する事。 ◎施設・財産関連業務に関する事。 ◎情報管理に関する事（正）。 ○備品の登録業務に関する事（副）。 ◎決算、監査に関する事。 ○その他特に上司が命ずる事項に関する事。
主任	長濱美奈子	◎会計業務（旅費、消耗品費）に関する事。 ◎博物館・美術館保全・修繕事業に関する事。 ◎庶務に関する事。 ◎文書、公印の管理業務に関する事。 ◎公用車の管理業務（支出含む）に関する事。 ○その他特に上司が命ずる事項に関する事。
事務補助員	比嘉 梨絵	○文書受付に関する事。 ○業務補助に関する事。

(博物館班)

博物館班長	上地 聡	<ul style="list-style-type: none"> ◎博物館班の総括に関すること。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（博物館班事業総括）に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎沖縄県博物館協会に関すること（正）。 ◎全国・九州ブロックの博物館協会等に関すること。 ◎視察対応に関すること。 ◎学芸員実習・教職員研修の受け入れに関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主 幹 （美術工芸）	園原 謙	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎学芸業務の総括に関すること。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（常設展改善「総括」）に関すること。 ◎沖縄・カンボジア「平和文化」創造の博物館づくり協力事業に関すること（正）。 ◎常設展総合・部門展示（美術工芸「絵画・陶器・漆器」）に関すること。 ◎博物館資料の修理・修復に関すること。 ◎美術品等取得基金（博物館分）に関すること。 ◎琉球王国文化遺産集積・再考事業の企画に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （美術工芸）	與那嶺一子	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（染織・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（美術工芸「染織・書跡・彫刻」）に関すること。 ◎平成27年度企画展「大風呂敷展」に関すること。 ◎大嶺薫コレクション展に関すること。 ◎写真資料等の貸し出し、資料撮影許可に関すること。 ◎他部局連携事業に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （民俗）	大湾ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> ◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（民俗）・屋外展示（民家・高倉）に関すること。 ◎平成27年度特別展（民俗）に関すること。 ○平成26年度特別展「水中文化遺産」に関すること（副）。 ○平成26年度企画展「イノシシとブタと私たち」に関すること（副）。 ◎IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関すること（副）。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （歴史）	石垣 忍	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料（近現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（常設展改善「近現代」）に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（歴史「近現代」）に関すること。 ◎博物館年報の編集・発行に関すること。 ○平成26年度企画展「久米村（クニミダ）」に関すること（副）。 ◎「国際博物館の日」に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること（副）。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （自然史・生物）	山崎 仁也	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然史資料（動物・植物）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎総合調査に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（自然史「動物・植物」）・屋外展示（植生）に関すること。 ◎自然史部門の総括に関すること。 ◎新収藏品展に関すること（正）。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （自然史・地学）	仲里 健	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然史資料（地質・化石）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎移動展に関すること（正）。 ◎IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関すること（正）。 ◎常設展総合・部門展示（自然史「地質・化石」）に関すること。 ◎平成27年度企画展（自然史分野）に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 （考古）	片桐千亜紀	<ul style="list-style-type: none"> ◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎平成26年度特別展「水中文化遺産展」に関すること（正）。 ◎常設展総合・部門展示（考古）・屋外展示（湧田窯）に関すること。 ○沖縄遺産のブランド開発・発信事業（考古）に関すること（副）。 ○移動博物館に関すること（副）。 ◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ○沖縄・カンボジア「平和文化」創造の博物館づくり協力事業に関すること（副）。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。

主任 (歴史)	崎原 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎平成26年度企画展「久米村（クニンダ）」に関すること（正）。 ◎常設展総合・部門展示（歴史「古琉球・近世」）に関すること。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（常設展改善「古琉球・近世」）に関すること。 ◎班の資料購入に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任 (人類)	藤田 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然史資料（形質人類学）の収集・保管（港川人骨を含む）・整理・調査研究・公開等に関すること。 ○沖縄遺産のブランド開発・発信事業に関すること（副）。 ◎平成26年度企画展「イノシシとブタと私たち」に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（自然史「形質人類学」）に関すること。 ◎博物館紀要の編集・発行に関すること。 ◎収蔵品データ・収蔵品台帳に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任 (人類)	山崎 真治	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然史資料（先史人類学）の収集・保管（港川人骨）・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎沖縄遺産のブランド開発・発信事業に関すること（正）。 ◎図書資料に関すること。 ◎常設展総合・部門展示（自然史「先史人類学」）に関すること。 ◎共同研究事業に関すること。 ◎博物館班情報の発信の取りまとめに関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
主任学芸員 (教育普及)	金城 久枝	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育普及資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎学校連携事業に関すること（大学含む）。 ◎文化講座・学芸員講座の企画調整に関すること。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業（ふれあい体験室機能強化）に関すること。 ◎教育普及事業（ふれあい体験室・実習室・講座室）に関すること。 ◎学習プログラムの策定・指導に関すること。 ◎ボランティア活動事業に関すること。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関すること。 ◎博物館友の会に関すること。 ○その他特に上司が命じる事項に関すること。
嘱託員 (学芸補助)	早瀬 千明	<ul style="list-style-type: none"> ◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等の受付に関すること。 ○写真資料等の整理に関すること。 ◎発送業務集約に関すること。 ◎展示公開事業の補佐に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ◎学芸員の補佐に関すること。 ◎寄贈図書類の回覧に関すること。
嘱託員 (教育普及)	比嘉 香織	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関すること。 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関すること。 ○博物館学習等の調査研究に関すること。 ◎視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ○文化講座の企画等に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。 ○ボランティア活動の連絡調整に関すること。 ○学習プログラムの策定・指導に関すること。 ○博物館学習への各種照会事項対応の補助に関すること。 ◎教育普及担当学芸員の補佐に関すること。
事務補助員	川満 奈々	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄の遺産ブランド開発発信事業に関すること。

(美術館班)

副館長 兼美術館班長	前田 比呂也	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術館業務の総括に関する事。 ◎館長の補佐に関する事。 ◎外郭団体等への対応に関する事。 ◎指定管理者との連絡調整に関する事。 ◎近現代美術の研究に関する事。 ○その他特に上司が命じる事項に関する事。
主任学芸員	仲里 安広	<ul style="list-style-type: none"> ◎展示公開活動部会に関する事。 ◎近現代美術の研究に関する事 (1950～1969年)。 ◎博物館・美術館魅力アップ事業 (美術館新規来館者拡大) に関する事。 ◎コレクション展1 (3期)、2 (1期・2期) に関する事。 ◎平成27年度企画展に関する事。 ◎副館長の補佐に関する事。 ○企画展1「内間安理正展」に関する事 (副)。 ○その他特に上司が命じる事項に関する事。
主任学芸員	仲村 保	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育普及活動部会に関する事。 ◎教育普及活動の調査・研究に関する事。 ◎ボランティアに関する事。 ◎アーティスト・ギャラリートークに関する事。 ◎美術館講座に関する事。 ◎学芸員実習に関する事。 ◎移動展に関する事。 ◎コレクション展1 (2期) に関する事。 ○その他特に上司の命じる事項に関する事。
主任学芸員	豊見山 愛	<ul style="list-style-type: none"> ◎調査研究活動部会に関する事。 ◎企画展2「ゴー・ビトゥイーンズ展」に関する事 (正)。 ◎近現代美術の研究に関する事 (1879～1949年)。 ◎調査研究データベース管理に関する事。 ◎研究紀要に関する事。 ○コレクション展1 (1期)。 ○その他特に上司が命じる事項に関する事。
主任学芸員	大城 仁美	<ul style="list-style-type: none"> ◎料保存管理活動部会に関する事。 ◎企画展1「内間安理正展」に関する事 (正)。 ◎近現代美術の研究に関する事 (1970～1989年)。 ◎収蔵作品データベース管理に関する事。 ◎コレクション展2 (3期) に関する事。 ○その他特に上司が命じる事項に関する事。
主 任	玉那覇 英人	<ul style="list-style-type: none"> ◎資料収集活動部会に関する事。 ○企画展2「ゴー・ビトゥイーンズ展」の補佐に関する事 (副)。 ◎近現代美術の研究に関する事 (1990～2010年)。 ◎コレクション展3 (通年) に関する事。 ◎美術品等取得基金に関する事 (美術館分)。 ◎平成27年度企画展に関する事。 ○その他特に上司が命じる事項に関する事。
嘱 託 員	齋 悠記	<ul style="list-style-type: none"> ◎作品の調査に関する事。 ◎収蔵品のデータベースに関する事。 ◎収蔵品の画像管理に関する事。 ◎作品画像貸出に関する事。 ○収集委員会資料作成に関する事。 ○情報センターのデータに関する事 ○美術館ホームページに関する事。 ○展示会の補助に関する事。
嘱 託 員	梶原 正史	<ul style="list-style-type: none"> ◎展示室等の環境点検管理に関する事。 ◎収蔵庫の環境点検管理に関する事。 ◎作品の保存管理に関する事。 ◎作品の修復に関する事。 ○作品貸出に関する事。 ○IPMに関する事。 ○展示会の補助に関する事。
事務補助員	武島 美和	<ul style="list-style-type: none"> ◎文書の収受、発送に関する事。 ◎図書受付、整理に関する事。 ○文書等の整理、保管に関する事。 ○業務補助に関する事

※◎は主担当業務、○は副担当業。

【人事異動】

2014年4月1日 現在

	班 名	職 名	氏 名	摘 要
転 出	総務班	副館長兼班長	瑞慶山 昇	那覇市立城北中学校
	博物館班	主査	幸地 なつみ	文化振興課（国立劇場おきなわ）
	〃	班長	久場 政彦	県立本部高等学校
	美術館班	主任学芸員	岸本 弘人	県立前原高等学校
	〃	主任学芸員	新里 義和	県立北山高校
転 入	〃	主任学芸員	大城 直也	豊見城市立豊崎小学校
	総務班	主査	宮野 陽子	福祉保健企画課
	博物館班	班長	上地 聡	県議会事務局政務調査課
	〃	主任学芸員	石垣 忍	県立コザ高等学校
	〃	嘱託員	比嘉 香織	採用
	美術館班	副館長兼班長	前田 比呂也	那覇市立真和志中学校
	〃	主任学芸員	仲村 保	与那原町立与那原小学校
	〃	主任	玉那覇 英人	県立浦添工業高等学校
	〃	嘱託員	梶原 正史	採用
〃	事務補助員	武島 美和	採用	
退 職	博物館班	嘱託員	久田 千春	
	美術館班	主査（再任用）	翁長 直樹	
	〃	嘱託員	仲村 美奈子	
	〃	事務補助員	石橋 英子	

V. 予算

2014歳出状況（決算）

単位：円

	博物館・ 美術館管理 運営費	博物館・ 美術館 指定管理費	博物館・ 美術館費	JICA受託事 業費	沖縄遺産の ブランド開 発・発信事業	博物館・ 美術館保全 修繕事業	博物館・美術 館魅力アッ プ事業	合 計
報 酬	6,016,995		7,631,767					13,648,762
賃 金			4,475,183		1,403,965			5,879,148
報 償 費			399,700				267,600	667,300
旅 費			8,091,684	5,240	2,425,912		3,433,276	13,956,112
需 用 費			13,727,831		861,300	864,000	1,078,272	16,531,403
役 務 費			2,608,305		36,080		121,400	2,765,785
委 託 料		303,867,000	52,578,883	8,370,050	6,156,000	2,246,400	34,997,595	408,215,928
使用料及び 賃借料			744,045		25,363			769,408
備品購入費			18,664,686		5,464,800	5,216,400		29,345,886
負担金、補 助及び交付 金			8,083,000					8,083,000
公 課 費			41,000					41,000
操 出 金			27,983					27,983
合 計	6,016,995	303,867,000	117,074,067	8,375,290	16,373,420	8,326,800	39,898,143	499,931,715

※本庁執行分を含む

2014歳入状況（決算）

単位：円

	収入金額	説 明
土 地 使 用 料	24,313	自動販売機土地使用料
建 物 使 用 料	4,155,041	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
雑 入	1,325,667	電気料金、雇用保険料等
展示会等助成金	15,100,000	「海と船の企画展」支援金（公益財団法人日本海事科学振興財団）等
JICA受託事業	8,375,290	JICA受託事業（独立行政法人国際協力機構）
合 計	28,980,311	※本庁収納分を除く

VI. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

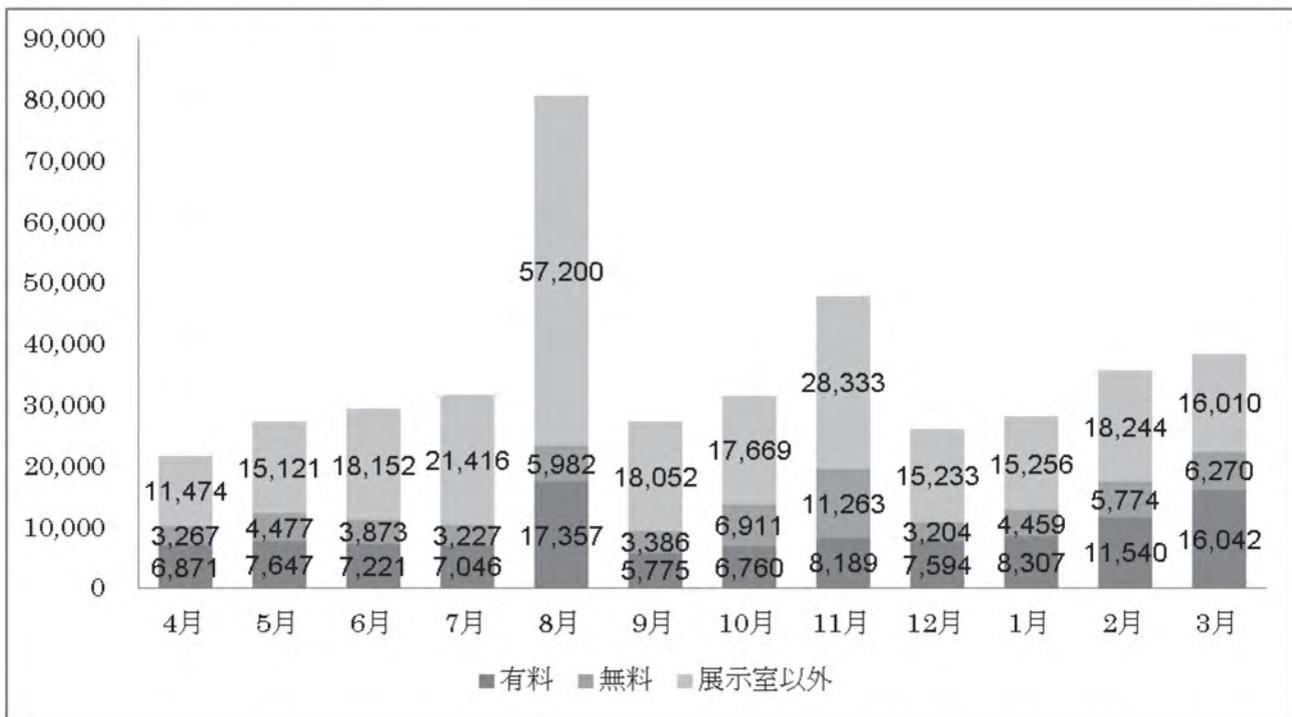
2015年3月31日現在

	分 類	件 数	小 計
博 物 館	自 然 史	55,970	91,652
	人 類	118	
	美 術 工 芸	10,364	
	歴 史	12,259	
	考 古	6,672	
	民 俗	6,269	
美 術 館	平 面	1,576	3,590
	立 体	257	
	映 像	1,728	
	そ の 他	29	
総 計			95,242

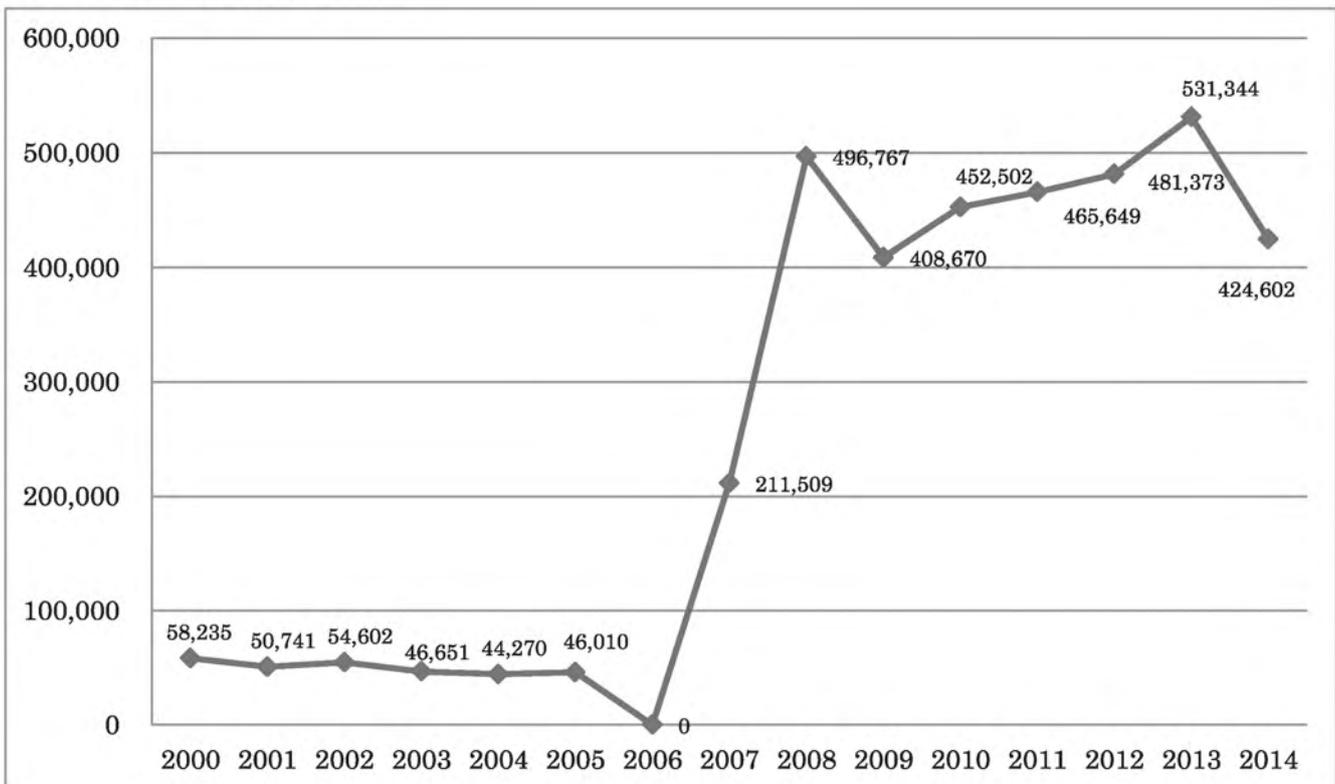
利用統計

- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

4. 2014 年度月間別入館者数



5. 年間入館者数の年次推移



のべ10校 281人

県外 専門学校・大学

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	18	東洋きもの専門学校 (大阪)	18	5	9	11	清泉女子大学(東京)	20	9	1	9	東京外国語大学(東京)	31
2	7	30	筑波大学(茨城)	21	6		12	鶴見大学(神奈川)	20	10	2	28	同志社女子大学(京都)	45
3	9	2	とびこみ	29	7		17	神戸大学凌美会(兵庫)	29					
4		7	明治大学(東京)	24	8	10	25	旭川福祉専門学校 (北海道)	44					

国外 その他 (基地内含む)

のべ10団体 509人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	27	E.Cキリン小学校	49	5	6	27	とびこみ	33	9	8	8	キンザースクールエイジケア	18
2	6	12	日本国際協力センター	135	6	7	17	日本国際協力センター	81	10	2	5	馬山大学	43
3		22	香港学校沖繩視察ツアー	39	7		18	日本国際協力センター	54					
4		25	進吾ツアー	39	8	8	6	キンザースクールエイジケア	18					

II. 施設利用者統計

1. 月別施設利用集計

(単位:件)

項目	博物館				美術館							共有		その他			合計	
	特別展示室	企画展示室	博物館講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	子供アトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示場	中庭		
2014	4月	0	0	14	8	0	0	26	7	2	13	3	12	0	0	0	0	85
	5月	0	0	23	7	0	0	33	11	5	14	4	11	0	0	0	0	108
	6月	0	0	25	12	0	0	33	14	8	19	8	21	1	1	0	0	142
	7月	21	21	22	9	0	0	29	15	9	18	5	14	0	0	0	3	166
	8月	31	31	31	16	0	0	28	17	11	21	9	16	0	0	0	1	212
	9月	3	3	21	20	0	0	30	12	9	23	6	16	0	0	0	0	143
	10月	0	0	26	19	0	0	33	10	9	24	8	16	1	1	1	0	148
	11月	0	0	31	16	0	0	35	21	15	26	8	32	1	4	3	0	192
	12月	0	0	16	14	12	12	29	9	16	16	7	15	1	0	0	0	147
2015	1月	0	0	17	5	0	0	23	11	9	21	4	14	17	2	0	0	123
	2月	0	0	28	15	0	0	31	16	12	20	5	21	0	0	1	0	149
	3月	0	0	29	13	0	0	44	9	13	18	11	26	1	0	0	0	164
合計	55	55	283	154	12	12	374	152	118	233	78	214	22	8	5	4	1,779	

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
107	24	火	美術館 講座室	盛和塾沖縄 経営者勉強会	117	29	日	県民 アトリエ	㈱ケイショウカイ/アーユルヴェーダ初級認定講座 (キャンセル)
108	24	火	美術館 講座室	ビサイジャパン研修会	118	29	日	博物館 講座室	(一社)那覇市身体障害者福祉協会/第13回 那覇市 障がい者美術展表彰式・閉会式
109	25	水	美術館 講座室	不二経営 スターライズ勉強会	119	29	日	子 供 アトリエ	版の会 版画教室
110	25	水	美術館 講座室	㈱CSKサービスウェア/登録説明会	120	29	日	子 供 アトリエ	グローバルインパクトセンター 集会
111	26	木	美術館 講座室	㈱JTBコーポレートセールス/第4回アジアコン テンツ交流会 ロケ地ツアー	121	29	日	美術館 講座室	㈱ハウ/コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講 習会
112	27	金	講堂	㈱サン・エージェンシー フォーラム(キャンセ ル100%)	122	29	日	講堂	上原明美 様/第9回 ピアノ発表会
113	28	土	県民 アトリエ	㈱ケイショウカイ/アーユルヴェーダ初級認定講 座(キャンセル)	123	31	火	子 供 アトリエ	ハンドライブ セミナー
114	28	土	美術館 講座室	沖縄ツーリスト㈱/ダイヤモンド・プリンセスで 巡る/「日本周遊・済州島クルーズ8・10日間」旅 行説明会	124	31	火	美術館 講座室	ファーストクラス 勉強会
					125	31	火	博物館 実習室	グッドワン合同会社/グッドワンクラブ説明会
115	28	土	美術館 講座室	アールプランニング/Creators Night vol.16 KDDI 式映像制作セミナー	126	24～30	スタジオ	(一社)那覇市身体障害者福祉協会/第13回 那覇市 障がい者美術展	
116	28	土	講堂	㈱沖縄ヒューマンキャピタル/沖縄県海外短期イ ンターシップ成果報告会					

3. 県民ギャラリー貸出件数

No.	開催期間	日数	使用ギャラリー	イベント名	主催者
1	4月1日(火)～4月6日(日)	6日間	2	鈴木金助の世界(海への誘い)	鈴木敏也
2	4月15日(火)～4月20日(日)	6日間	1・2・3	第10回 龍寶曹源書道展	龍寶曹源書道会
3	4月22日(火)～4月27日(日)	6日間	1	ハンセン病を正しく理解する展示会	公益財団法人沖縄県ゆうな協会
4	5月13日(火)～5月18日(日)	6日間	1・2	「月桃の用紙に書」展示会	運天清正
5	5月20日(火)～5月25日(日)	6日間	1・2	第31回 日本現代美術協会 沖縄支部展	日本現代美術協会沖縄支部
6	5月27日(火)～6月1日(日)	6日間	1・2	第47回 書遊会沖縄書道会展	書遊会沖縄書道会
7	5月27日(火)～6月1日(日)	6日間	3	三菱アジアの子どもたちの絵日記展	三菱広報委員会
8	6月3日(火)～6月8日(日)	6日間	1・2・3	復元のあゆみ～琉球王朝、造形文化の独自性を 求めて～	西村貞雄
9	6月10日(火)～6月15日(日)	6日間	1・2	ロゼの会 油絵展	ロゼの会
10	6月17日(火)～6月22日(日)	6日間	1	第32回 沖縄広告賞展	沖縄広告協会制作委員会
11	6月17日(火)～6月22日(日)	6日間	2	沖縄巡回展「雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウ チナアンチュ」	JICA沖縄国際センター
	6月17日(火)～6月29日(日)	12日間	3		
12	6月25日(火)～6月29日(日)	5日間	1	真榮田文子個展「コロノクニ～SWEETS」	真榮田文子
13	6月25日(火)～6月29日(日)	5日間	2	四角展 Vol2	仲村悠
14	7月9日(水)～7月13日(日)	5日間	1・2	仲宗根節子パッチワーク展	仲宗根譲治
15	7月15日(火)～7月21日(月)	7日間	1・2・3	フラグメンツ4	光画文化研究所
16	7月23日(水)～7月27日(日)	5日間	1	筆文字あへと展	田嶋珠翠
17	7月24日(木)～7月27日(日)	4日間	2・3	卒業アルバムで応援する東北復興支援	福祉作業所わかば
18	7月29日(火)～8月3日(日)	6日間	1・2・3	第1回 輔仁会 グループ展示会	介護老人保健施設嬉野の園
19	8月5日(火)～8月10日(日)	6日間	1・2・3	第23回 りゅうぎん紅型デザイン展入賞作品 展	琉球銀行/アドスタッフ博報堂
20	8月12日(火)～8月17日(日)	6日間	1・2・3	平成26年度 第20回沖縄県特別支援学校中学 部総合文化祭	沖縄県特別支援学校中学部文化連盟
21	8月19日(火)～8月24日(日)	6日間	1	沖縄旺玄会 小品展	沖縄旺玄会
22	8月19日(火)～8月24日(日)	6日間	2	佐川毅彦・毅志 絵画展	佐川毅彦
23	8月19日(火)～8月24日(日)	6日間	3	Cephalopod Interface イカとタコと33人	沖縄シンボジウム「頭足類学を興す」美術展「Cephalopod Interface イカとタコと33人」企画委員会

No.	開催期間	日数	使用ギャラリー	イベント名	主催者
24	8月26日(火)～8月31日(日)	6日間	1	禅画展	沖縄県禅画協会
25	8月26日(火)～8月31日(日)	6日間	2	瀬底正男・津波信久 二人展	瀬底正男
26	8月29日(金)～8月31日(日)	3日間	3	建築模型展	サイテクカレッジ那覇
27	9月2日(火)～9月7日(日)	6日間	1・2・3	希望のカたち展V-もとぶ記念病院利用者の造形作品展-	もとぶ記念病院
28	9月9日(火)～9月15日(日)	6日間	1	宮里昌信 絵画展	宮里昌信
29	9月14日(土)	1日間	2・3	琉球大学熱帯生物圏研究センター展	琉球大学熱帯生物圏研究センター
30	9月17日(火)～9月21日(日)	6日間	2・3	沖縄学生美術展2014	沖縄学生美術展2014実行委員会
31	9月23日(火)～9月25日(日)	3日間	1	変身展	宮里奈津起
32	9月23日(火)～9月25日(日)	6日間	1・2	たのしいデザイン2014	公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会
33	10月2日(木)～10月5日(日)	4日間	1・2・3	デジタルデザイン展	国際電子ビジネス専門学校
34	10月7日(火)～10月13日(月)	5日間	1	第9回 沖縄の水デジタルフォトコンテスト作品展	沖縄県企業局
35	10月7日(火)～10月12日(日)	4日間	2	奥儀清孝 彫刻展	奥儀清孝
36	10月16日(木)～10月19日(日)	4日間	1・2・3	専修学校インターナショナルデザインアカデミー卒業制作デザイン展	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
37	10月21日(火)～10月26日(日)	6日間	1	植物を描く細密画の世界二人展	森田美智子・安延康
38	10月23日(木)～10月26日(日)	4日間	2	第5回 知花花織展～奏でる～	知花花織協同事業組合
39	10月25日(土)～10月26日(日)	2日間	3	N-cis作品展	那覇情報システム専門学校
40	10月28日(火)～11月3日(月)	7日間	1・2・3	第37回 沖縄県工芸公募展	沖縄県商工労働部商工振興課
41	11月5日(水)～11月9日(日)	5日間	1・2	第3回 大倫書道展	大倫書道会
42	11月11日(火)～11月16日(日)	6日間	1・2・3	第10回 こころの美術文化フェスティバル	沖縄県精神保健福祉会連合会
43	11月20日(木)～11月24日(月)	5日間	1・2	インターナショナルデザインアカデミー「卒業制作作品展」ファッションショー	KBC学園
44	11月18日(火)～11月23日(日)	6日間	3	第21回 肢体不自由児・者の作品展	沖縄県肢体不自由児協会
45	11月26日(水)～11月30日(日)	5日間	1	第7回 Photo is art, Art is heat 展	チームPA
46	11月26日(水)～11月30日(日)	5日間	2	テキスタイル デコ犬展	新川彩
47	11月27日(木)～11月30日(日)	4日間	3	ハートワークス臨床美術作品展	沖縄県福祉ネットワーク協会
48	12月2日(火)～12月7日(日)	6日間	1	池原優子展	池原優子
49	12月2日(火)～12月7日(日)	6日間	2・3	南西群島の鳥 200展	NPO法人群島鳥類研究会
50	12月9日(火)～12月14日(日)	6日間	1	よねだはるひこ展	米田晴彦
51	12月10日(水)～12月14日(月)	5日間	2・3	第14回 沖縄ガイア押花会押し花&ガラスアート合同作品展	沖縄ガイア押花会
52	12月17日(水)～12月21日(日)	5日間	1・2・3	第28回 浦添工業インテリア科 卒業作品展	浦添工業高校インテリア科
53	12月23日(火)～12月27日(土)	5日間	1	第4回 ふるさとづくり図画コンクール	一般財団法人沖縄しまたて協会
54	12月26日(金)～12月28日(日)	3日間	3	第5回 竹井友揮 マンガ展	竹井友揮
55	1月9日(金)～1月11日(日)	3日間	1・2・3	平成26年度 JA共済全国小中学生書道・交通安全ポスター沖縄県コンクール展示会	JA共済連
56	1月14日(水)～1月18日(日)	5日間	1・2	第11回 創元会沖縄支部展	創元会沖縄支部
57	1月20日(火)～1月25日(日)	6日間	1	Anti-Appearance	高野塾
58	1月20日(火)～1月25日(日)	6日間	3	國吉清雲展【陶芸】	國吉清雲
59	2月3日(火)～2月8日(日)	6日間	1・2	グループP展	グループP
60	2月6日(金)～2月8日(日)	3日間	3	かりゆしパソコンサークルCG画展	かりゆしパソコンサークル
61	2月10日(火)～2月15日(日)	6日間	1・2・3	第7回 卒業・進級展示会	総合学園ヒューマンアカデミー

No.	開催期間	日数	使用ギャラリー	イベント名	主催者
62	2月19日(木)～2月22日(日)	4日間	1・2・3	1年次修了デザイン展	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
63	2月25日(水)～3月1日(日)	5日間	1・2・3	第41回 沖縄県工芸振興センター展	沖縄県工芸振興センター
64	3月3日(火)～3月8日(日)	6日間	1	上原武光 絵画展	上原武光
65	3月3日(火)～3月8日(日)	6日間	2	ウェル・カルチャースクール展	保良正男
66	3月10日(火)～3月12日(木)	3日間	2	年金者組合文化祭展示会	年金者組合
67	3月12日(木)～3月15日(日)	4日間	1	沖縄の夜10時はNYの朝9時らしい。	眞榮田文字・decco(デコ)
68	3月13日(金)～3月15日(日)	3日間	3	ワークショップ修了作品展	文化の社共同企業体
69	3月17日(火)～3月22日(日)	6日間	1・2	Studio YAKENA 1129 exhibition	Studio YAKENA 1129
70	3月17日(火)～3月22日(日)	6日間	3	JIA沖縄[建築展～琉球浪漫]	公益社団法人日本建築協会沖縄支部
71	3月24日(火)～3月29日(日)	6日間	1・2・3	第13回 那覇市障がい者美術展	那覇市身体障害者福祉協会
72	3月31日(火)～4月5日(日)	1*	1	岩橋格 マンダラ by Photos 展	岩橋格
73	3月31日(火)～4月5日(日)	1*	2	平成26年度 公文大里仲間・那覇真嘉比書写教室発表会	公文大里仲間書写教室

※印は平成25年度分の日数のみを記載

博物館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員それぞれによる個別の調査研究がある。

総合調査では、各島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸、建築の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。久米島（1993・1994年度）を皮切りに、波照間島（1996・1997年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～2003年度）、与那国島（2004～2008年度）、竹富島（2009～2011年度）で調査を行った。2012～2015年度は鳩間島・新城島・黒島での調査を予定しており、今年度は黒島を中心に調査を実施している。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で、南城市玉城のハナダガマ遺跡（2006・2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007～2010年度）、2011年度は武芸洞に加えて同敷地内のサキタリ洞を調査対象とした。2012年度から沖縄振興特別推進交付金対象事業「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」と称してサキタリ洞遺跡の本調査を実施している。今年度は9千年前以前のものと考えられる人骨が発見されたほか先史時代の貝器、土器等が出土し、全国的に注目される貴重な成果が得られた。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形でも生かされている。

以下、2014年度における調査研究等の活動状況を報告する。

(上地 聡)

2. 博物館総合調査—鳩間島・黒島・新城島総合調査—

【趣旨】

総合調査事業は県内離島の自然・歴史・文化について、博物館各分野の学芸員が総合的に調査を実施し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の自然や文化を多くの県民に伝えることを目的としている。これまで、久米島、波照間島、西表島、小浜島、与那国島、竹富島についておもに現地調査をおこない、それらの成果とともに、1996年に久米島展、2010年に八重山展を実施した。2012年度から、鳩間島・黒島・新城島総合調査を4年計画で実施しており、2014年度は黒島を中心に調査を行った。鳩間島・黒島・新城島総合調査の報告書は2015年度に刊行予定である。

【組織】

本調査組織は博物館班の学芸員（自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗）によって構成されるが、調査の精度を高めるため、予算の範囲内で館外の専門家を調査員として委嘱することがある。各調査員でテーマを設定し、適切な時期に調査を実施する。調査の際、テーマにそったデータの収集だけでなく、展示会を想定し、資料の収集（借用の可能性）や撮影にも努める。

【2014年度調査実績】

山崎 仁也	主任学芸員	2014年6月25～30日（黒島）
横田 昌嗣	琉球大学教授	2014年6月28～30日（黒島）
仲宗根忠樹	TsudoiCompany	2014年6月27～28日（黒島）
知念 美香	名護商工教諭	2014年6月27～29日（黒島）
松村 雅史	昆虫愛好家	2014年10月29～11月1日（黒島）
吉田 和久	昆虫愛好家	2014年10月29～31日（黒島）
目黒 賢児	昆虫愛好家	2014年10月29～11月1日（黒島）
與那嶺一子	主任学芸員	2015年3月24～26日（石垣島）
大湾ゆかり	主任学芸員	2014年7月19～20日（黒島）
		2015年2月17～20日（黒島）
石垣 忍	主任学芸員	2015年3月18～20日（鳩間島）

(山崎 仁也)

3. 博物館共同研究事業

(1) 沖縄遺産のブランド開発・発信事業

【趣旨】

歴史的・地理的要因により日本本土と異なる発達をとげた本県は、固有の文化・歴史的資源を有しながらも、本県独自の歴史や文化（沖縄遺産）は県外にまだ十分に認知されていない。特に沖縄遺産の目玉となる旧石器人骨は、日本人のルーツを解明する重要な鍵となる資料であり、日本本土では1ヶ所（静岡；浜北人）のみのところ、本県からは港川人をはじめ数多く発見されている。本県が旧石器人骨の調査場所として圧倒的に有利な立場にあることは明らかである。そこで、本事業では沖縄県立博物館・美術館のこれまでの試掘調査結果に基づいて、沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡の発掘調査を行い、同遺跡の調査成果を利用した新たな観光資源の創出及び県立博物館の価値増大を図ることを目的とする。

【事業概要】

沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡にて、二か所の調査区において発掘を進めた（I区、II区）。I区では、約3万年前ごろまでさかのぼる良好な堆積層が確認されており、これまでの調査で1万2千年前の石器と人骨（平成24年度）、II層から出土した海産貝類が人為的に加工された道具であることを確認し、国内初となる旧石器時代（約2万年前）の貝器として学術雑誌に発表した（平成25年度）。平成26年度には、II層の調査をさらに進め、貝製ビーズ2点を新たに発見し、日本旧石器学会が発行する学術雑誌「旧石器研究」に論文を投稿した。

II区では、平成25年度に沖縄県最古となる約9千年前の土器を発見し、旧石器時代と縄文時代の空白期を埋める重要な発見として新聞等に大きく報道されていた。平成26年度調査では、さらにこの下層の調査を進め、埋葬の可能性が高い保存状態良好な交連人骨を発見した。正確な年代等は27年度に慎重に検討していく予定だが、国内最古級の埋葬である可能性が高いと推測され、この発見について記者発表を行った。

また、調査最終日には現地見学会を開催し、参加者が869名と大盛況であった。参加者は解説を聞き、新たな人骨発見とその意義に熱心に耳を傾けており、たくさんの質問もあった。



調査区IIで発見された交連人骨。
頭から腰にかけて良好に保存されている。



II層の人骨の頭部。頭骨は破損しているものの、
頭蓋、顔面部、下顎骨など各部が残されている。
今後、実験室内でクリーニングと接合作業を進めていく。



見学会の様子。
参加者が多く解説回数を予定より
増加して対応した。

(藤田 祐樹)

(2) JICA草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」

【目的】

平和祈念資料館との第1フェーズ(2009-2011)を踏まえカンボジア側からトゥールスレン虐殺博物館(TSGM)のアクションプランの実績が評価され、前プロジェクトの成果を踏まえ、なお一層の平和文化創造に係る支援要望が求められたため、「平和文化」の創造、発信の拠点としての博物館の社会的役割を基底にしたプロジェクトを実施することとなった。また、実施体制として、従来の沖縄県平和祈念資料館(OPPM)とTSGMの平和博物館の協力関係に加え、沖縄県立博物館・美術館(OPMAM)とカンボジア国立博物館(NMC)を加えた2プラス2の博物館間で事業を実施し、沖縄側のプロジェクト担当事務局を当館へ移行し、2012年～2014年の3年間の事業を実施することにし、本年度は最終年度を迎えた。

【プロジェクト内容】

NMC、TSGMとの協議および視察を行い、本プロジェクトの概要について以下のとおり合意した。

- a. 上位目標：歴史的教訓や自文化の優位性を次代に継承し、恒久平和をめざすための「平和文化」を創造する拠点として、国民に親しまれる博物館をめざす。
- b. プロジェクト目標：国民から愛される「平和文化」創造拠点としての博物館管理運営能力が強化される。
- c. 対象施設：NMC、TSGM
- d. 事業期間：2012年7月～2015年3月（3年間）
- e. 期待される成果
 - ・「平和文化」創造拠点としての博物館の理念及び管理運営方法が理解され、市民、国民に愛される博物館づくりが実践される。
 - ・「平和文化」を醸成するために歴史的教訓を次代に発信するための活動が展開される。
 - ・「平和文化」の推進啓発のための施設・展示づくりが理解され、来館者満足度に留意した展示活動をはじめとする博物館活動が工夫される。
 - ・学校教育・社会教育における「平和文化」の創造推進拠点としての博物館活動が実践される。
- f. 活動内容：
 - ・毎年4名のカンボジアの両博物館のスタッフが、来沖して沖縄県立博物館・美術館を中心に約1ヶ月間(10月～11月)の研修を行う。
 - ・沖縄での研修においては、研修員は課題研究を持ち、研修を通じた学びを基に自国での活動(アクションプラン:AP)を計画し、実践する。
APの確実な履行のため、沖縄側から専門家4-5名を毎年約2週間(2月)、カンボジに派遣し、現地での活動を支援する。

【具体的実施の内容】

(ア) プロジェクト実施の調印式(カンボジア)

本プロジェクトのカンボジア側との覚書署名式は2012年6月24日、沖縄県立博物館・美術館(当時千木良芳 館長兼博物館副館長、JICA沖縄センター所長(当時小幡俊弘)、カンボジア政府文化芸術省(ブンチュン次官)、国立博物館長(当時オーファリン)、トゥールスレン虐殺博物館長(当時ソパンナカ)の5名で行った。

(イ) 沖縄研修

沖縄で研修は2014年9月30日～10月29日まで、NMC2名(Ms.Chap Sopheara、Mr.Kim Sanpiesth)、TSGM(Mr.Hang Nisay、Ms.Hor Chan Leaksmy)が参加した。沖縄側は、1日の講義を午前、午後の各2時間の講義延べ36コマを準備し、講義ごと講義内容のレジюмеや資料をクメール語に翻訳し、内容の理解に努めた。約4週間の研修内容の構成は次の内容に留意して作成した。

- a. 日本の博物館の概要や法規や規則を学ぶ。
- b. 博物館施設(沖縄県立博物館・美術館、沖縄平和祈念資料館等)の機能と展示構成を学ぶ。
- c. 個々の課題研究(TSGM・証言収録・展示会、ワークノート/NMC・展示会、中長期計画)に合わせた講義設定
- d. 国内博物館で最新鋭の非破壊分析装置や保存修復技術を有する九州国立博物館での研修をいれる。
- e. カンボジアの歴史・文化の理解のために中学校・高校で出前講義を行う。
- f. カンボジアの歴史・文化の理解のために最終週に写真企画展「カンボジアの光と影Ⅲ」展を開催する。
- g. 研修員のアクションプランの発表会を研修前半と後半で各1回開催する。

(ウ) 専門家派遣

本年度は、本プロジェクトの最終年度につき、専門家派遣を3回にわたって派遣した。各回の派遣者と業務内容は次のとおり。

第1回6月28日～7月6日 片桐千亜紀主任学芸員、古謝将史主査（平和祈念資料館）（移動展の会場確認、ビジョン展調整等）、第2回12月3日～13日 園原謙主幹、石垣忍主任学芸員（移動展の開会式参加、展示会の構成、ワークノート調整等）、第3回2月23日～3月10日 園原謙主幹、片桐千亜紀主任学芸員、古謝将史主査、※安里進館長、国仲功館長（平和祈念資料館）、石垣忍主任学芸員。また、沖縄の戦後復興において沖縄の伝統芸能が大きく寄与したことに鑑み、沖縄県立芸術大学の協力をいただき、NMC及びTSGMの展示会の開会式、第4回キズナフェスティバルで沖縄・カンボジア双方の芸能を披露することにした。沖縄県立芸術大学島袋君子教授以下、大学院・学部生（兼島翔子、玉置麻侑、山里静香、真栄城由依、和田信一、又吉恭平、沢岬安優）8名が参加した。

(エ) 事業成果

本プロジェクトの最終年度における事業成果は次のとおりで、2015年3月10日で沖縄側（安里進沖縄県立博物館・美術館長、鳥居香代JICA沖縄国際センター市民参加協力課長）、カンボジア側（コン・ヴィラック文化芸術省博物館部長兼国立博物館長、チャイ・ヴィソットトゥールスレン虐殺博物館長）の4名で終了時評価の確認書に署名を行った。具体的には3か年間の各館の主たる成果は次のとおりである。

NMC

- ・収蔵品の保存管理、ワークノートの作成、ワークノートのモニター検証、「平和文化」創造の博物館づくり協力展、博物館の中長期計画の策定など

TSGM

- ・バタンバン及びS21の生き残りの映像証言の収録・編集、ワークノート作成、平和文化創造をめざして展、図書室の整備、自白書の一部翻訳公開、ビジョン展コンテストの開催など



豊見城中学校への出前授業



首里高校への出前授業



カンボジア国立博物館の
展示会の開会式



沖縄研修の成果の写真企画展



上2冊がNMC、TSGM ワークノート
下2冊が実績報告書とキズナフェスティバル

(園原 謙)

4. 調査・研究・講演・著作論文等

園原 謙 (主幹)

○調査・研究等

- ・文化財保存修復学会 ポスターセッション「沖縄県立博物館・美術館所蔵 三線のCT調査」(明治大学博物館)(2014年6月8日)(鳥越俊行との連名)
- ・旧首里城正殿関連調査(長崎県壱岐市、福岡県芦屋町・太宰府市)(2014年11月12日～14日)
- ・残欠文化財活用可能性仁王像復元事業(石垣市桃林寺、京都市仁和寺、同妙心寺、佐賀市実相院)(2014年12月21日～23日、2015年1月27日～29日、2月17日～19日)

○講演・学会発表等

- ・名称:学芸員講座『三線のチカラ展』雑感—観覧者の質疑に答える—
期 日:2014年5月3日
- ・名称:全国大学博物館学講座協議会全国大会フォーラム「博物館と国際化—九州・沖縄からアジアへ—」「沖縄県立博物館・美術館とアジアの博物館—沖縄から発信する「平和文化」創造の博物館づくり協力—」
期 間:2014年6月6日
依頼機関:全国大学博物館学講座協議会
- ・名称:国立劇場おきなわ開場10周年「三線音楽・三味線音楽」「盛鳴開鐘を聞く」
期 間:2014年6月14日
依頼機関:公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
- ・名称:大韓民国国立古宮博物館「琉球王国の至宝」展の会場等調整、資料搬入立会
期 間:2014年7月23日～25日、11月25日～12月1日
場 所:韓国
依頼機関:大韓民国国立古宮博物館
- ・名称:沖縄ソフトパワー発信事業「キックオフレセプション」対応
期 間:2014年9月2日～9月8日
場 所:米国・ワシントンD.C.
依頼機関:沖縄県知事公室広報交流課
- ・名称:草の根技術協力事業(地域提案型)「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る現地研修の同行について
期 間:2014年10月8日～9日
依頼機関:独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター
- ・名称:草の根技術協力事業(地域提案型)「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る専門家派遣について
期 間:2014年12月3日～13日、2015年2月23日～3月10日
場 所:カンボジア王国
依頼機関:独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター

○著作論文等

- ・「博物館企画展『三線のチカラ』雑感」沖縄タイムス2014年6月
- ・「『三線の形と音の世界』の共有をめぐって」『華風』6月号 2014年6月
- ・「重要文化財『銅鐘(旧首里城正殿鐘)』のX線撮影による状態調査について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月(崎原恭子と共著)

與那嶺一子(主任学芸員 美術工芸)

○調査・研究等

- ・風呂敷・ハチマチ・刺繍衣装調査(久米島博物館)(2014年7月24日～25日)
- ・日本博物館協会全国大会参加及び博物館施設調査(三重県・静岡県)(2014年11月19日～21日)
- ・米国における琉球資料調査及び博物館施設調査(2015年1月24日～2月1日)
- ・御辻調査(伊是名村ふれあい博物館)(2015年2月9～10日)
- ・総合調査(黒島)(2015年2月24～26日)

○講演・学会発表等

- ・名称:学芸員講座「貢納布のはなしⅡ 貢納布のゆくえ」
期 日:2014年6月7日
会 場:沖縄県立博物館・美術館
- ・名称:出前授業「沖縄の染織って何？」

期 日：2014年6月13日

依頼機関：首里高等学校染織科

- ・名称：幻の縫衣裳をつくる～伊平屋の阿母加那志～

期 日：2014年6月21日

- ・名称：ギャラリートーク 平成26年度 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 企画展「染織探訪―大城志津子が追求した染織の美―」

期 日：2014年10月31日

依頼機関：首里城公園友の会

- ・名称：紅型について

期 日：2015年1月30日

依頼機関：テキスタイル博物館（米国・ワシントンD.C.）

依頼機関：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

○著作論文等

- ・「資料紹介 帛」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月（早瀬千明、山田葉子と共著）

大湾ゆかり（主任学芸員 民俗）

○調査・研究等

- ・伊是名公事清明調査（伊是名村）（2014年4月2日～4月3日）
- ・黒島の豊年祭（ハーリー）調査（竹富町）（2014年7月19日～20日）
- ・塩屋と与那ウンジャミ調査（大宜味村・国頭村）（2014年8月20日）
- ・平成27年度特別展に伴う資料調査（今帰仁村）（2014年8月28日）
- ・粟国のンナトゥウユミ及び葬墓制調査（粟国村）（2014年9月3日～5日）
- ・平成27年度特別展に伴う龕ゴウ祭等調査（豊見城市）（2014年9月7日、9月25日、）
- ・糸満市真栄里の綱曳き調査（2014年9月9日）
- ・平成27年度特別展に伴う葬墓制調査（奄美大島宇検村）（2014年10月22日～23日、2015年1月27日～28日）
- ・同（糸満市）（2014年10月13日、12月11日、2015年1月9日、2月26日、3月1日）
- ・同（名護市・宜野座村・読谷村）（2014年1月15日～16日）
- ・同（石垣市・竹富町）（2015年2月17日～20日、3月10日）
- ・同（東京都八王子市）（2015年3月15日）

○講演・学会発表等

- ・名称：学芸員講座「沖縄の葬墓制～平成27年度特別展にむけて～」
- 期 日：2014年3月14日
- ・名称：夏休み博物館学芸員教室「民具手帳つくろう」
- 期 日：2014年8月1日、8月7日

○著作論文等

- ・「うろこ取りについて」『月刊みんぱく2014年7月号』国立民族学博物館
- ・「民俗資料の保存処置について―資料を保護するための簡易整理と保管方法の改善―」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月

山崎 仁也（主任学芸員 生物）

○調査・研究等

- ・黒島のフロラ・ファウナ（総合調査6月・植物、10月・昆虫）

○講演・学会発表等

- ・名称：出前授業「天久地域の生き物を調べよう！」
- 期 日：2014年7月3日
- 依頼機関：天久小学校
- ・名称：出前授業「沖縄の生物多様性」
- 期 日：2014年7月15日
- 依頼機関：中城南小学校
- ・名称：出前授業「生き物博士になろう！～夏休みの生き物さがし」
- 期 日：2014年7月17日
- 依頼機関：泊小学校
- ・名称：体験学習教室「オオヒキガエルの解剖」

- 期 日：2014年7月20日
- ・名 称：講演「理科の授業における実物の重要性と生物標本の利用例」
- 期 日：2014年7月25日
- 依頼機関：仲泊小・中学校
- ・名 称：研修会講師「ゾウリムシの実験法」
- 期 日：2014年8月7日
- ・名 称：出前授業「博物館学芸員のよもやま話」
- 期 日：2014年10月8日
- 依頼機関：北山高校
- ・名 称：博物館学芸員講座「学校の先生のための博物館・生き物講座」
- 期 日：2014年11月8日
- 会 場：沖縄県立博物館・美術館
- ・名 称：西表島移動展学芸員講話「小島嶼の生物多様性～鳩間・新城・黒島総合調査から見えてくるもの」
- 期 日：2014年11月28日
- ・名 称：おきなわサンゴ礁ウィーク2015 サンゴのキモチ こども向けサンゴネイチャーゲーム
- 期 日：2015年3月1日

○著作論文等

- ・「瀬長島におけるオカガニ*Discoplax hirtipes* の産卵生態 その2」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月

石垣 忍（主任学芸員 歴史：近現代）

○調査・研究等

- ・鳩間島総合調査（竹富町）（2015年3月19日）

○講演・学会発表等

- ・名 称：博物館学芸員教室「印じゃな～い？」
- 期 日：2014年7月31日
- ・名 称：学芸員講座「初心者のための琉球・沖縄史～特に、大学生や若い社会人のあなたへ～」
- 期 日：2015年2月7日

○著作論文等

- ・「ボリビア コロニアオキナワにおける沖縄県派遣教員が果たした役割について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月

仲里 健（主任学芸員 地学）

○講演・学会発表等

- ・名 称：沖縄県立博物館・美術館 職員研修（IPM）
- 期 日：2014年4月1日
- 会 場：沖縄県立博物館・美術館
- ・名 称：文化の杜 職員研修（IPM）
- 期 日：2014年4月14日、20日
- 会 場：沖縄県立博物館・美術館
- 依頼機関：文化の杜共同企業体（当館指定管理者）
- ・名 称：沖縄地理学会「地質学と環境教育～ジオツアーを通して～」
- 期 日：2014年7月26日
- 依頼機関：沖縄地理学会
- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「砂の中から宝を探せ」
- 期 日：2014年7月30日
- ・名 称：移動展in西表島における講演会「西表島の起源 ～古生代からの物語～」
- 期 日：2014年11月29日

○著作論文

- ・「沖縄県立博物館・美術館所蔵の岩石薄片コレクション」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月（宮城宏之と共著）

藤田 祐樹 (主任 人類)

○調査・研究等

- ・近世墓調査 (那覇市天久) (2014年4月25日・30日)
- ・石垣市白保竿根田原洞穴遺跡出土頭骨復元プロジェクト (東京、国立科学博物館) (2014年5月13日～15日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究 (ベトナム社会主義共和国) (2014年5月20日～28日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る情報発信 (京都大学、哺乳類学会) (2014年9月5日～6日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る発掘調査 (南城市サキタリ洞遺跡) (2014年9月9日～2015年2月18日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る情報発信 (浜松市、人類学会) (2014年10月30日～11月3日)
- ・宮古島市ツツピスキアブ出土人骨調査 (宮古島市) (2014年12月18日～19日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (東京大学総合研究博物館) (2015年2月23日～24日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (東京、国立科学博物館) (2015年3月4日～日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (ハワイ、ピシヨップ博物館) (2015年3月10日～14日)

○講演・学会発表等

- ・名 称: 博物館学芸員講座「港川人と沖縄の旧石器時代遺跡」
期 日: 2014年4月12日
会 場: 沖縄県立博物館・美術館
- ・名 称: 琉球列島の化石シカ類にみる島嶼環境適応と絶滅 (久保麦野と連名)
期 日: 2014年9月4日～7日
学 会 名: 哺乳類学会2014年大会企画シンポジウム「島嶼個体群の時代変化から探る「島嶼化」プロセスとメカニズム」(オーガナイザー: 久保麦野, 梶光一)
- ・名 称: 「港川フィッシャー遺跡の堆積状況と年代に関する新知見」(山崎真治、新里尚美、松浦秀治、近藤恵、馬場悠男と連名)
期 日: 2014年10月31日～11月3日
学 会 名: 第68回日本人類学会大会
- ・名 称: おきなわ石の会サイエンスミーティング「おきなわの人類化石が語ること」
期 日: 2015年1月10日
- ・名 称: ナショナル・リネン・グループ東海・北陸ブロック研修会「旧石器時代の沖縄」
期 日: 2015年2月4日

○著作論文等

- ・「Body size reduction in wild boar (*Sus scrofa*) from the late Pleistocene Maehira Fissure Site in Okinawajima Island, Japan, with relevance to human arrival」『Quaternary International』(山崎真治、菅原広史、江田晶樹と共著) 2014年8月
- ・「ハトの頸振り歩行の秘密」『BIRDER』7月号 文一総合出版 2014年6月
- ・藤田祐樹 編・著『平成26年度博物館企画展 イノシシとブタと私たち』沖縄県立博物館・美術館 2015年2月
- ・「Pleistocene Seafaring and Colonization of the Ryukyu Islands, Southwestern Japan.」 Y. Kaifu, M. Izuho, T. Goebel, H. Sato, A. Ono, eds. 『Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia, Texas A&M University Press, College Station』(海部陽介、米田稜、山崎真治と共著) 2014年12月
- ・「奄美大島産イノシシ個体の臼歯列欠損例」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月 (波木基真と共著)

片桐 千亜紀 (主任学芸員 考古)

○調査研究等

- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究 (ベトナム社会主義共和国) (2014年5月23日～28日)
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査 (東京) (2014年6月3～4日)

- ・「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」に伴う石垣島水中文化遺産調査（石垣市）（2014年6月14～16日）
依頼機関：総合地球環境学研究所
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に伴う専門家派遣（カンボジア王国）（2014年6月28日～7月7日）
依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター（JICA沖縄）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（座間味村）（2014年7月25～27日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（静岡県、東京都）（2014年8月1～3日）
- ・「マルチビーム測深技術を用いた浅海底地形学の開拓と防災・環境科学への応用」プロジェクトに伴うエモンズ調査（今帰仁村古宇利島沖）（2014年8月26日）
依頼機関：九州大学
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（大阪府、京都府）（2014年8月28～30日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（イングランド）（2014年9月13～18日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（福岡県、鹿児島県）（2014年9月27～29日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（長崎県）（2014年10月2～6日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（京都府）（2014年10月7～8日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（広島県）（2014年10月15～16日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（北海道、千葉県）（2014年10月19～22日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（鹿児島県）（2014年10月26～27日）
- ・公開承認施設会議（東京都）（2014年11月11～12日）
- ・与那国プロジェクト調整（与那国町）（2014年12月17～18日）
依頼機関：国立科学博物館
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（千葉県、静岡県、東京都）（2015年1月27～29日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（長崎県、福岡県、広島県）（2015年2月2～7日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（イングランド）（2015年2月9～16日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（北海道）（2015年2月18～20日）
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に伴う専門家派遣（カンボジア王国）（2015年2月23日～3月11日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（京都府）（2015年3月19～21日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（伊江村）（2015年3月24・25日）
- ・博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」に伴う資料調査（鹿児島県）（2015年3月28・29日）

○講演・学会発表等

- ・名 称：Distributional Survey of Underwater Cultural Heritage and its Experimental Presentation in the Ryukyu Archipelago (Chiaki Katagiri, Yuji Yamamoto, Yumiko Nakanishi)
期 日：2014年5月12～16日
学 会 名：2nd Asia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage
場 所：ハワイ大学
- ・名 称：First Discovery and Mapping of Early Modern Grapnel Anchors in Ishigaki Island and

Cultural Resource Management of Underwater Cultural Heritage in Okinawa (Rintaro Ono,
Hironobu Kan, Norimitsu Sakagami, Masayuki Nagao, Chiaki Katagiri)

期 日：2014年5月12～16日

学 会 名：2nd Asia-pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage

場 所：ハワイ大学

・名 称：博物館学芸員講座「特別展 水中文化遺産 ネットバレ話し！」

期 日：2014年7月12日

・名 称：博物館学芸員講座・文化講座「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」テーマ
「国頭村宜名真沖で沈んだ異国船の調査」

期 日：2014年12月6日

○著作論文等

- ・「First Discovery and Mapping of Early Modern Grapnel Anchors in Ishigaki Island and Cultural Resource Management of Underwater Cultural Heritage in Okinawa.」『Proceedings of the 2nd Asia-pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage』 Vol2. (小野林太郎、菅浩伸、坂上憲光、長尾正之と共著) 2014年5月
- ・「Distributional Survey of Underwater Cultural Heritage and its Experimental Presentation in the Ryukyu Archipelago.」『Proceedings of the 2nd Asia-pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage,』 Vol2. (山本祐司、中西裕見子と共著) 2014年5月
- ・南西諸島水中文化遺産研究会(編)片桐千亜紀・宮城弘樹・渡辺美季『沖縄の水中文化遺産～青い海に沈んだ歴史のカケラ～』 ボーダーインク社 2014年
- ・片桐千亜紀(編)『水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～』 図録 沖縄県立博物館・美術館 2015年3月
- ・「名護市天仁屋の碇石とSfM (Structure-from-Motion) を応用した碇石の計測方法」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月 (木村謙介、崎原恒寿と共著)

山崎 真治 (主任 人類)

○調査研究等

- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (県立埋蔵文化財センター) (2014年4月18日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究 (東京大学総合研究博物館) (2014年5月16日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究 (ベトナム社会主義共和国) (2014年5月20日～28日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究 (九州歴史資料館・東名縄文館) (2014年6月4日～6日)
- ・博物館図書資料収集 (友寄氏資料) (2014年6月14日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究・資料収集 (石垣島) (2014年7月1日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (南城市大里庁舎) (2014年8月6日、15日、22日、9月3日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る発掘調査 (南城市サキタリ洞遺跡) (2014年9月9日～2015年2月18日)
- ・名護市安和与那川原遺跡発掘調査現地見学 (名護市) (2015年1月15日)
- ・白保竿根田原洞穴遺跡調査指導委員会オブザーバー参加 (県立埋蔵文化財センター) (平成27年1月22～23日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究・資料収集 (種子島) (2015年2月23日～26日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る資料調査 (ハワイ・ビショップ博物館) (2015年3月10日～3月14日)
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調整等 (九州歴史資料館) (2015年3月6日)

○講演・学会発表等

- ・名 称：「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査 (2009～2013年度)」日本考古学協会 (藤田祐樹・片桐千亜紀・黒住耐二・國木田大・大城逸朗と連名)
期 日：2014年5月17・18日
学 会 名：日本考古学協会第80回総会
- ・名 称：「沖縄の旧石器人と貝器文化―島に生きた旧石器人とその文化を探る」 (藤田祐樹・片桐千亜紀・海部陽介・黒住耐二と連名)
期 日：2014年6月21・22日
学 会 名：日本旧石器学会第12回講演・研究発表

- ・名称：「先史土器の胎土分析から見た流通圏とその画期」
期日：2014年7月12日
学会名：沖縄考古学会2014年度研究発表会
- ・名称：夏休み博物館学芸員教室「貝器づくりに挑戦」
期日：2014年7月29日
- ・名称：博物館学芸員講座「沖縄の先史人と貝」
期日：2014年9月6日
- ・名称：「琉球列島の旧石器人とその文化」
期日：2014年9月13・14日
学会名：九州旧石器文化研究会第40回記念大会
- ・名称：「沖縄の先史文化と縄文文化との『遭遇』」（國木田大と連名）
期日：2014年11月2日
学会名：第68回日本人類学会 日本人類学会
- ・名称：向陽高校野外学習会事前学集会「港川人の時代を掘る」
期日：2014年11月26日
- ・名称：「琉球列島の旧石器人とその文化―遺跡発掘最新情報」
期日：2015年2月28日
学会名：南山大学 公開シンポジウム「琉球列島最古の航海者を探る」
- ・名称：「南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査と沖縄先史文化の起源」
期日：2015年3月7日
学会名：沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 公開シンポジウム「沖縄先史文化の起源を探る」

○著作論文等

- ・『沖縄県南城市サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告書II』 沖縄県立博物館・美術館 2015年3月
- ・「人類史の『空白』を探る―沖縄県南城市サキタリ洞遺跡」『季刊考古学』127 雄山閣 2014年4月
- ・「琉球列島における後期更新世・完新世移行期の人類とその文化をめぐる近年の動向」『旧石器研究 10 日本旧石器学会 2014年5月
- ・「日本旧石器学会研究グループ2013年度活動報告」『日本旧石器学会ニューズレター』第26号 日本旧石器学会 2014年5月
- ・「骨と貝が語る沖縄の旧石器時代」『ミルシル』7(4) 国立科学博物館 2014年7月
- ・「琉球列島の旧石器人とその文化 - 南からの視点」『九州旧石器』18 九州旧石器文化研究会 2014年9月
- ・「沖縄県の動向」『九州旧石器』18 九州旧石器文化研究会 2014年9月
- ・「夏休み博物館学芸員教室『貝器づくりに挑戦』実施報告」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月
- ・「旧石器時代から貝塚時代へ―起源論研究の現状とその行方―」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』：新里貴之・高宮広土編『琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集』1 六一書房 2014年4月
- ・「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡出土の後期更新世の海産貝類と人類との関わり」『Anthropological Science (Japanese Series)』122 日本人類学会 2014年6月（藤田祐樹・片桐千亜紀・黒住耐二・海部陽介と共著）
- ・「ヤブチ式土器と貝器文化」『考古学研究』61(1) 考古学研究会 2014年6月
- ・「沖縄県南城市熱田原貝塚出土貝刃の製作技術」『日本考古学』38 日本考古学協会 2014年10月（黒住耐二・大城秀子と共著）
- ・書評（沖縄タイムス） 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土著『マヤ・アンデス・琉球』朝日選書 2014年10月

崎原 恭子（主任 歴史：古琉球・近世）

○調査研究等

- ・久米村展関連研修会「チューンジー研修会」企画・参加（2014年4月25日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（福島県）（2014年5月9日～10日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（沖縄阮氏我華会）（2014年5月21日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（久米梁氏呉江会）（2014年5月29日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（沖縄市）（2014年5月31日）
- ・久米村展展示写真等事前確認調査（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館）（2014年6月5日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（沖縄県立図書館）（2014年6月12日）

- ・久米村展展示資料事前確認調査（那覇市歴史博物館）（2014年6月13日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（那覇市）（2014年6月17日・20日・25日、8月15日）
- ・ハイネ展展示資料事前確認調査（那覇市）（2014年7月4日）
- ・久米村展展示資料事前確認調査（沖縄県公文書館）（2014年7月17日）
- ・久米村展展示資料借用作業（那覇市）（2014年7月16日・18日・23日・31日、9月2日）
- ・久米村展展示資料借用作業（沖縄市）（2014年7月19日）
- ・久米村展展示資料借用作業（東京都・福島県）（2014年8月13日～14日）
- ・久米村展展示資料借用作業（東京都）（2014年8月26日～27日）
- ・久米村展展示資料借用作業（久米島博物館）（2014年8月28日）
- ・久米村展展示資料借用作業（沖縄県立図書館）（2014年8月29日）
- ・久米村展展示資料借用作業（沖縄県公文書館）（2014年8月29日、9月29日）
- ・久米村展展示資料借用作業（那覇市歴史博物館）（2014年9月2日）
- ・久米村展展示資料返却作業（那覇市）（2014年10月6日・28日・29日、11月5日・15日）
- ・久米村展展示資料返却作業（沖縄県公文書館）（2014年10月27日）
- ・久米村展展示資料返却作業（沖縄県立図書館）（2014年10月28日）
- ・ハイネ展展示資料借用作業（那覇市）（2014年10月29日）
- ・久米村展展示資料返却作業（東京都・福島県）（2014年10月30日～11月1日）
- ・久米村展展示資料返却作業（久米島博物館）（2014年11月5日）
- ・久米村展展示資料返却作業（沖縄市）（2014年11月10日）
- ・ハイネ展展示資料借用作業（沖縄県立図書館）（2014年11月28日）
- ・ハイネ展展示資料返却作業（那覇市）（2014年12月24日）
- ・ハイネ展展示資料返却作業（明星大学）（2014年12月25日～26日）
- ・地図と測量技術展展示資料借用作業（沖縄県立図書館）（2015年1月7日）
- ・梵鐘関係資料文献等調査（沖縄県立図書館）（2015年1月14日）
- ・万国津梁の鐘関連資料調査（東京都）（2015年1月22日～23日）
- ・安良城氏寄贈資料受取確認作業（東京都）（2015年2月4日～6日）
- ・国立故宫博物館貸出資料再梱包作業（韓国）（2015年2月8日～11日）
- ・万国津梁の鐘関連資料調査（長崎県対馬市）（2015年2月17日～20日）
- ・全国歴史民俗系博物館協議会会議・調整（千葉県）（2015年3月19日～20日）

○講演等

- ・名称：博物館学芸員教室「ぼく・わたしの家系図をつくろう！」
期日：2014年8月1日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- ・名称：博物館企画展「久米村（クニダ）」展示解説会
期日：2014年9月14日・28日、10月13日・18日
- ・名称：博物館学芸員講座「久米村歴史散歩」
期日：2014年10月4日
- ・名称：博物館 歴史部門展示室特別企画展「ペリー一行が見た琉球・日本」展示解説会
期日：2014年12月7日・13日
- ・名称：琉球・沖縄の歴史紹介
期日：2014年12月11日
依頼機関：沖縄エジソン株式会社

○著作論文

- ・「金石文にみる久米村関係者について」『平成26年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展 久米崇聖会創立100周年記念 久米村（クニダ）－琉球と中国の架け橋－』2014年
- ・「重要文化財「銅鐘（旧首里城正殿鐘）のX線撮影による状態調査について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年（園原謙と共著）

金城 久枝（主任学芸員 教育普及）

○調査・研究等

- ・ふれあい体験室機能強化事業先進地調査（山口県、福岡県）（2014年11月10日～12日）
- ・ふれあい体験室機能強化事業先進地調査（滋賀県、三重県、大阪府）（2014年12月4日～6日）
- ・中長期事業先進地調査（福井県）（2015年3月4日～5日）

○講演等

- ・名称：博物館ボランティア養成講座「博物館ボランティア」

- 期 日：2014年5月17日・21日
- ・名 称：那覇教育事務所主催 10年経験者研修「博物館教育普及活動—学校連携事業—」
- 期 日：2014年7月29日
- ・名 称：学芸員講座「学芸員のお仕事？&バックヤード探険！！」
- 期 日：2014年8月2日
- ・名 称：2014年度JICA草の根技術協力「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」
講義「教育普及Ⅰ」「教育普及Ⅱ」
- 期 日：2014年10月6日

○著作論文

- ・「総合展示部門 解説ガイドボランティア養成『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第8号 2015年3月

早瀬 千明（嘱託員）

○調査・研究等

- ・伊是名玉御殿公事清明祭の調査・撮影（伊是名島）（2014年4月2日～4日）
依頼機関：沖縄県教育庁文化財課
- ・平成27年度企画展関連うちい調査・撮影（久米島）（2014年7月24日～25日）
- ・嘉手納ノロの勾玉調査（嘉手納町）（2014年10月1日）
依頼機関：嘉手納公民館
- ・万国津梁の鐘展示検討調査・撮影（長崎県壱岐市・福岡県北九州市）（2014年11月12日～14日）
- ・平成26年度移動展（西表島）（2014年11月26日～12月2日）
- ・万国津梁の鐘展示検討調査・撮影（東京浅草寺）（2015年1月22日～23日）
- ・勢理客の祭祀道具調査・撮影（伊是名島）（2015年2月9日～10日）
依頼機関：沖縄県教育庁文化財課
- ・平成27年度企画展関連うちい調査・撮影（石垣島・小浜島・竹富島）（2015年3月2日～5日）

○著作論文等

- ・「資料紹介 帛」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第8号 2015年3月（與那嶺一子、山田葉子と共著）

5. 職員研修

博物館法第4条の4において「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員に学問的専門性を要求している。また、博物館が独自の展示会や教育普及活動を行うためには、学芸員自身が調査研究を行い新たな知見を得ていく必要がある。そのため、学芸員は適宜研修を受講するとともに、平成23年度から毎週「学芸員ゼミ」を開催して互いの研究について情報共有や意見交換を行っている。

【沖縄県博物館協会研修会】

○総会・春の研修会・現地研修

日 時：2014年5月29日（木）13:30～17:30（総会・研修会）、30日（金）9:00～12:00（現地研修）

場 所：久米島博物館講堂（総会・春の研修会）、文化スポットガイドグスク巡り（現地研修）

参加者：安里進、上地聡、山崎仁也、石垣忍、仲里健、仲里安弘

○秋の研修会・現地研修

日 時：2014年11月20日（木）13:30～17:00（研修会）、21日（金）9:00～12:00（現地研修）

場 所：宜野座村立中央公民館（秋の研修会）、宜野座村の遺跡巡り（現地研修）

参加者：石垣 忍

【博物館ゼミ（仮称）】 以下「回、期日、担当者、題」の順に記す（原則毎週月曜日に実施）

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------------------------|
| 第1回 | 5月12日 | 金城 久枝 | 「教育普及事業の内容について」 |
| 第2回 | 5月19日 | 藤田 祐樹 | 「遺跡出土イノシシの系統的位置づけについて」 |
| 第3回 | 5月26日 | 山崎 仁也 | 「総合調査の概要と鳩間・新城島調査の中間報告」 |
| 第4回 | 6月2日 | 仲里 健 | 「粟国島の琉球石灰岩」 |
| 第5回 | 6月16日 | 與那嶺一子 | 「鄭嘉訓が下賜されたもの」 |
| 第6回 | 7月14日 | 園原 謙 | 「旧円覚寺仁王像復元の可能性について」 |
| 第7回 | 7月28日 | 崎原 恭子 | 「久米村(クニンダ)—琉球と中国の懸け橋—」 |

第8回	8月4日	石垣 忍	「移民について」
第9回	8月11日	片桐千亜紀	「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」 展示内容
第10回	8月18日	上地 聡	「基地問題解決のための民意の総意について」
第11回	8月25日	大湾ゆかり	「黒島の豊年祭について」
第12回	9月22日	安里 進	「琉球の陵墓について」
第13回	9月29日	上地 聡	「沖縄県議会の概要について」
第14回	10月6日	藤田 祐樹	「港川フィッシャー遺跡の堆積状況と年代に関する新知見」
第15回	10月14日	嵩原 安伸	「沖縄振興策の経緯と博物館・美術館の将来像に関する一考察」
第16回	10月20日	金城 久枝	「ボランティア活動について」
第17回	10月27日	山崎 真治	「沖縄の先史文化と縄文文化との「遭遇」」
第18回	11月10日	山崎 仁也	「オカガニ調査in瀬長島」
第19回	11月17日	仲里 健	「奄美・文化財レスキュー」
第20回	12月1日	與那嶺一子	「琉球絵画に見る沖縄のふろしき」
第21回	12月15日	崎原 恭子	「久米村(クニンダ)展総括」
第22回	12月22日	石垣 忍	「戦後の移民～再び海を渡ったウチナーンチュ～」
第23回	1月5日	早瀬 千明	「尚瀨王のお医者さん～渡嘉敷通寛と呂鳳儀」
第24回	1月13日	片桐千亜紀	「戦後70年の節目に第二次世界大戦の水中文化遺産について考える」
第25回	1月19日	大湾ゆかり	「糸満門中墓の墓開き儀礼について(上米次腹門中の事例)」
第26回	2月9日	比嘉 香織	「沖縄の籠をめぐる民俗」
第27回	2月16日	安里 進	「浦添ようどれの焚字炉屋根蓋のナゾと「浦添ようどれ絵図」
第28回	3月2日	金城 久枝	「ハンズオン展示について」
第29回	3月9日	藤田 祐樹	「宮古島市ツツピスキアブ調査の続報」
第30回	3月23日	山崎 仁也	「S-Net事業協力にともなう仲嶺コレクションのデータ整理の現状」

II. 展示活動

1. 展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展1本、企画展2本、大嶺薫コレクション展及び新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」と改称して2008年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して行われた日本本土や中国をはじめとするアジア諸国との交流により独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2014年度は特別展「水中文化遺産－海に沈んだ歴史のカケラ」、企画展「久米村－琉球と中国の架け橋」、企画展「イノシシとブタと私たち」を実施した。

また、沖縄県立博物館・美術館 博物館常設展示室歴史部門展示室企画展「ペリー提督随行画家 W・ハイネの原画展」等を開催した。また、大韓民国国立古宮博物館で開催された「琉球王国の至宝展」に本館から作品を貸与した。

2. 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によって互いに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形成している。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー(唐：中国)とヤマト(日本)との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中・戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー(ラグーン)に広がる珊瑚礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジ

オラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々〜サークルホールの展示〜

「化石の宝庫」沖縄から発見された様々な化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツとされる1万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石がステージ上に展開している。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代、それぞれの地域に有力者が登場すると、防御などを目的とした様々なグスクが造られるようになる。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富を築いた。各地の勢力は、やがて北山・中山・南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り返した。しかし、15世紀はじめころに、これらの3つの勢力は尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史が始まる。

○王国の繁栄（古琉球）

尚巴志によって統一された琉球王国は国家として成立したが、国内の権力基盤は不安定な状態であった。そのため、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起きた。一方で、中国との冊封・進貢貿易によって富を蓄えた琉球王国は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を盛んに行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。この時代、琉球は東アジア有数の貿易国家として繁栄し、より強固な国家体制を造りあげていった。

○薩摩の琉球支配と王国（近世琉球期）

1609年薩摩島津氏による琉球侵攻後、琉球王国は江戸幕府の影響下に置かれるようになる。しかし、中国との冊封・進貢関係は維持され、他方で江戸への謝恩・慶賀使の派遣が義務づけられた。

近世琉球期は、王国の危機を向かえて、羽地朝秀・蔡温などの強力な政治家による王国の経営が行われ、琉球独自の文化が花開く時代でもある。江戸文化の影響を受け、組踊などの芸能が確立し、『中山世鑑』『球陽』等の歴史書が編纂され、首里王府内に多くの役職が確立した。さらに貝摺奉行所を中心に琉球漆器・紅型などの様々な工芸品が数多く製作された。

○王国の衰亡

19世紀頃には、欧米諸国の船舶がアジア進出を目指して琉球近海に頻繁に来航し、首里王府にも開国をせまってきた。一方で、中国・日本との関係を保ちながら体制を維持してきた琉球王国だが、農村の疲弊や災害などが原因で、王府の財政難は顕著となっていった。

○沖縄の近代

江戸幕府が崩壊し、明治政府が発足すると日本と琉球との関係性も変化した。1879年に明治政府は琉球藩を廃し、沖縄県を設置した。（琉球処分）琉球王国は消滅し、近代日本国家の一部としての沖縄県が誕生した。政府は旧慣温存政策を実施したが、その結果沖縄県の土地所有権の確立や国政参加は大きく遅れ、教育制度の確立も大正期になってようやく整った。しかし、日本は次第に領土拡大と戦争へと突入していき、沖縄も戦争体制に組み込まれていった。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が展開され、24万人余りの尊い命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移譲され、27年間のアメリカ統治下に置かれた。アメリカは東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化を進めた。軍事優先の政策は、住民の生活を侵害し、米軍関係の事件・事故が多発したため、日本への復帰を望む運動が高まっていった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本に返還されたが、多くの基地が残されるなど未解決の問題が山積したままである。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄では大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機にリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化した。2000年には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、沖縄文化の優位性が広く認知されてきている。今日では観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピソードの「沖縄の現代生活」は、開館時に募集した写真作品で構成され、まさに「現代生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、沖縄の自然・文

化・歴史・民俗の特徴をより深く理解していただくために、それぞれのテーマをより特化した形での展示している。部門展示で扱うテーマは可変性を持ち、頻繁に展示替えを行っている。

○自然史部門展示 「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示 「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○美術工芸部門展示 「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすい形で、1年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○歴史部門展示 「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを経験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介する。

○民俗部門展示 「沖縄の伝統と暮らし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

3. 常設展 展示替え

【美術工芸部門】

沖縄は、湿潤亜熱帯の気候風土にあり、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中継地点に位置し、独立した王国を営んできた。美術工芸部門展示室では、沖縄で生まれた琉球の美を紹介している。展示は下記のテーマで展示替えを行った。

○「かりゆし（嘉例吉）ーめでたや、めでたや！！ー」

主 旨：「かりゆし」とは「嘉例・吉」と記し、めでたいことを意味する。乾杯音頭の掛け声「カリー」も同義語である。かつての沖縄の人々は、誕生や婚礼などのお祝いや、めでたい場や席をどのように演出したのだろうか。また、この時期は、草花や鳥虫などが芽吹き、人生の様々な門出を祝う季節である。友の旅立ち、別れなどにどのような思いで詩を詠んだのだろうか。晴れやかな祝いの様子などを思い浮かべることのできるカリーな作品を中心に紹介した。

展示資料：40件48点

孫億作花鳥図・殷元良作竹の図・呉著温作関帝王・義村朝義作岩に竹の図・比嘉盛清（華山）作婚礼風俗図
他／黒漆海老文堆錦菓子器・黒漆吉祥文様堆錦煙草入・黒漆雲双龍螺鈿丸盆・潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱・三線久場春殿 他／色象嵌粟絵菊花皿・黒釉巴文入嘉瓶・青地茶碗（新垣栄三郎作）・窯変茶碗（金城次郎作）他／指輪・結指輪／鄭嘉訓の書「渡桑乾」・徐葆光の書「解悶十二首より」・王文治の書「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」・魏学詩の書「早春野望」・鄭元偉の書「徳高」他／木綿浅地総緋衣装・苧麻紺地松竹梅模様風呂敷・絹灰色地寿字入緋衣装・黒朝衣（芭蕉紺地衣装）
他

展示期間：2014年4月8日（火）～7月13日（月）



○「学芸員の見る目」

主 旨：美術や工芸品について、学芸員がどのような部分をみているのか、「学芸員のみる目」を体験し、その見所や見方について一緒に考えてみる。博物館の資料には、歴史や物語や意味がある。学芸員は、これら資料が語る内容について耳を傾け学び、その意味をわかりやすく説明をした。今回は絵

の世界、漆器の技法の話、書の形のちがひ、染めや織りの技術や材料など美術と工芸の世界を紹介し、工芸品の製作技術を記録した映像も放映した。

展示資料：34件47点

孫億作牡丹小禽図・伝自了作寿老人・殷元良作花鳥図・呉著仁作雪景山水図・查丕烈作 牡丹の図・比嘉盛清（華山）作 琉球風俗画帖・進貢船の図・首里城の図・伝豊清作朝鮮人行列図／朱漆牡丹唐草沈金食籠・黒漆山水樓閣人物螺鈿机・黒漆山水樓閣人物堆錦料紙箱・朱漆鳳凰瑞雲箔絵小櫃・朱漆密陀絵二十四孝之図丸盆・三線盛嶋開鐘附胴・三線盛嶋開鐘の胴枠（複製品）／色象嵌栗絵菊花皿・白釉三巴紋入嘉瓶・頭獅子・彫絵呉須鉛差抱瓶（小橋川源慶作）・緑釉線彫魚文徳利（金城次郎作）・柿釉赤絵大皿（濱田庄司作）・天目釉方形壺（バーナード・リーチ作）／尚育の書「四時」・崇元寺下馬碑（裏）・徐葆光の書五言律詩二首・鄭嘉訓の書「題西林壁・齊齋の書／羅漢立像／芭蕉桐板経緯緋衣装・絹焦茶地経緯緋衣装・苧麻白地経緯緋衣装・木綿紺地経浮花織裂・木綿紺地経浮花織裂・波貝藻と松竹梅模様染地型紙／映像：沖縄の工芸 8本



展示期間：2014年7月23日（水）～10月26日（日）

○「博物館のチカラ —文化を継承する思い—」

展示期間：2014年11月11日（火）～2015年1月25日（日）

主 旨：戦後、沖縄における博物館活動のスタートは、焦土の中から文化財の残欠を集めることであった。また、戦前に沖縄から収集されたコレクションは、文化財収集キャラバン活動などにより国内外から沖縄に戻ってきた。博物館は異民族統治下にあつて、その歴史的、文化的遺物を通して、「琉球・沖縄」のアイデンティティを示すチカラを発信し続けてきました。戦禍をくぐった文化財を通して、沖縄の人々の琉球文化を継承する思いを紹介した。

展示資料：38件44点

孫億筆松鶴図・殷元良筆雪色山水図・呉著仁筆山水図・朱雀年筆奉使琉球図・美人弾琴・牡丹絵図／黒漆瑞雲双龍螺鈿椀・黒漆薔薇堆錦椀・黒漆菊花堆錦椀・黒漆山水絵堆錦椀・朱漆七宝繫牡丹沈金食籠台・黒漆遊雁芦螺鈿大文庫・朱漆烏椿密陀絵丸盆・三線江戸与那／色象嵌栗絵菊花皿・青飴流釉角瓶・灰釉渡名喜瓶・緑釉連弁型皿・線彫魚文皿・屋根獅子・象嵌色差面取抱瓶・白釉紋入嘉瓶／趙新の書聯句・浦添朝熹の和歌「山家松」・魏学賢の書「秋風引」・毛維藩の書 五言対句・高人鑑・鄭元偉の書・鄭元偉の書「徳高」／仁王像／苧麻紺地紋入鶴亀松竹梅模様風呂敷・木綿花色地梅楓銀杏橋模様裂・苧麻白地総緋裂・苧麻浅地六本井筒に松葉梅楓模様衣装・鶴梅楓散らし模様染地型紙・木綿花色地遠山に菊模様衣装・絹木綿紺地手縞衣装・木綿紺地花織ティサジ・木綿浅地格子縞に経緯緋衣装（スディナ）

○「戦後70年、復興の足跡」

主 旨：戦後、沖縄における博物館活動のスタートは、焦土の中から文化財の残欠を集めることであった。また、戦前に沖縄から収集されたコレクションは、文化財収集キャラバン活動などにより国内外から沖縄に戻ってきた。戦前のコレクションの収集活動、戦後ゼロからスタートした美術と工芸品をたどりながら、戦後草々期に収集された資料をはじめとする「沖縄の美」を求めようとした人々の足跡を紹介した。



展示資料：35件37点

孫億作花鳥図・殷元良作竹の図・毛長禧作花鳥図・沈南蘋作草花群虫の図・義村朝義作 白梅図・長嶺華国作芭蕉・菊の図・山田真山作 達磨の図／朱塗松竹双鶴沈金角盆・朱漆箔押蝶漆絵網代花卉型菓子器・黒塗螺鈿遊雁印籠・朱塗山水樓閣文堆錦印籠・黒漆山水人物六角重・黒漆芭蕉蘭堆錦大硯屏・潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵硯箱・三線盛嶋開鐘附胴／屋根獅子（頭獅子）・赤絵魚文皿・色象嵌栗絵菊花皿・呉須絵山水文丁子風炉・龍文透彫三足香炉・線彫魚文抱瓶／鄭嘉訓の書七言対句・魏学賢の書「春日」・「延寿享福」・雲石の書「張遷碑」・雲石の書南洲詩「偶成」・鄭元偉の書「徳高」／仁王像／木綿黄色地松竹梅模様風呂敷・木綿・苧麻白地菊牡丹青海波模様衣装・木綿白地流水に千鳥模様紅型鏡台掛・戦後使用された紅型の道具・木綿紺地首里風景模様壁掛・青

地花織着物・絹黄色地総緋着物

開催期間：2015（平成27）年2月10日（火）～5月10日（日）

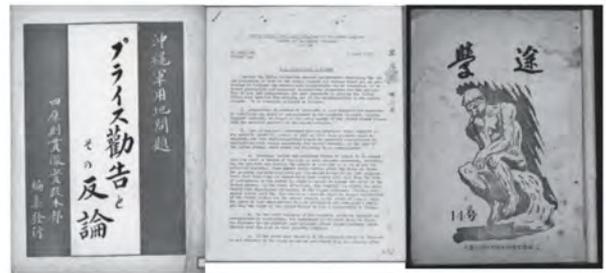
（奥那嶺 一子・園原 謙）

【歴史部門展示室】

○「抑圧からの解放を求めて」

主 旨：沖縄は1945年3月のアメリカ軍上陸以降、1972年の本土復帰まで、アメリカの支配下にあった。その間、沖縄住民の人権はないがしろにされ、アメリカ兵がらみの事件・事故や環境破壊に苦しめられてきた。そのような状況から解放されることを人びとは望み、基本的人権の保障と、平和主義をうたった憲法を持つ日本への復帰へ希望を託した。しかし、日米両政府の思惑に翻弄され、困難な道のりを歩まなければならない現実があった。ここではアメリカ統治下における県民の苦難と復帰運動の状況を展示する。

展示資料：復帰協ビラ、復帰協たすき（以上実物）／土地収用令、『プライス勧告とその反論』、『学途』、『愛唱歌集』、指令第45号、指令第304号、渡航許可補助申請書の提出について、（以上複製）／写真 ①家の取り壊しを指示する米兵（沖縄協会/県公文書館）②琉球政府前で抗議する伊江島の女性たち（阿波根昌鴻/県立図書館）③けがをして軍病院に搬送される児童（森口豁/石川・宮森630会）④金は一年土地は万年（県公文書館）⑤毒ガス即時撤去要求県民総決起大会（県公文書館）⑥平和を祈る青少年南日本大会（県公文書館）⑦不当首切り即時撤回せよ（県公文書館）⑧沖縄県祖国復帰協議会の結成大会（沖縄タイムス社）⑨立法院前の教公二法阻止闘争（沖縄タイムス社）⑩4.28海上集会（沖縄タイムス社）⑪B52出て行け（沖縄タイムス社）⑫返還協定反対ゼネスト（沖縄タイムス社）⑬プライス勧告に抗議する学生たち（沖縄タイムス社）⑭全軍労スト（沖縄タイムス社）



土地収用令コピーと、『プライス勧告とその反論』、『学途』

展示期間：2014年4月15日（火）～7月13日（日）

○「戦後の移民～再び海を渡ったウチナンチュ～」

主 旨：1879年、琉球処分という世替わりを迎えた沖縄では、旧制度の改革や諸制度の成立等により、海外へ目を向けるようになり、全国有数の移民輩出県となっていた。その後、沖縄に与えた経済的な影響や移民地でのウチナンチュの活躍みるとその歴史的な意義は大きいものがある。今回は、沖縄戦で焦土と化した沖縄に、ボリビアを中心とする移民事業が再開され、多くのウチナンチュが再び海を渡っていく様子について紹介していきます。



戦後の移民～再び海を渡ったウチナンチュ～
展示風景

展示資料：写真 コロニア・オキナワ入植50周年記念写真集より抜粋掲載

展示期間：2014年7月16日（水）～11月24日（月）

（石垣 忍・崎原 恭子）

【民俗部門展示室】

沖縄の気候風土の中で培われた伝統的な手仕事を紹介するため、民俗部門展示室の「諸職のワザ」コーナーでは、年に一度展示替えを行っている。また、「沖縄のすまい」コーナーの仏壇前には、季節や行事にあわせてお供え物を展示している。

○「諸職のワザ 赤瓦」

主 旨：沖縄の原風景を彩ってきた赤瓦の屋根。沖縄の強い日差しや台風の風雨から家屋を守ることができる大切な素材である。本展示では、赤瓦の製作に使う道具類とPCコンテンツにある製造風景を一緒に見ていただき、手作業で瓦を仕立てる職人技を紹介している。また、赤瓦の種類（雄瓦・雌瓦）や組み方実物資料と写真で説明する。そのほか、赤瓦葺きの民家の写真と瓦葺き



人が余った瓦や漆喰などの材料を使って作り出した屋根獅子等を展示し、沖縄の原風景をじ取ってもらうような展示とした。

展示資料：雄瓦車（ウーガーラグルマ）、雌瓦（ミーガーラグルマ）、瓦箱（カーラバク）、土切り（クワーヒン）、撫で板（ナディ）、定規（ジョウジ）、雄瓦（ウーガーラ）、雌瓦（ミーガーラ）、鬼瓦（ウニガーラ）、漆喰製屋根獅子（シーサー）2点、陶製獅子（シーサー）



期 間：2014年10月1日（火）～2015年10月4日（日）

○仏壇のお供え物の展示

主 旨：沖縄では旧暦の1日・15日に仏壇にお供え物をするほか、季節の節目の行事ごとにいろいろなお供え物をする。民俗常設展示室の民家模型にある仏壇にも行事にあわせてお供え物や説明パネルを展示した。旧盆展示では、平成26年度のアンケート調査を参考にしながら昭和初期の展示を再現するため、新たに食品サンプルやガンシナ、メドハギ等を補充し展示した。

展示期間：正月（新・旧）、清明祭、5月4日（ユッカヌヒー）と5月5日（グングウチグニチ）、旧盆、十五夜、冬至、ムーチャー等



旧盆



ユッカノヒー（ポーポーとあまがし）



冬至（トゥンジージュージー）

旧正月等

（大湾 ゆかり）

【自然史 地学部門】

○岩石洗浄活動（野外展示）

2014年7月14日（月）

※屋外展示の岩石に付着している、コケなどの洗浄作業。

（仲里 健）

4. 特別展 「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」

会 期：2014年11月8日（土）～2015年1月18日（日）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 特別展示室1・2、企画展示室（約810㎡）

観 覧 料：一般 800円（640円）、高校・大学生500（400円）、小・中学生 300円（240円）

※（ ）は、前売り及び20名以上の団体料金

観覧者数：9,586人

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

後 援：沖縄県教育委員会、沖縄タイムス社、琉球新報、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、タイフーンfm、FMレキオ

協 力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク（日本財団助成事業）、釧路漁業協同組合、江差町教育委員会、開陽丸青少年センター、上ノ国町教育委員会、館山市立博物館、月刊ダイバー、熱海市立初島小中学校、東海大学海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻坂上研究室、東海大学海洋学部海洋文明学科小野研究室、東海大学考古学研究室、水中考古学研究所、軈の浦歴史民俗資料館、いろは丸展示館、九州大学地球社会統合科学府（比較社会文化研究院環境変動講座）菅研究室、芦屋町歴史民俗資料館、福岡市埋蔵文化財センター、松浦市教育委員会、小値賀町歴史民俗資料館、アジア水中考古学研究所、鹿児島大学法文学部異文化交流論研究室、坊津歴史資料センター輝津館、（財）原野農芸博物館奄美市教育委員会、屋仁小学校、宇検村教育委員会、伊江村教育委員会、名護博物館、恩納村博物館、北谷町教育委員会、琉球大学考古学研究室、沖縄県立埋蔵文化財センター、那覇市教育委員会、帆船模型の会「アンカー」、糸満市教育委員会、座間味村教育委員会、慶良間海洋文化館、宮平一明、池間漁業協同組合、多良間村教育委員会



特別展ポスター

【開催趣旨】

琉球列島は、四方を海に囲まれた島々で構成されており、そのひろがり、九州の南端から台湾にいたるまで1,200kmもの広大な海域世界におよんでいる。この島々に初めて人類が到達した数万年前から、人々は海と深い関係を結んできた。そこでは船こそが島と島の往来を可能にし、人だけでなく資源や商品、文化そのものを運びつづけてきた。河口や入江は先史時代から港として利用され、海洋資源は、食料や道具そして高価な交易品として、人人が島で生き抜くための恵みと豊かさをもたらしてきた。こうした歴史のうえに、海洋交易国家「琉球王国」が誕生した。海にひろがった人類活動の痕跡は海底にもこのさされておられ、近年、多くの水中文化遺産が、海底に存在することが明らかとなってきた。この特別展では、琉球列島だけでなく、日本国内の代表的な水中文化遺産を展示し、海とともに生きてきた人類の歴史と文化を、水中文化遺産をとおして広く周知・啓発することを目的とする。

【展示内容】

〈プロローグ 水中文化遺産への招待〉

海や河川など、水底に存在する文化遺産（遺跡）のことを水中文化遺産（水中遺跡）と呼ぶ。それを特に研究する学問が水中考古学である。2009年、ユネスコ「水中文化遺産保護条約」が発効した。水中文化遺産の保護と活用は世界共通の課題となった。

序章では水中文化遺産とはどのような文化遺産（遺跡）なのか、その主な種類や日本列島で知られている水中文化遺産の分布状況について紹介した。

〈I 航海への扉 - 港 - 〉

代表的な水中文化遺産は沈没船などの海難事故遺跡や港湾遺跡である。港は航海への玄関口として陸上世界と海域世界を繋ぐ扉の役割を果たす。重要な港は古来から人々によって利用されるため、様々な時代の様々な遺物が陸上から海底に残されている。港の意義とそのにぎわい、停泊する船との関係について、絵図や地図から、そして港湾遺跡から発掘された様々な考古資料をもとに紹介した。

〈Ⅱ 様々なイカリ〉

沖縄・日本各地の遺跡から発見される外国や他地域で生産された陶磁器、これらの大半は大量の物資を運ぶことを可能とする船によって運ばれてきた。しかし、どのような船によって運ばれたのかを知ることは容易ではない。海底からは様々なイカリが発見される。イカリは船の規模や形態を雄弁に語る。例えば、日本の江戸時代の和船には四爪鉄錨が頻りに積載されていたことがわかっており、中国船は木と石を組み合わせた木石碇を利用していた。西欧船には西欧船のイカリの特徴がある。日本各地で発見されている様々なイカリの実物・復元模型から船の形と規模を想像する。



展示室の様子

〈Ⅲ 大交易時代の海〉

中世の東アジア海域は船と海を媒介として陶磁器等の多量の商品が流通するネットワークが構築されていた。海を航行する船には、台風等の海難事故に遭って座礁・沈没を余儀なくされたものも多数あった。船そのものが沈没するだけでなく、船の沈没をさけるために、満載されていた陶磁器等の商品を海底に投棄することもあっただろう。その結果、海底には多量の陶磁器が残されることになる。海底には今もその痕跡が残されている。このような沈没船遺跡等から発見された資料を紹介した。

〈Ⅳ 内なる海を巡る〉

近世琉球王国はマーラン船と呼ばれる船等を利用した移動・物流のネットワークが島々に張り巡らされていた。沖縄島の壺屋で生産された壺屋焼は、この海と船のネットワークによって様々な物資と共に各島々に運搬された。頻りに航海は海難事故を多発させることにもなり、海底には船そのものや積荷が散乱する海域がある。江戸時代の日本でも海運による物資の流通が盛んになり、海底には海難事故によって沈んだ船やその物資が散乱する海域が多数確認されている。これらの船は外洋を航海する大型の船ではなく、島伝いや陸地が見える範囲で航海をするやや小型のものが主に利用された。このような沈没船遺跡等から発見された資料を紹介した。

〈Ⅴ 異国船の時代〉

琉球王国末期、王国が支配する海域には「異国船」と呼ばれる西欧船の姿がたえず見られた。西列強によるアジア進出の波が、琉球王国にまでその影響を及ぼしていた。その事は異国船の漂着に関するたくさんの文献に残されており、19世紀の那覇港の様子を知ることができる『首里那覇港図屏風』にも異国船が描かれている。その中には海難事故に遭って座礁・沈没を余儀なくされた船もあり、県内各地で異国船の沈没船遺跡が発見されている。江戸時代末期の日本ではこのような西欧船を所有することもあり、有名な沈没船遺跡が発見、調査されている例もある。琉球・日本、様々な海域で発見された異国船に関する沈没船遺跡の資料を紹介した。

〈Ⅵ 海に沈んだ先史時代の遺跡〉

海洋環境の変化（海面変動・陸地沈降）によって、かつて陸上に形成されていた遺跡が現在は海に沈んでいる海域がある。海に沈んだ先史時代遺跡の遺跡から発見された代表的な資料を展示した。

【関連催事】

〈博物館学芸員講座1〉

演 題：博物館特別展プレイベント

『水中文化遺産展 ネットバレ話し!』

期 日：2014年7月12日（土） 14:00～16:00

講 師：片桐千亜紀（沖縄県立博物館・美術館）

会 場：博物館講座室 参加者：42人

〈第450回博物館文化講座〉

演 題：『世界の海事・水中考古学から学ぶ』

期 日：2014年11月15日（土） 14:00～16:00

講 師：ランドール・佐々木（福岡市経済観光局埋蔵文化財部埋蔵文化財調査課）

会 場：博物館講堂 参加者：83人

〈体験学習教室〉

演 題：『海に沈んだ先史人の足跡（そくせき）を探せ!』

期 日：2014年11月22日（土） 10:00～16:00



内覧会の様子

講師：崎原恒寿（恩納村教育委員会）、片桐千亜紀（沖縄県立博物館・美術館）
 会場：恩納村 参加者：小中学生26人

《博物館学芸員講座2》

演題『国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！』
 期日：2014年12月6日（土） 14:00～16:00
 講師：片桐千亜紀（沖縄県立博物館・美術館）
 特別講師：宮城弘樹（名護市教育委員会）、渡辺美季（東京大学大学院）
 会場：博物館講座室 参加者：103人



体験学習教室での展示見学

《第451回博物館文化講座》

演題：『海の文化遺産～水中考古学の魅力～』
 期日：2014年12月20日（土） 14:00～16:00
 講師：野上建紀（長崎大学）、吉崎伸（水中考古学研究所）、林原利明（アジア水中考古学研究所）、藤島一巳（元江差町教育委員会）
 会場：博物館講堂 参加者：116人

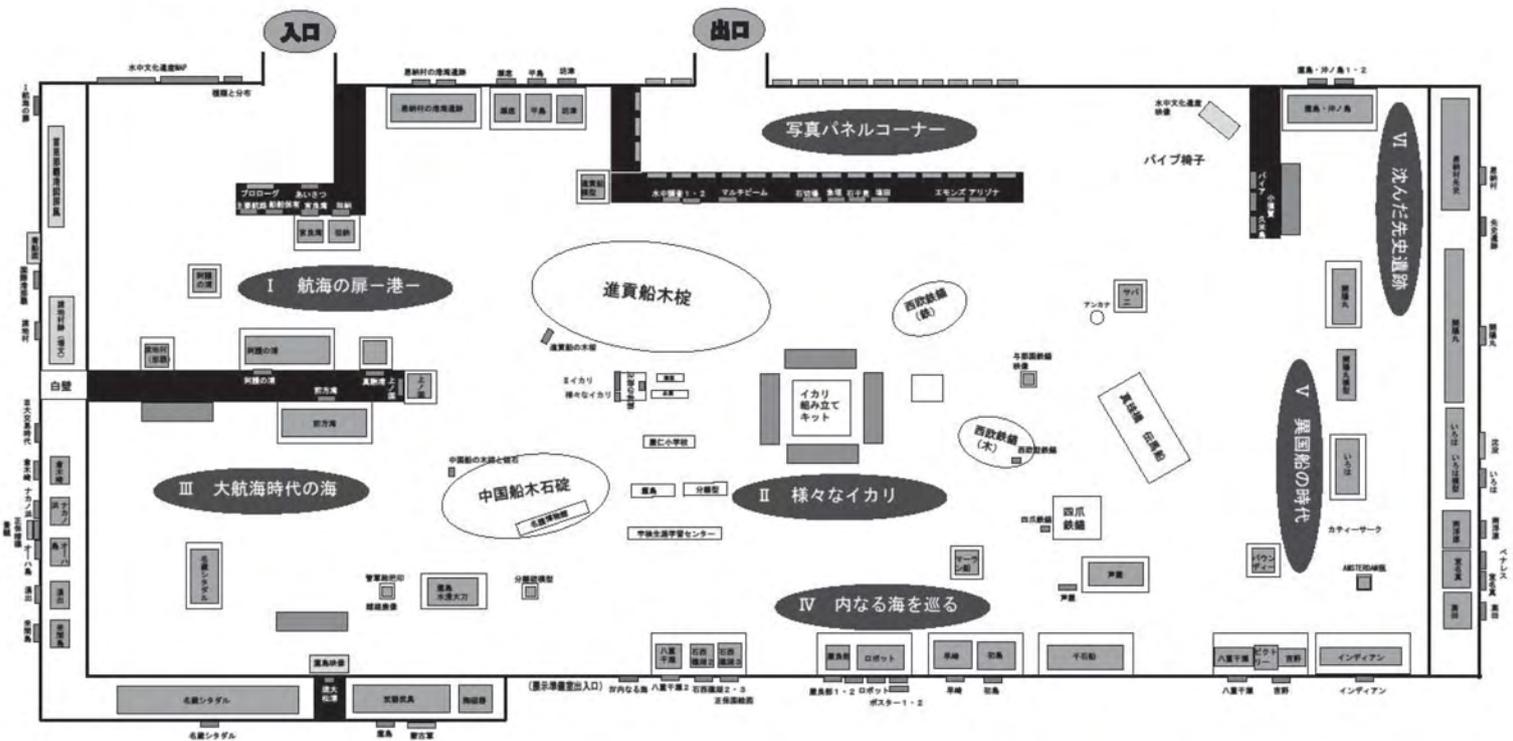
《特別講演～グランド・フィナーレ～》

演題：元寇船の発見！松浦市鷹島海底遺跡の調査
 期日：2015年1月18日（日） 10:00～12:00
 講師：池田榮史（琉球大学）
 会場：博物館講堂 参加者：117人

《ミニ移動展in恩納村博物館》

期日：2015年1月27日（火）～2月22日（日）
 観覧者：563人

【展示室平面図】



博物館 企画・特別1・2展示室 約810㎡

(片桐 千亜紀)

5. 企画展 「新収蔵品展—平成25年度収蔵資料—」

会 期：2014年5月23日（金）～6月23日（月）

会 場：博物館企画展示室

観 覧 料：一般200円(160円)、高校・大学生150円(120円)、小・中学生100円(80円)

※（ ）は、前売り及び20名以上の団体料金

博物館企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管・修理された諸資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

【事業内容】

平成25年度に寄贈・収集・購入・修理された諸資料を地学、生物、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野に分類し、博物館3階の企画展示室で展示・公開した。

本展の初日には、寄贈者への感謝状贈呈式および開会式等を実施した。

【展示内容】

財団法人南部振興会（寄贈当時の団体名称）より旧島尻博物館収蔵品275件1002点ものご寄贈をいただいた中で玉川王子尚慎の書譜（書跡）、雲中飛龍の耳付大花瓶（陶磁器）、齊藤用之助関連資料（歴史）等を展示した。

他に主だったものは、自然史分野では、仲里昌五郎氏よりご寄贈いただいた化石資料等一式を、また、やんばる学びの森・山川雄二氏よりご寄贈いただいたオキナワトゲネズミなどの希少動物（標本）を用いて委託製作した剥製を、歴史分野では、玉那覇タツ子氏よりご寄贈いただいた東京オリンピック聖火リレーのトーチを、美術工芸分野では、ハワイ在住の新里勝美氏よりご寄贈いただいた三線知念大工型と黒漆松竹梅螺鈿漆絵三線箱のセットを、民俗分野では、新崎照子氏からご寄贈いただいた琉球箏2面を展示した。

【展示平面図及び展示風景】



(山崎 仁也)

7. 企画展 「久米崇聖会創立100周年記念 『久米村（クニンダ）—琉球と中国の架け橋—』

会 期：2014年9月12日（金）～10月19日（日）

※台風19号の接近のため10月11日及び10月12日の2日間休館

会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室及び特別展示室1

観 覧 料：一般500円(400円)、高校・大学生300円(240円)、小・中学生200円(160円)

※（ ）は20名以上の団体料金

観覧者数：4,921人

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

共 催：一般社団法人 久米崇聖会、
一般財団法人 沖縄美ら島財団

助 成：芸術文化振興基金
(独立行政法人 日本芸術文化振興会)

後 援：沖縄タイムス社、琉球新報社、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、FMレキオ、エフエム沖縄、タイフーンfm、沖縄ケーブルネットワーク株式会社

協 力：一般社団法人 蔡氏門中会、林氏濂江会、一般社団法人 金氏門中会、鄭氏義才門中会、一般社団法人 久米梁氏呉江会、一般社団法人 沖縄阮氏我華会、公益社団法人 久米国鼎会、王姓門中会（槐王会）、陳氏華源会、一般社団法人 久米同進会、沖縄県立図書館、沖縄県芸術大学附属図書・資料館、久米島博物館、那覇市歴史博物館、沖縄国際大学南島文化研究所、法政大学沖縄文化研究所、沖縄県公文書館、浦添市美術館



【開催趣旨】

久米村は、中国の渡来人が現在的那覇市久米を中心とした地域に築いたコミュニティである。ここに居住した人々は、政治・経済・文化の面から琉球と中国・アジア等の諸国を繋ぎ、琉球王国の外交や学問・文化の振興を支えた。本展示会では、久米村の子孫により設立された久米崇聖会が2014年に創立100周年を迎えることを契機に久米崇聖会と共同で展示会を開催し、琉球における久米村の役割と清明祭（シーミー）などの文化を琉球にもたらした久米村（クニンダ）の全貌に迫る。

【展示内容】

（1）琉球の外交と久米村（クニンダ）

1372年、琉球は中国と冊封・進貢（朝貢）関係を結んだ。これにともない琉球の玄関口であった那覇港の北側に形成された中国人居住地が久米村のはじまりとなった。ここに住んだ久米村人は、当時のアジア共通語である中国語を自在に操り、外交文書の作成や通訳、航海術などを通じて琉球の外交と海外交易を支えた。

その一方、16世紀末頃の海外貿易衰退や1609年の薩摩による琉球侵攻という大きな転換を経た後には、首里王府によって中国との冊封・進貢（朝貢）関係の強化と衰退した久米村の再編・復興が進められた。久米村人は外交のエキスパートとして琉球王国の王府機構に組み込まれ特別な役職や俸給が与えられた。近世琉球の時代の久米村人は中国・日本への外交使節として活躍する一方、19世紀には西洋人の通訳を務めるなど、首里王府の外交にとって欠かせない存在だった。

※久米村士族コーナー（家譜等展示）の設置

（2）久米村（クニンダ）の学問と教養

近世琉球の時代、「中国外交」に加え「中国外交を支える学問・文化の習得と教授」も久米村の役割となった。このため久米村は独自の教育システムを構築したほか、王族や久米村以外の士族に対し、中国語や中国風の書、中国音楽や芸能を教授するも担った。そのような久米村からは、程順則という優れた学者や蔡温という儒教を活用した大政治家、鄭嘉訓・元偉のような能書家など、琉球を代表する文人が輩出された。ここでは、豊かな教養を持ち、外交や学問・文化の担い手としての誇りを持った久米村人のすがたを紹介した。

※主要人物コーナーの設置

（3）久米村（クニンダ）の祭礼と文化

久米村は、代々維持されてきた中国的な文化・民俗があった。天尊廟や天妃宮など道教に関わる祭祀施設の整備や17世紀に導入



（1）-1 琉球の外交と久米村



（1）-2 久米村士族コーナー



（2）久米村（クニンダ）の学問と教養

された儒教の祖・孔子とその高弟を祀る釋奠祭礼が春秋に行われるようになった。この祭礼は1719年以降、王府が主催するようになった。一方、魔除けである石敢當、先祖供養の行事である清明祭（ウシーミー、シーミー）など、現在の沖縄のほとんどの地域に根付いた風習の導入にも久米村人（クニンダンチュ）が大きな役割果たしたと考えられる。

久米村人による中国的な文化・民俗の移入は琉球・沖縄の民俗にも大きな影響を与えた反面、久米村に流入した琉球・沖縄特有の文化・民俗と融合し、久米村独自の祭礼と文化が生み出されてきた。

※チェンジー体験コーナーの設置

（4）近現代の久米村100年

19世紀末、琉球王国は東アジア世界の大変動の影響を受け、王国存亡の危機を迎えた。1879年の明治政府による琉球処分が断行されると、琉球王国は解体され、中国との冊封・進貢（朝貢）関係も打ち切られた。それに伴って、久米村の役割と存在意義も失われた。久米村人のなかには、明治政府に琉球と中国との関係存続を訴えたり、中国で琉球救国の嘆願運動を展開したりする人（「脱清人」）もいたが、日清戦争における日本の勝利（中国の敗北）により、その活動も途絶えた。そのような逆境にあっても、久米村人は琉球王国の海外交易の証である『歴代宝案』を守り、1914年には久米崇聖会を立ち上げ久米至聖廟や明倫堂の管理を組織的に行うなど、久米村としての誇りを持ち続けた。

しかし、1944年のアメリカ軍による10・10空襲の結果、久米やその周辺地域焼け野原となった。それでも久米村の結束力は強く、久米崇聖会による久米至聖廟の再建や、久米村の各門中を中心とした多くの組織が文化振興事業や社会貢献活動を行うなど、久米村の域を超えた活も実施されるようになった。

【関連催事】

（1）博物館文化講座

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂（定員210人）

①「久米村人（クニンダンチュ）の家譜を読もう！」

開催日：2014年9月20日（土）14:00～16:00

内 容：久米村系士族の家譜を読み、久米村系家譜の特徴と王国での役割を解説する。

講 師：田名真之（沖縄国際大学教授）

参加者：232名

②「書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓」

開催日：2014年10月13日（月・祝）14:00～16:00

内 容：能書家・鄭嘉訓や久米村出身者による書をひも解くとともに、書の実演を交えて琉球王国時代の文人たちによる書の楽しみ方に迫る。

講 師：幸喜洋人（書道愛好家）

参加者：86名

（2）久米村（クニンダ）シンポジウム

開催場所：沖縄県立博物館・美術館講堂もしくは博物館講座室

①「琉球の海外交易と久米村」（3時間）

開催日時：2014年9月13日（土）13:30～16:30 講堂

目 的：琉球と中国をつなぎ、アジア各国との交易を支えた久米村人像を探る。

コーディネーター：赤嶺守（琉球大学教授）

パネリスト：山田浩世（沖縄国際大学）、深澤秋人（沖縄大学） 富田千夏（琉球大学附属図書館）



（3）-1 久米村（クニンダ）の祭礼と文化



（3）-2 チュンジー体験コーナー



（4）近現代の久米村 100 年



博物館文化講座①



博物館文化講座②

参加者：240名

②「琉球王国の学問・教養と久米村」（3時間）

開催日時：2014年9月27日（土）13:30～16:30 博物館講座室
目的：琉球の対外政策及び交流上必要であった学問や教養を担った久米村人像を探る。

コーディネーター：田名真之（沖縄国際大学）

パネリスト：渡辺美季（東京大学大学院）、都築晶子（龍谷大学）、前田舟子（沖縄大学）

参加者：100名



シンポジウム①

(3) 事例報告「久米村（クニンダ）の年中行事」

※台風19号の接近のため中止

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

開催時期：2014年10月11日（日）14:00～15:30

目的：久米村の各門中会の代表者に、現在各久米村門中会でやっているいくつかの年中行事をお話いただき、久米村門中で行われる年中行事の特徴を浮かび上がらせる。

コーディネーター：稲福政斉（沖縄国際大学総合文化研究所非常勤講師）

報告者：久米村の各門中会から数名



シンポジウム②

(4) 旗頭ガーエー

開催日時：2014年9月14日（日）10:00～11:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館プラザ（屋外 多目的広場）

出演者：久米旗頭実行委員会、久茂地盛鶴保存会

参加者：50名



旗頭ガーエー

(5) 特別芸能公演会「中国芸能と久米村」

開催日時：平成26年9月23日（火・祝）
14:00～16:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
（定員210人）参加料無料

内容：琉球王国時代から伝承・復元された中国芸能と久米村の関係をひも解く。

基調講演：「久米村の芸能」

比嘉悦子（宜野湾市立博物館長）

演目：「御座楽」御座楽復元演奏研究会、
「路次楽」首里高等学校吹奏楽部、
「湧川の路次楽」：湧川路次楽保存会
（県指定無形民俗文化財）

参加者：176名



特別芸能公演会の様子

(6) 久米村史跡めぐり ※久米崇聖会主催

開催日時：2014年9月15日（月・祝）・10月5日（日）

開催場所：那覇市久米、若狭周辺

内容：今に残る久米村に係わる史跡等を巡り、久米村の足跡を知る。

集合場所：一般社団法人 久米崇聖会
（明倫堂・至聖廟管理事務所）

主管：一般社団法人 久米崇聖会

協力：那覇市観光協会

参加者：52名



久米島史跡めぐり

(7) 特別企画「久米村(クニダ) ゆかりの菓子～受け継がれる味と思い～」

開催日：2014年9月12日(金)～10月19日(日)

提供場所：沖縄県立博物館・美術館カフェ 茶花

内容：博物館企画展「久米村展」を開催するに当たり、関連企画としてカフェで「久米村」にゆかりのあるお菓子を提供する。

提供菓子：橘餅・冬瓜漬、天妃前まんじゅう

協力：謝花きっぱん店、天妃前まんじゅうパーチン屋

提供数：約400食



チュンジー大会①

(8) 特別企画「チュンジー大会」 ※久米崇聖会主催

開催日時：2014年10月18日(土) 14:00～17:30

開催場所：一般社団法人 久米崇聖会(明倫堂) 参加料無料

内容：初心者大歓迎！中国伝来のチュンジーにふれ、腕試しの競技を行う。

主管：一般社団法人 久米崇聖会

協力：一般社団法人 久米同進会

参加者：16名



チュンジー大会②

(9) 担当学芸員による講座および展示解説会

①学芸員講座

開催日時：2014年10月4日(土) 14:00～16:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂 参加料無料

参加者：140名

②展示解説会

開催日時：2014年9月14日(日) 13:00～14:00

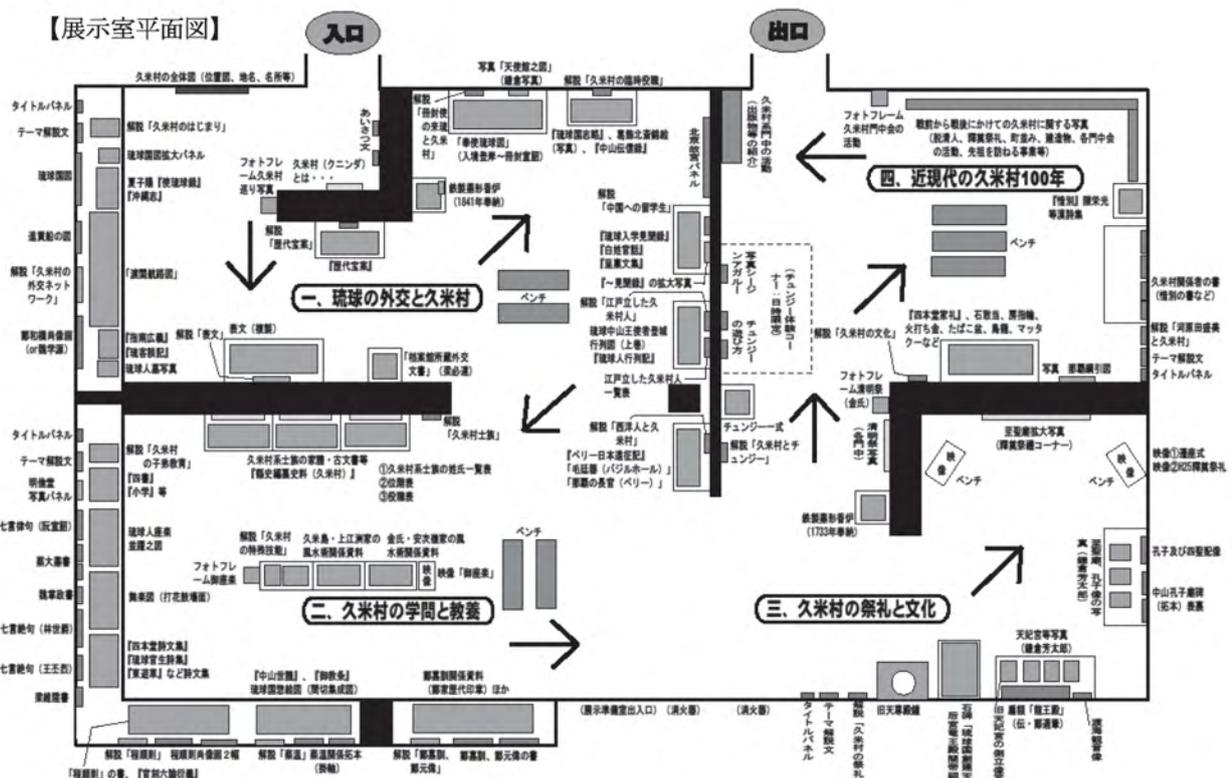
2014年9月28日(日)、10月12日(日)、10月18日(土) 11:00～12:00

参加者：延べ204名

※展示期間中の9月28日(日) 17時45分から至聖廟で釋奠祭禮が行われた。

※毎週火・木・土・日曜日10:00～12:00と14:00～16:00に、展示室内において久米同進会与博物館ボランティアによるチュンジー体験コーナーの設置を行った。

【展示室平面図】



(崎原 恭子)

6. 企画展 「大嶺薫コレクションーアジアへの眼差し」

会 期：2014年9月19日（金）～10月19日（日）

会 場：博物館特別展示室2

観 覧 料：※博物館常設展料金に同じ

【開催主旨】

大嶺薫コレクションは、故大嶺薫（1905～1970）が戦前・戦後をとおして収集したものです。氏の没後、その意志をひきついで遺族によって、1971（昭和46）年、大嶺薫美術館が設立され、沖縄の美術工芸や文化の振興に貢献してきました。1985（昭和60）年3月、同美術館の閉館にともない、収蔵資料3,550点の美術工芸のコレクションが当時の沖縄県立博物館へ寄贈されました。

戦後、沖縄の多くの文化遺産が消失あるいは海外へ散逸しましたが、大嶺薫はこれら文化財の流出を憂慮し、収集の努めたことは高く評価されるものです。

本展は、大嶺の業績を顕彰するとともに、毎年1回開催するもので、本年度は、「アジアへの眼差し」をサブテーマに、大嶺が見つめた、沖縄、日本、中国や南方諸国の美術工芸（絵画、書跡、陶磁器、漆器、彫刻）、歴史（古文書、古銭、装身具など）、考古、民俗（民族）（仏具、仮面、装身具）の各分野の資料を紹介しました。



【展示資料】 70件 332点

- 絵 画：四季花之図、手籠盛花図、鴨之図、鹿之図、白澤之図、三国志高傑図
- 書 跡：尚育「朝美老翁静観亭録贈」、全魁の書、鄭嘉訓「海不揚波、徳富蘇峰「日々是好日」、于右任「七言絶句」、硯、矢立
- 陶磁器：白釉家紋入嘉瓶、飴釉飛かんな渡名喜瓶、シャム南蛮、青磁壺、古我知焼銭壺、狛犬青磁香炉
- 漆 器：朱漆宝尽くし山水箔絵八角三段重、黒漆菊蒔絵小硯箱、黒漆牛童子蒔絵印籠他
- 彫 刻：ラクダ像、親子亀、打太鼓童子、女人座像、広目天・持国天
- 玉 類：白玉鎮圭、青玉蚕圭、青玉玉取獅子蟠龍四神璧、白紅黒玉螭龍璧、青玉璋、黄玉大磬、緑玉磬、白玉磬、白玉磬、白玉浮彫石版、緑白玉器、白緑玉管玉、緑玉管玉、石製動物彫刻、白褐玉狸彫刻、瑪瑙魚彫刻、戈形玉
- 貨 幣：明刀銭2点、長身方足布、方肩方足布、尖足布、崇寧重宝3点、崇寧通宝1点、三鏹、開元通宝、五銖2点、古銭125点
- 民 俗：頭飾（台湾：パイワン族）3点、小袋（台湾：パイワン族）3点、褌（台湾：パイワン族）2点、首玉（台湾：アミ族）、連杯（台湾：ルカイ族か）、蕃刀（台湾：アミ族か）
- 考 古：石鏹91点、銅鏹18点、鉄鏹21点

（與那嶺 一子）

8. 企画展 「イノシシとブタと私たち」

会 期：2015年2月3日（火）～3月15日（日）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 企画展示室

観 覧 料：大人300円（240円）、中学・高校生200円（160円）、小学生100円（80円）

※（ ）は、前売り及び20名以上の団体料金

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

協 力：沖縄県立埋蔵文化財センター、浦添市教育委員会、宮古島市教育委員会、宜野湾市立博物館、公益財団法人沖縄県畜産振興公社

【開催趣旨】

イノシシとブタは、古来より私たち人間と深い関わりを持った動物である。先史時代には、イノシシは重要な狩猟動物であり、地中海の島では旧石器時代からヒトがイノシシを運搬していたことが知られている。沖縄

でも港川フィッシャー遺跡から多量のイノシシ骨が出土している。近年の調査では、南城市サキタリ洞遺跡において更新世末にヒトがイノシシを狩猟していた可能性を示唆する証拠が得られており、宮古や八重山でも完新世初頭のイノシシ利用の証拠がそろいつつある。縄文時代前期には、野国貝塚や武芸洞遺跡など、イノシシ骨を多量に産する遺跡があり、この時期の人々にとってイノシシが重要な資源であったことを物語っている。グスク時代に入ると、イノシシだけでなく、家畜動物としてのブタが導入される。ブタは世界中で重要な家畜のひとつであり、沖縄でも現代まで重要な食資源として幅広く利用されてきた。

本企画展では、私たちの生活に欠かせない動物として、イノシシとブタの動物としての特徴から生活における利用の時代的な変化を中心に、考古遺跡出土遺物や民具などの展示や、最新の研究成果を踏まえながら紹介する。

【展示内容】

- | | | | |
|-----|---------------------------|-----|-------------------|
| 1 | イノシシと仲間たち | 3 | 近ごろのイノシシと私たち |
| 1-1 | イノシシってどんな動物？ | 3-1 | イノシシの狩猟具 |
| 1-2 | リュウキュウイノシシ | 3-2 | イノシシと農作物被害 |
| 1-3 | 世界のイノシシの仲間たち | 3-3 | イノシシの飼育 |
| 1-4 | 家畜と飼育 | 3-4 | イノシシの歯周病？ |
| 2 | 先史時代のイノシシ | 4 | ブタと私たち |
| 2-1 | 更新世のイノシシ | 4-1 | ブタの飼育頭数日本一 |
| 2-2 | 最近の発見（更新世末から完新世初頭のイノシシ利用） | 4-2 | ブタ品種 |
| 2-3 | 縄文時代のイノシシ利用（武芸洞、野国貝塚） | 4-3 | 民具にみるブタと私たち |
| 2-4 | 縄文時代のイノシシ狩猟具 | 4-4 | 新開発！豚肉パズル（体験コーナー） |
| 2-5 | ブタはいつから沖縄にいるか | 4-5 | ブタ解剖パズル |
| 2-6 | グスク時代に持ち込まれた動物たち | | |

【関連催事】

(1) 博物館文化講座「遺跡出土遺物にみるイノシシ・ブタとヒトの関わり」

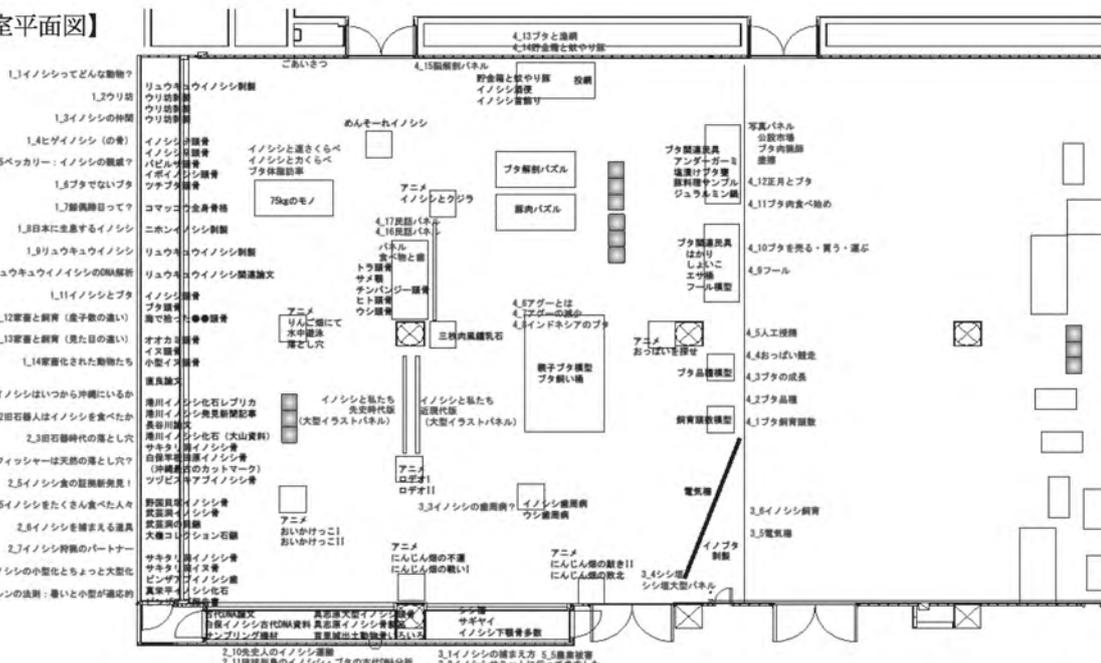
講師：菅原広史（浦添市教育委員会）

開催日：2015年2月21日（土）14:00～16:00

(2) 担当学芸員による展示解説会

開催日：2015年2月14日（土）11:00～12:00、14:00～15:00

【展示室平面図】



(藤田 祐樹)

Ⅲ. 教育普及活動

1. 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中軸施設であることも求められている。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的をもって来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度も多くの教育普及活動を実施してきた。

博物館の教育普及活動では、学校の計画する授業・行事等で博物館を利用する際に支援する学校連携事業、博物館が企画運営する文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等、大きく2つの事業に分け推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入の充実した態勢を図るため、ボランティア員を活用した学校団体に対する支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきた。また、「出前授業等」実施要項を作成し、学芸員と教師が連携した授業を実施することができた。文化講座及び展示会関連講座は「琉球の染織物再考・そしてこれから」を皮切りに総数12回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができた。その他にも、体験学習教室では「海に沈んだ先史人の足跡を探せ！」をはじめとする2種の体験学習教室の開催や学芸員講座と常設展示解説会12回、バックヤードツアー12回、夏休み企画として「博物館学芸員教室」全10教室開催した。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が企画立案し事業の実施（運営）を指定管理者が行うことになっている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例（週1回）の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

参加者：2014年度における教育普及事業への参加総数：10,868名（自由見学の学校団体は含まない）

（金城 久枝）

県内学校団体の博物館来館目的（教科内容・自由学習など） ※重複あり

項目	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	合計
下見(学習プログラム作成打合せ)	37	0	0	0	0	37
民具体験(小学校3年社会科)	37	0	0	0	0	37
教科(社会科、理科など)	34	1	4	1	0	40
領域(道徳、特活、総学の時間)	8	4	5	0	0	17
民俗ガイド(小規模校対応)	9	1	0	1	0	11
総合展示部門解説ガイド	0	0	2	2	0	4
修学旅行など	45	0	0	1	0	46
博物館活用学習(自由見学)	13	6	11	6	6	42
その他	12	3	3	7	0	25
合計	195	15	25	18	6	259

2. 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援で、館から提供できる支援内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮し、学校と博物館が連携していく学習プログラムを実施した。二つめは、『出前授業等』実施要項の作成及び、『博物館教育普及活動』『博物館学校団体利用マニュアル』を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布した。

【学校団体受入れ】

毎年9月頃から2月にかけて、県内の小学校から民具体験学習のために3年生が数多く来館する。この民具体験学習では、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来る。学校側との打合せとして、約2時間の下見を実施している。学校と博物館が互いに協力した学習支援体制がスムーズに行えるよう取り組んだ。教師が主体性を持ち、博物館を活用した授業展開の在り方が構築されたと考える。今年度は、37校が学習プログラムを活用した。

【出前授業等】

博物館のもつ資源（もの、情報）を学校教育の場で有効に活用することを趣旨とし、昨年度から出前授業等を実施している。今年度は、小学校4校5件小中学校1校・高等学校3校での授業及び小中学校校内研修で出

前授業等を実施した。今年度の総受講者数は823名であった。



高等学校での授業



小学校での授業



校内研修の様子

(金城 久枝)

3. 博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。今年度の総参加者数は、48名であった。



解剖の様子（オオヒキガエル）



骨格標本づくり



常設展示室にて骨格標本を展示



特別展展示解説



真栄田岬の石切場見学



土器探しの様子

(金城 久枝)

4. 博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。今年度の総受講者数は、1,538名であった。

(金城 久枝)

【文化講座一覧】

回	期日	演題 講師名	場所	参加者
443	2014. 4. 19(土) 14:00~16:00	「琉球の染織物再考・そしてこれから」 【講師】 宮城奈々（琉球の織物研究会代表） 平田美奈子（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）	講堂	150
宮城奈々氏は、琉球王国時代の織物の透明感、光沢、質感、柔らかさについて、マイクロスコープを活用し見えてきた素材（糸）の役割を紹介した。縦糸横糸を別素材にすることで立体感や光沢が出てくことや琉球王国時代の織物よ、絹を際立たせるための工夫がされているなど解説が行われた。平田美奈子氏は、紅型の型紙をつくる技法の中から糸掛けについて紹介した。戦前に鎌倉芳太郎によって収集された約2000点の型紙の調査等から糸掛け、紗張りの特徴など古い型紙から製作過程がわかることなどが解説された。				

444	2014. 5. 17(土) 14:00~16:00	「明らかになる沖縄の大地震・大津波～これまでとこれから～」 【講師】 中村衛 (琉球大学理学部准教授)	講堂	204
<p>沖縄付近のプレート運動や過去の地震活動が紹介され、100年に1回の割合で大地震が起きていたことが解説された。また、現在日本で起こっている地震の16%が沖縄県で起きているとのデータ説明や今後30年間に震度6以上の揺れにあう可能性が九州より高いという解説がされた。地震による津波被害も解説され、防災について、我が家の対策、地域の対策、地形や建築物等、講座を通しこれからの防災について様々な視点で考える重要さを痛感した。</p>				
445	2014. 6. 15(土) 14:00~16:00	「戦後69年目に考える沖縄戦—沖縄戦住民記録・日本軍史料から何が分かるか—」 【講師】 吉浜忍 (沖縄国際大学総合文化学部教授)	講堂	155
<p>沖縄戦に関する県史、市町村史、日本軍史料を紐解き、新たな視点から、沖縄戦について解説がされた。県史では、住民からの聞き取り（証言）、アメリカ側からの視点について、市町村史では、戦争とマラリア、島々の戦争体験、海軍とのからみ、陸軍特攻についての記録、追いつめられた人々の証言、米軍上陸までの様子を記録、収容所の担当官の記録など紹介された。これらから、沖縄戦を継承していく取組が市町村単位で行われている様子がうかがえた。</p>				
446	2014. 7. 19(土) 14:00~16:00	「ウシオーラセーはおもしろい！—闘牛の魅力と人々の思い—」 【講師】 宮城邦治 (沖縄国際大学総合文化学部教授)	講堂	84
<p>闘牛の魅力について、闘牛を描いた文学作品の紹介や沖縄における闘牛の歴史について解説が行われた。沖縄では、明治の初め頃あたりから闘牛が行われるようになり、サトウキビ収穫後に集落対抗戦などが頻繁に行われていた。昭和10年の新聞には、「闘牛に熱中し働かぬ農村」という記事が掲載され、翌年闘牛は廃止されたなど、人々の娯楽として闘牛がかなり盛んだったことが解説された。戦後、闘牛は復活し、なかでも41連勝した「ゆかり号」は、絶大な人気があり、闘牛好きが高じて当時子どもの名前にゆかりと付けた話に会場は笑いに包まれた。</p>				
447	2014. 8. 16(土) 14:00~16:00	「円覚寺の仏さまたち」 【講師】 長谷洋一 (関西大学文学部教授)	講堂	125
<p>旧円覚寺木彫資料である白象座、釈迦如来坐像、文殊菩薩坐像、獅子座など、琉球の仏教文化の受容形態や美術史を解明する上で重要な資料について解説がされた。また、鎌倉芳太郎写真集に残る写真から戦禍で失われた部分の解明につながるなどが紹介された。仏像の内部構造から製作年代がわかることや、同寺には日本と中国伝承の仏像が混在しているなど解説がされた。</p>				
448	2014. 9. 20(土) 14:00~16:00	「久米村人の家譜を読もう！」 【講師】 田名真之 (沖縄国際大学総合文化学部教授)	講堂	231
<p>家譜とは、社会の支配層に属する人々の系譜を中心とした記録で、琉球では、1689年に王府が家臣団に対し、家譜の編集・提出を命じたことによって制度化された。系図は公文書とされ、正副2部を作成し、首里城内の系図座に提出され点検後首里の印が押された。宮古、八重山では、1729年から家譜編集が認められたが、首里の押印はない。久米村家譜の書式の特徴として、中国族譜に近く首里などと異なることや久米村諸氏の家譜には、海外渡航記事などが記され、琉球王国時代を知る貴重な史料となっているなど解説がされた。</p>				
449	2014. 10. 13(土) 14:00~16:00	「書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓～」 【講師】 幸喜洋人 (書家)	講堂	86
<p>鄭嘉訓は、19世紀初期の沖縄の代表的な書家で久米村に生まれ後に古波蔵親方の名で呼ばれる。講座では、当館収蔵の鄭嘉訓の書跡などを紹介するとともに、楷書及び行書・草書の面で鄭嘉訓の書法に影響を与えたとされる書跡との文字字形の比較検討が行われた。鄭嘉訓の楷書には、顔真卿特有の顔法「蚕頭燕尾」が顕著に見られる。筆法の特徴を提示しながら行われた。鄭嘉訓は幕末の三筆以上の実力、教養を兼ね備えていたと考えられているが、それを実証する書跡資料が残っていない。鄭嘉訓について、今後の研究が待たれる。</p>				
450	2014. 11. 15(土) 14:00~16:00	「世界の海事・水中考古学から学ぶ」 【講師】 ランディー・佐々木 (福岡市教育委員会)	講堂	83
<p>水中(海事)考古学とは、「もの」から学ぶ考古学と基本は同じで、実は水中と陸の区別はない。水中考古学は、ジョージ・パス博士による紀元前1200年の沈没船ケープ・グラドニア発掘が始まりで、発掘から文献資料になかった貿易のメカニズムなどが解明された。また、各国で行われた調査事例の紹介や世界的な取組として、開発前の調査やデータベースでの管理について解説がされた。国内には、500カ所以上の水中遺跡があるが、殆どは、一般の人によって発見されている。講座後半は、日本がユネスコ水中考古学文化遺産保護条約に批准しない理由などが解説された。</p>				
451	2014. 12. 20(土) 14:00~16:00	「海の文化遺産～水中考古学の魅力～」 【講師】 野上建紀 (長崎大学准教授) 林原利明 (アジア水中考古学研究所理事・玉川文化財研究所) 藤島一巳 (元江差町教育委員会学芸員) 吉崎伸 (水中考古学研究所所長)	講堂	116
<p>野上氏は、長崎県小値賀島前方湾海底遺跡と海底遺跡見学会と題し、遺跡から見えてくると海との接点や交易について解説を行った。海底遺跡の公開事例として、イタリア・バイア海底遺跡が紹介された。国内で開催された海底遺跡見学会は、動画を用いて解説がなされた。林原氏は、熱海初島沖海底遺跡について解説を行った。沈没船から三葉葵文が描かれた瓦が発見され、江戸城修理瓦の可能性が高いことが分かってきた。現状を保った積荷から当時の海運の実態を知ることができる。藤島氏は、開陽丸発掘調査について解説を行った。開陽丸は、江戸幕府がオランダに作らせた当時最大級の軍艦であった。講話では、開陽丸の歴史、発掘の経緯、保存処理の難しさが解説された。吉崎氏は、水中の戦争遺跡と題し、沖縄県古宇利島沖のアメリカ軍艦エモンズを取り上げ、水中の戦争遺跡の意義や問題点について解説を行った。</p>				

452	2015. 1. 17(土) 14:00～16:00	「クニマスと人の共存—過去、現在、未来—」 【講師】 中坊徹次 (京都大学総合博物館教授)	講堂	54
クニマスとは、秋田県田沢湖にしか生息していなかったサケの仲間、かつて田沢湖では、クニマス漁が盛んに行われていた。1940年代に、クニマスは絶滅したと考えられていたが、2010年山梨県西湖で生存が確認された。講座では、クニマス発見までの経緯、保護するために何が重要なのかについて、貴重な画像を提示しながら解説がなされた。				
453	2015. 2. 21(土) 14:00～16:00	「遺跡から出土する動物骨から読みとく イノシシとブタと私たちの歴史」 【講師】 菅原広史 (浦添市教育委員会)	講堂	85
遺跡から出土する動物骨から先史時代動物資源として食されていたイノシシと、グスク時代から登場するブタについて、歴史の中でどのように人と関わりがあったのか解説された。動物骨研究から、グスク時代には、色々な家畜が入ってきたことや三山で食性に違いがあったことなどが明らかになっている。浦添市前田・経塚の近世墓群の1割にブタの頭骨埋葬が見られるが、多様な埋葬形態のため何のために埋葬されたのかなど、興味が尽きない講座であった。				
454	2015. 3. 7(土) 14:00～17:00	シンポジウム「沖縄先史文化の起源を探る」 【講師】 安斎正人 (東北芸術工科大学) 横尾昌樹 (うるま市教育委員会) 宮城弘樹 (名護市教育委員会) 山崎真治 (沖縄県立博物館・美術館)	講堂	165
安斎氏による基調講演では、過去の気候変動が人類に及ぼした影響と、日本の旧石器縄文文化の成り立ちと変遷に気候変動がどのように作用したのか解説がされた。石器の形状から集団の移動や新たな集団の形成を読み取ることができると説明がされた。報告では、山崎学芸員による、サキタリ洞遺跡の発掘調査報告があり、沖縄には、島嶼環境に適応した個性的な貝器文化が形成されていたのではないかと解説がなされた。また、横尾氏からは、沖縄先史文化と九州縄文文化の交流について、沖縄における土器編年、型式の分布など解説が行われた。				



データを解説する講師
『明らかになる沖縄の大地震・
大津波～これまでとこれから～』



会場いっぱいのお参観者
『久米村人の家譜を読もう!』



書の実演と解説
『書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓』

5. 学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。総受講者数は、897名だった。

(金城 久枝)

【学芸員講座一覧】

	日程	分野	講師名	演題内容	定員	参加者
1	2014. 4. 12(土) 14:00～16:00	人類	藤田祐樹	「港川人と沖縄の旧石器時代遺跡」 宮古島白保竿根洞原洞穴遺跡出土の人骨から採取されたタンパク質、コラーゲン、DNAの解析が進められ白人復元が待たれていることや、サキタリ洞遺跡調査からわかってきた港川人のルーツとその時代背景について解説が行われた。	80	110
2	2014. 5. 3(土) 14:00～16:00	美術工芸	園原 謙	「『三線のチカラ展』雑感-観覧者の質疑に答える-」 今回は、15年ぶりの三線展開催ということで、長期にわたり借用出来た貴重な三線の展示でもあった。三線のチカラ展では、①県指定の三線が15年ぶりに一堂に会したこと②8挺の三線をハワイより借用してきたこと③5開鐘+江戸与那の音色再現を実施したこと④ティーワジャコンテストで初めて三線の形と音の審査が行われたことなど解説がされた。	200	63

3	2014. 6. 7(土) 14:00~16:00	美術工芸	與那嶺一子	<p>「貢納布のはなし〜貢納布のゆくえ〜」</p> <p>琉球王国時代には、宮古、八重山、久米島では布が税の代わりに徴収されていた。これらは貢納布（御用布・上納布・定納布）と呼ばれた。納められた貢納布のゆくえとして浮世絵調査など文献資料を紐解きながら解説が行われた。</p>	80	117
4	2014. 7. 12(土) 14:00~16:00	考古	片桐千亜紀	<p>「水中文化遺産―海に沈んだ歴史のカケラー ネタバラ話し！」</p> <p>11月から開催する特別展関連の講座が行われた。「水中文化遺産保護条約」では、水底で100年経ったモノを水中文化遺産としている。特別展では、琉球列島で海と伴に生きた人類の歴史と文化を、水中文化遺産をおとして広く周知・啓発することを目的としている。海と人々の関わりの新たな認識と沖縄県の独自性を理解する一助になればとの思いが話された。</p>	80	43
5	2014. 8. 2(土) 10:00~12:00	教育普及	金城久枝	<p>「学芸員のお仕事？&バックヤード探検！！」</p> <p>通常は、関係者以外への入室を制限しているバックヤードの探検と学芸員の仕事について、子どもを対象に講座が行われた。なかなか知られていない学芸員の仕事内容や、迷路みたいなバックヤード探検に参加した子どもたちは、興味深かった。まとめとして、各自アイディアを凝らしポスターでの報告書作成を行った。</p>	15	15
6	2014. 9. 6(土) 14:00~16:00	人類	山崎真治	<p>「沖縄の先史人と貝」</p> <p>沖縄の遺跡から発掘された貝を通して、古代の人々の暮らしについて解説が行われた。昨年、サキタリ洞では、沖縄の先史時代の空白をうめる発見として約40点の貝の道具（貝器）が出土した。旧石器時代の貝器の発見は、国内では初めてのことであった。本土には石の文化、沖縄には貝の文化があったのではないかとこの解説に参観者は興味深く聞き入っていた。</p>	80	67
7	2014. 10. 4(土) 14:00~16:00	歴史	崎原恭子	<p>「久米村歴史散歩〜博物館企画展「久米村」をもっと楽しむ！3つのポイント〜」</p> <p>久米村（クニダ）は、中国からの渡来人を中心としたコミュニティで、久米村の人々が琉球王国の外交や文化へ貢献した功績は大きい。今回の企画展参観のポイントとして、琉球国図、琉球国惣絵図（間切集成図）、久米村マップなど地図を参照しながら久米村の変遷や主な場所等が紹介された。</p>	200	132
8	2013. 11. 8(土) 14:00~16:00	生物	山崎仁也	<p>「学校の先生のための博物館・生き物講座」</p> <p>博学連携について、生物分野としての取組が紹介された。沖縄の自然の魅力に気づかせるきっかけとして、身近にある博物館活用の意義が説明された。常設展示室、バックヤードの見学を通し、博物館にあるモノを授業に活用する場面のシミュレーションができたのではないかと。講座後半は、6グループに分かれ、博学連携へのアイディアや意見が交わされた。</p>	80	32
9	2014. 12. 6(土) 10:00~13:00	考古	片桐千亜紀	<p>「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」</p> <p>琉球列島では、水中文化遺産の分布調査が継続的に行われ、多種多様な水中文化遺産の存在が明らかになっている。講座では、国頭村宜名真沖で発見された沈没船に関する、陸上、海底での調査経緯、これらをつなげた中国、イギリス沖繩に関する文献調査の経緯について解説がされた。3氏による詳細な調査から様々な史実がわかってきた。</p>	80	103
10	2015. 1. 10(土) 14:00~16:00	地学	仲里 健	<p>「嘉津宇岳ジオツアー」</p> <p>ジオツアーでは、登頂前にカルスト地形を形成する古期石灰岩と琉球石灰岩についての解説が行われた。頂上では、本部半島から辺戸岬を結ぶ「仏像構造線」と呼ばれる構造線が関東地方まで伸びていることや、サンゴ礁の隆起から地殻隆起量、海面変動の歴史を知ることができるなど、自然景観の仕組みや成り立ちを知ることができた。</p>	15	15
11	2015. 2. 7(土) 14:00~16:00	歴史	石垣 忍	<p>「初心者のための琉球・沖縄史」</p> <p>常設展示室の展示物を紹介しながら琉球・沖縄史を広く浅く学ぶ内容で講座が進められた。初心者のための琉球・沖縄史ということで、レジュメにも年表があるなどとても分かりやすい工夫がされていた。解説では、白保やサキタリでの発掘内容、9月に貨幣が発掘された首里城の発掘に関する内容を盛り込むなど、歴史のつながりを感じさせる講座であった。</p>	80	100

12	2014. 3. 14(土) 14:00~16:00	民俗	大湾ゆかり	<p>「沖縄の葬墓制について考えてみよう！」</p> <p>宗教や地域の風土等によって世界で様々な葬法がある。沖縄では、先史時代には土葬と風葬がみられたが、近世になると風葬が主となり、一部の地域では、風葬が戦後まで続いていたことが解説された。また、祖先とのつながりを大切にする沖縄の葬送、墓について地域毎に違いがあることなどが解説され、参観者は興味深く聞き入っていた。</p>	80	100
----	-------------------------------	----	-------	--	----	-----



最古の三線について解説
『「三線のチカラ展」雑感
—観覧者の質疑に応える—』



常設展示室での解説
『沖縄の先史人と貝』



嘉津宇岳頂上
『嘉津宇岳ジオツアー』

6. 展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約30%を占め、その他年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回252名（定員なし、平均参加人数21名）の参加を集めた。

企画展における展示解説会では、全7回226名（定員なし、平均参加人数32名）の参加者があった。久米崇聖会創立100周年記念「久米村（クニダ）—琉球と中国の架け橋—」では全5回204名（定員なし、平均参加人数40名）が参加し、久米村の子孫をはじめ多くの参加者へ向けて展示資料を丁寧に見ながら久米村の歴史・文化について解説した。また、「イノシシとブタと私たち」では、全2回22名（定員なし、平均参加人数11名）が参加し、イノシシとブタの生態や遺物を読み解きながら沖縄に生きる人と関わりについて解説した。

（大濱 萌子）

	日程	分野	講師名	参加者
1	4月10日（木）	人類	藤田祐樹	10
2	5月8日（木）	人類	山崎真治	17
3	6月12日（木）	生物	山崎仁也	13
4	7月10日（木）	美術工芸	與那嶺一子	30
5	8月14日（木）	美術工芸	園原謙	18
6	9月11日（木）	地学	仲里健	17
7	10月9日（木）	考古	片桐千亜紀	10
8	11月13日（木）	歴史	石垣忍	28
9	12月11日（木）	民俗	大湾ゆかり	27
10	1月8日（木）	歴史	安里進	42
11	2月12日（木）	歴史	上地聡	21
12	3月12日（木）	歴史	崎原恭子	19
合計人数				252

7. バックヤードツアー

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM（Integrated Pest Management：総合的病害虫管理）の取り組み、資料の

修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行者を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回101名（定員12名、平均参加人数8名）の参加があった。

（大濱 萌子）

8. 夏休み！博物館学芸員教室

夏休み！博物館学芸員教室は、学芸員が夏休みの課題に取り組む子供たちに向けて、沖縄の自然・歴史・文化に関する自由研究のテーマを提供する場である。10名の学芸員がそれぞれ90分の教室を開講。1日2～3教室、全10回で159名の参加があった。

（金城 久枝）



	日程	タイトル	担当学芸員	定員	参加者数
1	7/29 (火)	貝器づくりに挑戦	山崎 真治	10	10人
2		板絵を描いてみよう	園原 謙	20	20人
3	7/30 (水)	動物の歯と食べ物の関係を研究せよ	藤田 祐樹	20	19人
4		砂の中から宝を探せ	仲里 健	20	21人
5		顕微鏡でのぞく、不思議ワールド	山崎 仁也	20	20人
6	8/1 (木)	神が宿る石「勾玉」を削りだそう！	片桐 千亜紀	20	22人
7		印じゃなーい？	石垣 忍	10	10人
8	8/2 (金)	オリジナルの家系図をつくろう	崎原 恭子	親子10組	8人
9		民具手帳をつくろう	大湾 ゆかり	20	17人
10		糸を作ってみよう！	與那嶺 一子	10	12人

9. 博物館ボランティア活動

当館では、県民の自己啓発や学習を発表する場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

2014年度は、第6期博物館ボランティア及びふれあい体験室専属ボランティアを募集し、それぞれの養成講座を5月から10月にかけておこなった。博物館ボランティアは、養成講座・専門講座を修了した16名、ふれあい体験室専属ボランティアは6名の登録ができた。また、総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座を9月から12月にかけておこない13名の登録ができた。本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約1,706人だった。

（金城 久枝）

10. ふれあい体験室

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている「おきなわ」との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、42,781人（1日平均142人）。県内外より展覧会に訪れる、個人・団体

の来館者をはじめ、幼児から小学生の家族連れや友達同士で訪れるリピーターも定着している。常設の体験キット27件は、人々の交流の中で子ども達の成長に合わせて活用され、ふれあい体験室は小さな子どもから楽しめる博物館の「学びの場」となっている。夏休み期間中は、博物館ミニ企画展「昆虫ワールド」(7/23～8/24)との相乗効果もあり、ふれあい体験室は1年間で一番の賑わいとなった。9月には、琉球王国時代の交易の様子をスゴロクで学ぶ、体験キット「No.27 国々とのおつきあい～万国津梁ゲーム～」に新たなシリーズ「古琉球編」が登場し、人気を集めている。

毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ」(文化の杜共同企業体主催)は、平成22年度から10種類のプログラムを実施してきた。体験キットの学びを深める機会として、子どもから大人まで幅広い世代が参加し、新たなプログラムを楽しむにす参加者も多い。ワークショップの充実は、飽きさせない環境づくりや、来館を促すきっかけへと繋がっている。

(渡部 貴子)

11. 企画展関連事業

①久米崇聖会創立100周年記念「久米村(クニンダ)ー琉球と中国の架け橋ー」

教育普及では、展覧会関連催事として、文化講座2回、学芸員講座1回、展示解説会4回を実施した。関連催事には、上記以外にも様々な催し物があり大盛況であった。しかし、大盛況であっただけに定員を上回り、やむを得ず参加できなかった来場者をはじめとする多くの方が、当日の配布資料を求める問合せがあった。更には、台風の影響により中止となった催事もあった。そこで、教育普及では展覧会関連催事の配布資料を1冊にまとめた資料集を作成した。これは、関係者へ配布すると同時に、来場者が気軽に閲覧できるよう、情報センターに設置した。

②「水中文化遺産展-海に沈んだ歴史のカケラ-

関連催事として、文化講座2回、学芸員講座2回、体験教室1回を実施した。

③「イノシシとブタと私たち」

関連催事として、文化講座1回、展示解説会2回を実施した。

(大濱 萌子)

12. 常設展に関する取り組み

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな!」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、日本語版7,000枚、英語版800枚を配布した。また、撮影許可範囲の変更に伴い、撮影に関する案内と順路を追加し、日本語版15,000枚、英語版1,000枚を増刷した。

(渡部 貴子)

13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成し、HPに掲載して、小・中学校へダウンロードと印刷・作成を呼びかけている。「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印する(サンプル:博物館・美術館作成)。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品(オリジナルクリアファイルと消しゴムなど)をプレゼントする。今年度対象者は、0名。

(大濱 萌子)

14. 普及資料の貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等である。事前(一ヶ月前)に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間である。2014年度の貸出団体数は7件であった。

(金城 久枝)

2014年度 貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	大平特別支援学校	むかしむん	沖縄県立博物館・美術館の出前授業に向けて(鑑賞授業)	8月29日～9月5日
2	当山小学校	むかしむん	社会科授業のための体験活動	1月20日～1月28日
3	前田小学校	むかしむん	古い道具と今の道具の違いとくらしの変化から、よりよいくらしを願う人々の努力と工夫を知る。	1月30日～2月6日
4	那覇市立仲井真小学校	洗濯ゴシゴシ	社会科授業にて昔の洗濯を体験するため	2月18日～2月24日
5	那覇市立松川小学校	むかしむん	社会科授業にて昔の洗濯を体験するため	2月26日～3月4日
6	琉球大学 教育学部附属小学校	シンメナービ	社会科授業にて黒糖づくりを行うため	3月10日～3月19日
7	沖縄県広報交流課	1. 紅型のスディナ 2. 絹赤地格子子供着 3. 絹桃色地絆着物 (大人用)	着物の試着をとおして、米国人に沖縄をアピールする。	3月13日～3月31日

15. 共催事業

おきなわサンゴ礁ウィーク2015

OIST沖縄科学技術大学院大学×沖縄県立博物館・美術館

サイエンス・トリップin那覇2015「サンゴのキモチ」

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会ならびに環境省、沖縄県環境生活部自然保護課が呼びかける「おきなわサンゴ礁ウィーク2015」に呼応して、沖縄科学技術大学院大学（OIST）と当館が共催し、3月5日「サンゴの日」を前に「サンゴのキモチ」になって考える科学トーク&科学体験プログラムを開催した。

午前中の小4～中学生向けプログラムでは、サンゴと人間の似ている「模様」を探り、私たちの細胞とサンゴのキクメイシの仲間に共通点があることを発見した。「互いが近い生物である。」という、ロバート・シンクレア准教授（OIST数理生物学ユニット）の話に、参加者は驚いた様子で耳を傾けた。後半はエントランスホールに出て、山崎仁也学芸員（当館生物担当）による、○×クイズや体を動かすネイチャーゲームを通し、サンゴと助け合って共存する、共生生物と天敵との関わりを学んだ。午後の大人向けプログラムでは、新里宙也博士（OISTマリンゲノミクスユニット）が携わる、世界で初めてゲノム解析に成功した、サンゴ研究の最前線について科学トークをし、その後、会場を当館3階の「ミュージアムカフェ茶花」に移して、サイエンス・カフェを開いた。コーヒーや紅茶を飲みながら、和やかな雰囲気の中、参加者からは、第一線で活躍する科学者へ向けて、質問が活発に挙げられた。サンゴが私たちの身近な存在として、感じられる機会となった。

実施日：3月1日（日）

受付：当日先着順

参加費：無料

（1）小4～中3向けプログラム

「私たちにもサンゴにもある“模様”を学ぼう」／「サンゴの卵になってみよう！」

講師：ロバート・シンクレア准教授（OIST数理生物学ユニット）

山崎仁也（当館生物担当学芸員）

時間：10:00～12:00

場所：博物館講座室／1階エントランスホール

参加者数：22人（定員80人）

（2）高校生～大人向けプログラム

①「サンゴ研究最前線」／「幾何学：サンゴや海綿生物は、人類より先に知っていた！」

講師：新里宙也博士（OISTマリンゲノミクスユニット）

ロバート・シンクレア准教授（OIST数理生物学ユニット）

時間：13:00～14:00

場 所：博物館講座室
 参加者数：49人（定員80人）

②「サイエンス・カフェ」

講 師：ロバート・シンクレア准教授（OIST数理生物学ユニット）
 新里宙也博士（OISTマリンゲノミクスユニット）
 山崎仁也（当館生物担当学芸員）

時 間：14:10～15:00

場 所：ミュージアムカフェ茶花

参加者数：27人（定員30人）

（渡部 貴子）

IV. 資料の収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

2015年3月31日現在

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地学	612	26,497	3,048	1	30,158	55,970
	動物	1,518	18,693	539	141	20,891	
	植物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類資料		93	19	6	0	118	118
美術工芸	絵画	97	575	2	4	678	10,364
	書跡	180	494	49	6	729	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,398	465	538	4,832	
	漆器	231	269	195	19	714	
	染織	1,289	1,732	51	27	3,099	
	その他	13	35	0	0	48	
歴史資料		2,877	8,381	546	455	12,259	12,259
考古資料		301	3,550	2,821	0	6,672	6,672
民俗資料		629	4,396	1,107	137	6,269	6,269
総 計		8,482	72,870	8,965	1,335	91,652	91,652

2. 2014（平成26）年度新収蔵資料高

2014年4月1日～2015年3月31日現在

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地学	0	0	0	0	0	10
	動物	0	5	5	0	10	
	植物	0	0	0	0	0	
	菌類	0	0	0	0	0	
人類資料		0	0	0	0	0	0
美術工芸	絵画	0	2	0	0	2	38
	書跡	0	0	0	0	0	
	彫刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	0	0	0	0	
	漆器	0	3	0	0	3	
	染織	0	3	0	0	3	
	その他	0	30	0	0	30	
歴史資料		0	162	22	0	184	184
考古資料		0	1	0	0	1	1
民俗資料		0	41	0	0	41	41
総 計		0	247	27	0	274	274

3. 2014（平成26）年度新収蔵資料目録

【購入】

分類		資料名	数量	提供者・所在地	
自然史	生物	ニセタカサゴ本剥製	1	湘南剥製研究所	神奈川県
		シロクラベラ本剥製	1	〃	〃
		スジアラ本剥製	1	〃	〃
		ナンヨウブダイ本剥製	1	〃	〃
		ハマダイ本剥製	1	〃	〃
歴史	西洋製作のアジア地図	22	(有)榕樹書林	宜野湾市	

※自然史・生物分野は、いずれも委託制作

【寄贈】

分類		資料名	数量	提供者・所有者	
自然史	生物	シマイシガニ本剥製	1	永山千代	浦添市
		ハイタカ本剥製	1	那覇獣医科病院	那覇市
		オオグンカンドリ本剥製	1	〃	〃
		クロツラヘラサギ本剥製	1	NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄	うるま市
		クロツラヘラサギ骨格標本	1	〃	〃
歴史		馬姓家譜（瑞慶山家）	1	瑞慶山良武	沖縄市
		栢姓家譜正統（複製本）	1	中山良哲	那覇市
		栢姓家譜支流（複製本）	1	〃	〃
		栢姓家譜十九番（筆写本、複製本）	1	〃	〃
		琉球通宝	1	安次嶺津留子	那覇市
		『惜別』 丞髦社撰詩 陳栄光等漢詩集	1	富永進一	東京都
		『二十四山』（名嘉山大昌旧蔵）	1	名嘉山焯一	浦添市
		復帰前（1967年（昭和42年））の沖縄本島及び八重山の風景の35mmポジフィルム	38	山本正孝	茨城県
		顕微鏡「旭号」	1	新垣 宗堅	沖縄市
		アメリカ軍 軍刀（サーベル）	1	春子 シュアモ	那覇市
		復元守札門の試作品	3	與那嶺 勝	那覇市
		十円紙幣2枚及び五円紙幣1枚	3	金城 美代子	名護市
		千人針 腹巻き 1点 ベスト 1点	2	知念 重子	宜野湾市
	沖縄パヤリース関連商品	86	上間 長恒	南城市	
美工	絵画	紙本着色琉球三貴人図	1	米田文孝	
		油絵 奥川恭安肖像画	1	野々村孝男	
	漆芸	朱漆文庫（漆芸品）	1	兼城淳子	
		朱漆文庫（製作途中）	1	〃	
	染織	透漆芭蕉文堆錦菓子器	1	野々村孝男	
		縮緬黄色地雲鳳凰と松藤に雀竹と牡丹衣裳	1	人間国宝結ぶ御縁実行委員会	那覇市
考古		絹緑地経緯緋着物	1	安谷屋良子	那覇市
		絹茶地経緯緋着物	1	安谷屋良子	那覇市
		カムイヤキ（壺）	1	濱 富太郎	神奈川県
民俗		荒焼御殿型厨子	1	與那嶺 茂良	那覇市
		上焼ツノ型厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃
		マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃

分類	資料名	数量	提供者・所有者	分類	
民俗	マンガン掛け焼締厨子	1	與那嶺 茂良	那覇市	
	マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃	
	マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃	
	マンガン掛け焼締厨子	1	〃	〃	
	アカスムー鍋、蓋（転用厨子）	1	〃	〃	
	無釉陶器壺	1	〃	〃	
	無釉陶器壺	1	〃	〃	
	無釉陶器壺	1	〃	〃	
	施釉陶器壺（油壺の転用厨子）	1	〃	〃	
	壺屋焼碗（蓋に転用）	2	〃	〃	
	飴釉壺 銘「鐵顔和尚」	1	向井 祐子	那覇市	
	飴釉壺 銘「靈室和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「靈源和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「江南和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘なし	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「古泉和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「笑岩和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「黙叟和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「卯宗和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「開山大和尚」	1	〃	〃	
	飴釉壺 銘「蔭涼和尚」	1	〃	〃	
	素焼き中蓋	2	〃	〃	
	外蓋の破片 4片	1	〃	〃	
	衣裳箱（ケー）	1	加藤 久子	那覇市	
	アツク	1	菊池 昭子	那覇市	
	上焼御殿型厨子	1	森脇 和夫	島根県	
	マンガン釉底付厨子	1	〃	〃	
	上焼火葬用骨壺	2	〃	〃	
	洗濯板	1	辻田 忠弘	宜野湾市	
	位牌（吉川家）	1	真栄田 和子	那覇市	
安良城家資料	歴史 美工	毛姓家譜（安良城家）	1	安良城 みち代	東京都
		徴兵保険証券	1	〃	〃
		年回膳部帳	1	〃	〃
		譲渡証	1	〃	〃
		証明願（首里市長宛）	1	〃	〃
		兵役免除証（沖縄警備隊区徴兵署）	1	〃	〃
		土地所有権保存登記申請	1	〃	〃
		株式振替証（株式会社沖縄興業銀行）	1	〃	〃
		所有債券目録	1	〃	〃
		国頭郡大宜味村字謝名城国有林払い下許可証	1	〃	〃
		区会議員当選告知書	1	〃	〃
		日本勧業銀行債券割増金に関する約定書	1	〃	〃
		会員之証（銀行事務講習会）	1	〃	〃
		当選告知（首里市区議会議員）	1	〃	〃
		印鑑証明下附願	1	〃	〃
		当選告知（首里市区議会議員）	1	〃	〃
		借入金証書	1	〃	〃
		桓武天皇平安遷都千百年記念祭賛助金1円寄付 に対する礼状	1	〃	〃
		書簡（大宜味村より）	1	〃	〃
		書簡（那覇より）	1	〃	〃

分類	資料名	数量	提供者・所有者	分類
安良城 家資料	累代霊位帳	1	安良城 みち代	東京都
	吸物椀入	1	〃	〃
	食器入れ	2	〃	〃
	足付盆（大中小）	4	〃	〃
	食籠	1	〃	〃
	重箱	1	〃	〃
	黒漆椀	1	〃	〃
	黒塗盆（大）	5	〃	〃
	黒塗盆（小）	4	〃	〃
	耳盃	1	〃	〃
	酒台一式	1	〃	〃
	香炉（陶製）	1	〃	〃
	香炉（金属製）	1	〃	〃
	ブラシ状道具	1	〃	〃
	しゃもじ状道具	1	〃	〃
	箸一式	1	〃	〃
	御鉢入	1	〃	〃
	金花台（一對）	1	〃	〃
	龍蠟燭台（一對）	1	〃	〃
	衣装箱	1	〃	〃

※自然史・生物分野、排他か本剥製、オオグンカンドリ本剥製、クロツラヘラサギ本剥製、クロツラヘラサギ骨格標本は、献体として受入。

【収集】

分類	資料名	数量	提供者・所在地
歴 史	全国学力テスト躍進記念ボールペン	1	浜口 寿夫（県教育庁文化財課） 那覇市
	切手 日本の城シリーズ 初日カバー	2	郵趣サービス社（日本郵便） 東京都千代田区
	沖縄県教育庁 文化施設建設室看板	1	博物館・美術館総務班 那覇市
	97ゼンリン住宅地図 具志川市	1	沖縄県企画部統計課 那覇市
	97ゼンリン住宅地図 国頭村・大宜味村・東村	1	〃 〃
	97ゼンリン住宅地図 平良市	1	〃 〃
	98ゼンリン住宅地図 石垣市	1	〃 〃
	98ゼンリン住宅地図 嘉手納町・読谷村・恩納村	1	〃 〃
	98ゼンリン住宅地図 名護市	1	〃 〃
	98ゼンリン住宅地図 本部町・今帰仁村・伊江村	1	〃 〃
	98ゼンリン住宅地図 与那原町・佐敷町・知念村	1	〃 〃
	99ゼンリン住宅地図 沖縄市	1	〃 〃
	99年ゼンリン住宅地図 北谷町	1	〃 〃
	99年ゼンリン住宅地図 与那城町・勝連町	1	〃 〃
	00ゼンリン住宅地図 名護市	1	〃 〃
	00ゼンリン住宅地図 石垣市	1	〃 〃
	00ゼンリン住宅地図 北中城村・中城村	1	〃 〃
	00ゼンリン住宅地図 竹富町	1	〃 〃
	03ゼンリン住宅地図 那覇市西	1	〃 〃
	03ゼンリン住宅地図 那覇市東	1	〃 〃

分類	資料名	数量	提供者・所在地	分類
歴史	04ゼンリン住宅地区 那覇西	1	沖縄県企画部統計課	那覇市
	梵鐘（ふれあい之鐘）	1	那覇警察署	那覇市

4. 所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】

2015年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	〃

【県指定文化財（有形文化財）】

2015年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
絵画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57. 3. 4	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1軀1枚	昭31. 12. 14	〃
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	〃
〃	開得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭60. 6. 18	〃
〃	梵鐘（旧普門禪寺鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禪寺鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	〃
〃	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元 9. 29	〃
〃	扁額「凌雲」 林麟焔書	1面	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
古文書	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	沖縄県
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	〃
〃	評定所格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上官朝鮮鐘）	1口	昭60. 6. 18	〃
〃	安国山樹花木記碑	1基	平元 9. 29	〃

5. 修理事業

(1) 美術工芸・歴史

戦後、沖縄戦を経て収集された博物館資料は、戦禍をくぐってきた希少な資料である。とりわけ、琉球王国時代の美術工芸資料は少なく、唯一無二の資料が多くある。また、寄贈、収集、購入した資料は、適度な温湿度管理のもと収蔵庫で大切に保存しているが、永年の経年による変化や収蔵時点においてすでに劣化している資料も少なくない。

当館では、展示公開の頻度や効果の高い資料をはじめ、沖縄の歴史・文化史上不可欠な資料などの優先順位をつけて、限られた予算の範囲で展示公開等の必要な資料の修理事業を実施した。博物館活動のひとつである資料の保存活用を推進するための修理事業についての一層の理解を促すために、平成26年度新収蔵品展で修理コーナーを設けて、これら修理した資料の展示公開を行った。

【予算執行額】 2,575,260円

【事業内容】

修理件数：5件6点（漆器資料2件2点、絵画資料1件1点、書跡資料2件3点）

- 美術工芸（漆器） 朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金椀（1口）
朱塗山水絵堆錦東道盆（1基）
- 美術工芸（絵画） 孫億筆 絹本着色花鳥図（1幅）
- 歴史 任姓世系図・家譜（1冊）
中山孔子廟碑記（拓本裏・表2幅）



朱塗山水絵堆錦東道盆



花鳥図

【修理内容】

漆器資料に関しては、経年の汚れ、乾燥による木地の収縮、内部や外部の漆塗膜の亀裂、剥離、劣化や損傷が多く見られる状況にあった。修理の記録を残すよう心がけ、修理期間を平成26年5月1日から27年3月27日までの間で行った。具体的な作業工程は、修復前写真撮影、調査、クリーニング、漆固め、塗膜調整、塗膜接着、刻苧、防錆、摺漆、修復後写真撮影・報告書を作成した。特に東道盆は、過去に修理が施されていたが、足部分が不適切に接合されていたため、その是正を図り、展示に耐えうる修理を施した。

絵画資料・歴史資料も平成26年5月22日～平成27年3月27日まで実施。絵画資料の場合、本紙の素材に和紙が用いられるが、経年による汚れ、横折れ、亀裂、欠損などがあり、その改善を修理方針とした。具体的な修理は、修復前の写真撮影、彩色・朱印の剥落止め、表具解体（本紙はがし）、旧肌裏紙の除去、汚れの除去、欠損・亀裂箇所の補絹（紙）、本紙の肌裏打ち、新調の表装裂、折れ伏せの補紙、中裏打ち作業、宇陀紙総裏打ち、鏝、軸首、上軸、中軸、掛け紐、桐太巻、桐印籠箱の新調を行った。今回の修理で、孫億の絵画の中で、裏彩色が施されていることが判明した。それは色彩の奥行きを感じさせる技法で、当館が収蔵する孫億作品のうち、この花鳥図のみがこの技法が確認されたことは貴重な発見であった。

歴史資料では、拓本・中山孔子廟碑記（復元後）の両面2枚の掛幅装及び任姓家譜（屋我家）の修理を行った。拓本・中山孔子廟碑記（復元後）は、紙端に破れはあるが拓本部分は良好であった。まくりの状態だったので、展示活用及び拓本紙の保存上の観点から掛幅装に仕立て、桐箱を新調した。任姓家譜（屋我家）は、「首里之印」が押された任姓の本家の格護の家譜原本である。表紙や本文の欠失・破損箇所やセロテープ等の貼り付け、経年変化による汚れなどが見られたため、それらの改善を修理方針とした。具体的な修理は、修理前の



修理後の任姓家譜（屋我家）

写真撮影、冊子装の解体及び墨書の一部剥落止め、セロテープ等や汚れの除去、養生紙での仮張り、欠失箇所の繕い（竹紙）、極薄紙（楮紙）での裏打ち、表・裏表紙の補修、乾燥後に本紙の裁断及び製本を行い、収納用の四方帙及び桐箱を新調した。拓本資料の和紙で裏打ちを行い軸装し、「久米村展」で活用した。

【修理業者】 美術工芸資料（漆器）：琉球漆工藝舎、美術工芸資料（絵画）・歴史資料：石川堂
（園原 謙・崎原恭子）

6. レプリカ・剥製製作事業

資料収集・保存は、博物館の大きな役割のひとつである。本事業は、県立の博物館施設として、沖縄県に現存する貴重な動植物を剥製やレプリカにして保存することで、その役割の一部を、継続的かつ半永久的に果たしてゆくことを目的とし、平成23年度より新たに立ち上げられた事業である。本館所蔵のレプリカ・剥製の数、種類は未だ十分とは言えず、今後も展示を視野に入れながら、少しずつ増やしてゆくことが望まれる。

剥製製作予定の標本は、多くが交通事故死等により滅失したものを、拾得者が本館へ寄贈してくれたものである。遺体は剥製にするまで冷凍室で保存している。現在、冷凍室には数百の標本が保管されているため、状態の良い物や保存価値のあるもの（希少性の高いもの）から順に、剥製（またはレプリカ）として再生してゆく。

平成26年度に委託製作したレプリカ・剥製（ジオラマを含む）は、以下の通りである。

平成26年度	スジアラ（本剥製）、シロクラベラ（本剥製）、ナンヨウブダイ（本剥製）、ハマダイ（本剥製）、ニセタカサゴ（本剥製）
魚類 3	
鳥類 3	ハイタカ（本剥製）、グンカンドリ（本剥製）、
ジオラマ 1	クロツラヘラサギ（本剥製）、クロツラヘラサギ（骨格標本）
	沖縄の河川環境再現ミニチュアジオラマ（ジオラマ）

（山崎 仁也）

7. 資料収集事業

（1）資料収集

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上で、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び歴史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

平成26年度は、歴史資料の西洋製作のアジア地図21件22枚を購入した。

西洋製作のアジア地図は、18～19世紀にかけて西洋各国で製作されたアジアを主題とする地図群である。当資料群は、『青い目がみた大琉球』の編者の一人であるラブ・オーシュリ氏がアメリカを中心として精力的に収集したアジア地図コレクションの一部であり、琉球が掲載されるなど、そのすべてが琉球と関連している。前年度に引き続き、今回はイギリスやアメリカ等で発行された地図21件22枚を購入した。



西洋製作のアジア地図

資料名：

- ・西洋製作のアジア地図21件22枚

（2）基金

【事業概要】

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。特に先の大戦で戦火を免れた琉球王国時代の資料は、文化的には勿論のこと歴史的な意味においても価値の高いもの

のであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金(以下「基金」という)は、貴重な琉球資料を購入し、流失させないことを目的の一つとしており、当館では、琉球史研究や展示の充実を図るために、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらかず琉球資料を、基金により継続的に収集している。今年度は、当館の新規購入はなく、平成25年度購入分の買い戻しの充実にあてた。収集にあたり外部の有識者による収集委員会を招集し、意見を求め、購入の可否を判断している。

8. 資料貸出

○事業名：兵庫県姫路市 姫路科学館特別展「ハイサイ！琉球の生きものたち」

主 催：姫路科学館

会 場：姫路科学館 特別展示室

貸出期間：2014年2月24日(月)～2014年5月31日(土)

貸出資料：サンゴ礁のジオラマ ほか標本類54点

○事業名：危険生物ハブクラゲ被害防止のための普及啓発

主 催：沖縄県衛生環境研究所

会 場：沖縄県衛生環境研究所

貸出期間：2014年4月1日(火)～2015年3月31日(火)

貸出資料：ハブクラゲ模型

○事業名：国立劇場おきなわ開演10周年事業 三線音楽公演「三線・三味線音楽」

「三線名器盛鳴開鐘を聴く」

主 催：公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団

会 場：国立劇場おきなわ

貸出期間：2014年6月13日(金)～6月16日(月)

貸出資料：三線盛鳴開鐘附胴(1件1点)

○事業名：宜野湾市立博物館平成26年度夏の企画展「宜野湾の台地～石灰岩台地でくらす人々～」

主 催：宜野湾市立博物館

会 場：宜野湾市立博物館 企画展示室

貸出期間：2014年7月25日(金)～2014年9月19日(金)

貸出資料：オリオオコウモリほか24点

○事業名：クロイワトカゲモドキの地理的系統進化学研究

研究者：千葉県立中央博物館 栗田隆気氏

貸出期間：2014年8月27日(水)～2016年3月31日(木)

貸出資料：クロイワトカゲモドキ液浸標本15点

○事業名：沖縄ソフトパワー発信事業

主 催：沖縄県知事公室

会 場：米国ワシントンD.C.日本大使公邸

貸出期間：2014年9月2日～9月8日

貸出資料：黄色地雲鳳凰と松藤に雀竹と牡丹踊衣裳(玉那覇有公作)、芭蕉地経縞に経緯緋衣裳(平良敏子作) 計2点

○事業名：首里城公園南殿企画展「首里城と久米村」

主 催：一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部

会 場：首里城公園南殿2階特別展示室

貸出期間：2014年9月8日～12月5日

貸出資料：「程順則肖像画」レプリカ 計1件

- 事業名：黎明館企画特別展「南からみる中世の世界～海に結ばれた琉球列島と南九州～」
 主催：鹿児島県歴史資料センター黎明館
 会場：鹿児島県歴史資料センター黎明館 第2特別展示室
 貸出期間：2014年9月24日～11月19日
 貸出資料：おもろさうし、琉球明細総図 計2件
- 事業名：神戸市立須磨水族園特別展「世界が恋する海！座間味村！」
 主催：神戸市立須磨水族園
 会場：神戸市立須磨水族園 和楽園展示室
 貸出期間：2014年10月7日（火）～2015年4月10日（金）
 貸出資料：カラスバトほか2点
- 事業名：第40回企画展「越来グスクの隆盛」
 主催：沖縄市立郷土博物館
 会場：沖縄市立郷土博物館第1展示室
 貸出期間：2014年10月16日～12月26日
 貸出資料：水晶丸玉一連、縄文時代の食事展示レプリカ 他 計5件
- 事業名：特別展「琉球王国の至宝」
 主催：大韓民国 国立古宮博物館
 会場：大韓民国 国立古宮博物館 特別展示室、常設展示室第3室（一部）
 貸出期間：2014年11月18日～平成27年2月26日
 貸出資料：琉球人行列の図、古琉球風俗田舎娘（旅姿女人図） 他 計39件

9. 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、写真画像等の貸出も行っている。毎年多くの写真借用・資料撮影関連の依頼があり、2014年度は博物館班に182件の依頼があった。利用目的では、書籍・冊子等の出版物への掲載、展示会等でのパネル使用、テレビ放映などが多かった。

画像の貸出依頼のあった資料では、昨年度に製作した新顔の「港川人復元模型」の利用が目立ち、後は従来通り「旧首里城正殿鐘」「進貢船図」「首里那覇港図屏風」「琉球国惣絵図（間切集成図）」などの資料の依頼が多かった。近年は海外からの資料借用の問い合わせもあり、国際的なサービスの提供が求められている。写真提供に係る実費については申請者負担を原則にしているが、海外への郵送料をどう負担するか等のマニュアル化を急ぐ必要がある。

（早瀬 千明）

美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

調査研究事業（以下、本事業とする）を美術館活動の根幹と捉え、開館準備の頃より収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点を置いて積極的に取り組んできた。2014年度は、かねてより懸案事項であった美術館紀要の充実を年度目標に掲げて、個人研究の充実はもとよりテーマを絞って考察し、調査研究の発表をおこなうなど学芸員相互のスキルアップをはかった。本年度紀要のテーマは「沖縄県立博物館・美術館をめぐる 沖縄のアート・シーンを振り返って」とし、今後も主題を定めて、沖縄美術史の構築をスローガンに本事業を進める方針である。

その成果については、美術館研究紀要第5号にまとめて刊行したのちに、美術館関係はもとより、美術関係者などに配布し、さらなる本県の芸術文化に向けて寄与するものとした。

さらに、本年度より展覧会調査を各学芸員へ振り分けて、その成果を調査研究嘱託員を通じてアーカイブしていった。このことにより、個人研究が美術館活動に結びつくよう学芸員としての自覚を持つことができた。

【調査研究の事業内容】

- ① 美術品の収集に関すること
- ② 美術品の保存科学に関すること
- ③ 美術品の修復に関すること
- ④ 展示技術に関すること
- ⑤ 教育普及に関すること
- ⑥ 美術情報提供システムの活用に関すること
- ⑦ ボランティア育成支援に関すること
- ⑧ 美術館の振興に関すること

【学芸員研究】

研究テーマを設定し、一年ないしは数年をかけて調査研究に取り組み研究紀要にまとめる。

No.	氏名	研究テーマ
1	前田比呂也	「前島アートセンター」再考—県立美術館問題とオルタナティブスペース
2	仲里 安広	大嶺政寛 画業の変遷と赤瓦—大嶺が求めた風景画とそのローカル性についての考察—
3	玉那覇英人	80年代以降の沖縄彫刻の変遷について—現代彫刻研究会の活動を通して
4	仲村 保	特別支援学校・学級との連携に向けて—「教育普及報告書」にみる過去の取組とこれからの課題
5	豊見山 愛	沖縄美術協会と宮良瑛子—女性美術と他者性について
6	梶原 正史	沖縄県立博物館・美術館における保存修復の重要性—美術館におけるコンサーバイター（保存修復担当者）の役割
7	大江（齋）悠記	データ・ベースの再構築について

【調査研究体制】

調査研究活動は学芸員及び嘱託員で実施。画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存しており、展覧会事業、収集事業といった内部資料はもとより、個人情報保護の範疇にないもの限り、外部のレファレンスにも対応するよう心掛けている。その場合は熟覧申請等、正式な申請をふまえている。

（豊見山 愛）

2. 調査・研究・講演・著作論文等

前田 比呂也（美術館副館長）

○調査・研究

- ・ニシムイ関連資料の調査（2014年4月～2015年3月）
 - ①浦崎彦志氏所有美術品の調査（画像・作品情報一覧の作成）
 - ②浦崎彦志氏所有音声テープ、8mm映像の整理・分類・デジタル化
 - ③五人展・創斗会資料の収集・分類・デジタル化
 - ④新聞資料（1946-1972）の収集・分類

・美術館活動・美術館経営に関する調査

・主な展覧会調査

福岡アジア美術トリエンナーレ2014（福岡アジア美術館）、横浜トリエンナーレ2014（横浜美術館）

○講演等

・名称：沖縄県美術家連盟総会講演「現代美術館の可能性」

日時：2014年5月25日

場所：浦添市社会福祉センター

・名称：福岡市宗像地区母と女性教職員の会講演会講師「親と子、教師と子どもが豊かな関係をつくる対話—アートを通して—」

日時：2014年6月14日

場所：福岡県福津市中央公民館

・名称：法政大学沖縄学講座講師「沖縄近現代美術史」

日時：2014年7月4日

場所：法政大学

・名称：浦添市美術館自主企画展連続講座講師「子ども×アート 現代アート入門」

日時：2014年7月13日

場所：浦添市美術館

・名称：福岡県中学校美術教育研究大会講話「美術教師の仕事とは—対話による生徒の自己確立の支援を通して—」

日時：2014年11月10日

場所：福岡市立田隈中学校

・名称：琉球大学教育学部美術科教育法講座講師「21世紀の美術の学力—学習指導要領の読み方」

日時：2014年11月28日

場所：琉球大学

・名称：平成26年度和歌山大学高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座講師「アートによるまちづくり」

日時：2014年12月13日

場所：和歌山県橋本市立高野口小学校

・名称：『FabLab Okinawa シンポジウム2015』パネリスト

日時：2015年1月24日

場所：沖縄県立博物館・美術館

・名称：宮古島市総合博物館企画展関連行事講師「クバから広げる」

日時：2015年2月15日

場所：宮古島市総合博物館

○著作論文等

・「前島アートセンター再考—県立美術館問題とオールタナティブスペース」『沖縄県立博物館・美術館 美術館紀要』第5号 2015年3月

・デジタルコンテンツ「沖縄近現代美術史年表」沖縄県立博物館・美術館 2014年 監修

・「アーティスト小川京子とクバ」『第28回企画展「クバものがたり」図録』宮古島市総合博物館 2015年2月

・「沖縄アートレジェンド ニシムイ美術村・山元恵—アトリエ」『START—沖縄にアートのある生活を—vol 1』沖縄県立博物館・美術館 2014年9月

・「沖縄アートレジェンド 前島三丁目ストリートミュージアム」『START—沖縄にアートのある生活を—vol 2』沖縄県立博物館・美術館 2014年12月

仲里 安広（主任学芸員）

○調査・研究

・彫刻家「ゴヤ・フリオ」に関する調査（恩納村）（2014年6月20日）

・画家「大嶺政寛」に関する作品調査（伊良波長東宅 那覇市）（2014年8月28日）

・画家「大嶺政寛」に関する作品調査（八重山）（2015年1月19、20日）

・画家「大嶺政寛」に関する作品調査（琉球銀行 那覇市）（2015年2月17日）

・「東恩納収容所、沖縄諮詢会、志喜屋孝信など」に関する調査（うるま市立石川歴史民俗資料館）（2015年2月19日）

・「琉球切手」に関する調査（中央郵便局 那覇市）（2015年3月19日）

- ・画家「大嶺政寛、大嶺政敏」に関する調査（東京都）（2015年3月26日、27日）
- ・染織家「末吉安久」に関する調査（首里儀保町）（2015年3月30日）

○著作・論文

- ・「大嶺政寛 画業の変遷と赤瓦 大嶺が求めた風景画とそのローカル性についての考察」『沖縄県立博物館・美術館 美術館紀要』第5号 2015年3月

玉那覇 英人（主任学芸員）

○調査・研究

- ・紀要執筆関連の調査（2014年5月～2015年2月）
 - ①「現代彫刻研究会」に関する調査、及び資料収集 上條文穂氏（沖縄県立芸術大学 那覇市）（2014年7月4日）
 - ②「現代彫刻研究会」に関する調査、及び資料収集 波多野泉氏（沖縄県立芸術大学 那覇市）（2014年7月19日）
 - ③「現代彫刻研究会」に関する調査 大田和人氏（アートキャンプ・タルガニー 糸満市）（2014年7月24日）
- ・主な展覧会調査
 - ①福岡アジア美術トリエンナーレ2014（福岡アジア美術館）
 - ②横浜トリエンナーレ2014（横浜美術館）
 - ③「石田尚志 渦まく光」展（横浜美術館）

○著作論文等

- ・「80年代以降の沖縄彫刻の変遷について ―現代彫刻研究会の活動を通して―」『沖縄県立博物館・美術館 美術館紀要』第5号 2015年3月

仲村 保（主任学芸員）

○調査研究

- ・鑑賞指導者研修会（東京近代美術館、国立新美術館 東京都）（2014年8月4日、5日）
- ・木梨憲武展視察（長崎県美術館 長崎県）（2015年3月19日・20日）

○著作・論文

- ・「特別支援学校・学級との連携に向けて―教育普及報告書にみる過去の取組とこれからの課題―」『沖縄県立博物館美術館 美術館紀要』第5号 2015年3月

大城 仁美（主任学芸員）

○調査・研究

- ・企画展関係者への聞き取り調査【県外】調査先：岡崎乾二郎（ときの忘れもの〈画廊〉 東京都）（2014年5月30日～6月1日）
- ・収蔵作家（内間安理）関係者への聞き取り調査【県外】調査先：流政之（香川県）（2014年9月24日）

○著作論文等

- ・「内間安理、その生涯」展覧会記録『色彩と風のシンフォニー／内間安理の世界』沖縄県立博物館・美術館 2015年2月
- ・「ANSEI UCHIMA Symphony of Colors and Wind 色彩と風のシンフォニー／内間安理の世界」九州芸術学会誌『デ・アルテ』31号 九州芸術学会編

豊見山 愛（主任学芸員）

○調査・研究（主として研究にかかわるものを選定し記述）

- ・企画展協力のための調査・講演（丸木美術館 埼玉県）（2014年4月10日～19日）
- ・宮良瑛子氏への聞き取り調査（2014年4月10日、11日）
- ・アーティスト調査【県外】写真家・津田直氏（2014年4月9日）
- ・沖縄ゆかりアーティストの調査【県外】小磯良平、前田藤四郎、ほか（2014年7月15日～17日）
- ・沖縄女性アーティストの調査【県内】（2014年8月13日、山元文子氏）
- ・沖縄女性アーティストの調査【県内】（2014年8月20日、久場とよ氏）
- ・国際展調査【県外】福岡アジアトリエンナーレ（福岡アジア美術館 福岡県）（2014年9月5日）
- ・海外アーティスト調査【県外】ユェン・グワンミン個展（三菱アルティアム、福岡県）（2014年9月6日）
- ・海外アーティスト調査【県外】ナヴィン・ラワンチャイクン個展（紺屋、福岡県）（2014年9月）

7日)

- ・美術館活動における中長期計画策定のための調査（2015年3月3日～5日、9日）
 - ①台湾【国外】（台北市立美術館、台北當代藝術館、台北國際藝術村、國立臺灣博物館、國立歷史博物館、國立故宮博物院）

②シンガポール【国外】（Heritage Conservation Center, National Gallery Singapore, National Heritage Board, Singapore Tyler Print Institute）

○講演等（主として研究にかかわるものを選定し記述）

- ・名称：＜宮良瑛子展オープニングトーク＞ 画家・宮良瑛子氏と対談
期 日：2014年4月19日（土）14:00～16:00
依頼機関：原爆の図・丸木美術館（埼玉県）
- ・名称：＜トーク・セッション「写真集の可能性」＞パネリスト
期 日：2014年4月26日（土）13:00～16:00（沖縄県立芸術大学資料館にて）
依頼機関：「写真集をめぐる一つの提案 写真集×映像」実行委員会（助成：公益財団法人朝日新聞文化財団）
- ・名称：特別授業招聘講師（現代沖縄学入門）＜文化の創造 - 表現を通して->
期 日：2014年5月29日（金）5限目
依頼機関：沖縄大学

○著作論文等（主なものとして）

- ・「女 / 他者という創造力」『沖縄ジェンダー学2・沖縄におけるジェンダーと「制度」』第4章、編著者 喜納育江、矢野恵美、株式会社大月書店発行 2015年2月

梶原 正史（美術品保存修復嘱託員）

○調査・研究等

- ・第36回文化財保存修復学会、明治大学アカデミーコモン（東京都）（2014年6月7日、8日）

○著作論文等

- ・「沖縄県立博物館・美術館における保存修復の重要性」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第5号』2015年3月

大江（齋） 悠記（美術品調査嘱託員）

○調査・研究等

- ・デジタルアーカイブ研修（デジタルアーキビスト短期講座）（岐阜女子大学大学院文化情報研究センター 岐阜県）（2014年6月14日、15日）

○著作論文等

- ・「データベースの再構築について」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要』第5号 2014年3月

II. 展示活動

1. 展示活動概要

コレクション展は、作品保護の観点から年間3期に分けて展示替えを行い、収蔵作品及び寄託作品をテーマ展示の形式で公開。コレクションギャラリー1では小品の写真、版画、水彩画、エスキースを中心に、ギャラリー2では絵画や彫刻、大型の写真や現代美術等、ギャラリー3では沖縄の戦後美術を系統的に展示して紹介している。

企画展では郷土の芸術家や、沖縄ゆかりの国内外の優れた芸術家、あるいは現在活躍する現代美術について、学芸員の調査研究を基に、その成果を自主企画展や、他館との連携なども行いながら展示公開している。

2. コレクション展（常設展）

【コレクションギャラリー1】

①「岡本太郎写真展」【写真・絵画】

開催期間：2014年5月24日（土）～9月15日（日）

内 容：岡本太郎が撮影した写真群を二期に分けて展示、油彩画《コンポジション》も併せて展示した。岡本太郎（1911-1996）は、18歳のころ渡ったパリで、アブストラクション（抽象創造）

協会のメンバーとなり、カンデンスキー、アルプらと知己を得、モンドリアンのコンポジションシリーズに触発されて油彩画《コンポジション》を制作したといわれている。同作品は国内で3点の非常に類似した形態の作品が確認されており、そのことについての関連する講演会（成相肇氏による）と、沖縄を訪問した1959年と1966年の所蔵写真とを紹介し、アーティスト岡本太郎の魅力に迫る内容とした。

②「稲嶺成祚 —To create a new style is real painting—」【絵画】

開催期間：2014年9月20日（土）～2015年1月25日（日）

内 容：独特の絵画様式を確立させた稲嶺成祚の作品について、1950年代から2014年までに描かれた作品を展示し、稲嶺作品がどのようにして生まれ、どのような変遷をたどり独特な表現様式を確立させたのか、制作年代に沿って作品を公開した。

③「普天間敏絵画展 島の詩（うた）」【版画・絵画】

開催期間：2014年1月31日（土）～2015年5月31日（日）

内 容：当館が収蔵する普天間敏の作品23点を公開。宮城健盛より石膏版画を教授し、生涯石膏版画にのめり込んだ普天間は、国際展でも数多く受賞した画家であり版画家であった。工芸や民芸にも造詣が深く、描かれたモチーフはその影響から壺や民具が多い。本展示では普天間が求めた絵画など、石膏版画の魅力を公開した。

【コレクションギャラリー2】

①「オブジェが語るもの」【立体】

開催期間：2014年5月24日（土）～9月15日（日）

内 容：沖縄における近代彫刻の礎を築いた玉那覇正吉から現在活躍する若手作家までの収蔵作品を公開した。金属、石、木、漆喰、陶器、クバの葉、ブロンズ像など様々な素材により、具象、抽象作品と多岐に渡る作品31点、8人の作家である。沖縄における彫刻の変遷など、沖縄の彫刻がどのように拡がっているかを公開した。

②「1950年代の美術」【絵画】

開催期間：2014年9月20日（土）～2015年1月25日（日）

内 容：沖縄の絵画の変遷において、1950年代は変化に富んだ時期であった。具象絵画から抽象的な表現へと変容していく中、より沖縄らしさを意識しだした時期でもあった。本展示ではこのような絵画の変遷を4章に分けて27点を紹介、画家が何をとらえ見つめたのか、1950年代の絵画の状況を紹介した。

③「大和コレクションⅦ デイ・ドリーム—つむがれた記憶 Daydream-Gathered threads of memories」【現代美術】

開催期間：2015年1月31日（土）～5月31日（日）

内 容：「大和（だいわ）コレクション*1展」の第7回目として、寄託中の「大和コレクション」の中から、日本のバブル崩壊（1995年）以降に本格的な活動を始めた、いわゆるゼロ（2000）年代に焦点をあて、日本の作家6名の平面作品19点を選展示公開した。
90年代以降の日本では、携帯電話やインターネットが爆発的に普及し、漫画やアニメなどがアートとして台頭。個人的な経験や日常に宿る小さな「イズム」を核に表現が多様化し、それが物質や情報の飽和とも重なって渾沌とした様相が現れてきた。また地下鉄サリン事件や米国の同時多発テロによりイデオロギーやグローバリズムの問題が鋭角化した時代でもあった。本展覧会で紹介する作家たちは、そのような時代を目の当たりにしながら、2000年代に自身の表現を立ち上げている。本展では、日本において特定の時代に現れた表現を俯瞰する中から、現代日本の社会や個人、相互の関係などについて考える契機となることを意図した。

※1 世界的にも有名なコレクターより当館へ寄託中のコレクション。

【コレクションギャラリー3】

①「沖縄美術の流れ」【絵画・彫刻・写真・映像・現代美術】

開催期間：2014年5月24日（土）～2015年5月31日（日） 通年

内 容：1930年代から現在までの沖縄美術の流れを象徴する作品を、戦前、戦後、復帰後、現代に分けて全74点（写真作品等の27点については2回に分けて展示替えを行った）の作品を展示した。なお、前年度収集した藤田嗣治の『辻美人』をはじめ、大嶺政寛の『龍潭池畔』、安次富長昭

の『民話に憑かれて (A)』は、当館において初公開となった。

3. 企画展1 「色彩と風のシンフォニー 内間安理の世界」 Shymphony of Colors and Wind The World of Ansei Uchima

会 期：2014年9月12日（金）～11月9日（日）

会 場：美術館企画展示室1・2

観 覧 料：一般 800(640)円 高校・大学生 500(400)円 小・中学生 300(240)円 ※()内は前売り
※70歳以上の方に限り、当日券20%割引。身分証の提示が必要。

観覧者数：4,187人

【開催趣旨】

1. 沖縄をルーツに持ち海外で活躍するアーティストを紹介する。

沖縄県は戦前戦後を通して海外へ多くの移民を送り出した歴史を持ち、沖縄をルーツに持つアーティストが海外で多く活躍しており、当館では『沖縄ルーツシリーズ』（英題:Artist with Okinawan Roots）と題して沖縄ルーツの海外アーティストを紹介している。本展覧会はその第2回展として、沖縄移民の二世として米国に生まれ、米国と日本の双方で版画を中心に活躍した内間安理（うちま・あんせい、1921～2000）の生涯と表現に光をあてる。この規模では国内初となる回顧展を、沖縄県から発信する。

2. 内間作品の初期から晩年までの変遷を俯瞰。内間が探求した表現を探る。

内間は米国カリフォルニアに生まれたが、戦前の東京で画家・版画家としてのキャリアをスタートさせ、帰米（1959年）後は晩年までニューヨークで創作を行い、版画家・教育者として高く評価された。近現代美術の限界を超える可能性を版表現に見出し、日本の伝統木版の技法を用いながら生涯に渡り探求し続けた。思索を浮き彫りにする貴重なコラージュやスケッチも公開し、内間が探求した表現を探る。

3. 内間の木版の手法を紐解き、確かな技術力と思索の軌跡を探る。

内間が晩年に到達したForest Byobu のシリーズは、内間自身が「色面織り」と言うように、平均45度摺り、時に100回を超える擦りを重ね、色彩が幾重にも折り重なる空間を画面上に創り出した。内間の使用した版木を公開し、内間の技術と試みを探る。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

特別協力：沖縄米国総領事館、(株)沖縄文化の杜

協 力：那覇新都心通り会、NPO法人沖縄県立美術館支援会happ

後 援：(一社)日本版画協会、(一社)沖縄県美術家連盟、沖縄県文化協会、沖縄県造形教育連盟、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー、NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ送、エフエム沖縄、ラジオ沖縄、沖縄タイムス社、琉球新報社、タイフーンfm、FMレキオ

【展示構成】

1. 序章 沖縄からアメリカへ、そして日本へ

(版木1点, 資料写真1点)

内間安理の出自を、ロサンゼルスで撮影された家族写真とともに紹介

2. 第1章 木版画との出会い—日本からアメリカへ

(木版画40点, 墨絵2点, 及び資料)

帰米を挟んで、日米両国で制作された1955年～67年の作品を紹介。創作版画の影響や、抽象表現主義への共鳴が反映され、様々な技法や表現を貪欲に吸収・検証した時代である。イサム・ノグチをはじめ日米の作家との交流もあわせて紹介した。

3. 第2章 Space—コントロールされた空間

(木版画12点, 水彩画6点)

1968年から制作されたスペース・シリーズを紹介。それまでの流動性や偶然性を意図した空間から一転し、絵画空間に計画性と必然性を持ちこみ、色彩や構図による空間のコントロールを試みた時代である。

4. 第3章 内なる旅—デッサンと版の思索

(コラージュ47点, スケッチ約25点, 木版画24点, 水彩画4点, 油彩画2点, パステル画1点, 及び版木)

1970年～75年の間、内間はグッゲンハイム奨学金を受けて世界を旅行し、またサラ・ローレンス大学の

講習の一環として毎夏フランスに滞在した。その間の制作は少ないが、スケッチブックに多くの言葉や風物を書きとめている。創作の源泉となった実験的なコラージュとスケッチブックを冒頭に、フォレスト・ビョウブのシリーズへと至る1974年～70年代後半までの作品を展示した。

5. 第4章 色彩のダンス、光と風のシンフォニー

(木版画19点(未完成作含む), 油彩画3点, エッチング1点, 水彩画1点, ほかに資料等)

内間の一つの到達点となったフォレスト・ビョウブシリーズを中心に展示。シリーズ後半の81年から新たな展開に着手するが、脳梗塞により82年に制作が断絶した。終盤は、実際に使っていた道具や、夫人で作家の内間俊子が内間安理のパレットやパレンをあしらったボックスアッサンプラージュ、そして断絶直前に手掛けていた未完成の試作品《Forest Fantasy》を展示し、内間が思い描いていた展開を暗示した。

【関連催事】※参加者数など詳細は、Ⅲ. 教育普及活動を参照

1. 開会式及び内覧会

2014年9月12日(金) 開会式14:00～ 内覧会14:20～

2. 教員向け版画ワークショップ

2014年9月20日(土)・21日(日) 9:00-15:00 永津 禎三氏(琉球大学教授)

3. ギャラリー・トーク

2014年9月21日(日) 14:00-15:00 岡崎 乾二郎氏(造形作家・評論家)

2014年9月27日(日) 14:00-15:00 神山 泰治氏(版画家)

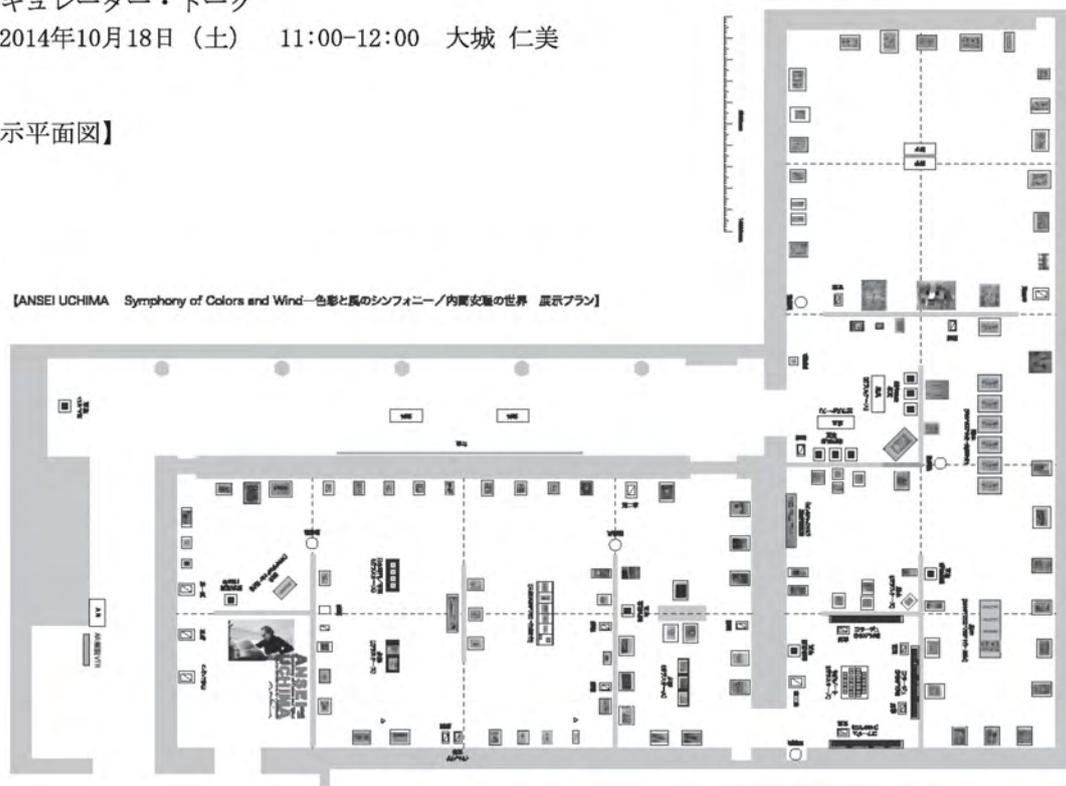
4. 美術講座

2014年10月17日(金) 18:30-20:00 田中 睦治氏(沖縄県立芸術大学教授)

5. キュレーター・トーク

2014年10月18日(土) 11:00-12:00 大城 仁美

【展示平面図】



【会場風景】



(大城 仁美)

4. 企画展2 「ゴー・ビトゥイーンズ展 こどもを通して見る世界」 Go-Betweens: The World Seen through Children

会 期：2015年1月16日（金）～3月15日（日）

会 場：美術館企画展示室1・2、ホワイエ

観 覧 料：一般1,180円(1,050)、高校・大学生730円(650)、小・中学生300円(240)

※開館初のコレクションギャラリー通し券を実施、() は前売および団体料金

観覧者数：3,092人

【開催趣旨】

異なる文化、現実と想像、大人と子ども、あらゆる境界を行き来する子どもたちが放つ「生きるちから」をキーワードに、現実と想像の世界の間など、さまざまな境界を自由に行き来する子どもの性質に注目し、子どもの視点を通して世界を展望しようとする試みである。世界各国の優れたアーティスト26組の作品に表れる子どものイメージを通して、社会で起こっているさまざまな事象に注目し、政治、文化、家族など子どもを取り巻く環境と、彼らが直面する諸問題に目を向ける。さらに、遊びや夢、記憶などをキーワードに、大人の常識や伝統の枠組みにとらわれない子どもの創造性と、その多様な感覚に迫る。出展作家は、沖縄県南風原町出身の照屋勇賢（1973年生）をはじめとして、クリスチャン・ボルタンスキー（1944年生まれ、フランス）、奈良美智（1959年生）などの国際性豊かなラインナップとなった（企画協力：森美術館、荒木夏実氏）。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協 賛：ボンポワン、ライオン株式会社、清水建設株式会社、大日本印刷株式会社、損保ジャパン日本興亜

協 力：沖縄なほ子ども劇場、特定非営利活動法人珊瑚舎スコーレ、特定非営利活動法人おきなわCAPセンター、(特活)浦添市美術館友の会、(特活)療育ファミリーサポートほほえみ、社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会、沖縄米国総領事館

制作協力：キャノンマーケティングジャパン株式会社

後 援：(一社)沖縄県美術家連盟、(一社)沖縄県文化協会、沖縄女流美術家協会、独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター、沖縄造形教育連盟、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、株式会社エフエム沖縄、株式会社ラジオ沖縄、沖縄タイムス社、タイフーンfm、FMレキオ、コンベンションビューロー、那覇新都心通り会、沖縄県立美術館支援会happ、キャンプ・タルガニー（順不同）

【出展作家】※姓のアルファベット順 ※生没年、出身地

- ・クリスチャン・ボルタンスキー 1944年生まれ、フランス
- ・ルイス・W・ハイン 1874年生まれ、1940年没、アメリカ
- ・テリーサ・ハバード／アレクサンダー・ビルヒラー 1965年生まれ、アイルランド（ハバード）1962年生まれ、スイス（ビルヒラー）
- ・菊地智子 1973年生まれ、日本
- ・金仁淑（キム・インスク） 1978年生まれ、日本／韓国
- ・近藤聡乃 1980年生まれ、日本
- ・小西淳也 1971年生まれ、日本
- ・トレーシー・モファット 1960年生まれ、オーストラリア
- ・スヘル・ナッフアール&ジャクリーン・リーム・サッローム
パレスチナ（ナッフアール）、アメリカ（サッローム）
- ・奈良美智 1959年生まれ、日本
- ・ジェイコブ・A・リース 1849年生まれ、1914年没、デンマーク
- ・塩田千春 1972年生まれ、日本
- ・ストーリー・コー 2003年から活動、アメリカ
- ・フィオナ・タン 1966年生まれ、インドネシア
- ・照屋勇賢 1973年生まれ、日本
- ・サンテリ・トゥオリ 1970年生まれ、フィンランド
- ・梅佳代 1981年生まれ、日本
- ・ウォン・ソンウォン 1972年生まれ、韓国

- ・ ウォン・ホイチョン 1960年生まれ、マレーシア
- ・ 山本高之 1974年生まれ、日本
- ・ ジャン・オー 1976年生まれ、中国

【章立てとおもな展示資料】

①第1章 文化を超えて

タイトルの「ゴー・ピトゥイーンズ」とは、写真家でありジャーナリストでもあったジェイコブ・リースの言葉をシンボリックに用いたものである。デンマーク生まれのリースは1870年に自らも移民としてアメリカに渡り、貧しい移民の生活を写真におさめた。そしてリースは、英語に慣れていない移民一世の親たちに代わって通訳などの橋渡しをする二世の子供たちを「ゴー・ピトゥイーンズ」と表現した。ルイス・ハインもまた、児童労働の実態にカメラを向けている。

②第2章 自由と孤独の世界

小西淳也の「子供の時間」シリーズにおける子供は、静寂な孤独の世界に浸っている。まるで自分だけの居場所を獲得して満足しているようにも見える。アーティストコメントによると「大人との従属的な関係から解放され、自分たちの空間で遊びに没頭する子供たちの姿を写し取ったもの」で、現実と想像、遊びの世界を横断する子供の視点が窺える。奈良美智の描く「子ども」もまた、かつて感じた夢、喜び、孤独、悔しさなどのさまざまな感覚や記憶を内面に辿る姿とみて、第2章で紹介する。

③第3章 痛みと葛藤の記憶

オーストラリアの作家トレーシー・モファットの「一生の傷」というシリーズでは、子供時代のトラウマのような記憶をテーマにしている。この洗車する少女の画像の下には、父親からの愛称が「役立たず」だったという、ショッキングな言葉の暴力が記されている。

④第4章 大人と子供のはざま

フィオナ・タンは、急激なグローバル化が進む今日の世界のなかで、自身が中国系の父とオーストラリア人の母を持つことから、文化的な価値観の揺らぎを捉え、子供が変化や環境に翻弄される存在であることを表しているなど、思春期の揺らぎをテーマとした作品が展示された。

⑤第5章 異次元を往来する

山本高之による、ワークショップを通して子供の様々な側面を見せる作品は、本展のための新制作であった。子供たちが想像しながら作ったユニークな地獄の立体と、それについて語る彼らを映したビデオを展示した。また、沖縄出身の照屋勇賢も新作の映像インスタレーション「未来達」を発表し、高江に棲む希少生物に焦点をあて、好評を博した。

【関連イベント】

■梅佳代トークショー

日 時：2015年1月15日（木） 18：00～19：00

講 師：梅佳代

場 所：博物館講座室

定 員：100名（当日先着）

※入場無料

■奈良美智 講演会「自分の感性はどこから来たのだろうか」

日 時：2015年1月16日（金） 19:00～20:30

講 師：奈良美智

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

※事前申込

※入場無料

■キュレーター・トーク

日 時：2015年1月17日（土） 11:00～12:00

講 師：豊見山愛（展覧会担当学芸員）

場 所：展示会場

■アキノ隊員によるギャラリートーク 「沖縄の希少生物」

日 時：2015年1月18日（日） 14:00～15:00
講 師：宮城秋乃（日本鱗翅学会自然保護委員）
場 所：展示会場

■子ども&大人ワークショップ 「キャプションをつくろう」

日 時：2015年1月17日（土）13:30～15:00、18日（日）10:30～12:00
2月1日（日）（1）11:30～12:00／（2）13:00～14:00いずれか
対 象：定員：大人と子ども（児童生徒）12組
参 加 費：ふたりで1,000円（展覧会入場券含む）
参加方法：事前申込（1月6日（火）～10日（土））

■対話による作品鑑賞会

開 催 日：2015年1月24日、31日、2月7日、14日、28日、3月7日 いずれも土曜日 【全6回】
日 時：10:00～12:00
参 加 者：前田比呂也（副館長）＋豊見山愛（担当学芸員）＋参加者の皆様
場 所：企画ギャラリー

■【映画作品上映】

世界各国の子どもをテーマにした映画作品から、選りすぐりの3本を上映。
場所：美術館講座室
時間：13:00～17:00
※入場無料

2015年1月31日（土）

『ウリハッキョ』

監督：金明俊（キム・ミョンジュン）

韓国／2006年／131分

言語：朝鮮語（日本語字幕）

2015年2月7日（土）※2本上映

『子供の情景』

監督：ハナ・マフマルバフ

イラン・フランス／2007年／81分

言語：ダリー語（日本語字幕）

『ぜんぶ、フィデルのせい』

監督：ジュリー・ガヴラス

フランス・イタリア／2006年／99分

言語：フランス語（日本語字幕）

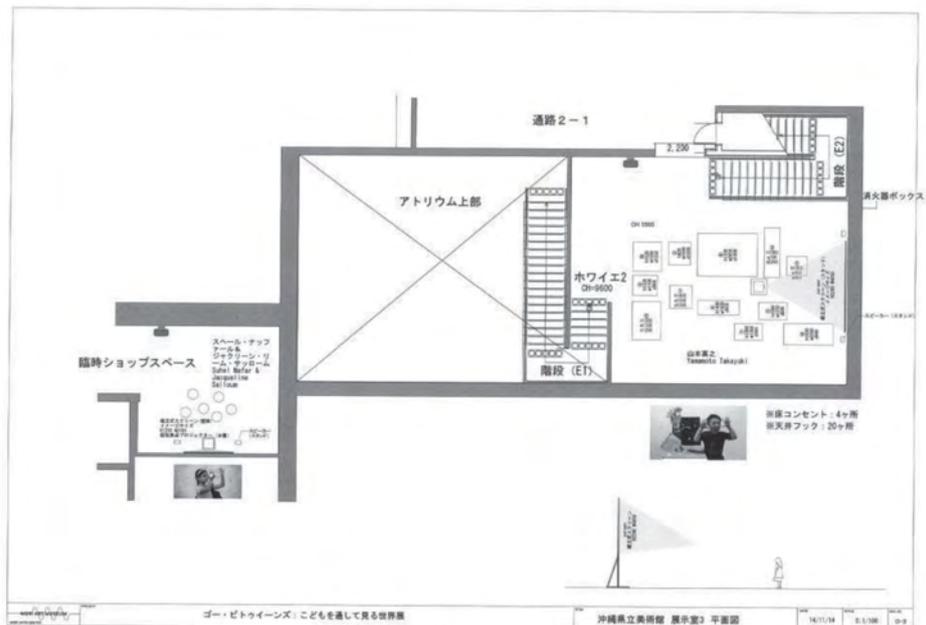
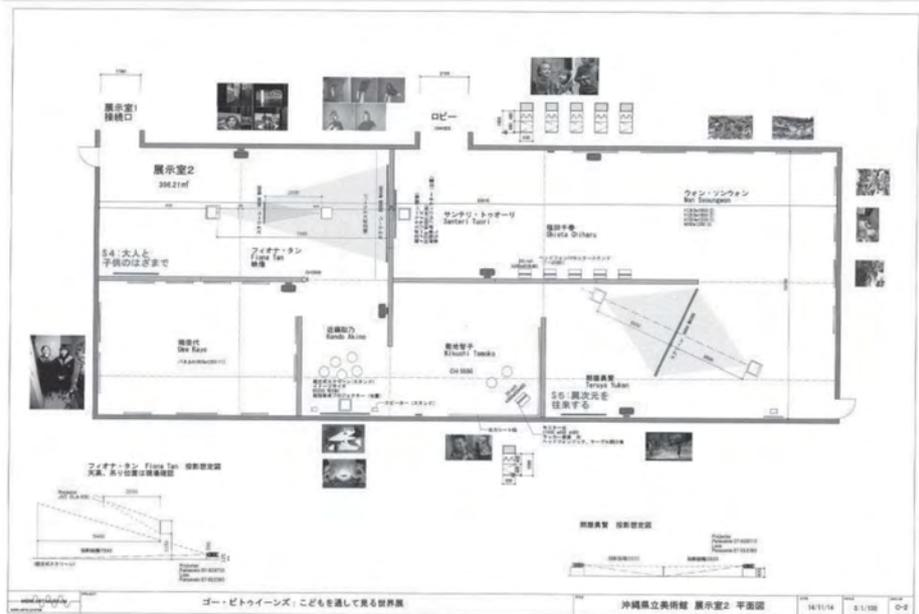
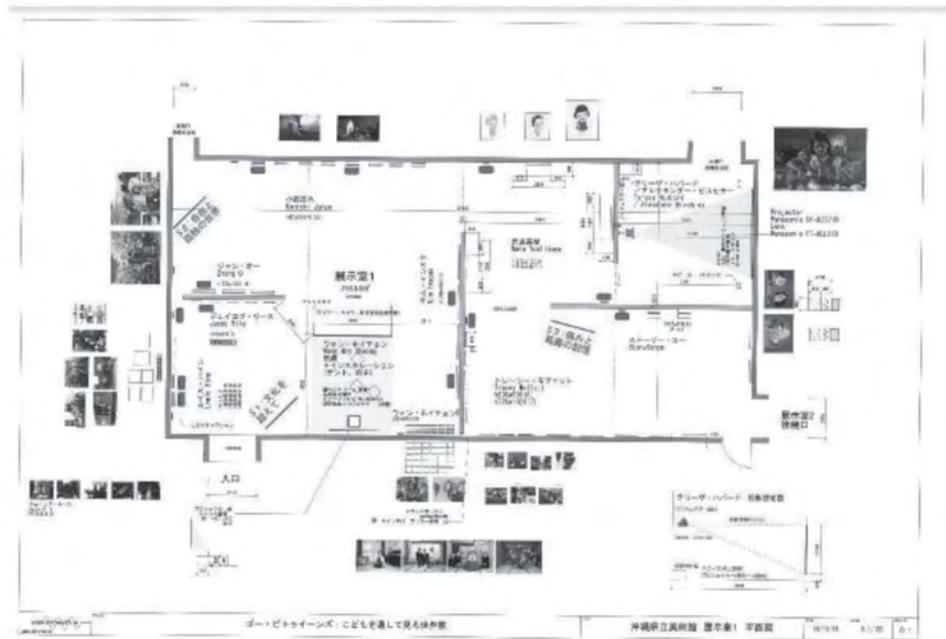
■記念シンポジウム

日時：2015年2月11日（祝・水） 14:00～17:00
講師：菊地智子（アーティスト）／小西淳也（アーティスト）
場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
定員：200名（当日先着）
※入場無料

■トークショー『はざまを生きる子どもたち：沖縄のアメラジアンスクールについて考える』

日時：2015年3月7日（土）14:00～16:00
講師：セイヤーみどり（アメラジアンスクール・イン・オキナワ校長）／荒木夏実（森美術館キュレーター）
場所：美術館講座室
※入場無料

【展示平面図】



(豊見山 愛)

Ⅲ. 教育普及活動

1. 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、鑑賞ボランティアによる「対話による鑑賞」を展開し、学校団体へ対応した。今年度は特に、特別支援学校・学級との連携を図る鑑賞プログラムを実施した。

実技体験では、夏休み子どもフェスタで、多彩なプログラムで昨年度より多くの児童生徒が参加することができた。展示作品をより理解を深める機会として、学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、移動展（西表：竹富町）やアウトリーチ活動（東村立山と水の博物館での稲嶺成祚作品展・鑑賞授業）への作家を派遣しての講座を実施した。

2. 鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。

【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示会担当学芸員がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行う。



キュレーター・トークの様子

回	月日	曜	展示会名	担当	参加者
1	4月26日	土	「木下晋展－生命の旅路－」	金城美奈子	11人
2	5月17日	土	国際博物館の日「コレクション展」	各担当	18人
3	5月24日	土	「麗しの琉球の記憶－鎌倉芳太郎が発見した美－」	謝花佐和子	33人
4	6月14日	土	「岡本太郎写真展」	豊見山愛	10人
5	7月19日	土	「オブジェが語るもの」	仲里安広	10人
6	7月26日	土	「20世紀フランス絵画展」	國吉貴奈	32人
7	8月16日	土	「沖縄美術の流れ」	玉那覇英人	12人
8	9月20日	土	「稲嶺成祚展」	仲村保	5人
9	10月18日	土	「内間安理展」	大城仁美	21人
10	11月15日	金	「沖縄50's 1950年代の美術」	仲里安広	3人
11	1月17日	土	「ゴー・ピトゥイーンズ展」	豊見山愛	6人
12	2月21日	土	「普天間敏展 島の詩（うた）」	仲里安広	4人
13	3月14日	土	「大和コレクションVII」	大城仁美	7人

【アーティスト（ギャラリー）・トーク】

ボランティアの方々及び一般の方に向け、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作家及び作品の理解を深めるための講座。展覧の展示作家やその関係者等を招き実施。



新城征孝のトーク風景

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
1	6月7日	土	「麗しの琉球の記憶－鎌倉芳太郎が発見した美－」	西村貞雄	68人
2	6月14日	土	「岡本太郎写真展」	成相 肇	34人
3	7月12日	土	「オブジェが語るもの」	ゴヤフリオ	26人
4	7月21日	土	「オブジェが語るもの」	小川京子	22人
5	8月23日	土	「沖縄美術の流れ」	新城征孝	19人
6	9月21日	土	「内間安理展」	岡崎乾二郎	62人
7	9月27日	日	「内間安理展」	神山泰治	18人

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
8	11月2日	日	「稲嶺成祚展」	稲嶺成祚	120人
9	11月9日	日	「沖縄50's 1950年代の美術」	安次富長昭	9人
10	12月20日	土	「稲嶺成祚展in東」	稲嶺成祚	25人
11	1月18日	日	「ゴー・ビトゥーンズ展」	宮城秋乃	39人
12	2月7日	土	「普天間敏展 島の詩（うた）」	宮城篤正	44人
13	3月14日	土	「大和コレクションVII」	栗田咲子	13人

【鑑賞ツアー】

鑑賞ボランティアが来館者に対し行う展示作品の鑑賞活動。案内役を中心に「対話による鑑賞」により参加者と作品に対する思いや感想などを伝え合い、共感する中で作品の理解や関心を深めていった。この鑑賞ツアーは、美術館支援組織happが実施している。



鑑賞ツアーの様子

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	5月24日	土	「沖縄美術の流れ」	9人
2	6月28日	土	「岡本太郎写真展」	4人
3	7月26日	土	「オブジェが語るもの」	6人
4	8月23日	土	「沖縄美術の流れ」	8人
5	9月27日	土	「稲嶺成祚展」	4人
6	10月25日	土	「沖縄美術の流れ」	8人
7	11月22日	土	「沖縄50's 1950年代の美術」	4人
8	12月20日	土	「沖縄美術の流れ」	4人
9	1月31日	土	「沖縄美術の流れ」	7人
10	2月28日	土	「普天間敏展-島の詩（うた）」	4人
11	3月28日	土	「大和コレクションVII」	5人

【学校団体対応】

学校団体に対して展示作品の鑑賞を支援するプログラムを行った。鑑賞ボランティア員が案内役となり、コレクション展の中から3作品程度をグループ別に「対話による鑑賞」を通してお互いに共感し合いながら作品理解を深めていった。



学校団体鑑賞の様子

回	月日	曜	学校名・学年	参加者
1	6月6日	金	東村立高江小学校	6人
2	7月5日	火	沖縄県立浦添工業高等学校	82人
3	7月15日	火	那覇市立銘苺小学校①	66人
4	7月17日	木	那覇市立銘苺小学校②	66人
5	9月24日	水	豊見城市立豊崎小学校	126人
6	12月14日	火	沖縄県立浦添工業高等学校	81人
7	12月18日	水	豊見城市立伊良波小学校	90人
8	2月18日	金	沖縄県立沖縄ろう学校	13人

3. バックヤード・ツアー

収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内する事業。学芸員の仕事や美術作品に対する保存、展示についても学ぶ機会となっている。



バックヤード・ツアーの様子

回	月日	担当	参加者
1	5月17日	仲里安広	14人
2	6月28日	仲村 保	2人
3	7月26日	玉那覇英人	5人
4	8月23日	豊見山愛	1人
5	9月27日	大城仁美	9人

回	月日	担当	参加者
6	10月25日	仲村 保	11人
7	11月22日	仲里安広	4人
8	12月20日	玉那覇英人	1人
9	1月31日	豊見山愛	5人
10	2月28日	大城仁美	10人

4. 美術講座

今年度は開催中の展覧会の内容に合わせて美術講座を行った。仲嶺絵里奈氏にはフランス近代写真について、上條文穂氏には沖縄の風土が生み出した造形素材との出会いと創作活動について、田中睦治氏には創作版画の取組と版表現の可能性について講義してもらった。



美術講座の様子

回	月日	曜	名称	講師	参加者
1	7月25日	金	「フランス近代写真ーパリで活躍した写真家」	仲嶺絵里奈	27人
2	8月29日	金	「素材との対話」	上條文穂	28人
3	10月17日	金	「創作版画の楽しみ」	田中睦治	36人

5. コレクション・企画展関連シンポジウム

(1) 内間安理展～色彩と風のシンフォニー～

□教員向け版画ワークショップ

版画表現による色彩体験や創作コミュニケーションを体験することで新しい教材開発に役立てる。

【講師】永津禎三（琉球大学教授）

【日時】①9月20日（土）②9月21日（日） 9：00～15：00

【会場】県民・こどもアトリエ

【参加者】13名



教員向けワークショップの様子

□ギャラリートーク

【講師】①岡崎乾二郎（造形作家・評論家）②神山泰治（版画家）

【日時】2014年①9月21日（日）②9月27日（日）14：00～15：00

【会場】企画ギャラリー

【参加者】①62名 ②18名

□美術講座

【講師】田中睦治（沖縄県立芸術大学教授）

【日時】2014年10月17日（金）18：30～20：00

【会場】美術館講座室

【参加者】36名

□キュレータートーク

【講師】大城仁美（展覧会担当学芸員）

【日時】10月18日（土）11：00～12：00

【会場】企画ギャラリー

【参加者】21人

(2) ゴー・ビトゥイーンズ展～こどもを通して見る世界～

□梅佳代トークショー

【日時】2015年1月15日（木）18：00～19：00

【会場】沖縄県立博物館・博物館 講座室 【参加者】82人

□キュレーター・トーク

【講師】豊見山愛（担当学芸員）

【日時】2015年1月17日（土）14：00～15：00

【会場】企画ギャラリー

【参加者】6人

□こどもワークショップ「キャプションをつくろう」

【講師】仲村 保（教育普及担当）

【日時】2015年①1月17日（土）②1月18日（日）③2月1日（日）①13：30～15：00②③10：30～12：00

【会 場】美術館企画展示室
【参加者】親子4組（8人）

□ギャラリートーク

【講 師】宮城秋乃（日本鱗翅学会自然保護委員）
【日 時】2015年1月18日（日）14:00～15:00
【会 場】美術館講座室・企画ギャラリー
【参加者】39人

□対話による作品鑑賞会（前田美術館副館長、豊見山学芸員） 10:00～12:00

【実施日】2015年 ①1月24日（土）②1月31日（土）③2月7日（土）④2月14日（土）
⑤2月28日（土）⑥3月7日（土）

□映画上映会

【映画名】①「ウリハッキョ」
②「子供の情景」「ぜんぶ、フィデルのせい」
【日 時】 2015年①1月31日（土） 13:00～17:00 ②2月7日（土） 13:00～17:00
【会 場】美術館講座室
【参加者】①31人 ②23人

□シンポジウム

【日 時】 2月11日（土）14:00～17:00
【会 場】沖縄県立博物館・美術館 講堂
【参 加 者】44人
【プログラム】第1部講話：菊地智子・小西淳也
第2部トークセッション：菊地智子・小西淳也・若林千代（沖縄大学教授）・前田比呂也
（美術館副館長）
コーディネーター：豊見山愛（展覧会担当学芸員）

□「アメリジアンスクールの現状を考えるトーク会」

【講 師】セイヤーみどり（アメリジアンスクール・イン・オキナワ校長）、
荒木夏実（森美術館キュレーター）
【日 時】2015年3月7日（土）
【会 場】美術館講座室
【参加者】34人



「アメリジアンスクールの
現状を考えるトーク会」

6. ワークショップ

(1) 子どもワークショップ①「絵の中に入ろう」……………23人参加

- ① 日 時：2014年10月26日（日）
1回目 10:30～12:00 2回目 13:30～15:00
② 内 容： 1回目：自分の顔を切り抜いた画用紙に絵を描きその中に入って遊ぶ。
2回目：様々な素材を使い作品を仕上げモビールとして吊り下げる。
③ 講 師：奥山泉（現代美術家）
④ 場 所：県民・こどもアトリエ

(2) 子どもワークショップ②「はこのいえ」……………親子12組参加

- ① 日 時：2015年3月1日（日）14:00～16:00（4歳～小3年親子）
② 内 容：形や色などで工夫しダンボールでお家をつくる
③ 講 師：佐藤尚理（造形作家）
④ 場 所：博物館実習室

(3) 一般実技講座①「線と素材と余白」……………11人参加

- ① 日 時：2014年10月4日、25日（土）、11月1日（土）10:30～12:00
② 内 容：二種類の墨を使い新聞に文字や絵などをコラージュし表現する

- ③ 講 師：伊江隆人（造形作家）
- ④ 場 所：博物館実習室

(4) 一般実技講座②「版の技法—石膏版画を学ぶ—」……………10人参加

- ① 日 時：2015年1月31日（日）、2月7日（土）10:30～16:00
- ② 内 容：常設展「普天間 敏—島の詩—」に関連させた石膏版画の実技講習
- ③ 講 師：仲本和子（石膏版画家）
- ④ 場 所：県民・子どもアトリエ

(5) 美術館夏休み子供ワークショップ①「中庭水族館」……………238人参加

- ① 日 時：2014年8月2日（土）10:00～12:00
- ② 内 容：美術館の窓ガラスに魚などを彩色して水族館にする
- ③ 講 師：仲村保（担当学芸員）
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：美術館中庭

(6) 美術館夏休み子供ワークショップ②「ガラクタで楽器をつくろう」……………13人参加

- ① 日 時：2014年8月2日（土）14:00～16:00
- ② 内 容：身近な廃材を使い楽器をつくり、どんな音になるか演奏する
- ③ 講 師：ウチマヤスヒコ（廃品回生業者・デザイナー）
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：正面玄関横スペース

(7) 美術館夏休み子供ワークショップ③「版画体験—かさねてつくる，色と形」……親子11組参加

- ① 日 時：2014年8月2日（土）14:00～15:30
- ② 内 容：1枚の版木に何層も色を重ねる多色版画
- ③ 講 師：永津禎三（琉球大学教授） 河辺志保（琉大附属小教諭）
- ④ 対 象：未就学児～小2（親子同伴）
- ⑤ 会 場：博物館実習室

(8) 美術館夏休み子供ワークショップ④「写生会」……………24人参加

- ① 日 時：2014年8月3日（日）14:00～16:00
- ② 内 容：美術館周辺の公園で写生する
- ③ 講 師：沖縄美術家協会（屋良朝彦、大城譲、鶴見伸、當間よしの、山川さやか）
- ④ 対 象：小学生（親子同伴）
- ⑤ 会 場：博物館・美術館周辺

(9) 美術館夏休み子供ワークショップ⑤「イラスト教室」……………28人参加

- ① 日 時：2014年8月3日（日）14:00～16:00
- ② 内 容：絵本の挿絵やポスターなどイラストの描き方
- ③ 講 師：仲本賢（沖縄県立大学教授）
- ④ 対 象：小学生～大学生
- ⑤ 会 場：博物館実習室

(10) 美術館夏休み子供ワークショップ⑥「キッズカメラマン」……………15組参加

- ① 日 時：2014年8月3日（日）14:00～16:00
- ② 内 容：カメラの使い方と印刷の仕方を学ぶ
- ③ 講 師：県立芸術大学の学生
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：エントランスホール

7. アウトリーチ(出前講座)

(1) アーティストトークin東村……………25人参加

- ① 日 時：2014年12月20日（土）16:00～17:00

- ② 内 容：稲嶺氏が取り組んできた絵画の歩み、表現スタイルの変遷について
- ③ 講 師：稲嶺成祚（画家）
- ④ 場 所：東村立山と水の生活博物館

(2) 出前授業in東村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・児童18+教師3人参加

- ① 日 時：2014年12月18日（木）高江校 11:00～11:45 有銘校 14:00～14:45
- ② 内 容：稲嶺作品をもとに対話による鑑賞の授業
- ③ 講 師：仲村保(担当学芸員)
- ④ 場 所：東村立山と水の生活博物館

8. 美術館招待事業（美術館へ行こう）

(1) 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う・・・・・・参加者491人

- ① 対 象：県内小中学校 学年単位で5～7校程度
- ② 方 法：公募により学校を決定 8月から公募開始
- ③ 場 所：コレクション展示室
- ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	10月1日	水	那覇市立那覇(5年)	70人
2	10月31日	火	那覇市立真和志小学校(4年)	94人
3	11月20日	木	那覇市立那覇特別支援学校	10人
4	12月2日	火	那覇市立小禄小学校(5年)	71人
5	12月3日	水	浦添市立仲西中学校(1年)	78人
6	12月9日	火	浦添市立内間小学校(3年)	95人
7	12月11日	木	那覇市立城南小学校(3年)	73人

9. 図工・美術担当教職員等講座

- ①日 時：2014年8月7日（木）14:00～16:00・・・・・・参加者37人
- ②内 容：学校現場で活用できる版画指導と鑑賞指導・アートカード活用の仕方
- ③講 師：大城悦子（うるま市立中原小学校校長）・島尻千賀子（豊見城市立伊良波小学校教諭）
- ④会 場：美術館講座室

10. 鑑賞用ワークシート作成

- (1) 実施：年1回 6月中構成、7月配布
- (2) 内容：コレクションギャラリー3「沖縄の美術の流れ」の代表する10作品の補助質問及び解説。児童生徒に向けたワークシートを作成し作品鑑賞の補助資料とする。
- (3) 部数：6,000部印刷（A4両面カラー印刷）

11. 「移動展in竹富町」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1,038人入場

- (1) 会 期：2014年11月28日（金）～30日（日）（3日間）
- (2) 開催地：竹富町
- (3) 内 容：絵画・映像作品の展示、キュレータートーク

12. 研修対応

- (1) 学芸員実習
 - ① 期 間：2014年8月28日（木）～9月10日（水）10日間（土、日を除く）
 - ② 参加者：8名（沖縄県立芸術大学、聖心女子大学）
 - ③ 内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

(2) 校内研修

- ①期 間：2014年7月31日（木）
- ②参加者：23名（豊見城市立伊良波小学校）
- ③内 容：これからの美術教育と美術館での鑑賞指導の取組について

(3) 那覇市教職員研修

- ①期 間：2014年8月6日（水）
- ②参加者：15名（那覇・浦添地区美術担当）
- ③内 容：これからの美術教育と美術館での鑑賞指導の取組について

(4) 浦添市教職10年経験者研修

- ①期 間：2014年8月13日（水）～15日（金）
- ②参加者：3名
- ③内 容：美術館運営と学芸業務を体験することで以後の学校の職務に役立てる

13. その他の取組

1 魅力アップ事業

(1) 著名人コラボ

【講演会①】原田マハ講演会

- 【日 時】2014年6月15日（日） 10:00～12:00
- 【内 容】ニシムイの画家達に焦点をあてた小説「太陽の棘」の作者である原田マハ氏の講演会
- 【場 所】県立博物館・美術館 講堂



著名人コラボ
「原田マハサイン会」
の様子

【講演会②】糸数弘樹講演会

- 【日 時】2014年9月27日（日） ①14:00～15:00 ②18:00～20:00
- 【内 容】①中高生向け講演会……糸数氏の体験を通して将来の夢や希望、努力することの大切さ
②一般向け講演会……ディズニーでアニメ制作にかかわる仕事内容の紹介
- 【場 所】①こどもアトリエ ②県立博物館・美術館 講堂

【講演会③】奈良美智講演会

- 【日 時】2015年1月16日（金） 19:00～21:00
- 【内 容】「自分の感性はどこから来たのだろうか」と題し自身の生い立ちと作品制作の紹介
- 【場 所】県立博物館・美術 講堂



美術館情報紙「START」

(2) 若年者向けプロジェクト

- 【美術館情報紙発行】「START」創刊号 4,000部
2014年9月12日発行
- 「START」第2号 4,000部
2014年12月19日発行

【高校生企画①】ヒップホップダンスイベント「POWER」実施

- 【日 時】2014年8月17日（日）

【高校生企画②】写真コンテスト&表彰イベント「CRASH」実施

- 【日 時】2015年3月8日（日）



高校生イベント
「CRASH」の様子

2 「ひな」と「かのん」の絵画展

- 【期 間】2015年1月16日（金）～3月15日（日）
- 【内 容】ゴービトウィーンズ展開催期間に合わせて、特異な絵画の才能をみせる双子の「ひな」と「かのん」8歳～16歳の現在までに描いた絵画展
- 【場 所】県立博物館・美術 企画展示室 ショップスペース

3 出前授業

回	学校名	期日	回	学校名	期日
1	銘苅小学校 3年	7月10日	7	那覇特別支援学校中学部	11月25日
2	真和志小学校 4年	9月25日	8	大平特別支援学校高等部	11月19日
3	那覇小学校 6年	9月26日	9	仲西中学校 1年	11月25日
4	仲井間中学校特別支援学級	9月29日	10	小禄小学校 5年	11月25日
5	沖縄県立ろう学校中学部	10月14日	11	城南小学校 3年	12月4日
6	立白川小学校 6年	11月11日	12	内間小学校 3年	12月5日

4 各種専門学校対応

回	月日	曜	学校名	見学者
1	1月16日	金	インターナショナルデザインアカデミー	24人
2	2月5日	木	那覇情報専門学校	10人
3	2月13日	金	尚学院SIBA (近畿大学通信教育課程)	7人
4	2月17日	火	インターナショナルデザインアカデミー高等課程	40人
5	3月4日	木	沖縄写真デザイン学校	7人

IV. 資料収集・保存管理

1. 収蔵作品現在高

2015年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	その他	総計
平面	355	1,155	64	2	1,576
立体	29	220	0	8	257
映像	365	1,363	0	0	1,728
その他	13	12	1	3	29
総計	762	2,750	65	13	3,590

※映像の中に写真作品を含む。

※H25年度年報より収蔵作品現在高から寄託作品を除き、分類を見直した。

2. 2014 (平成26) 年度 新収蔵作品高

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	23	145	0	63	231
立体	0	28	0	0	28
映像	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
総計	23	173	0	63	259

3. 2013 (平成25) 年度 新収蔵作品目録

【購入】

2014年3月31日～2015年4月1日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	
平面	絵画	北川 民次	沖縄のなげき	1957年	キャンバス、油彩	1
		北川 民次	琉球の嘆きと怒り	1959年	紙、水彩	1
		大嶺 政敏	井戸端	1942年	キャンバス、油彩	1
		鳥海 青児	修理の家 (沖縄)	1959年頃	キャンバス、油彩	1
		内間 安理	Forest Byobu (Autumn)	1979年	油彩、キャンバス	1
	版画	内間 安理	Space Bouquet	1977年	多色木版、紙	1
		内間 安理	Space Tranquility : Sphere	1972-76年	多色木版、紙	1
		内間 安理	Flight	1969年	多色木版、紙	1
		内間 安理	Emerald in Crimson	1969-75年	多色木版、紙	1
		内間 安理	Forest Byobu (Shrub Oak-Autumn)	1979年	多色木版、紙	1

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量
平面 版画	内間 安理	Forest Byobu (Autumnal Blend B)	1981年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Forest Byobu(Bamboo)	1980年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Window Nuance (Red-Ochre) B	1978年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Through the Vertical Blue	1976年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Six Semi-Spheres	1976-77年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Vertical Calm (Dawn)	1972年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Blue to White : Cascade	1976年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Winter Vista	1963年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Reflections in Rain	1965年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Night Descends	1966年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Pause - Allegro	1959年	多色木版、紙	1
	内間 安理	Forest Byobu (Twilight Weave) A	1981年	多色木版、紙	1
内間 安理	Nostalgia in Black	1960年	多色木版、紙	1	

【寄贈】

2014年4月1日～2015年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
平面 絵画	玉那覇 正吉	紙銭をたく	1980年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	厨子などのある風景	1979年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	灯	1980年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	或る風景	1957年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	磴道のある風景	1972年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	作品	1957年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	ノートルダム	1983年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	ある風景A	1958年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	城砦A	1981年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	畠	1942年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	よりあう日	1980年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	曼茶羅華	1968年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	作品B	1958年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	破船	1958年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	破船	1960年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	石灰焼く窯	1960年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	帆影	1961年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	坐礁	1962年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	缸	1963年	キャンバス、油彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	海の見える陶房	1974年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	厨子のある風景	1977年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	坐礁	1978年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	紙銭をたく	1983年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	城砦D	1981年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	城砦 (仮題・絶筆)	1983年 7月	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	自画像	1946年	キャンバス、	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	千瀉にて	1973年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	陶房黄昏	1973年	キャンバス、アクリル	1	板良敷やよい
	大城 皓也	老樹	—	キャンバス、油彩	1	久根次 清子
	大城 皓也	タイトル不明 1	—	キャンバス、油彩	1	久根次 清子
	大城 皓也	タイトル不明 2	—	キャンバス、油彩	1	久根次 清子
	大城 皓也	読書と静物	1952年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子
大城 皓也	タイトル不明 3	1954年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
大城 皓也	タイトル不明 4	1955年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者		
平面	絵画	大城 皓也	三人	1958年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	蔭	1958年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	黒い二人の人物	1958年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	石垣とがじゅまる	1959年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	石垣とがじゅまる	1959年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	タイトル不明 5	1960年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	がじゅまる	1960年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	石垣とがじゅまる	1960年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	断層	1962年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	入場式	1964年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	聖火到着	1964年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	画家とモデル	1965年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	静夜	1965年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	タイトル不明 6	1965年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	凧あげ	1965年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	タイトル不明 7	1965年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	鳥の手品師	1966年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	風景	1967年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	基地の家族	1967年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	神々の誕生 (B)	1967年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	タイトル不明 8	1967年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	久高島の祝女	1967年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	戦場へゆく	1968年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	基地の五月	1968年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	沖縄の子供たち	1968年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	琉球船舶旗	1968年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	追憶の村	1971年	キャンバス、油彩	1	久根次 清子	
		大城 皓也	斧山 万次郎	風景作品 (1) (仮題)	1942年	板、油彩	1	井上 てる
		大城 皓也	斧山 万次郎	風景作品 (2) (仮題)	1942年	板、油彩	1	井上 てる
		大城 皓也	斧山 万次郎	風景作品 (3) (仮題)	1942年	板、油彩	1	井上 てる
		大城 皓也	斧山 万次郎	風景作品 (4) (仮題)	1942年	板、油彩	1	井上 てる
		大城 皓也	斧山 万次郎	守礼門	1942年	キャンバス、油彩	1	井上 てる
		大城 皓也	山元 文子	貝たちのパーティー	1989年	キャンバス、油彩	1	山元 文子
		大城 皓也	山元 文子	望郷花二輪	1990年	キャンバス、油彩	1	山元 文子
大城 皓也	久場 とよ	R子の像	1974年頃	キャンバス、油彩	1	長田 潤美		
大城 皓也	木下 晋	流浪 (母・木下セキ)	1995年	鉛筆、ケント紙	1	木下 晋		
大城 皓也	内間 安理	Forest Byobu	不明	油彩、キャンバス	1	内間 安樹		
大城 皓也	内間 安理	題不詳	不明	油彩、キャンバス	1	内間 安樹		
平面	版画	内間 安理	Forest Byobu (Early Morning Sun)	1980年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Forest Byobu (Autumn Echo)	1980年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Evening Poem	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Tide Rhythm	1957年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Forest Byobu (Twilight Weave) A	1982年	油彩、キャンバス	1	内間 安樹	
		内間 安理	Sphere in square	1969年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Space Gesture	1972年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	Two Spheres in Space	1971-76年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
		内間 安理	In Space	1969年	多色木版、紙	1	内間 安樹	

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
平面 版画	内間 安理	In Blue (Dai)	1975年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Towards	1976年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Into Space	1971年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Sky,Sea,Earth	1969年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Space Landscape (B)	1971年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Arctic Landscape	1973年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Forest Byobu (Screen)	1978年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Forest Byobu(Fragrance)	1981年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Solitude	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Space Poem A	1974年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Flight	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Sky Stage	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Twilight (Viridian)	1973年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Spring Snow	1962年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Spring Waves	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Katsu!	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	In Memorial	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Stream Murmur	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	A Joyful Moment	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Diminutive Rainbow	1962年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Prelude to Winter	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Flow and Grass	1961年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Hymns	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Joy (Pink)	1967年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	題不詳	1960年代	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Ruins (B)	1967年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Felicitation	1961年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Frosty Morn	1962年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Thirst	1960年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Withered Field	1961年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Still Flow	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Invocation	1964年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Twilight	1964年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Early Moon	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Evening Calm	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Spring Breeze	1965年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Spring Mist	1962年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	White Mts.	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Fragmental	1964年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Mexican Valley	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	題不詳	不明	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Early Summer Rain	1961年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	City Light	1967年	多色木版、紙	1	内間 安樹
内間 安理	Composition	1959年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	An Emotion	1958年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	Winter	1959年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	A Clear Day	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	Flowing Leaves	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	Interior Impression	1965年	多色木版、紙	1	内間 安樹	
内間 安理	Impromptu	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹	

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
平面 版 画	内間 安理	Toward	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Composition with Balls	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Mondo (B)	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	By the Flow	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Evening Violet	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Silvery Flow	1966年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Stirring	1967年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Oasis	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Northern Landscape	1968年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	By the Lake	1961年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Calligraphy	1959年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	One Morning	1965年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Otome	1959年	多色木版、紙	1	内間 安樹
	内間 安理	Descending Moon	1963年	多色木版、紙	1	内間 安樹
立体 彫 刻	玉那覇 正吉	故島袋俊一先生像	1968年	石膏、着彩	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	吉浜加那翁胸像	1972年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	奥間盛正師胸像	1971年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	猫の頭	1953年	木	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	頭部習作	1957年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	琉髪の娘「ある娘たちへの鎮魂歌」	1982年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	アップの娘	1971年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	大工の徳さん	1980年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	頭	1950年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	童心	1978年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	K氏の顔	1951年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	首習作	1953年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	夏の日	1978年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	Y子習作	1970年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	Y子習作	1977年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	Y子習作	1978年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	ヨッピーちゃん	1978年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	仏頭試作	1951年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	若夏国体メダル	1972年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	お下げ像	1964年	石膏、彩色	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	彦君（正彦像）	1958年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	吉子の像	1959年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	兎	1954年	石膏	1	板良敷やよい
	玉那覇 正吉	きつね	1953年	木	1	板良敷やよい
玉那覇 正吉	蝸牛	1966年	木	1	板良敷やよい	
玉那覇 正吉	吉彦像	1977年	石膏	1	板良敷やよい	
玉那覇 正吉	吉彦君	1977年	石膏	1	板良敷やよい	
玉那覇 正吉	琉球大学教育部モニュメントのための標型	1983年	石膏、ステンレス棒	1	板良敷やよい	

【寄託】

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者
平面 絵 画	名渡山 愛順	風景	1959年	キャンバス、油彩	1	松岡 啓
	名渡山 愛順	裸婦	1959年	キャンバス、油彩	1	沖縄食糧株式会社
	名渡山 愛順	白地がすりの半裸像	1955年	キャンバス、油彩	1	オリオンビール株式会社

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者
平面写真	森山 大道	沖縄CL (17)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (18)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (19)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (20)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (21)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (22)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (23)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団
	森山 大道	沖縄CL (24)	2013年	インクジェットプリント	1	一般社団法人 森山大道写真財団

4. 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

平成26年度は、展示活動の充実を図るため2回の美術作品等収集委員会を開催し、購入23点、寄贈173点、寄託63点について諮った。作品の収集にあたっては事前調査を基に、美術館学芸員会議で一次審査を行い、二次審査で熟考した後に、県内外の有識者で構成された収集委員会で審議。所定の手続きを経て収集した。購入は、北川民児、鳥海青次、内間安理の作品であった。また、寄贈は、木下晋、玉那覇正吉、大城皓也、久場とよ、山元文子らの作品があり、寄託は、森山大道、名渡山愛順の作品があった。

(玉那覇 英人)

5. 保存管理事業

(1) 保存環境の整備

沖縄県民の財産である収蔵美術作品の適切な保存を目的として、収蔵庫及び展示スペース内の温湿度が年間を通して一定に維持されるよう管理を徹底し、保存環境の整備を行う。具体的には、IPM管理の徹底による虫菌害予防（ペストコントロールを含む）が、まず挙げられる。収集等の際に、新たな美術作品を館に入れる前の消毒など、対策の強化を重点的に行っている。さらに収蔵美術作品においては、効率的な状態調査を計画し、実施することで、今後の修復計画をよりスムーズかつ安全に行うよう配慮している。

(2) 収蔵作品の保存修復

収蔵作品のコンディション調査を行い、生物劣化や物理劣化、化学劣化等に応じた修復計画を立てて、その作業内容に沿った修復家への依頼を、下記収蔵作品4点について行った。また企画及び常設展へ出品するための状態チェック、修復作業、額装及び金具等整備作業、版画作品のマウント作業、借用作品の状態チェックなどを行った。保存修復内容の詳細は以下の通りである。

修復委託

件	種別	点数	処置内容	備考
1	油彩画	1	絵具層の浮き上がり剥落周縁の固着。画面洗浄。木枠とキャンバスを分離しキャンバス裏面の汚損の除去と殺菌洗浄。キャンバス破れの繕い。ストリップライニング。支持体の変形修正。画布の張り込み。はく落部分の充填、整形、補彩。ニス吹付による画面保護。	大城皓也「聖火到着」 依頼先：油絵保存修復 たけのした工房
2	油彩画	1	絵具層の浮き上がり剥落周縁の固着。画面洗浄。木枠とキャンバスを分離しキャンバス裏面の汚損の除去と殺菌洗浄。キャンバス破れの繕い。ストリップライニング。支持体の変形修正。画布の張り込み。はく落部分の充填、整形、補彩。ニス吹付による画面保護。	大城皓也「読書と静物」 依頼先：油絵保存修復 たけのした工房

件	種別	点数	処置内容	備考
3	油彩画	1	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着強化。画面洗浄。キャンバス裏面の汚損の除去と殺菌洗浄。キャンバス破れの繕い。支持体の変形修正。新調した木枠へポリエステル布を使用したルースライニング。はく落部分の充填、整形、補彩。ニス吹付による画面保護。	大嶺政寛「南又窯」 依頼先：中井久代
4	油彩画	1	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着強化。画面洗浄。キャンバス裏面の汚損の除去と殺菌洗浄。キャンバス破れの繕い。支持体の変形修正。新調した木枠へポリエステル布を使用したルースライニング。はく落部分の充填、整形、補彩。ニス吹付による画面保護。	大嶺政寛「尚子像」 依頼先：中井久代

(3) 収蔵品修復(館内処置)

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
伊藤 清永	紺地小	油彩・キャンバス	額装の改善、作品固定金具、吊金具変更裏板の設置	コレクション1期
藤田 嗣治	辻美人	油彩・板	吊金具変更	コレクション1期
大嶺 政寛	龍潭池畔	油彩・キャンバス	額装の改善、作品固定金具、吊金具変更 裏板の設置	コレクション1期
島田 寛平	壺屋の朝	油彩・キャンバス	額装の改善、作品固定金具、吊金具変更 裏板の設置	コレクション1期
安次富 長昭	民話に憑かれて(A)	油彩・キャンバス	額装の改善、吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
与那覇 朝大	廃墟	油彩・キャンバス	吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
玉那覇 正吉	獅子窟	油彩・キャンバス	吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
玉那覇 正吉	老母像	油彩・キャンバス	吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
宮良 瑛子	レクイエム沖繩	油彩・キャンバス	吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
岡本 太郎	コンポジション	油彩・キャンバス	額装の改善、作品固定金具、吊金具変更 裏板の設置	コレクション1期
喜久村 宏	海中道路	油彩・キャンバス	吊金具変更、裏板の設置	コレクション1期
稲嶺 成祚	海水浴	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がり接着(魚膠3%)	コレクション2期
照屋 勇賢	「Heroes V・ウルトラマン」	綿布・染料	既存のパネルにポリエステル布でルースライニング、作品張り込み、吊金具変更	コレクション3期
内間 安理	Forest Byobu	油彩・キャンバス	額装の改善、吊金具変更、裏板の設置	企画展
内間 安理	Forest Byobu(Autumn)	油彩・キャンバス	額装の改善、吊金具変更、裏板の設置	企画展
内間 安理	Forest Byobu (Twilight Weave)A	油彩・キャンバス	コールドプレスによる変形修正、額装の改善、吊金具変更、裏板の設置	企画展
内間 安理	Forest Weave	油彩・キャンバス	木枠の新調、張り込み、額装	企画展
内間 安理	Tide Rhythm 波のリズム	多色木版・紙	ペーパーハニカム(厚さ13mm)を台紙として、作品の周囲にスリットを空け、ヒンジを通し、装着	企画展
山元 文子	遙かなるさと	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がり接着(魚膠3%)、額装の改善、作品固定金具、吊金具変更、裏板の設置	H25コレクション3期
鳥海 青児	修理の家	油彩・キャンバス	グレージング(ガラス)除去 額装の改善、裏板設置、吊金具交換	H26 購入
普天間 敏	琉舞	石膏版画・紙	絵具層の剥落片接着(魚膠5%)	コレクション3期
大嶺 政敏	壺屋	油彩・キャンバス	精製水による画面洗浄、絵具層の浮き上がり接着(魚膠3%、5%) キャンバス破れ部分の繕い、ストリップライニング、変形修正	H26 購入

注記

・館内処置について

作品における処置は全て当館保存修復嘱託員 梶原正史が行った。

額装の改善とは主に入れ子へのフェルト貼りや、スパーサー装着、額縁裏面・泥足の補強、ぐらつき防止のネジ止め、割れの接着、汚損の除去など。

・修復に使用した材料について

作品に悪影響を及ぼすことがないこと、材質的に安定していて、将来的に除去が可能なことを前提に、様々な作品状態にあったものを使用している。

(4) その他

2014年度コレクション展における出品候補作品の状態チェック

2014年度の移動展における出品作品(立体作品6点)の状態チェック(搬入・搬出時)を行った。

2014年度の企画「内間安理」展における出品作品(版画・水彩作品24点)のヒンジ付、全作品のマウント作業の補助、額装の点検を行った。また出品作品の額装における吊金具交換を行った。

2014年度の企画「ゴー・ビトゥイーンズ」展における搬入・搬出時の平面作品の状態チェックを行った。

次年度常設展に向けた額縁仕様の提案、貸出における梱包仕様についての提案

個人美術品収集家宅で次年度常設展出品候補作品の状態調査

琉球大学付属図書館・資料一時預かり作品の状態調査

6. 作品貸出

2014年度は、下記のとおり2件の館外貸出を行った。なお美術館では、借用先のファシリティーズレポートの提出と、温湿度管理に関する情報提供を求めた後に、厳正な審査の下で可否を決定している。また、輸送会社へ貸出作品の状態に合わせた梱包仕様の提案を行い、作品貸出及び返却作業には、美術館職員と借用先職員の両者が立ち合い、作品状態の点検を行っている。

① 展覧会名：企画展「美術館でわぁお!!!—わくわくアート×クラフト」

展覧会場：浦添市美術館（沖縄県）

貸出期間：2014年7月15日～9月13日

貸出作品：シロマ・アルド<Soy Otto> <Var Idad> <Cuarto Para Pensar> 3点

 タイン・チュオン<僕と僕> 1点

 儀間比呂志<糸満の男シリーズNo. 3> 1点

 玉那覇正吉<目しいた野良猫> 1点

 ウエチヒロ<アーマン世(太古)海のかたりべ> 1点

② 展覧会名：「鉛筆のチカラ—木下 晋・吉原芳生」

展覧会場：熊本市現代美術館（熊本県）

貸出期間：2014年11月21日～2015年2月16日

貸出作品：木下 晋<流浪>1995年 1点

(大城 仁美・梶原 正史)

文化の杜共同企業体 (指定管理者)

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館
企画アドバイザー会議
- V 展示活動
- VI 教育・イベント活動
- VII 広報・交流事業
- VIII 調査・研究等の活動
- IX その他

I. 文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した2007年（平成19年）11月1日から指定管理者の文化の杜共同企業体（代表・平良知二：2014年6月27日迄、上原徹：2014年6月27日就任）、通称「文化の杜」）があたっている。

文化の杜共同企業体は、（株）沖縄文化の杜（代表取締役社長・平良知二：2014年6月27日迄、上原徹：2014年6月27日就任）、（株）沖縄タイムス社（代表取締役社長・豊平良孝）、（株）国際ビル産業（代表取締役社長・上地宏和）の3社で構成。出資比率は代表者の（株）沖縄文化の杜が8割、（株）沖縄タイムス社と（株）国際ビル産業がそれぞれ1割となっている。（株）沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として2007年1月に（株）沖縄タイムス社の100%出資で設立。（株）沖縄タイムス社は新聞社として1948年7月の創立。常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ、戦後沖縄の文化振興の一翼を担っている。（株）国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設やホテル、病院等の管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この3社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。指定管理の期間は、第一期が2007年11月1日から2011年3月31日までの3年5か月。第二期が2011年4月1日から2016年3月31日までの5年間。

（赤嶺 昌樹）

II. 運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的及び基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かし、県民はもとより国内外からの来館者に満足していただくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理・運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。さらに県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指している。

具体的には①沖縄の文化振興の拠点とする②創造力あふれる次世代人材育成の場とする③アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする④「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする⑤県民ぐるみの取り組み推進の一管理運営方針を掲げている。

2014年度は沖縄県立博物館・美術館の第二期目の指定管理者として4年目の年である。過去の実績と蓄積したノウハウを存分に発揮し、県の博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで主催する年3つの企画展と、博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営している。この結果、2014年度の総入館者は424,602人に達している。

沖縄の文化振興の拠点とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、その機能を最大限に生かして県内外に発信するとともに、県民が自らの歴史・文化に自信と誇りを持ち、学べる文化振興の拠点とする。

創造力あふれる次世代人材育成の場とする

新しい時代に向けた芸術・文化を担う人材育成に努める。IT関連によるCGデザインや音楽、建築、アーバンデザイン等の空間芸術も含め、全国的、世界的にも注目されるアーティストなどを輩出する場とする。2012年度から沖縄県立芸術大学が当館のキャンパス・メンバーズ第1号となり、2013年度からは沖縄国際大学、2015年度からは尚学院国際ビジネスアカデミーも加わる。今後とも若い世代を博物館・美術館に呼び込んでいく。

アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする

沖縄は歴史的・文化的にアジア諸国との接点が多く、観光振興の面からもその利点を生かした交流・連携が求められる。2014年度はクルーズ船の乗客の誘致などに力を入れ、さらに2月に完成した那覇空港国際線新ターミナルビルの手荷物受け取り所に当館の電照掲示板を設置するなど外国人客の誘致に力を入れている。

「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする

沖縄の独自性、固有性を大事にしながら、同時に世界の歴史・文化に高い関心を寄せる県民と歩調を合わせ、その期待に応えられる企画やイベントを展開する。「特異性から普遍性へ」「地域性から世界性へ」へと昇華していく目と技を磨く場とする。

県民ぐるみの取り組み推進

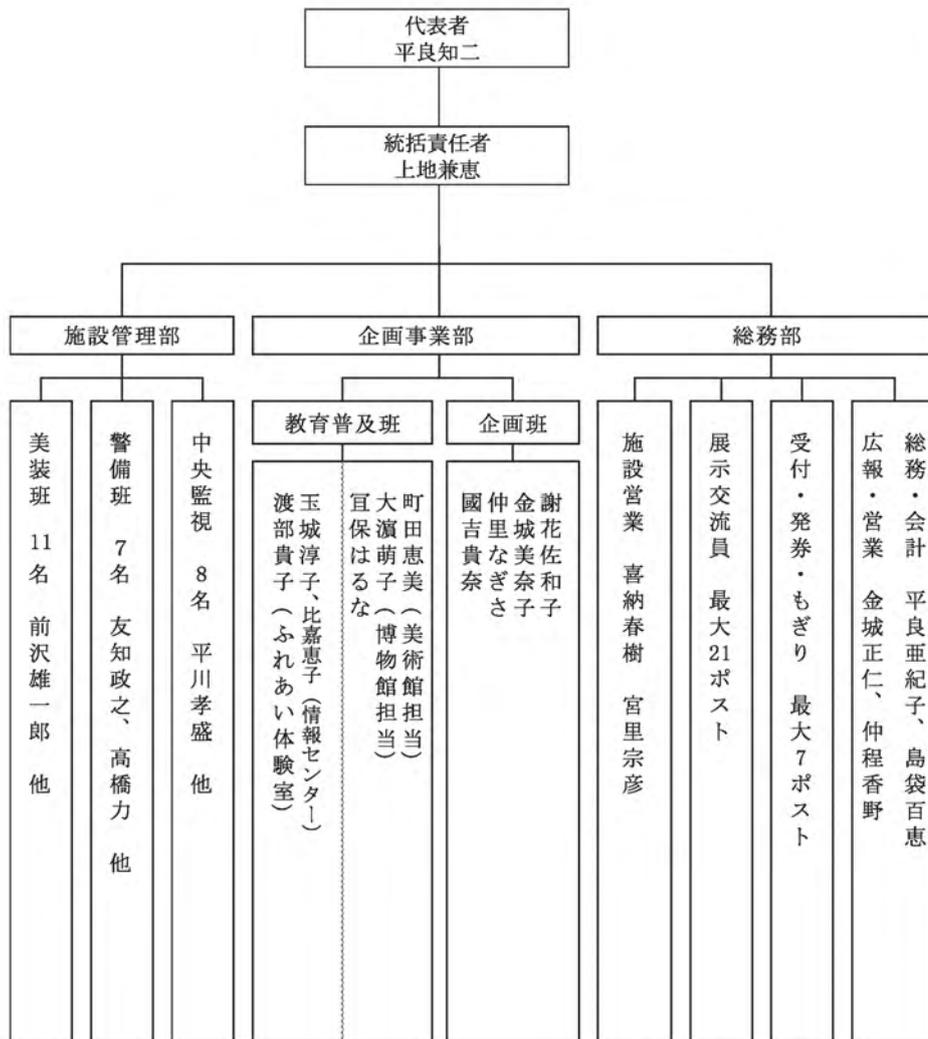
博物館・美術館の「教育普及事業」などを通して、県の学芸員とも協力して各種の講座、講演会、ワークショップなどを数多く開催し、県民のための博物館・美術館とする。また、展示会や出前講座などで積極的に館外にも飛出し、野外学習、フィールドワークなどを通して県民と館との結びつきを強め、次代を担う人材育成にも貢献する。

(赤嶺 昌樹)

III. 組織

文化の杜共同企業体は、代表を平良知二(2014年6月27日迄)・上原徹(2014年6月27日就任)、現場責任者を上地兼恵(2014年6月27日迄)・赤嶺昌樹(2014年7月1日就任)とし、総務部、企画事業部(企画班、教育普及班)、施設管理部(設備班、警備班、美装班)で構成された体制で、当館を管理・運営している。2007年の開館より外部有識者による助言・意見交換の場としてアドバイザー会議を設置し、主に当企業体による美術企画展などの助言を受ける毎月の定例会議を開催している。

2014年4月1日現在



※ミュージアムショップ「ゆいむい」 (沖縄文化の杜運営：池宮城啓子、玉城照美、アルバイト4人)
 ※ミュージアムカフェ「茶花」 (カフェワンオアエイトへ業務委託)

【職員構成】

2014年4月1日現在

班	氏名	担当業務
代表	平良 知二	共同企業体の統括に関する事
統括	上地 兼恵	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関する事
総務	平良 亜紀子	共同企業体予算管理、人事管理（発券、総合案内、展示交流員等）に関する事
	中程 香野	総務に関する事
	島袋 百恵	総務補助、クーポン券やその他総務全般に関する事
	金城 正仁	営業、広報に関する事
	喜納 春樹	企画、施設貸出に関する事
	宮里 宗彦	施設管理、県民ギャラリーに関する事
教育普及	大濱 萌子	教育普及（博物館業務）に関する事
	町田 恵美	教育普及（美術館業務）に関する事
	亘保 はるな	教育普及業務の補助
	玉城 淳子	情報センターの管理・運営に関する事
	比嘉 恵子	情報センター業務
	渡部 貴子	ふれあい体験室、教育普及に関する事
企画事業	謝花 佐和子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	金城 美奈子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	仲里 なぎさ	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	國吉 貴奈	企画展、受託業務、自主事業に関する事
施設管理	平川 孝盛	施設管理全般の統括に関する事
	友知 政之	警備の統括に関する事
	平川 孝盛	設備の統括に関する事
	前沢 雄一郎	清掃の統括に関する事
総合案内・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関する事
展示交流員		展示室における監視業務、誘導、解説等に関する事
ふれあい体験室		ふれあい体験室での来館者諸対応に関する事

【人事異動】

2015年3月31日現在

部 署	氏 名	適 用
転入		
代表	上原 徹	2014年6月27日 代表就任
統括	赤嶺 昌樹	2014年7月1日 統括就任
施設管理	安仁屋 勇作	国際ビル（2014年6月10日）配置（中央監視）
	楚南 勲	国際ビル（2014年10月21日）配置（中央監視）
	仲村 裕也	国際ビル（2015年1月27日）配置（美装）
転出		
施設管理	宮里 朝彰	国際ビル（2014年6月30日）異動
退職		
代表	平良 知二	2014年6月27日付
統括	上地 兼恵	2014年6月27日付
施設管理	山川 雄策	2014年10月31日付
	前沢 雄一郎	2014年12月31日付

IV. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

指定管理者主催の美術館企画展及び自主企画事業などの展覧会運営についての助言や意見交換の場として、県内の有識者で構成された会議を月1回開催した。文化の杜共同企業体からは、代表、統括、企画班員、教育普及班員（美術館担当）が出席した。2014年度のアドバイザー及び開催状況は、次の通りである。

美術館企画アドバイザー名簿（2014年4月1日～2015年3月31日）

	氏名	所属	職名
学識経験者	栗国 恭子	沖縄文化工芸研究所 主宰	大学非常勤講師
学識経験者	大城 亘武	沖縄キリスト教学院大学 他	大学非常勤講師
学識経験者	西村 貞雄	琉球大学	名誉教授
学識経験者	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学附属研究所	教授
オブザーバー*	安里 進	沖縄県立博物館・美術館	館長
オブザーバー	前田 比呂也	沖縄県立博物館・美術館	美術館副館長兼班長

※2014年6月まで参加

開催状況

回	日時	場所	出席者
79	4月21日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉、安里進
80	5月26日(月) 18:00～20:10	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉、安里進
81	6月16日(月) 18:00～19:20	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉、安里進
82	7月28日(月) 18:00～19:20	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
83	9月29日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄
84	10月20日(月) 18:00～19:45	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
85	11月17日(月) 18:00～19:20	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、波照間永吉
86	12月15日(月) 18:00～19:30	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
87	1月19日(月) 18:00～19:10	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
88	2月23日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
89	3月17日(火) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉

(以上、五十音順、敬称略)

V. 展示活動

1. 展示活動概要（美術館企画展）

指定管理2期目4年目にあたる本年度は、4月～9月にかけて3企画展を開催し、県外作家、沖縄県に縁のある作家、また海外作家などによる絵画、写真などの作品を展示した。3展覧会の観覧者総数は22,722人となった。

(1) 「木下晋展 生命の旅路」

会 期：2014年4月4日（金）～5月6日（火）（開催日数29日）
 場 所：美術館企画ギャラリー1・2
 観 覧 料：一般800円、高校・大学生500円、小・中学生300円

観覧者数：3,112人（1日平均107人、有料率89.6%）

担当学芸員：金城美奈子

【開催形式】

主催：文化の杜共同企業体、沖縄県立博物館・美術館

共催：沖縄タイムス社

特別協力：原爆の図丸木美術館

後援：沖縄県教育委員会、NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク、エフエム沖縄、ラジオ沖縄、タイフーンfm

【開催趣旨】

10Hから10Bまでの22段階の鉛筆を駆使し、「最後の警女（ごぜ）」といわれた小林ハル、元ハンセン病患者の詩人・桜井哲夫など、過酷な運命を生きた人々を緻密な線描で表現する木下晋。2013年6月、彼はその原点ともいべき絵本「はじめての旅」（福音館書店）を出版した。本展ではその絵本原画を出発点に、16歳でクレヨンを油彩代わりに使用して描き、自由美術協会展に初入選したデビュー作《起つ》をはじめ初期油彩画、さらに長い苦悩を経てたどり着き、彼の代名詞ともなった鉛筆画の数々へと続いていく木下晋の長い旅路を紹介した。

【展示内容】

絵本原画、クレヨン画、油彩画、鉛筆画、彫塑、鉛筆グラデーションなど119点

【関連催事】

①開会式

日時：4月4日（金）9：15～9：30

場所：企画ギャラリー入口前

出席者：木下晋（出品作家）、その他（主催者、共催者）

参加者：45人



②ギャラリートーク

日時：4月4日（金）9：30～10：10

場所：企画ギャラリー

講師：木下晋

参加者：45人 ※参加には当日有効の入場券が必要



日時：4月29日（火・祝日）11：00～12：00、14：00～15：00※1日2回

場所：企画ギャラリー

講師：木下晋

参加者：51人（11：00～12：00）、56人（14：00～15：00） ※参加には当日有効の入場券が必要

③記念対談

日時：4月5日（土）14：00～15：50

場所：講堂

出演：木下晋×青木新門（映画「おくりびと」原案『納棺夫日記』著者）

参加者：110人



④鉛筆画ワークショップ「自画像を描く」

日時：4月6日（日）10：30～12：00、13：00～16：00

場所：県民・子どもアトリエ

講師：木下晋

参加者：23人（定員25人） 参加費：500円



⑤絵本読み聞かせ（2回）

日時：4月12日（土）14：00、16：00

場所：企画ギャラリー内

読み手：田名洋子、田名優子（沖縄県子どもの本研究会）

参加者：27人（14：00/11人※うち子ども1人、16：00/16人※うち子ども3人）

日 時：4月19日（土）14：00、16：00

場 所：企画ギャラリー内

読み手：山内淳子、平良京子（沖縄県子どもの本研究会）

参加者：32人（14：00/18人※うち子ども2人、16：00/16人※うち子ども4人）

※上記いずれも参加には当日有効の入場券が必要

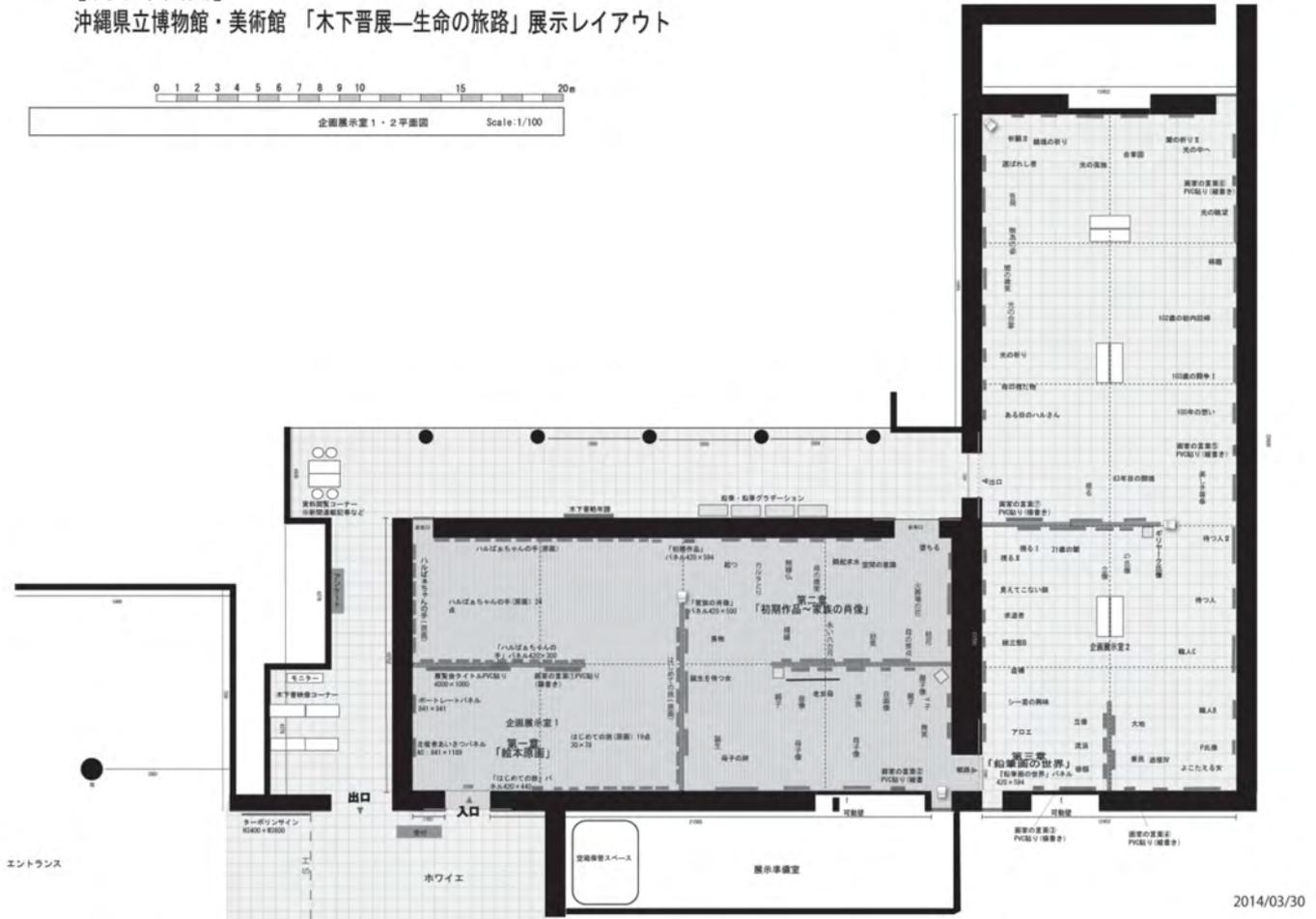
⑥担当学芸員ギャラリートーク

日 時：4月26日（土）11：00～12：00 場所：企画ギャラリー 担当：金城美奈子

参加者：11人 ※参加には当日有効の入場券が必要

【展示平面図】

沖縄県立博物館・美術館「木下晋展—生命の旅路」展示レイアウト



(2)「麗しき琉球の記憶—鎌倉芳太郎が発見した“美”」

会 期：5月20日（火）～6月22日（日）（開催日数30日）

場 所：美術館企画ギャラリー1・2、博物館特別展示室2

観 覧 料：一般800円、高校・大学生500円、小・中学生300円

観 覧 者 数：3,914人（1日平均130.5人、有料率88.6%）

担 当 学 芸 員：謝花佐和子、仲里なぎさ

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体、沖縄県立博物館・美術館

共 催：沖縄県立芸術大学

特別協力：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、沖縄タイムス社 協賛：株式会社 国建

後 援：沖縄県教育委員会、琉球新報社、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ放送、NHK沖縄放送局、
沖縄ケーブルネットワーク、エフエム沖縄、ラジオ沖縄

【開催趣旨】

鎌倉芳太郎（1898 [明治31]）～1983 [昭和58] 年）は、香川県氷上村（現三木町）に生まれ、1973（昭和48）年「型絵染」の重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された。1918（大正7）年東京美術学校図

画師範科に入学し、卒業後の1921（大正10）年4月より沖縄県女子師範学校の教師として赴任し、「琉球芸術」を精力的に踏査した。帰京後の1923（大正12）年東京美術学校研究科に入学し、伊東忠太の指導を受けながら琉球芸術研究を継続した。その後「啓明会」の支援を得た琉球文化の調査や、首里城取り壊しの動きを止める働きかけなどの琉球文化の保存、さらに展覧会開催で調査研究の発信に取り組んだ。琉球紺屋の宗家の調査発掘、また沖縄島をはじめ離島まで範囲を広げた民俗などの現地調査、さらに首里城、浦添城などの発掘調査も行っている。

これらの調査は、琉球文化の広範にわたる研究記録であり、当時の美術工芸、民俗祭祀などの琉球文化の総合的な記録として、次代に継承する必要がある貴重な資料である。本展は、これらの記録を中心に構成し、保存された資料や戦火を免れた作品などを展示し、観覧者が当時の琉球の美のイメージや様相を想像力で立ちあがらせ、「琉球芸術」を現代沖縄の日常生活につなげる展覧会を目指した。

【展示内容】

「琉球との出会い 琉球芸術の踏査」、「琉球の美」、「美の昇華」（以上、美術館企画ギャラリー）、「鎌倉芳太郎と“琉球の美”の再生」（博物館特別展示室2）で展示構成。

【関連催事】

①開会式

日 時：5月20日（火） 9：15～9：30

場 所：企画ギャラリー入口前

出席者：島袋君子（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 館長）、山川文康（個人收藏者）、座開き「赤馬節」：喜舎場慶子、真玉橋光子、新川千枝子（八重山舞踊勤王流祥吉華慶の会 喜舎場慶子舞踊研究所）、その他（主催者、共催者）

参加者：約30人

②展覧会担当ギャラリートーク

日時：5月24日（土） 11：00～12：00 場所：美術館企画ギャラリー

講師：謝花佐和子

参加者：33人 ※本展当日有効観覧券が必要

③特別講演会／クロストーク

日 時：5月31日（土） 14：00～15：30

場 所：講堂

講 師：高草茂（元岩波書店 顧問）、
波照間永吉（沖縄県立芸術大学附属研究所 教授）

内 容：鎌倉芳太郎氏の大作『沖縄文化の遺宝』の編集者である高草茂氏による編集当時のエピソードなどを交えた講演と、「鎌倉ノート」の編集・刊行に携わる波照間永吉氏とのクロストークでプログラムを構成した。鎌倉氏の沖縄文化に寄せた想いや、編集者としてどう関わったかなどを聞く機会となった。

参加者：175人（定員200人）



④ギャラリートーク「鎌倉資料からみる復元のあゆみ」

日 時：6月7日（土） 14：00～15：00

場 所：美術館企画ギャラリー

講 師：西村貞雄（琉球大学 名誉教授）

内 容：石造彫刻や文様などを取り上げながら、講師がこれまで関わった復元などのエピソードも交え、復元における鎌倉資料の重要性などを解説した。

参加者：68人 ※本展当日有効観覧券が必要



⑤ワークショップ ピンホールカメラで「崇元寺」を撮影しよう！

日 時：6月8日（日） 10：30～13：00（終了予定）

場 所：博物館・美術館県民ギャラリースタジオ（カメラ製作、写真現像）、崇元寺（撮影場所、※雨天・荒天の場合は当館敷地内に変更）

講 師：丑番直子（photographer）

内 容：ピンホールカメラの一部工程を参加者が制作し、崇元寺での撮影、さらに現像まで行った。

対 象：小学3年生以上（小学生は保護者同伴で参加） 参加費：1,000円
参加者：11人（親子2組）



⑥シンポジウム

日 時：6月14日（土） 14：00～16：30

場 所：講堂

プログラム：

第1部 「“琉球芸術” への今日的視座」

パネリスト：渡久地健（琉球大学 准教授） 平良啓（株式会社国建 取締役） 岡本亜紀（浦添市美術館 学芸員） 栗国恭子（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員・同大非常勤講師）

第2部 パネルディスカッション『「鎌倉資料」が現在の沖縄に物語ること』

司 会：謝花佐和子（文化の杜）

内 容：第1部では、各パネリストが専門分野において一次資料としての鎌倉資料をどうみたかについて発表し、第2部では、鎌倉資料との関わりや出会い、そして今後の資料研究への方向性などについて語った。

参 加 者：130人（定員200人）

⑦ワークショップ 「紅型」にふれてみよう

日 時：6月14日（土）10：30～13：00 15日（日）10：30～16：00（2日連続）

場 所：県民・子どもアトリエ

講 師：名護朝和（沖縄県立芸術大学 准教授）

内 容：2日連続講座で、自由に文様を組み合わせて紅型模様をつくり、型染め体験までを行った。

対 象：小学3年生以上（2日間通して参加できる方、小学生は保護者同伴で参加） 参加費：1,000円

参加者：12人（親子2組）

【その他（協力者・機関等による同時期開催）】

①沖縄県立図書館 エントランス展示

会期：5月21日（水）～6月16日（日）

場所：エントランス周辺（沖縄県立図書館内）

主催：沖縄県立図書館

内容：本展示紹介パネル展及び鎌倉芳太郎の関連資料を展示貸出

②展覧会「復元のあゆみ-琉球王朝造形文化の独自性を求めて-」

会期：6月3日（火）～8日（日）9：00～18：00金・土は9：00～20：00

会場：県民ギャラリー1、2、3

主催：西村貞雄

内容：玉陵、園比屋武御嶽、首里城正殿の復元に係ったことから琉球王朝の造形文化の独自性について、意匠（デザイン）や形から考察したものを通して展示により証明する。

③団体向けの展示解説

団体名：沖縄科学技術大学院大学（OIST）関係者 ※英語通訳者を通しての解説

日 時：6月21日（土）13：00～14：00 場所：美術館企画ギャラリー1、2

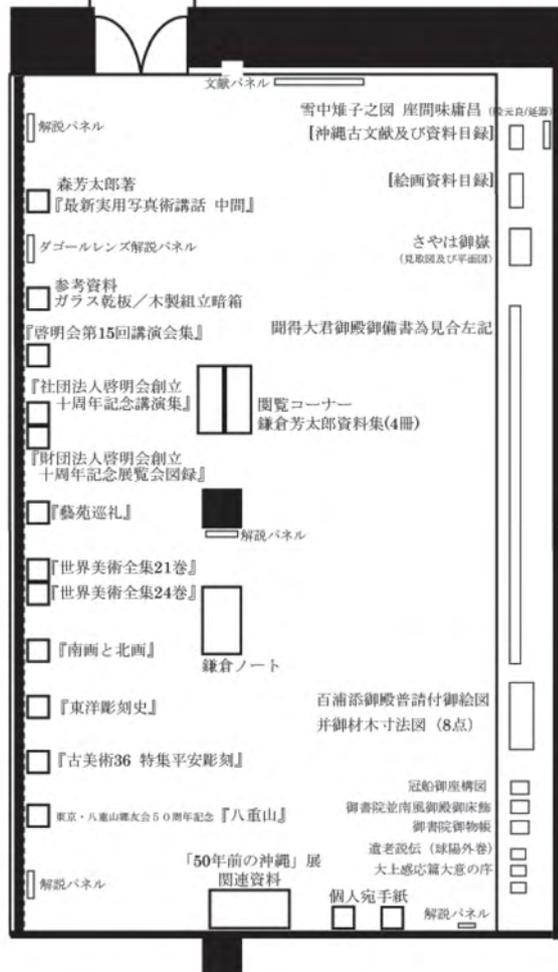
担 当：謝花佐和子

参加者：15人

【展示平面図】



博物館 特別展示室平面図



(3)「20世紀フランス絵画展－山形美術館 服部コレクション－」
会 期：7月15日（火）～8月31日（日）（開催日数42日）
場 所：企画ギャラリー
観 覧 料：一般1,000円、高校・大学生600円、小・中学生300円
観 覧 者 数：15,696人（1日平均373.7人、有料率92.3%）
担 当 学 芸 員：國吉貴奈

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体、沖縄県立博物館・美術館
特別協力：沖縄タイムス 協力：公益財団法人山形美術館 企画会社：株式会社アートワン
後 援：沖縄フランス協会、NHK沖縄放送局、琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送、エフエム沖縄、ラジオ沖縄、タイフーンfm、エフエムレキオ

【開催趣旨】

印象派の誕生以降、さまざまなモダンアートが展開したフランス、パリ。20世紀前半には、キュビズムやフォーヴィスム、シュルレアリスムなどが生まれ、芸術の一大中心地となった。近代的な精神で造形の問題に取り組んだ前衛芸術がある一方で、身近な情景を個性豊かに描いたエコール・ド・パリの芸術家たちもいた。叙情的でどこか哀愁たどる彼らの作品は、現在に至るまで多くの人々に愛されている。

本展覧会では、フランス絵画を系統的に収集展示している山形美術館の服部コレクションより、20世紀前半を代表する画家ルオー、ヴラマンク、ピカソ、シャガール、ユトリロ、ローランサン、キスリングなどのほか、フランス絵画の伝統と受け継ぐ荻須高德、ブラジリエ、カシニョールなど、戦後のフランス画壇を彩る作家58人の60作品を紹介する。

【展示内容】[出品作家]

ルオー、ポーシャン、ヴラマンク、ピカソ、ローランサン、ユトリロ、シャガール、キスリング、アイズペリ、アンビーユ、バブレーヌ、ボラン、ブラジリエ、ブレイエル、ブリアンション、ビュッフエ、カイヨー、キャロン、カルズー、カシニョール、カトラン、シャブラン＝ミディ、クラヴァーヴェ、コメール、コタヴォ、クトー、デイエス、デスピエール、ディーテール、フサロ、ザリユー、ガントネル、ガルシア＝フォン、ジュニ、ギアマン、イスカン、ジャンセム、クーパー、ラピス、ラピック、ルシュール、ロルジュ、ミノー、ミュール、オギス、ウドー、ピガ、ルベイロル、ロッド、ロネール、タル＝コア、テレスコヴィッチ、ティーフ、ヴェリコヴィック、ヴナール、ワイズバッシュ、ヤンケル（以上、56作家、60作品）

【関連催事】

①開会式

日 時：7月15日（火）9:15～9:30
場 所：エントランス、企画ギャラリー入口前
出席者：寒河江努（山形新聞広報局事業部長）、シャルランリ・プロソー（在京都フランス共和国総領事）、岩崎セツ子（沖縄フランス教会会長）、その他（主催者）
参加者：約30人

②オープニングギャラリートーク

日 時：7月15日（火）9:30～10:30
場 所：企画ギャラリー前、企画ギャラリー
解 説：國吉貴奈 ※当日有効の観覧券が必要



③ギャラリートーク

日 時：7月20日（日）14:00～15:00
場 所：企画ギャラリー
解 説：長嶺豊（ギャラリーアトス）
参加者：15人 ※当日有効の観覧券が必要



④キュレータートーク

日 時：7月26日（土）11:00～12:00
場 所：企画ギャラリー
解 説：國吉貴奈
参加者：32人 ※当日有効の観覧券が必要

⑤ エントランスコンサート「音楽と画家たちの物語」

日時：7月26日（土）14:00～14:30、16:00～16:30

場所：エントランス

演奏：阿波根由紀（バイオリン）、玉城由利子（ピアノ）、上原薫（ピアノ）

バレエ：松川夏子

内容：沖縄県美術館支援会happの協力を得て開催した。出品作家であるピカソとシャガールにちなんだ音楽を演奏した。また、ピカソが舞台美術に関わったパレードの音楽に合わせて、バレエの上演も行った。

協力：沖縄県立美術館支援会happ

参加者：約150人（1回目）、約100人（2回目） 観覧無料



⑥ 週末カフェ

日時：7月26日、8月2日、8月16日、8月23日（いずれも土曜日）

13:00～18:00

場所：当館正面入り口付近

内容：「展覧会見た後はおいしいワインやコーヒー、フードを愉しもう！」という呼びかけで、館の屋外スペースにカフェスペースを設けた。

⑦ 講演会「山形美術館とフランス近代絵画」

日時：8月3日（日）16:00～17:30

場所：講堂

講師：岡部信幸（山形美術館学芸課長）

内容：山形美術館の学芸課長である岡部氏に、山形の美術と山形美術館の紹介、および出品に関わりのあるモダンアートの流れについて講演してもらった。

参加者：58人 入場無料



⑤ 座談会「フランス文化エトセトラ」

日時：8月9日（土）14:00～15:30 場所：美術館講座室

講師：大湾宗定（フランス語講師）、長嶺豊（ギャラリーアトス）、中島アリサ（美術史学会会員）

内容：フランス留学経験者とギャラリー経験者を招き、フランスの文化と美術状況について、現地で撮影した写真や資料を投影しながら紹介した。

参加者：42人 入場無料



【その他】

① ワークシート

配布期間：7月15日（火）～8月31日（日）

配布場所：企画ギャラリー入口もぎり

内容：展示作品4点（アイズピリ《ブイヤベース料理》、キャロン《肖像》、クトー《7月の海辺》、シャガール《花嫁の回想》）を選び、鑑賞の手助けとなるような設問を設けた。

配布枚数：約2,000枚

② 感想ボード

設置期間：7月15日（火）～8月31日（日）

場所：企画ギャラリー出口付近のロビー

内容：展示作品の中から気に入った作品の一つを選び、感想カードに感想を書く。そのカードをボードにはりつけるが、貼り付けるごとにボードのミモザの花が一杯になる趣向にした。

件数：1,578件



③ お絵かきコーナー「あなたもピカソ」

期間：7月15日（火）～8月31日（日）

場所：企画ギャラリー出口付近のロビー

内容：出品作家であるパブロ・ピカソにならって、自由な発想と色遣いで身近な人の肖像画を描こうと呼びかけた。提出された作品は、出口付近の廊下の壁に展示した。

展示作品数：285点

④来場者プレゼント

期 間：8月19日（火）～8月21日（木）
 場 所：企画ギャラリー入口付近のもぎり
 内 容：上記の期間に来場した方に、同展のポスター（120枚+予備15枚）をプレゼントした。また小中学生には「マリー・アントワネット」の肖像画缶バッジ（120個）をプレゼントした。

⑤エントランスコンサート記録映像上映

上映期間：8月20日（水）～8月31日（日）
 場 所：企画ギャラリー入口付近のもぎり横
 内 容：エントランスコンサートの様子を記録した画像を、15分の映像に編集して上映した。編集協力は沖縄県立美術館支援会happの國吉宏昭氏。

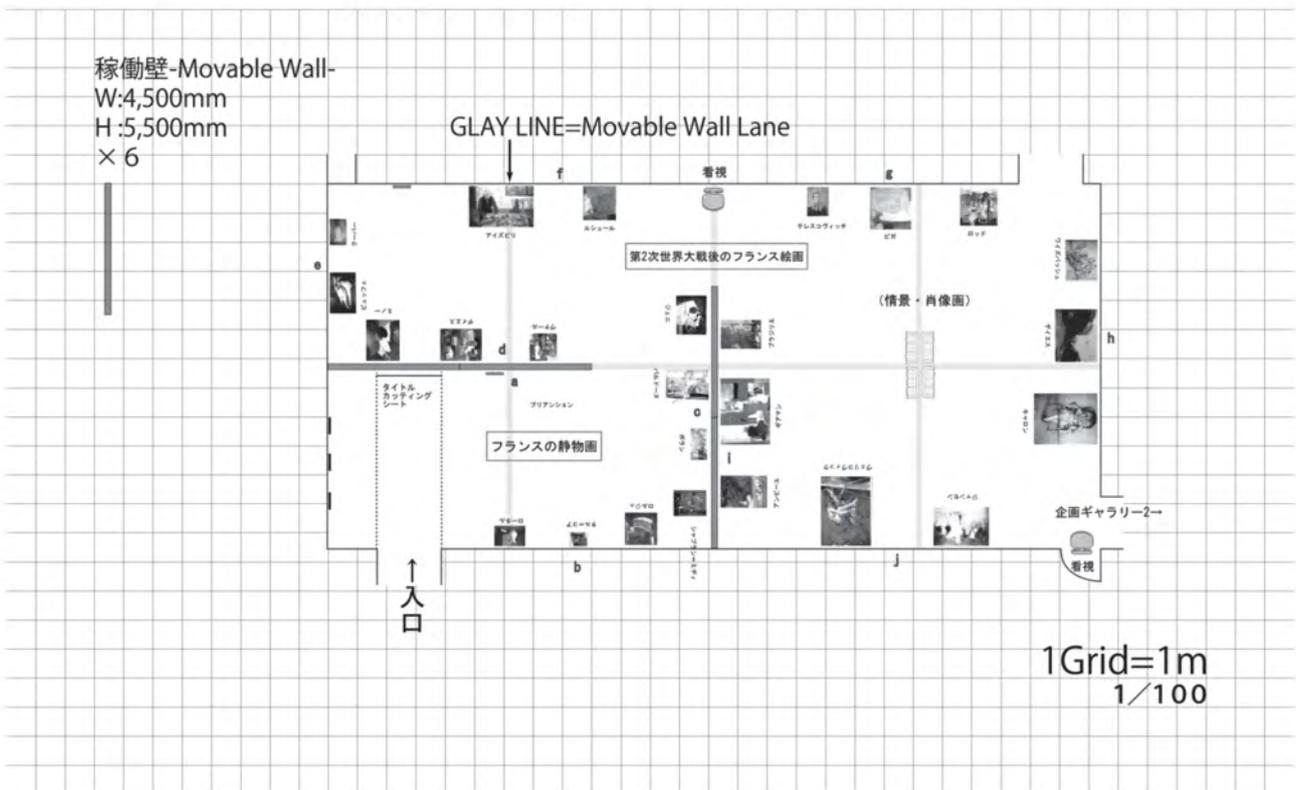
⑥来場者一人万人セレモニー

日 時：8月22日（金）14:40～14:50
 場 所：企画ギャラリー入口前
 贈 呈 品：「剣を持つ男」複製画、図録、「ひまわり」クリアファイル

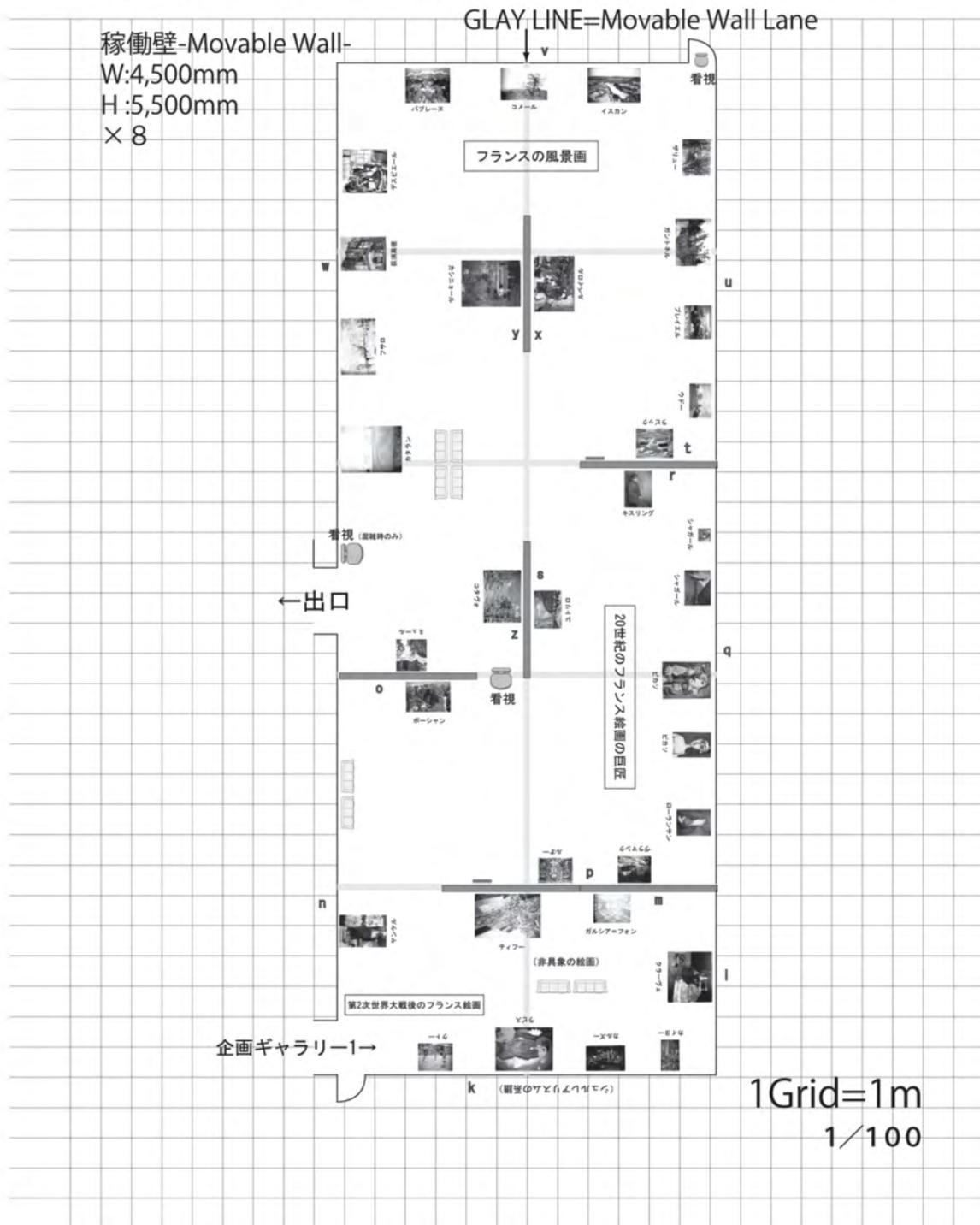


【展示平面図】

企画展示室 1 -TEMPORARY EXHIBITION ROOM 1-



企画展示室 2 -TEMPORARY EXHIBITION ROOM 2-



VI. 教育・イベント活動

当企業体の教育普及担当の企画立案によるプログラムで、博物館・美術館のファンの育成などを目的に気軽に足を運べるような参加しやすいプログラムを実施し、博物館・美術館によるプログラムとの差別化を図り実施した。

1. ワークショップ等

(1) ふれあい体験室ワークショップ

ふれあい体験室における、体験キットの充実・発展を目的に、毎週土曜日に実施している親子対象のワークショップ。参加特典として、講座内容に関する、こども向けひとくちコラムを掲載した「博士カード」の配布を行った。

①ふれあい体験室ワークショップ(毎週土曜開催)

4・5・6月 「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

開催日数：13日／参加者：234人

(内訳：4月73人、5月78人、6月83人)

参加費：100円

7・8・9月「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」

開催日数：12日／参加者：544人

(内訳：7月100人、8月280人、9月164人)

参加費：150円

10・11・12月「ふれたい博士の糸から布を織ってみよう」

開催日数：13日／参加者：157人 (内訳：10月38人、11月72人、12月47人)

参加費：100円

1・2・3月「ふれたい博士の凧づくり～カーブヤーに挑戦！」

開催日数：13日／参加者：303人 (内訳：1月134人、2月78人、3月91人)

参加費：150円

場 所：エントランスホール

講 師：渡部貴子・ふれあい体験室スタッフ (文化の杜)

対 象：小さなお子さんから大人まで (小3以下、保護者同伴)

定 員：当日先着30～60人



②臨時開催ふれあい体験室ワークショップ「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

日 時：5月21日 (水) 13:30～15:30

場 所：エントランスホール

講 師：渡部貴子 (文化の杜)

内 容：アダン葉細工の「ハブグラー」をカラフルなソフトテープで制作

参加費：100円

参加者：琉球大学留学生クラス沖縄事情の学生46人



③ゴールデンウィークイベント「Chiri(チリ)でちぎり絵」

実施日：5月4日 (日)、5日 (月曜祝日)

場 所：正面玄関横 (1日目)、博物館実習室 (2日目)

内 容：博物館常設展と関連したイラストのアウトラインが描かれた台紙へ、ちぎり絵をする。ちぎり絵の材料は、館から出る期限切れのポスター・チラシを使用した。台紙の種類は「ヤンバルクイナ・イシカワガエル・アカウミガメ・モーヤーブトウキ」の4種類を選定した。

参加費：100円

参加者：125人 (4日44人、5日81人) (各日定員80人)

(渡部 貴子)

(2)平成26年度お正月催事

お正月のひと時を博物館・美術館で楽しんでいただけるよう、以下の催事を開催した。

①琉球舞踊「新春の舞」

日 時：1月1日 (木) 14:00～14:30

場 所：エントランスホール

出演者：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生有志10人

内 容：新年の幕開けを祝い、毎年恒例の「新春の舞」を開催した。

参加者：167人(観覧者)



(金城 正仁)

②2015年お正月工作教室「トコトコ歩くひつじのおもちゃづくり」

日 時：1月4日 (日) 10:00、11:00、14:00、15:00

場 所：正面玄関横
 講 師：上運天研成とピノキオの会
 内 容：子年から開催してきた恒例の、干支をモチーフとしたおもちゃづくり。電気やバネを使わずちよっとしたしかけで坂道を歩く不思議な木製のおもちゃを作製した。
 参 加 費：300円 ※モコモコ付きは100円追加
 参 加 者：137人（定員120人）
 ※予備の材料を用意していたため、好評につき定員を増員



(渡部 貴子)

2. 展示会等

指定管理者業務として課せられている業務に加え、展覧会や時節に応じた催事等を独自に企画立案し実施した。

(1) 展覧会関連図書コーナー

実施期間：

- 「麗しき琉球の記憶－鎌倉芳太郎が発見した“美”－」
(5月20日～6月22日)
- 「新収蔵品展－平成25年度収蔵資料－」
(5月23日～6月23日)
- 「久米村（クニンダ）－琉球と中国の架け橋－」
(9月12日～10月19日)
- 「色彩と風のシンフォニー 内間安理の世界」
(9月12日～11月9日)
- 「大嶺薫コレクション－アジアへのまなざし－展」
(9月19日～10月19日)
- 「ペリー一行の見た琉球・日本－ウィリアム・ハイネの水彩原画展－」
(11月29日～12月21日)
- 「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」
(11月8日～2015年1月18日)
- 「ゴッホ・ピトウイーンズ展こどもを通して見る世界」
(2015年1月16日～3月15日)
- 「イノシシとブタと私たち」
(2月3日～3月15日)

場所：情報センター

内容：展覧会に関連した図書を展覧会図録と一緒に設置した。



(玉城 淳子、比嘉 恵子)

(2) 国際博物館の日

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議(通称ICOM:イコム)によって「国際博物館の日」と定められている。当館では例年、この日に関連したイベントや展覧会の無料開放を実施している。ホームページや新聞催事面へ掲載をした。

① パネル展「博物館・美術館をもっと知ろう！」

実施期間：5月8日(木)～25日(日) (当館実施期間)

場 所：1F エントランスホール

内 容：当館学芸員と指定管理者共同パネル展。当館の活動をよりよく知ってもらうことを目的に開催。パネル展を通して、展示会や各イベントなどの活動や、普段なかなか目に見えない博物館・美術館で働く人達の仕事を紹介した。

(博物館班：石垣 忍、美術館班：仲村 保、文化の杜：仲程 香野)

② 展覧会図録展示

実施期間：5月8日(木)～25日(日)

場 所：情報センター

内 容:これまで博物館・美術館で行われた展覧会の図録を展示。琉球政府立博物館から現在の沖縄県立博物館・美術館まで、当館の歴史を図書で紹介した。

(玉城 淳子、比嘉 恵子)

(3)写真展「定点慰霊の日」

慰霊の日企画「定点 慰霊の日」。「慰霊の日」に記録された写真を展示することで記憶を現在につなげ、着実に次代につないでいく契機とする。

実施期間:6月17日(火)～6月23日(月曜・慰霊の日)

場 所:情報センター(入場無料)

写真協力:沖縄タイムス社

内 容:沖縄タイムス所蔵写真

※1961～2013年各年の「慰霊の日」の様子が撮影された紙面掲載写真52点



(謝花 佐和子)

3.しまくとぅばプロジェクト

しまくとぅばプロジェクトは開館以来しまくとぅばにまつわる催事を定期的に行っており、本年度は、連続講座「しまくとぅばを知る」、『方言札』世代のハナシむぬ語り、「しまくとぅばで語る戦世 定期上映会」、「しまくとぅばの日企画シンポジウム」などを開催した。

(1)『方言札』世代のハナシむぬ語り

日 時:2014年 4月9日(水)、5月14日(水)、6月11日(水)、
7月9日(水)、8月20日(水)、9月10日(水)、
10月8日(水)、11月12日(水)、12月10日(水)、
2015年 1月14日(水)、2月11日(水)、3月11日(水)
14:00～16:00

場 所:博物館実習室、県民・子どもアトリエ

講 師:上原美智子(しまくとぅばプロジェクトメンバー)、花井玲子

内 容:しまくとぅばを母語とする参加者による月1回のゆんたく会を実施。
心のどこかに眠っているしまくとぅばをそっと揺り動かし、体験者
同士で誰にも気兼ねすることなく声に出してみるゆんたく会。

参加費:100円(各日定員20～30人)

参加者:173人(延べ人数)

(2)連続講座「しまくとぅばを知る」第1～12回

日 時:2014年 4月13日(日)、5月11日(日)、6月15日(日)、
7月13日(日)、8月10日(日)、9月7日(日)、
10月25日(土)、11月16日(日)、12月21日(日)、
2015年 1月25日(日)、2月15日(日)、3月15日(日)
14:00～15:50

場 所:博物館講座室(定員100人)、美術館講座室(定員50人)

講 師:狩俣繁久(琉球大学)

「しまくとぅばの文法」(第1、4、7、10回)

西岡敏(沖縄国際大学)、伊狩典子(方言キャスター)

「しまくとぅばの敬語(1)」(第2、5、8、11回)

仲原譲(大学非常勤講師)、国吉朝政氏(首里ことばの集い)

「初心者のためのしまくとぅばの音のしくみと覚えて使おう

ウチナーグチの文100(1)」(第3、6、9、12回)

内 容:「しまくとぅば」って何だろう?いくつかのしまくとぅばがあるんだろ
う?日本語との関係は?知っているようで知らないしまくとぅばに
ついて、さまざまな角度から考える、月一回の連続講座を開催。

参加費:300円

参加者:445人(延べ人数)



(3) しまくとうばと民話—過去、現在、未来

日 時：5月10日（土）13:15～17:00

場 所：講堂

登壇者：仲原稯（大学非常勤講師）、比嘉久（名護博物館）、
大田利津子（沖縄県伝承話資料センター）、比嘉豊光
（琉球弧を記録する会）、西岡敏（沖縄国際大学）

内 容：沖縄のチムググルを伝える民話をしまくとうばで語る意義と課題
について考えるシンポジウムを開催した。

参加費：300円

参加者：77人（定員200人）



(4) しまくとうばプロジェクト慰霊の日企画「しまくとうばで語る戦世」上映・語り・トークセッション

日 時：6月22日（日）14:00～17:30

場 所：講堂（博物館講座室から変更）

登壇者：富浜定吉（元高校長、沖縄師範学校鉄血勤皇隊）、狩俣 繁久（琉球大学）、比嘉 豊光
（写真家、琉球弧を記録する会代表）、与儀 武秀（沖縄タイムス記者）

内 容：しまくとうばプロジェクト慰霊の日企画として、戦争体験をどのように継承していくかを考える機
会として、上映会・語り・トークセッションを実施した。

参加者：131人（定員100人）

(5) 「しまくとうばで語る戦世」定期上映会

第1回「しまくとうばで継承する戦争の記憶」

日 時：7月20日（日）14:00～16:00

場 所：美術館講座室

登壇者：比嘉豊光（写真家、琉球弧を記録する会）、山城吉徳（琉球弧を記録する会）、親川志奈子

内 容：「しまくとうばで継承する戦争の記憶」をテーマに、読谷村楚辺の比嘉誠春氏語りの映像を約1
時間視聴した。比嘉氏と山城氏に、急きょ親川氏を加えて、上映内容について説明した。

参加者：45人（定員50人、当日先着）

参加費：300円

第2回「しまくとうばで継承する戦争の記憶—その2」

日 時：8月23日（土）16:10～18:00

場 所：美術館講座室

登壇者：比嘉 豊光 氏（写真家、琉球弧を記録する会）、
山城 吉徳 氏（琉球弧を記録する会）

内 容：第1回の続きとして、読谷村楚辺の語りを上映・トークを行った。

参加費：300円

参加者：23人（定員50人、当日先着）



第3回「チビチリガマとシムクガマ、そして語り部と」

日 時：9月14日（日）14:00～16:20

場 所：美術館講座室

登壇者：山城吉徳（琉球弧を記録する会）、比嘉豊光（琉球弧を記録する会）、知花一昌

内 容：読谷村のチビチリガマとシムクガマの証言を上映。ゲストには、証言のインタビューを行った
知花一昌（本名、昌一）氏を迎えた。

参加費：300円

参加者：33人（定員50人、当日先着）



第4回「母語の力—南風原編」

日 時：10月25日（土）17:00～19:00

場 所：美術館講座室

登壇者：山城吉徳（琉球弧を記録する会）、比嘉豊光
（琉球弧を記録する会）大城和喜（喜屋武字誌発刊委員長）

内 容：今回は、南風原町で撮影された3人の証言が上映された。上映後は、元南風原文化センター館長
の大城和喜氏をゲストに、琉球弧を記録する会の比嘉豊光氏と対談をしまくとうばで行った。

参加費：300円（定員50人、当日先着）

参加者：52人（定員48人）

第5回「母語の力 大宜味編—接せよ、明治・大正・昭和のやんばるの言葉に」

日 時：11月29日（土）17:00～19:00

場 所：講堂

登壇者：比嘉豊光（琉球弧を記録する会）、宮城孝夫（大宜味一心会顧問）、
米須邦雄（大宜味村文化財保護審議会委員）

内 容：大宜味村の人々の証言を取り上げた。明治、大正、昭和生まれの11人の話者の証言を、約1時間10分の映像にまとめたものを視聴した。上映後、比嘉氏とゲストによるトークを行った。飛び込みで、大学で平和学を教えている安良城米子氏にも加わってもらい、映像から考えたことをしまくとうばで話し合った。

参加費：300円

参加者：123人（定員200人）



第6回「母語の力—伊江島編」

日 時：12月14日（日）14:00～16:00

場 所：美術館講座室

登壇者：金城盛和（写真家）、比嘉豊光（琉球弧を記録する会）

内 容：「母語の力—伊江島編」と題して、1998年から2005年に収録した伊江島の人々11人の証言を上映した。約10分間の休憩後、金城氏と比嘉氏の対談や来場者からの上映内容に対する感想や意見を交えながら会を進めた。

参加費：300円

参加者：58人（定員50人）

(6) しまくとうばプロジェクト“しまくとうばの日”企画シンポジウム
「消滅危機方言の持続的継承活動を考える—地域・学校の取組」

日 時：9月19日（金）18:00～20:30

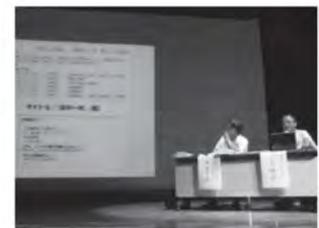
場 所：講堂

登壇者：狩俣繁久（琉球大学）、生塩睦子（伊江島方言研究者、
広島経済大学名誉教授）、菊秀史（与論方言継承活動家、
与論民俗村経営）、中本謙（琉球大学准教授）、宮里朝光
（沖縄語普及協議会会長）

内 容：しまくとうばプロジェクトメンバーの狩俣繁久氏（琉球大学教授）が企画し、地域や学校におけるしまくとうばの具体的な継承活動を紹介、議論するシンポジウムを行った。長年試行錯誤しながら行政や個人としてしまくとうばの継承・普及を行ってきた伊江島と与論島関係者、そして学校の取組を調査した研究者が登壇し、事例を報告。

参加費：500円

参加者：75人（定員200人、※有料者66人、無料者9人）



(7) 平成26年度年度しまくとうばプロジェクト活動報告

実施期間：3月24日（火）～4月12日（日）

場 所：情報センター

内 容：2014年度に実施したしまくとうばプロジェクト関連企画を取りまとめた活動報告を展示。

（國吉 貴奈）

4. おもろ夜会vol. 11～二夜連続～

日 時：【第一夜】10月18日（土）

10：00～12：00 舞台美術ワークショップ

18：30～21：10 上映会&沖縄芝居公演&トークショー

【第二夜】10月19日（日）

13：00～20：30 上映会&トークショー

場 所：講堂



企 画：水上の人プロダクション

協 力：沖縄俳優協会

内 容：今年、作家活動10周年を迎えた映像作家・山城知佳子の作品を取り上げ、2夜連続にわたって紹介した。一夜では第一部として、山城知佳子、砂川敦志監督・脚本の最新ドキュメンタリー映画「うちなー芝居 舞台の美術」（パイロット版）の上映会を実施。第二部では沖縄俳優協会による沖縄芝居「愛の雨傘」公演。第三部では沖縄芝居と舞台美術関係者によるトークショーを行った。また、特別企画として、午前中に舞台美術家・新城栄徳によるワークショップを開催。舞台美術の背景に使われる「かき割り」を完成させ、会場前で展示を行った。二夜では、第一部で山城知佳子の初期から現在までの映像作品を上映。第二部では、関係者を招いてのトークショーを行った。



参加費：【第一夜】当日2,500円、【第二夜】当日1,500円、【二夜連続セット券】3,000円

参加者：舞台美術ワークショップ19人（定員16人）、第一夜109人（定員200人）、第二夜121人（定員200人）

（金城 美奈子）

5. その他

(1) 「国際博物館の日」博物館常設展・美術館コレクション展無料開放

日時：5月17日（土）9：00～20：00（開館時間内）

内容：「国際博物館の日」のイベントのひとつとして、博物館常設展と美術館コレクション展を無料開放した。



(2) 「文化の日」博物館常設展・美術館コレクション展ほか無料開放

日時：11月3日（月曜祝日・文化の日）9：00～18：00（開館時間内）

内容：毎年11月3日「文化の日」は博物館常設展と美術館コレクション展を無料開放している。今回は特別に、美術館企画展「ANSEI UCHIMA—Symphony of Colors and Wind—色彩と風のシンフォニー/内間安理の世界」も無料で開放した。

(3) はくび通信の発行

2012年度から発行を開始した沖縄県立博物館・美術館の情報誌『はくび通信』を発行。博物館・美術館の展覧会情報をはじめ、学芸員コラム・イベントカレンダーなど、3ヶ月に一度、年4回発行予定。

- ・夏号（vol.10）館内モノクロ印刷 初版1500部
- ・新春号（vol.12）館内モノクロ印刷 初版1000部



（玉城 淳子、比嘉 恵子）

VII. 広報・交流事業活動

1. 広報事業

広報に関する業務として、当館の展覧会や事業・活動を県民や観光客に広くアピールしながら、博物館・美術館活動への理解を深めてもらうとともに一層の集客を図った。

当館で開催される展示会と関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリー等の催しについては前年度同様、「県立博物館・美術館 週間展示会・イベント情報」を作成し、県内の主な新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）やテレビ局（NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（RBCiラジオ、NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM沖縄、FMレキオ、タイフーンfm）にFAXやメールでデータを送信し、県民への情報の告知や取材をお願いした。

さらに、当館主催の講座や講演会、展覧会に連動するシンポジウムやアーティストトーク、催しの告知・募集についても、募集期間前あるいは開催前にその都度、新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌社、イベント

情報誌等に原稿や資料を送信し、掲載や取材・報道を要請した。県民ギャラリーの利用者や当館で展示会を予定している関係者には、県内マスコミを訪問して展示会をアピールするようアドバイスした。

沖縄タイムス紙面には朝刊情報面に「県立博物館・美術館催し」のコーナーを設けて、当日の情報を発信している（休館日を除く）。また、文化面、社会面等に、随時展覧会や講演会、県民ギャラリーの催事情報を掲載。琉球新報も情報面や文化面、社会面で展覧会や催事情報を載せてもらった。沖縄タイムスの副読誌「週刊ほーむぶらざ」や琉球新報の副読誌「週刊レキオ」、「かふう」そのほか県内外で発行される観光・ガイド・情報関連誌・Facebookも幅広く活用し、館情報の発信に努めた。

○年間行事案内・・・年度初めに展覧会の会期や内容、講座や解説会の日時など、年間の行事案内を掲載した「平成26年度 沖縄県立博物館・美術館 行事案内」（リーフレット、2万5千部）を作成し、県内外の文化・観光施設、ホテル、レンタカー会社、那覇空港案内所、旅行会社等へ配布、設置の依頼し、年間の行事案内の配布に努めた。今年度もパンフレット配布委託業者へ依頼し、全島の観光施設、ホテル等も設置した。さらに沖縄県教職員互助会・退職互助部に依頼し会員個人々人に行き渡るようにした。

○チラシ、ポスター・・・県内の小・中・高校、図書館、文化施設、教育機関には展覧会ごとにチラシ、ポスターを配布し、展覧会の告知を行った。沖縄県立図書館には当館専用チラシラックを設置した。また、県内のコンビニ、文化・観光施設、レンタカー会社、那覇市内外の主要ホテル、県内書店、観光案内所、モノレール駅、那覇空港などにもチラシやポスターの設置協力を求めた。さらに有料ではあるが個人々人に行き渡るように新聞、コープ配達会員へのチラシ折込みを活用し、誘客に努めた。

○公共掲示板・・・那覇・浦添・中部地区・南部地区の公共掲示板約150カ所に、展覧会の度にポスターを張り出して展覧会の告知を行った。その内の30～40箇所にはラミネート加工をし、短期間で剥がれないようにした。

○モノレール車両内広告・・・県民の足・沖縄都市モノレール（ゆいレール）では前年に引き続き那覇空港駅ドアステッカー広告で全館、展覧会情報を告知した。2月からは乗降客数が最も多い県庁前駅ドアステッカー広告を出稿した。

○懸垂幕・・・館壁正面入り口側に横2メートル×縦6メートルの大型懸垂幕を設置し、展覧会の告知を行った。主に博物館特別展や大型企画展、美術館企画展の際に実施。

○新聞紙面での記事や連載・・・取材や寄稿掲載の協力を積極的に依頼し、年間を通じて多数の記事で館情報を県民に広く伝えることができた。主な特集記事や連載に、「木下晋展」作品紹介を5回連載、「麗しき琉球の記憶」作品紹介を5回連載、「20世紀フランス絵画展」の作品紹介を5回連載。（以上、沖縄タイムス）

○新聞広告（有料）・・・沖縄タイムス、琉球新報の紙面に有料広告を掲載した。主な方法としては、全5段もしくは半5段・半3段サイズの広告掲載や、テレビ面突出・番組下などの目立つ枠への掲載など目的・予算に応じて利用した。「木下晋」、「20世紀フランス絵画展」では沖縄タイムスに共催、または特別協力を依頼し全面特集記事（5段は展覧会広告）を掲載した。沖縄タイムス副読誌「週刊ほーむぶらざ」では3段サイズの広告を全館（博物館常設展、美術館コレクション展、「三線のチカラ」、「麗しき琉球の記憶」、「20世紀フランス絵画展」）を掲載した。

○テレビ（無料：ニュース、特集番組など）・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などもニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では琉球放送「ザ・ニュース」、「ママドルの情報ポケット」、「沖縄BON!!!」、琉球朝日放送「ステーションQ」、「スパイス」、沖縄テレビ「お昼のニュース」、「FNNOTVスーパーニュース」、「ひーぷー☆ホップ」、BSJAPAN「聞き込み！ローカル線 気まぐれ下車の旅」、BS朝日「建物遺産」など。また、パブリシティでの無料告知枠を積極的に活用。琉球放送「沖縄BON!!!」内の「魅川憲一郎のオジャマするわよ〜」内では「収蔵庫」、「修復室」、「ふれあい体験室」、「三線のチカラ」、「木下晋展」を10分以上に渡って紹介した。



○ラジオ（無料：ニュース、特集番組など）・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などもニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では、RBCiラジオ「シャキッと

i」、「シャキ i サタデー」、「ミュージックシャワーplus+」、「団塊花盛り」、「あまくま訪問」、FM沖縄「For PM」、ラジオ沖縄「イブニングワイド Mix」、「いつかのラジオDAYS」など。パブリシティ、ラジオカーを手配での無料告知枠を積極的に活用。RBCiラジオラジオカー取材「シャキッと i」、「あまくま訪問」、FM沖縄ラジオカー取材「ピンと！Style」、ラジオ沖縄ラジオカー取材「泡盛残波ダウンタウンチェック」に担当学芸員が出演し、展覧会告知のため担当学芸員が出演しPRした。その他コミュニティFMも積極的に活用し展覧会関係者が出演するなどの取り組みも実施した。

- テレビ・ラジオ広告（有料）・・・テレビ・ラジオといったマスメディアでのCM展開については、制作費・放映料共に経費がかかるが、効果も大きいので広告出稿を行った。テレビは、「三線のチカラ」、「木下晋展」、「麗しき琉球の記憶」、「20世紀フランス絵画展」、「久米村」、「内間安理」、「大嶺コレクション展」、「水中文化遺産」、「ゴー・ビトゥーンズ展」、「ペットボトルアート」をフリースポット、時間取り等で放映。ラジオは「三線のチカラ」、「木下晋展」、「麗しき琉球の記憶」、「20世紀フランス絵画展」、「久米村」、「内間安理」、「ペットボトルアート」を時間取りで放映。その他、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、RBCiラジオ、ラジオ沖縄のお正月年賀テレビスポット（1月1日～1月5日）で、年始の営業日開館時間の案内、企画展の告知を行った。文化の杜共同企業体主催の展覧会告知の際には、沖縄タイムスが琉球放送や琉球朝日放送のテレビ、RBCiラジオ、FM沖縄に持っているCM放送枠を活用し「木下晋」、「麗しき琉球の記憶」、「20世紀フランス絵画展」、「ペットボトルアート」のCMをテレビとラジオで放送し展覧会をPRした。通常ではテレビやラジオでの広告放映については多額の経費が必要だが、この放送枠の活用により、テレビやラジオで広報を展開しながら他媒体等へ集中活用が可能になっている。
- 雑誌、機関紙・・・雑誌社や出版社の取材には積極的に応じ、様々な媒体への露出を高めるよう努力した。県民へのPRを目的として県内イベント情報誌「おきなわ倶楽部」、「オキナワグラフ」、「be-o」、「ジェイウォーム」、「momoto」、「筧柄暦」、「話くわっちー」、県内在住外国人向けの「ジャパンアップデート」などで展覧会や催事を告知。県内の医療機関や病院に配布する沖縄県社会保険診療報酬支払基金の月刊誌「基金沖縄支部だより」には平成26年度も一年を通して毎月開催中の展覧会を表紙で紹介してもらった。観光客向けには、有料広告「レンタカードライブマップ」、「楽天トラベルナビ14」、バニラエアー・ジェットスター等で配布される機内誌「たびクーポン」、無料広告「沖縄タウンガイドYASA!」、「ちゅらナビ」等でも年間を通じて全館を告知。また、県外からの観光客などをターゲットにした全国版観光雑誌「沖縄の歩き方」、「沖縄レク情報」、「エスるるぶ沖縄」、「まっふる」、「るるぶ」などでは主に博物館常設展や美術館コレクション展を無料で紹介した。修学旅行の団体をターゲットにした「移動教室年鑑」では有料広告で全館の紹介をした。個別の展覧会の告知について今年度は、「新美術新聞」、「美術手帖」、「KADOKAWAプレミアムアートブック」、JAL旅鶴プランと連動する会員季刊誌「旅鶴倶楽部」などへ館の紹介を掲載した。
- 地域誌・・・那覇新都心通り会が発行する「新都心かわら板」に様々な展覧会や催しを告知。
- インターネット・・・無料で全国的に広く展覧会の告知を行えるイベント情報サイトを活用し、様々なサイトで告知活動を展開した。今年度の実績では、館全体のPRを目的としてYahoo!JAPAN「地域情報」、「じゃらんnet」観光ガイド、「JTBるるぶインターネットサイト」、「自治体観光ガイド」など。個別の展覧会の告知を目的として「art scape」、「アートフラッシュニュース」、「ミュージアムカフェ」、「mixi」、「livedoor」、「@nifty」、「So-net」、「googleニュース」、「モバゲー」、「ケータイlivedoor」、「gooモバイル」、「日刊ウォーカー」、「エンタ魂」、「長尾さんの観光案内所」など。海外、県内在住外国人向けのPRとして沖縄観光webサイト「おきなわ物語」、「Okinawa NightLife」、「OKINAWA INDEX」など。動画共有サイト「YouTube」に企画展テレビCMをアップロードし、企画展専用ページに埋め込みをした。通常であればテレビで見ることが出来ないが、YouTubeにアップロードすることでいつでも見ることができるようになった。
- 携帯専用サイト改善、スマートフォン専用サイトの開設・・・館の情報がどこでも確認できるように携帯サイト、スマートフォン専用サイト改善をした。携帯専用サイトは通信料を安くするためできるだけ容量を減らしながらも見やすくするようにし、スマートフォン専用サイトはアイコンを大きくし、各企画展が目にとまるようにした。
- 沖縄・・・毎年3万人を超える来場者を数える県内最大規模の総合美術展である沖縄（主催：沖縄タイムス社）会場で、開催者の協力を得て、当館の行事案内等のチラシ配布をした。また即売会場では当館で開催した過去の展覧会図録の委託販売なども行い、美術ファン層に向けて館外でのPR活動を行った。
- プレイガイド・・・前売り券の販売およびチラシ・ポスターの設置場所としてプレイガイドの拡大・拡充

を図った。ミュージアムショップゆいむい、リウボウサービスカウンター、コープあぶれ、ファミリーマート各店（イープラス）、ローソン各店、ジュンク堂書店那覇店、ブックスきょうはん美浜店・一日橋店・とよみ店、安謝店、TSUTAYA那覇新都心店・首里店、球陽堂書房那覇メインプレイス店・西原シティ店。コープあぶれ発行の「Aple」に前売り券販売をしている企画展の情報を無料で掲載し、前売り券の販売促進を行った。「木下晋」、「麗しき琉球の記憶」、「20世紀フランス絵画展」、「ペットボトルアート」では沖縄タイムス読者局にチケットの取りまとめを依頼し、読者への前売り券の販売協力をしてもらった。観光客向けには沖縄ツーリストラウンジ・レンタカー営業所、ニッポンレンタカー営業所で博物館常設展、美術館コレクション展の前売りチケットの販売を行った。

○SNS・・・実名登録制ソーシャル・ネットワーキング・サービスfacebookの運用を平成25年度より開始しており、当初のいいね！（ファン数）は200名程度だったが3月末には2,300名を超えた。「ゴー・ビトゥイーンズ展」では「ツイート」と称される140文字以内の短文の投稿を共有するweb上の情報サービスTwitterの専用アカウントを作成し、Facebookと連動し告知を行った。有料広告を出稿しない限りは無料ツールなので、無料でファンへの告知が可能になった。Facebookでは当館ホームページトップへFacebookガジェット機能を、Twitterでは「ゴー・ビトゥイーンズ展」専用ページに貼付けし、まだファンではないユーザー、まだ登録していない未ユーザーに向けて告知した。

○レンタカー・・・観光客の60%近くが利用しているレンタカーに夏休み（7月～10月）の集客対策としてABCレンタカー保有のレンタカー330台の車両内助手席にステッカー広告を出稿した。330台と台数は少なかったが夏休み（7月～10月）のレンタカー訪問数が昨年と比べ300台以上増えた。



○那覇空港新国際線旅客ターミナルビル・・・今までは海外向けの告知は少なかったが、2014年2月17日にオープンした那覇空港新国際線旅客ターミナルビルの手荷物受取り所の電照掲示板に広告を出稿した。手荷物を預けた際は必ず目にする位置にあり、手荷物を預けていない方でも道順として通る位置にあり露出度が高い。その他ロビー付近のラックへ当館パンフレット（外国語版）を設置した。



（金城 正仁）

2. 地域イベントへの参加

那覇新都心通り会へ積極的に参加し、地域の活動に協力した。新都心通り会では、那覇市と協力し「2020年 東アジア文化都市」の立候補を目指して活動しており、文化の杜共同企業体としても積極的に支援していく。ふれあい体験室では、地域の保育園、学童クラブなどの要請に応じて、積極的に出前体験室を実施した。また月に1回発行される「新都心かわら版」には、展覧会をはじめ各種の詳細な情報を発信、誘客に努めた。

（赤嶺 昌樹）

VIII. 調査・研究等の活動

1. 調査・研究等

謝花佐和子

○調査・研究等

- ・企画展「麗しき琉球の記憶」に関する調査（琉球大学資料館 風樹館 西原町）（2014年4月）

○著作論文等

- ・「鎌倉芳太郎と『沖繩』を取り巻くもの」『企画展図録「麗しき琉球の記憶」』株式会社沖繩文化の杜 2014年5月
- ・企画展「麗しき琉球の記憶」作品紹介（連載5回）（沖繩タイムス／2014年5月）

金城美奈子

○調査・研究等

- ・企画展「木下晋展 - 生命の旅路」に関する出張（原爆の図丸木美術館 埼玉）（2014年3月19日～3月22日、5月15日～5月17日）

○著作論文等

- ・企画展「木下晋展 - 生命の旅路」作品紹介（連載5回）（沖繩タイムス／2014年4月）

國吉貴奈

○調査・研究等

- ・企画展「20世紀フランス絵画展」に関する出張（安曇野市豊科近代美術館 長野）（2014年10月30日）

○著作論文等

- ・企画展「20世紀フランス絵画展」作品紹介（連載5回）（沖繩タイムス／2014年7月）

町田恵美

○研修

- ・平成26年度 日独青少年指導者セミナー「博物館における青少年教育」ドイツ派遣事業（ケルン、ミュンヘン等の博物館施設 ドイツ）（2014年10月1日～13日）（主催：日本博物館協会）

大濱萌子

○研修

- ・「平成26年度 沖縄県博物館協会総会・春の研修会」（久米島博物館 久米島）（2014年5月29日～30日、主催：沖縄県博物館協会）
- ・「第4回ミュージアム・エデュケーター研修」（前期：東京国立博物館 東京）（2014年9月17日～19日）、（後期：葛飾区郷土と天文の博物館 東京）（2015年1月29日～30日）主催：文化庁

亘保はるな

○研修

- ・「平成26年度 沖縄県博物館協会総会・春の研修会」（久米島博物館 久米島）（2014年5月29日～30日）主催：沖縄県博物館協会

IX. その他

1. 職員研修

（1）全体研修

日時：4月14日（月）13：00～17：00、4月20日（日）15：00～19：00

※同内容を2回実施、いずれかの回に要参加

場所：博物館講座室

講師：高原安伸副館長（博物館班）、崎原恭子学芸員（博物館班）、仲里健学芸員（博物館班）、渡部貴子（文化の杜）

参加者：129人（14日88人、20日41人）、

対象者：総合案内、もぎり、展示交流員（企画展・特別展：文化の杜、博物館常設展示室：博物館友の会、美術館コレクションギャラリー：happ）、ふれあい体験室、情報センター、発券窓口

(2) 接遇研修

日 時：5月28日(水) 11:00~12:30
場 所：博物館実習室
講 師：平良亜紀子、渡部貴子(文化の杜)
参加者：3人

(3) 接遇研修

日 時：7月13日(日) 16:00~17:30
場 所：博物館実習室
講 師：渡部貴子(文化の杜)
参加者：8人

(4) 接遇研修

日 時：7月29日(火) 18:00~19:30
場 所：博物館実習室
講 師：平良亜紀子(文化の杜)
参加者：2人

2. 企画展・特別展等研修

(1) 美術館企画展「木下晋展—生命の旅路—」

日 時：4月2日(水) 18:15~19:15
場 所：美術館企画ギャラリー1・2、博物館講座室
講 師：金城美奈子(文化の杜)
参加者：40人

(2) 美術館企画展「麗しき琉球の記憶—鎌倉芳太郎が発見した“美”—」

日 時：5月18日(日) 18:15~19:30
場 所：美術館企画ギャラリー1・2、博物館特別展示室2、博物館講座室
講 師：謝花佐和子(文化の杜)
参加者：48人

(3) 美術館企画展「20世紀フランス絵画展」

日 時：7月13日(日) 18:15~19:30
場 所：美術館企画ギャラリー1・2、博物館講座室
講 師：國吉貴奈(文化の杜)
参加者：56人

(4) 博物館企画展「久米村展」、美術館企画展「内間安理展」

日 時：9月11日(木) 18:15~20:30
場 所：博物館講座室、博物館企画・特別展示室1、
美術館企画ギャラリー1・2
講 師：崎原恭子(博物館班)、大城仁美(美術館班)
参加者：57人

(5) 博物館常設展撮影可能範囲研修

日 時：11月4日(火) 16:00~16:45
場 所：博物館講座室
講 師：與那嶺一子(博物館班)
参加者：64人

(6) 博物館特別展「水中文化遺産—海に沈んだ歴史のカケラ—」

日 時：11月6日(木) 18:15~19:30
場 所：美術館講座室、博物館企画・特別展示室1
講 師：片桐千亜紀(博物館班)
参加者：47人



(7) 文化の杜自主事業「ペットボトルアート展」
日 時：2月8日(日) 18:15～19:30
場 所：講堂、博物館特別展示室1・2
講 師：本間ますみ(アーティスト)、國吉貴奈(文化の杜)
参加者：56人



(8) 美術館企画展「報道カメラマン 大城弘明・山城博明
写真展二人が撮らえた沖縄・終わらない戦後」
日 時：3月25日(水) 18:15～19:30
場 所：博物館講座室、企画ギャラリー1・2
講 師：仲里なぎさ(文化の杜)
参加者：48人



(平良 亜紀子、渡部 貴子)

3. 消防訓練等

(1) 消防(総合)訓練
日 時：11月25日(月) 9:30～11:30
場 所：館内
内 容：通報訓練・消火訓練・避難誘導訓練、その他消火栓放水実演演習・消火器操作要領
参加者：約60人

(平川 孝盛)

全館共同事業

- I 学芸員実習及び職場体験学習
- II 国際博物館の火
- III 移動展
- IV 燻蒸・消毒処理
- V 刊行物
- VI 展覧会一覧

I. 学芸員実習及び職場体験学習

1. 博物館実習

当館では、1969（昭和44）年に最初の実習生を受け入れてから、2006～2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年2回に集約して実施している。

2014年度の学芸員実習は前期（6月17日～30日）、後期（8月12日～25日）とも内容は下記のとおりである。

1. 実習内容と指導職員

講義・実習	指導者	
博物館施設・事業概要	上地	
美術館施設・事業概要	仲村	
IPMへの取り組み	仲里	
博物館展示の実際	與那嶺	
課題研究 実習生は前期は「自然史」、「美工・歴史・民俗・考古」の2班、後期は「自然史」、「美工・歴史」、「民俗・考古」の3班に分かれ、特別展示室とロビーでミニ企画展を実施した。その過程には以下の作業が含まれる。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td> 展示企画立案 資料調査・選定・借受交渉 展示環境調査（美工・歴史班） パネル・キャプション作成 資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品 資料配置・撤収 展示解説、観覧者調査、総括発表 </td> </tr> </table>	展示企画立案 資料調査・選定・借受交渉 展示環境調査（美工・歴史班） パネル・キャプション作成 資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品 資料配置・撤収 展示解説、観覧者調査、総括発表	「自然史班」 仲里、山崎 藤田、山崎 「美工・歴史班」 與那嶺、園原 石垣、崎原 「民俗・考古班」 大湾、片桐 早瀬
展示企画立案 資料調査・選定・借受交渉 展示環境調査（美工・歴史班） パネル・キャプション作成 資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品 資料配置・撤収 展示解説、観覧者調査、総括発表		
教育普及実習	金城、比嘉	

2. 実習生

前 期			後 期		
1	當間 未涼	琉球大学	1	伊波 眞智子	琉球大学
2	平良 由佳梨		2	石山 日奈子	
3	西村 美桜		3	米澤 優希	
4	堺 恭輔		4	伊藤 美幸	
5	吉川 沙紀		5	鍋島 一紗	
6	成嶋 和也		6	島田 晴加	
7	伊良皆 愛莉	沖縄国際大学	7	仲田 祥汰	沖縄国際大学
8	伊藤 のどか	追手門学院大学	8	新垣 逸美	
9	長崎 咲耶	筑波大学	9	眞榮田 泰子	
			10	大瀨 彩音	駒澤大学
			11	知花 彩子	東北芸術工科大学
			12	知花 あゆみ	岐阜女子大学
			13	谷口 佳鈴	筑波大学

(上地 聡)

2. 美術館実習

美術館では、県内大学や県出身者で県外の大学で学芸員資格所得を目指す実習生を対象に、2014年度は8月28日（木）～9月10日（水）の10日間、学芸員実習を下記の通り実施した。

1. 実習内容と指導職員

講義・実習	担当	講義・実習	担当
博物館活動概要及び施設・設備	上地(博)	I PMへの取り組み	仲里(博)
美術館業務の考え方と実際 I	前田	美術館業務の考え方と実際 II	仲村
美術館活動概要及び施設・設備	仲村	監視ボランティア体験	仲村
常設展示の実際 I	豊見山	共通課題研究(ミニ企画展)	仲村
資料の分類 I・II	齋	平面資料の取り扱い I・II(版画)	仁美
教育普及事業 I・II・III	仲村	常設展示の実際 II	仲里(美)
企画展の実際 I(内間安理展)	仁美	資料の保存・修復の実際	梶原
立体資料の取り扱い(彫刻)	玉那覇	資料の修復実習 I・II	梶原
調査研究概要	豊見山	収集事業概要	玉那覇
資料に関する情報処理	齋	作品調査の方法	齋
企画展の実際 II (ゴー・ビトゥイーンズ展)	豊見山	平面資料の取り扱い I(油彩画)	豊見山
平面資料の取扱い II(前半・後半)	仁美・仲里		

2. 実習生

1	礎ちひろ	沖縄県立芸術大学
2	恒成しいな	
3	波平詞音	
4	須澤芽生	
5	平井友梨	
6	德里朝日	
7	長嶺有里	
8	二宮芽生	聖心女子大学

(仲村 保)

3. 職場体験の受け入れ

(1) 那覇市立寄宮中学校

期 間: 2014年6月25日～27日(3日間)

体験内容: ふれあい体験室、ショップ、もぎり、総務等 接客業務や発送作業の補助を体験。途中、内容を変更し広報活動でラジオにも出演した(ふれあい体験室 渡部が同行)。

参加者: 2人



(2) 沖縄県立西原高等学校

期 間: 2014年7月15日～17日(3日間)

体験内容: ふれあい体験室、ショップ、もぎり、総務等接客業務やチケット整理作業、ワークショップの下準備、ショップで商品在庫確認作業等を体験した。

参加者: 2人



(3) 那覇市立安岡中学校

期 間: 2014年8月27日～29日(3日間)

体験内容: ふれあい体験室、ショップ、もぎり、総務、県芸術祭受付作業等、接客業務やチケット整理作業、ショップでの袋づくり・バーコードラベル張り、県芸術文化



祭の作品受付等の体験をした。

参加者:2人

(4) 沖縄県立那覇工業高等学校

期 間:2014年9月24日～26日(3日間)

体験内容:ふれあい体験室、ショップ、もぎり、総務、情報センター、県芸術祭作品返却作業等。接客業務やチケット整理、ショップでの袋づくり、情報センターでの発送作業等の体験をした。

参加者:2人



(5) 沖縄県立開邦高等学校

期 間:2014年10月1日～3日(3日間)

体験内容:ふれあい体験室、ショップ、もぎり、総務、情報センターで、接客業務や、ワークショップの準備など、体験をした。

参加者:2人

(6) 興南中学校

期 間:2014年12月12日(午前のみ)

体験内容:グッドジョブおきなわ推進事業局実施(ケイパートナーズ:沖縄県委託事業)「ジョブシャドウイング」(文化の杜島袋が対応)

参加者:1人

(島袋 百恵)

II. 国際博物館の日

名 称:2014年5月18日「国際博物館の日」

会 期:2014年5月8日(木)～5月25日(日) (18日間)

会 場:パネル展:エントランスホール ワークショップ:ふれあい体験室前

【開催趣旨】

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議(通称ICOM:イコム)によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【実施内容】

博物館・美術館の活動を広く一般県民に伝えるためにエントランスホールにてパネル展示を実施した。無料入館日の設定や、バックヤードツアー、ワークショップ等を実施した。

○パネル展 2014年5月8日(木)～5月25日(日)

パネル展の目的、ICOM・「国際博物館の日」の説明、今年度の行事や講座などの紹介、沖博協加盟館の紹介、「沖縄の博物館ガイド」の紹介、展示会の様子、学芸員の仕事、ボランティア・友の会・happ等の活動の様子、指定管理者の仕事、過去に実施した展覧会のチラシ展示、

○無料入館日 2014年5月17日(土)(企画展はのぞく)

○バックヤードツアー 2014年5月17日(土)

時 間:博物館 9:30～10:30

美術館 11:00～12:00

受 付:9:00～ 総合案内にて

定 員:当日先着24名(各回とも12名まで)

参加料:無料

○キュレータートーク(美術館) 2014年5月17日(土)14:00～15:00(各室20分×3室)

- ワークショップ 「てづくりおもちゃ」「風車ときんぎょ」など 2014年5月17日 (土)
 時 間：1回目10:00 2回目10:30 3回目11:00 4回目12:00
 各回30分 (同一内容)
 受 付：9:00～ ふれあい体験室にて
 定 員：当日先着40名 (各回とも10名まで)
 参加料：100円

(石垣 忍)

Ⅲ. 移動展

名 称：平成26年度 沖縄県立博物館・美術館「第7回移動展in竹富町 西表島」
 会 期：2014年11月28日(金)～30日(日) 9:00～17:00
 開 催 地：竹富町西表島 中野わいわいホール
 観 覧 料：無料
 入 場 者 数：1,038名

【開催趣旨】

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことができない離島や遠隔地の方々に、移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄の自然・歴史・文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体、竹富町、竹富町教育委員会
 後援・協力：沖縄県立博物館友の会、沖縄県立美術館支援会happ、竹富町観光協会、
 竹富町商工会、有限会社安栄観光、八重山観光フェリー株式会社、
 八重山日報、八重山毎日、西表島エコツーリズム協会、琉球海運

【展示内容】

博物館資料：

- ①「世界の化石と輝く石」……恐竜の骨格標本、化石、岩石・鉱物の展示
- ②「沖縄の自然、歴史、文化」……沖縄の自然・歴史・文化に関する総合展示

美術館資料：

- ①「沖縄の美術」……沖縄を代表する美術家達の作品を展示
- ②「沖縄の映画」……県出身映画監督作品を上映

【関連催事】

○博物館学芸員講座

会 場：中野わいわいホール
 日 時：2014年11月28日(金) 19:00～20:30
 対 象：一般
 定 員：50名
 参加料：無料

- 演題1「小島嶼の生物多様性」 山崎仁也 (生物担当)
 演題2「西表島の起源 ～古生代からの物語～」 仲里健 (地学担当)

○美術館：ギャラリートーク 仲村保 (教育普及担当)

会 場：中野わいわいホール
 日 時：2014年11月29日(土)、30日(日) 13:00～14:00 (※適宜開催)
 対 象：一般
 参加料：無料
 定 員：なし

○「骨スーツで遊ぼう！」

会 場：中野わいわいホール



日 時：2014年11月28日（金）～30日（日）※適宜開催
 対 象：一般
 参加料：なし
 定 員：なし



○「ちむドンドン（紙芝居と琉球楽器）体験」※適宜開催
 会 場：中野わいわいホール
 日 時：2014年11月28日（金）～30日（日）
 対 象：一般
 参加料：無料
 定 員：なし



○「ハチの巣ふわふわ」※適宜開催
 会 場：中野わいわいホール 玄関前
 日 時：2014年11月28日（金）～30日（日）
 対 象：一般
 参加料：無料
 定 員：なし

○「風車つくり体験」（西表島エコツーリズム協会）
 会 場：中野わいわいホール 中庭
 日 時：2014年11月30日（日）
 対 象：一般
 参加料：無料
 定 員：なし



【展示品リストー博物館ー】

〔地学系〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	サウロロフス	1	レプリカ	18	カルサイト	1	資料
2	サウロロフスの皮膚化石	1	レプリカ	19	重水晶（砂漠のパラ）	1	資料
3	プロバクトサウルス	1	レプリカ	20	レインボーストーン	1	資料
4	プロトケラトプス	1	レプリカ	21	黒曜石	1	資料
5	アンモナイト	1	資料	22	メノウ	2	資料
6	マンモスの歯	1	資料	23	赤鉄鉱	1	資料
7	カルカロドン・メガロドン	1	資料	24	黄鉄鉱	1	資料
8	アンモナイト	1	資料	25	黄銅鉱	1	資料
9	ハロピア	1	資料	26	ガーネット	1	資料
10	リュウキュウムカシキョン（オス）	1	レプリカ	27	ザクロ石片麻岩（南極）	1	資料
11	リュウキュウムカシキョン（メス）	1	レプリカ	28	蛍光鉱物一式	6	資料
12	珪化木	1	資料	29	アメジスト	1	資料
13	三葉虫	1	資料	30	隕石	1	資料
14	貝化石	1	資料	31	地質図	1	パネル
15	植物化石	1	資料	32	蛍光鉱物説明用パネル	1	パネル
16	魚化石	1	資料	33	地質年表	1	パネル
17	水晶	1	資料				

〔生物系〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	ナミエガエル	1	レプリカ	17	ホウトウアカヒゲ	1	本剥製
2	ホルストガエル	1	レプリカ	18	ミサゴ	1	本剥製
3	イシカワガエル	1	レプリカ	19	ヤマセミ	1	本剥製
4	ハナサキガエル	1	レプリカ	20	ノグチゲラ	1	本剥製
5	イボヤモリ	1	レプリカ	21	ヤンバルクイナ	2	本剥製
6	リュウキュウヤマガメ	1	本剥製	22	ヤンバルクイナ (ヒナ)	1	本剥製
7	アカマタ	1	本剥製	23	アマミノクロウサギ	1	本剥製
8	ハブ	1	本剥製	24	オレイオオコウモリ	1	本剥製
9	ハブ (幼体)	1	本剥製	25	カグラコウモリ	1	本剥製
10	ハブ (久米島)	1	本剥製	26	ケナガネズミ	1	本剥製
11	ヨナグニシュウダ	1	本剥製	27	オキナワトゲネズミ	6	本剥製
12	コアホウドリ	1	本剥製	28	オキナワトゲネズミ	1	骨格標本
13	カツオドリ	1	本剥製	29	ウミホタル	1	拡大模型
14	コウノトリ	1	本剥製	30	アクリル大ケース	3	標本箱
15	シロフクロウ	1	本剥製	31	アクリル小ケース	6	標本箱
16	ニホンキジ	1	本剥製	32	ハチの巣ふわふわ	1	

〔人類〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	ネアンデルタール復元模型	1	模型・背景 パネル	6	ホモサピエンスの拡散	1	グラフィック パネル
2	港川人1号頭骨複製	1	複製	7	沖縄県内の出土人骨	1	グラフィック パネル
3	白保竿根田原洞穴出土人骨 (2万年前)	3	複製	8	大山盛保氏と港川人の発見	1	グラフィック パネル
4	山頂洞101号人頭骨	1	複製	9	ピンザアブ人骨複製	6	レプリカ
5	クロマニヨン人頭骨	1	複製	10	琉球列島更新世の動物	1	グラフィック パネル

〔考古〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	荻堂式土器	1	資料	20	貝匙	1	レプリカ
2	大当原式土器	1	資料	21	石斧	1	資料
3	下田原式土器	1	資料	22	石斧	1	資料
4	骨製鏃	1	資料	23	類須恵器の壺	1	資料
5	骨製針	1	資料	24	炭化米	2	資料
6	蝶型骨器	1	資料	25	青磁碗	1	資料
7	蝶型骨器	1	レプリカ	26	青磁皿	1	資料
8	蝶型骨器	1	レプリカ	27	白磁小皿	2	資料
9	ゴホウラ製貝輪 (金隈型)	1	レプリカ	28	染付碗	1	資料
10	ゴホウラ製貝輪 (立岩型)	1	レプリカ	29	染付皿	1	資料
11	ゴホウラ製貝輪 (大友型)	1	レプリカ	30	線刻石板	1	資料
12	イモガイ製貝輪 (縦型)	1	レプリカ	31	沖縄考古学年表	1	資料
13	イモガイ製貝輪 (横型)	1	レプリカ	32	先史時代の生活	1	資料
14	貝斧	1	資料	33	遺跡から出土する生物の生 息域	1	資料
15	貝斧着柄	1	資料	34	貝が運ばれた道	1	資料
16	貝符	1	レプリカ	35	貝輪の製作工程	1	資料
17	ゴホウラ	1	資料	36	イモガイ・ゴホウラ製品の 主な出土地	1	資料
18	イモガイ	1	資料	37	グスクとその時代	1	資料
19	ヤコウガイ	1	資料	38	線刻石板の謎	1	資料

〔歴史〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	黒漆双龍螺鈿盆	1	資料	9	沖縄の絵画	1	パネル
2	沖縄の漆器	1	パネル	10	木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵 菖蒲文様衣裳 (レプリカ)	1	レプリカ
3	螺鈿づくり用キット	1	資料	11	紅型について	1	パネル
4	屋根獅子	1	資料	12	紅型の道具キット	1	資料
5	玉御殿石彫獅子	2	レプリカ	13	芭蕉布	2	資料
6	沖縄の彫刻	1	パネル	14	芭蕉布について	1	パネル
7	風俗図 王子様図	1	資料	15	芭蕉の糸づくりキット	1	資料
8	風俗図 芋売人	1	資料	16	苧麻の糸づくりキット	2	資料

〔民俗〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	カビドイ (宮古風)	1	資料	8	虎グワ (張り子)	1	資料
2	八角風 (八重山風)	1	資料	9	犬グワ (張り子)	1	資料
3	風弾	1	資料	10	チンチン馬グワ (張り子)	1	資料
4	ヤカジ	1	資料	11	猿面	1	資料
5	ホートウグワ (張り子)	1	資料	12	鬼面	1	資料
6	ウッチリクブサー (張り子)	2	資料	13	解説パネル	3	パネル
7	ジュリウマ (張り子)	1	資料				

〔教育普及〕

No.	名称	数量	種別	No.	名称	数量	種別
1	「ちむドンドン」	1セット	制作物	3	活動紹介パネル	8	パネル
2	「骨スーツ」	1セット	制作物				

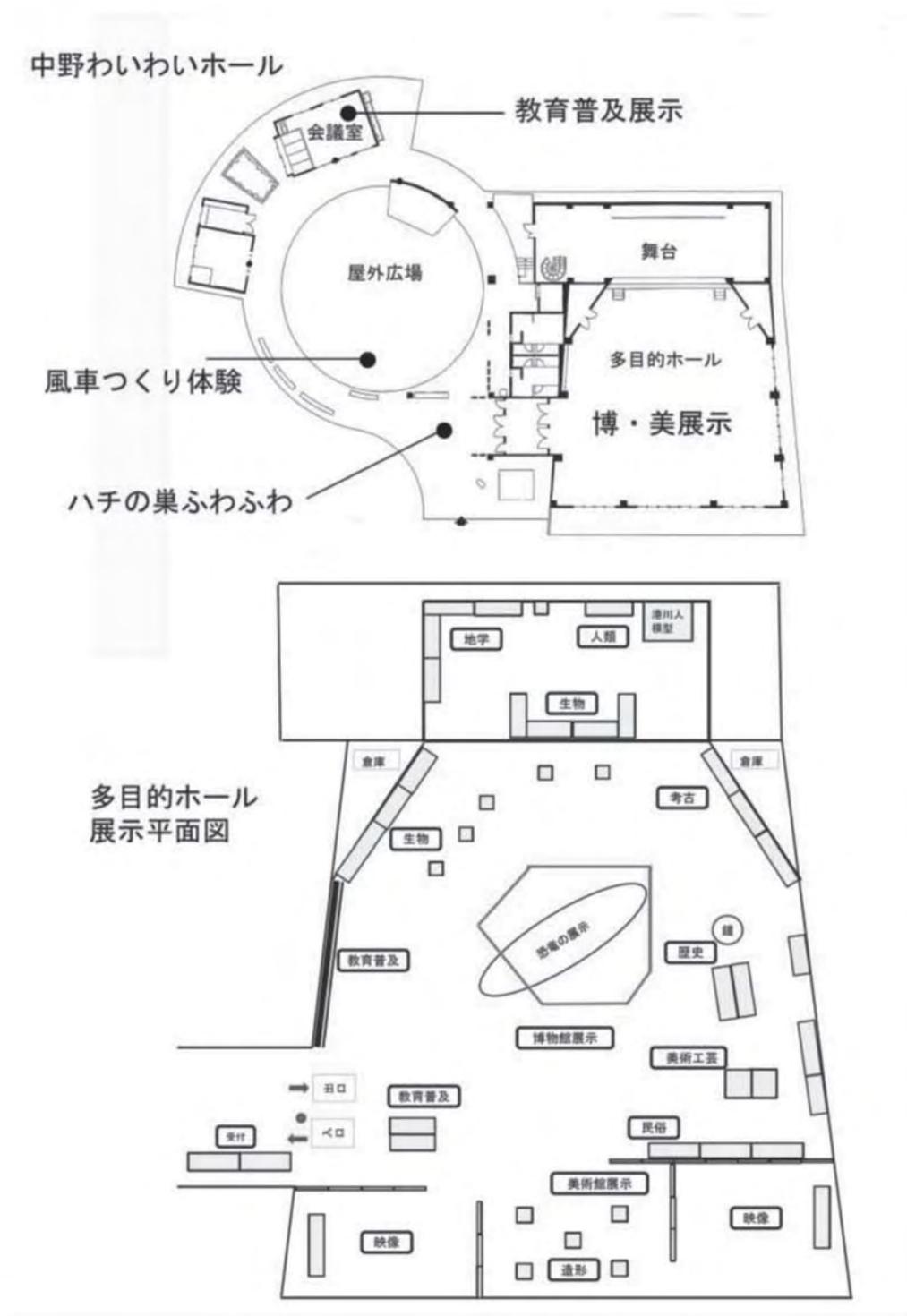
【展示品リストー美術館ー】

No.	作品名	作家名	規格	製作年	種別
1	目しいた野良猫	玉那覇 正吉	H430×W160×D180	1968	造形
2	少年象	玉那覇 正吉	H365×W180×D240	1978	造形
3	サンゴシリーズ1	ゴヤ フリオ	532×624×1121	2001	造形
4	三美德	ゴヤ フリオ	230×298×597	2005	造形
5	ポライオーロ	丸山 映	480×300×295	1977	造形
6	吉屋チルー物語	金城 哲夫	98分	1962	映像
7	沖縄列島	東 陽一	90分	1969	映像
8	パラダイスビュー	高嶺 剛	113分	1985	映像
9	ウンタマギール	高嶺 剛	120分	1989	映像

【展示室風景】



【展示平面図】



IV. 燻蒸・消毒処理

2014年度は、2007年度から実施している総合的防害虫管理（IPM）の運用を継続して行い、活動として、年2回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPMモニタリング等を行い、毎月1回のIPM全体会議にて連絡・報告などを行っている。その目的は、収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

- (1) 2014年度 全館燻蒸・消毒処理
第1回 全館燻蒸・消毒

期 間：2014年6月30日（月）～7月8日（火） 9日間
 消毒箇所：全館
 使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）
 投 薬 量：0.7～7g/m以下
 処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

第2回 燻蒸・消毒

期 間：2015年1月25日（日）（閉館後）～1月27日（火） 3日間
 消毒箇所：収蔵庫・バックヤード（美）・実習準備室
 使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）
 投 薬 量：0.7～7g/m以下
 処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

（2）簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館3ヶ所、美術館2か所、県民ギャラリー1か所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）開閉する場所の害虫駆除に実施している。

又、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろう君」（二酸化炭素）により実施している。

（宮里 宗彦）

V. 刊行物

（全体）

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館・美術館 年報7号	定期	600	A4 (212)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館 行事案内 —平成26年度—	〃	30,000	A3 (四折)	博物館・美術館行事案内

（博物館班）

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要8号	定期	600	A4 (129)	博物館学芸員の調査研究報告書
2	平成26年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A4 (130)	博物館教育普及活動報告
3	新収蔵品展—平成25年度収蔵資料	〃	500	A4 (20)	博物館企画展 図録
4	水中文化遺産—海に沈んだ歴史のカケラ—	不定期	1,000	A4 (156)	博物館特別展図録
5	〃 ポスター	〃	500	B2	〃 告知ポスター
6	〃 チラシ	〃	100,000	A4	〃 告知チラシ
7	久米崇聖会創立100周年記念「久米村（クニンダ）—琉球と中国の架け橋—」	〃	1,000	A4 (80)	博物館企画展 図録
8	〃 ポスター	〃	500	B2	〃 告知ポスター
9	〃 チラシ	〃	20,000	A4	〃 告知チラシ
10	イノシシとブタと私たち	〃	1,000	A5 (80)	博物館企画展 図録
11	〃 チラシ	〃	10,000	A4	〃 告知チラシ
12	サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告書II	〃	500	A4 (20)	報告書

(美術館班)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館・美術館 美術館紀要第5号	定期	500	A4 (133)	美術館学芸員の調査研究報告書
2	平成26年度美術館教育普及活動	〃	500	A4 (28)	美術館教育普及活動報告
3	沖縄ルーツシリーズ2「色彩と風のシンフォニー／内間安理の世界」図録	不定期	500	A4 (165)	美術館企画展 図録
4	〃 ポスター	〃	600	B2	〃 告知ポスター
5	〃 チラシ	〃	30,000	A4	〃 告知チラシ
6	〃 作品目録	〃	4,000	A3	〃 作品目録
7	ゴー・ピトゥイーンズ展ポスター	〃	3,000	B2	美術館企画展 告知ポスター
8	〃 チラシ	〃	40,000	A3 (二折)	〃 告知チラシ
9	START vol. 1	〃	4,000	AB版 (15)	美術館広報冊子
10	START vol. 2	〃	4,000	AB版 (15)	美術館広報冊子

(指定管理者)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	木下晋展 図録	不定期	500	A5 (32)	企画展 図録
2	〃 ポスター	〃	1,500	B2	〃 告知ポスター
3	〃 チラシ	〃	80,000	A4	〃 告知チラシ
4	〃 作品リスト	〃	2,286	A4	〃 作品リスト
5	麗しき琉球の記憶展 図録	〃	430	B5 (172)	企画展 図録
6	〃 ポスター	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
7	〃 チラシ	〃	60,000	A4	〃 告知チラシ
8	〃 作品リスト	〃	3,000	B4、B5	〃 作品リスト
9	20世紀フランス絵画展 図録	〃	297	B5	企画展 図録
10	〃 ポスター	〃	1,300	B2	〃 告知ポスター
11	〃 チラシ	〃	100,000	A4	〃 告知チラシ
12	〃 作品リスト	〃	5,200	A3	〃 作品リスト

VI. 展覧会一覧 (2014年度)

	展 示 会 名	場 所	主 催	期 間
1	木下晋展－生命の旅路	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜企業共同体	4/4～5/6
2	麗しき琉球の記憶－鎌倉芳太郎 が発見した“美”	美術館企画ギャラリー1・2、 博物館特別展示室2	文化の杜企業共同体	5/20～6/22
3	新収蔵品展 －平成25年度収蔵資料－	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美 術館	5/23～6/23
4	20世紀フランス絵画展 －山形美術館 服部コレクション ン」	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜企業共同体	7/15～8/31
5	沖縄テレビ放送開局55周年記念 「篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」	博物館特別展示室1・2、 企画展示室	(株) 沖縄テレビ	7/18～8/31
6	久米崇聖会創立100周年記念 「久米村(クニダ) －琉球と中国の架け橋－」	博物館特別展示室1・2、 企画展示室	沖縄県立博物館・美 術館／久米崇聖会	9/12～10/19
7	ANSEI UCHIMA Symphony of colors and wind－色彩と風のシン フォニー内間安理の世界－(美術 館)	美術館企画ギャラリー1・2	沖縄県立博物館・美 術館	9/12～11/9
8	大嶺薫コレクション－アジアへ のまなざし－	博物館特別展示室2	沖縄県立博物館・美 術館	9/19～10/19
9	水中文化遺産 －海に沈んだ歴史のカケラー	博物館特別展示室1・2、 企画展示室	沖縄県立博物館・美 術館	11/8～1/18
10	明星大学創立50周年記念 「ペリー一行の見た琉球・日本－ ウィリアム・ハイネの水彩原画展 －」	常設展示室内歴史部門展示室	沖縄県立博物館・美 術館／明星大学	11/29～12/21
11	ゴー・ビトゥイーンズ展－こども を通して見る世界 Go-Between: The World Seen through Children	美術館企画ギャラリー1・2	沖縄県立博物館・美 術館	1/16～3/15
12	イノシシとブタと私たち	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美 術館	2/3～3/15
13	ペットボトルアート「Reborn～異 彩放つ琉球の自然」	博物館特別展示室1・2	(株) 沖縄タイムス ／文化の杜企業共同 体	2/10～4/5
14	報道カメラマン 大城弘明・山城 博明写真展－二人が撮らえた沖 縄・終わらない戦後(美術館)	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜企業共同体	3/28～4/19

その他の活動

- I 沖縄県博物館協会
- II 全国組織との関わり
- III 沖縄博物館友の会
- IV happ (美術館友の会)

I. 沖縄県博物館協会

当館からの参加者については「博物館 I. 調査研究等の活動 7. 職員研修」の項を参照のこと。

【総会・春の研修会】

期 日：2014年5月29日（木）・30日（金）

場 所：久米島博物館 講堂

総 会：議案第1号 平成26年度役員改選について
議案第2号 沖博協事務局の輪番表について
議案第3号 平成25年度事業実施報告
議案第4号 平成25年度決算報告 会計監査結果報告
議案第5号 平成26年度事業計画案
議案第6号 平成26年度予算案
その他 新規加入の希望について

研修会：講 演「博物館教育を楽しむ」 池内一誠（九州国立博物館交流課主任研究員）

研修1「学習支援キットの開発と使用状況」

宮良みゆき（久米島博物館学芸員）

研修2「地域と学校にむけた博物館教育」

吉田健太（那覇市立壺屋焼物博物館学芸員）

現地研修：文化スポットガイドグスク巡り

案内：中島徹也（久米島博物館学芸員）

【秋の研修会】

期 日：2014年11月20日（木）、21日（金）

場 所：宜野座村立中央公民館

研 修：研修1「紙芝居を活用した展示と文化財巡り」 田里 一寿（宜野座村立博物館）

研修2「金武町の歴史文化案内に関する取り組みについて」 仲間 陽子（金武町教育委員会）

研修3「地域資源を活用した企画展」 後藤 法宣（恩納村博物館）

現地研修：宜野座村の遺跡巡り

（上地 聡）

II. 全国・九州の組織との関わり

1. 日本博物館協会

（1）全国博物館館長会議

期 日：2014年6月11日（水）

場 所：文部科学省講堂

参加者：安里 進、上地聡

2. 全国科学博物館協議会

（1）第1回総会及び施設見学

期 日：2014年6月12日（木）、13日（金）

場 所：国立科学博物館

参加者：安里 進、上地聡

3. 全国歴史民俗系博物館協議会

（1）第3回年次集会

期 日：2014年7月17日（木）、18日（金）

場 所：ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館 広島）

参加者：安里 進

内 容：総会及び研究集会（テーマ：博物館の危機管理Ⅱ）、見学会（福山市内）

(2)「日本歴史のバックアップとメタ資料学の構築」協議・研究会

期 日：2015年3月19日（木）～20日（金）

場 所：国立歴史民俗博物館（千葉）

参加者：上地 聡、崎原恭子

内 容：歴史協の第3回年次集会にて協力が承認された、国立歴史民俗博物館が主体となっている文科省補助事業「日本歴史のバックアップとメタ資料学の構築」における概要説明や今後の計画等の協議

4. 九州博物館協議会

(1) 総会

期 日：5月22日（木）

場 所：大分アリストンホテル

参加者：安里 進

5. 「みんなでまもるミュージアム」事業実行委員会

(1) 第2回会議

期 日：2014年8月11日（月）～12日（火）

場 所：九州国立博物館

参加者：大湾 ゆかり

Ⅲ. 博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。本年度の会員の内訳は、一般会員370名、家族会員44家族（91名）、賛助会員4ヶ所となっております。

今年も博物館・美術館の諸事業に積極的に参加し、博物館ボランティア活動への支援、広く県民を対象とした文化講演会や会員を対象とした研修会の実施、博物館常設展示室への展示交流員配置事業を実施しております。

友の会の更なる活発化をめざし会員への情報提供を進めています。

2014年度（平成26年度）の活動内容と事業内容は次のとおりです。

① 【交流員研修】

『友の会展示交流員館外研修』

日 時：2014年5月26日（月・休館日）

内 容：那覇市の歴史について、那覇市役所10階会議室にて講座。
那覇市役所近郊の史跡・旧跡散策。那覇市歴史博物館の見学。講師は、那覇市歴史博物館の外間政明学芸員。

参加者：52名



② 【グスク巡り】

『南部グスク巡り』

日 時：2014年6月14日（土）

内 容：糸数グスク、玉城グスク、仲村渠樋川、垣花樋川、具志頭歴史民俗資料館を見学。友の会理事の与儀達憲氏の案内で見学。

参加者：24名



③ 【文化講演会】

『世界遺産とグスク』

日 時：2014年8月30日（土）

内 容：沖縄考古学会会長でもある當眞氏が、歴史のロマンに秘めた世界遺産とグスクを語る。

講師：當眞 嗣一氏

参加者：220名余



④ 【文化講座】

『学芸員講話とプラネタリウム』

日 時：2014年10月2日（木）

内 容： ①学芸員講話（仲里 健 学芸員）『星の色と明るさについて』
②那覇市牧志駅前ほしぞら公民館・プラネタリウム観覧
『みんな生きている。宇宙・星・島々・・・』
ほしぞら公民館の田端館長による星空解説。

参加者：42名

⑤ 【史跡巡り】

『内間御殿学芸員解説会』

日 時：2014年10月10日（金）

内 容：内間御殿の学術的評価及び復元について、西原町教育委員会
文化財係山田主任主事より解説を受け、友の会副会長の新田
宗秀氏の案内で見学。

参加者：29名

⑥ 【民俗探訪】

『京太郎の夕べ』鑑賞会

日 時：2014年11月9日（日）

内 容：沖縄市立郷土博物館で開催中の越来グスク展を見学後、沖縄
県指定無形民俗文化財の『泡瀬の京太郎』を鑑賞。

参加者：39名

⑦ 【海外研修】

『韓国国立古宮博物館 琉球王国展と高麗青磁を訪ねて』

日 時：2014年12月7日（日）～12月10日（水）

内 容：「琉球王国の至宝展」の開会式典に参加。仁寺洞、昌徳宮、
国立民俗博物館を見学。高麗青磁と朝鮮白磁の窯場が約
300軒も集まっているソウル郊外の利川陶芸村で漢青陶芸
研究所、人間国宝柳海郷が設立した海剛陶磁器美術館等を
訪ねる旅。

参加者：7名



【会誌発行】

年1回 博友

【会員への情報提供】

- ① 博物館事業及び催し物等の会報発送（毎月）
- ② 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

【サークル活動】

家譜サークル（毎月1回勉強会実施）

【博物館サポート】

- ① 博物館常設展示室展示交流員の配置業務
- ② 博物館・美術館移動展への参加
- ③ 博物館ボランティア活動の支援
- ④ 「ボランティア通信」の印刷・発送業務

IV. happ（特定非営利活動法人 沖縄県立美術館支援会 happ）

happ は2005年（平成17年）に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生した。その年の9月には、特定非営利法人としての認証を受けている。happ と、happy や happen の起源となるスカンジナビア

語の「happ (幸福)」からきている。h=happiness (しあわせ)・happening (できごと)、a=art (アート)、p=people (人々)、p=place (場所) の意味を込めている。アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「happ=しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、主に美術館の教育普及活動をサポートしていく。

(1) 平成 26 (2014) 年度 主催事業

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	視覚障がい者と巡る ゆんたくミュージアムツアー 	平成 26 年 7 月 13 日	こどもアトリエ, 美術館コレクションギャラリー	10 名
2	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	(全 3 回) 鑑賞ツアーガイド育成講座 	平成 26 年 9 月 28 日 平成 26 年 12 月 13 日・14 日	美術館コレクションギャラリー, 県民スタジオ、県民・こどもアトリエ	30 名
3	鑑賞ツアーガイド育成事業(補助事業)	沖縄ダルク美術鑑賞ワークショップ<全 3 回> 	平成 26 年 11 月 5 日、 平成 26 年 2 月 25 日	美術館コレクションギャラリー	各 10 名
4	教育普及部会 地域連携部会	似顔絵ワークショップ、 紙ヒコーキ大会デザイン審査 	平成 26 年 11 月 23 日	新都心公園	60 名
5	アクション活性化部会	半島芸術祭出張ワークショップ 絶景の似顔絵スタジオ& おもしろ写真館  	平成 26 年 11 月 16 日	cafe ヤブサチ (南城市)	30 名
6	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	happ まつり in 沖縄県立芸術文化祭 	平成 26 年 11 月 22 日・23 日	美術館裏庭、 エントランスホール	2,000 名

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
7	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	手話で巡るゆんたくミュージアムツアー 	平成 26 年 11 月 30 日	コレクションギャラリー	4 名
8	教育普及部会	会員向け見学会 in 京都	平成 27 年 1 月 26 日～28 日	妙心寺、仁和寺、龍安寺、アサヒビール大山崎山荘美術館、京都国立博物館、蓮華王院三十三間堂、元離宮二条城	5 名
9	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	美術館で学ぶ親子でワークショップ 光のアートを作ろう 	平成 27 年 1 月 31 日	県民ギャラリースタジオ、美術館企画展示室	42 名
10	教育普及部会	プロジェクションマッピング講演会 	平成 27 年 2 月 1 日	沖縄県立芸術大学	60 名
11	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	意見交換会「地域を繋ぐ沖縄県立博物館・美術館」	平成 27 年 2 月 8 日	博物館実習室	20 名
12	【補助事業】鑑賞ツアーガイド育成事業	アメリジアンスクール・イン・オキナワ 美術鑑賞ワークショップ 	平成 27 年 2 月 20 日	美術館企画展	30 名
13	情報発信部会	happ news paper の発行	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	happ 事務局にて作成、館内外へ配布	—
14	情報発信部会	happ step jump ミュージアムアワーFM レキオ	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	FM レキオ	100 名

(2) 平成 26 (2014) 年度 委託事業

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	委託事業	美術館コレクションギャラリー展示監視業務	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	美術館コレクションギャラリー、happ 事務所	40 名
2	委託事業	美術館催事チラシデザイン	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	happ 事務所	—

(3) 平成 26 (2014) 年度 販売事業

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	販売事業	関連図録、冊子等の販売	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	ミュージアムショップ	—

(4) 平成 26 (2014) 年度 共催事業

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	地域連携部会	折り紙にありがとうを込めて贈る カーネーション&メッセージカード作り 【主催】一般社団法人スターリイ マンからの贈りもの	平成 26 年 5 月 10 日	博物館実習室	20 名
2	教育普及部会	夏休み子どもフェスタ 2014 キッズカメラマン/イラスト教室 【主催】沖縄県立博物館・美術館	平成 26 年 8 月 3 日	博物館実習室、エ ントランスホー ル	60 名
3	教育普及部会	似顔絵を描こう！ 【主催】沖縄県文化振興会	平成 26 年 11 月 29 日	エントランスホ ール	72 名
4	—	鑑賞ツアー 【主催】沖縄県立博物館・美術館	平成 26 年 3 月 ～平成 27 年 3 月	美術館コレクシ ョンギャラリー	—

(5) 平成 26 (2014) 年度 協力事業

	事業担当部会	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	—	三菱アジアの子どもたちの絵日記 展 in オキナワ 展示館史業務 【主催】三菱広報委員会	平成 26 年 5 月 27 日 ～6 月 1 日	県民ギャラリー	—
2	アクション活性化部 会	20 世紀フランス絵画展エントラン スホールコンサート 【主催】文化の杜共同企業体、沖 縄県立博物館・美術館	平成 26 年 7 月 26 日	エントランスホ ール	—

関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行令
- 博物館法施行規則
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

関係法規抄録

○博物館法

昭和 26 年 12 月 1 日 法律第 285 号
〔最終改正〕平成 23 年 12 月 14 日 法律第 122 号

第 1 章 総 則

(この法律の目的)

第 1 条 この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定 義)

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。第 29 条において同じ。）を除く。）が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。）をいう。

(博物館の事業)

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
- (10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第 4 条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第 5 条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。
 - (2) 大学に 2 年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて 62 単位以上を修得した者で、3 年以上学芸員補の職にあつたもの。
 - (3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前 2 号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めたる者。
- 2 前項第 2 号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第 6 条 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 90 条第 1 項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

(学芸員及び学芸員補の研修)

第 7 条 文部科学大臣及び都道府県の教育委員会は、学芸員及び学芸員補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

(設置及び運営上望ましい基準)

第 8 条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

(運営の状況に関する評価等)

第 9 条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措

置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けようとするものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、次に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款の写し又は当該宗教法人の規則の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消さなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の

一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基づいて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したもののについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則 (平成23年12月14日法律第122号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して2月を超えない範囲において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 1 附則第6条、第8条、第9条、及び第13条の規定 公布の日

○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号
〔最近改正〕 昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社。
- 2 日本放送協会。

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附 則 (昭和34年4月30日 政令第157号) 抄

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号
〔最終改正〕 平成24年6月29日 文部科学省令第24号

第1章 博物館に関する科目の単位

(博物館に関する科目の単位)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第5条第1項第1号に規定する博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	2

2 博物館に関する科目の単位のうち、すでに大学において修得した科目の単位又は第6条第3項に規定する試験科目について合格点を得ている科目は、これをもって、前項の規定により修得すべき科目の単位に替えることができる。

(博物館実習)

第2条 前条に掲げる博物館実習は、博物館（法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。）における実習により修得するものとする。

2 博物館実習には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

第2章 学芸員の資格認定

(資格認定)

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は無試験認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

(資格認定の施行期日等)

第4条 資格認定は、毎年少なくとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で公告する。ただし、特別の事情がある場合には、適宜な方法によつて公示するものとする。

(試験認定の受験資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、試験認定を受けることができる。

- (1) 学士の学位を有する者
- (2) 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者で2年以上学芸員補の職（法第5条第2項に規定する職を含む。以下同じ。）にあつた者
- (3) 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第2条第1項に規定する教職員の普通免許状を有し、2年以上教育職員の職にあつた者
- (4) 4年以上学芸員補の職にあつた者
- (5) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めたる者

(試験認定の方法及び試験科目)

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記の方法により行う。

- 2 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。
- 3 試験科目は、次表に定めるとおりとする。

試験科目	試験認定の必要科目	
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目
	博物館概論	
	博物館経営論	
	博物館資料論	
	博物館資料保存論	
	博物館展示論	
	博物館教育論	
	博物館情報・メディア論	
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する2科目
	美術史	
	考古学	
	民俗学	
	自然科学史	
	物理	
	化学	
	生物学	
	地学	

(試験科目の免除)

第7条 大学において前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を修得した者又は文部科学大臣が別に定めるところにより前条に規定する試験科目に相当する学修を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

第8条 削除

(審査認定の受験資格)

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、審査認定を受けることができる。

- (1) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (2) 大学において博物館に関する科目（生涯学習概論を除く。）に関し2年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (3) 次のいずれかに該当する者であつて、都道府県の教育委員会の推薦する者
 - イ 学士の学位を有する者であつて、4年以上学芸員補の職にあつた者
 - ロ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者であつて、6年以上学芸員補の職にあつた者
 - ハ 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者であつて、8年以上学芸員補の職にあつた者
 - ニ その他11年以上学芸員補の職にあつた者
- (4) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めたる者

(審査認定の方法)

第10条 審査認定は、次条の規定により願ひ出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

(受験の手続)

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書(別記第1号様式により作成したもの)に次に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願ひ出なければならない。この場合において、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の7第3項の規定により同法第30条の5第1項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- (1) 受験資格を証明する書類
- (2) 履歴書(別記第2号様式により作成したもの)
- (3) 戸籍抄本又は住民票の写し(いずれも出願前6月以内に交付を受けたもの)
- (4) 写真(出願前6月以内に撮影した無帽かつ正面上半身のもの)

2 前項に掲げる書類は、やむを得ない事由があると文部科学大臣が特に認めた場合においては、他の証明書をもって代えることができる。

3 第7条の規定に基づき試験認定の試験科目の免除を願ひ出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類を提出しなければならない。

4 審査認定を願ひ出る者については、第1項各号に掲げるもののほか、次に掲げる資料又は書類を提出しなければならない。

- (1) 第9条第1号又は同条第2号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等
- (2) 第9条第3号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等又は博物館に関する顕著な実績を証明する書類
- (3) 第9条第4号により出願する者にあつては、前2号に準ずる資料又は書類

(試験認定合格者)

第12条 試験科目(試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。)の全部について合格点を得た者(試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。以下、「筆記試験合格者」という。)であつて、1年間学芸員補の職にあつた後に文部科学大臣が認定した者を試験認定合格者とする。

2 筆記試験合格者が試験認定合格者になるためには、試験認定合格申請書(別記第3号様式によるもの)を文部科学大臣に提出しなければならない。

(審査認定合格者)

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を審査認定合格者とする。

(合格証書の授与等)

第14条 試験認定合格者及び審査認定合格者に対しては、合格証書(別記第4号様式によるもの)を授与する。

2 筆記試験合格者に対しては、筆記試験合格証書(別記第5号様式によるもの)を授与する。

3 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願ひ出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

(合格証明書の交付等)

第15条 試験認定合格者又は審査認定合格者が、その合格の証明を願ひ出たときは、合格証明書(別記第6号様式によるもの)を交付する。

2 筆記試験合格者が、その合格の証明を申請したときは、筆記試験合格証明書(別記第7号様式によるもの)を交付する。

3 1以上の試験科目について合格点を得た者(筆記試験合格者を除く。次条及び第17条において「筆記試験科目合格者」という。)がその科目合格の証明を願ひ出たときは、筆記試験科目合格証明書(別記第8号様式によるもの)を交付する。

(手数料)

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願ひ出る者	一科目につき1,300円
2 審査認定を願ひ出る者	3,800円
3 試験認定の試験科目の全部について免除を願ひ出る者	800円
4 合格証書を書き換え又は再交付を願ひ出る者	700円
5 合格証明書の交付を願ひ出る者	700円
6 筆記試験合格証明書の交付を願ひ出る者	700円
7 筆記試験科目合格証明書を願ひ出る者	700円

2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律(平成14年法律第151号)第3条第1項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3 納付した手数料は、これを返還しない。

(不正の行為を行つた者等に対する処分)

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするるとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2 試験認定合格者、審査認定合格者、筆記試験合格者又は筆記試験科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするるとともに、既に授与し、又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3 前2項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第3章 博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たつて参酌すべき基準

第18条 法第22条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

第4章 博物館に相当する施設の指定

(申請の手続)

第19条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書(別記第9号様式により作成したもの)に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人(独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第2号第1項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。)が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長(大学に附属する施設にあつては当該大学の長)が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者(大学に附属する施設にあつては当該大学の長)が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

- (1) 当該施設の有する資料の目録
- (2) 直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- (3) 当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
- (4) 当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

(指定要件の審査)

第20条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- (1) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- (2) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- (3) 学芸員に相当する職員がいること。
- (4) 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- (5) 1年を通じて100日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第21条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設(以下「博物館相当施設」という。)が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長(大学に附属する施設にあつては当該大学の長)が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者(大学に附属する施設にあつては当該大学の長)が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第20条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

(指定の取消)

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基づいて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第5章 雑則

(学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第25条 第5条第1号及び第9条第3号イに規定する学士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令(大正7年勅令第388号)による学士の称号を有する者
- (2) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第155条第1項第2号から第8号までのいずれかに該当する者

(短期大学の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第26条 第5条第2号及び第9条第3号ロに規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令、旧高等学校令(大正7年勅令第389号)、旧専門学校令(明治36年勅令第61号)又は旧教員養成諸学校官制(昭和21年勅令第208号)の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者
- (2) 学校教育法施行規則第155条第2項各号のいずれかに該当する者

(修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第27条 第9条第1号に規定する修士の学位を有する者には、学校教育法施行規則第156条各号のいずれかに該当する者を含むものとする。

(博士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第28条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧学位令(大正9年勅令第200号)による博士の称号を有する者
- (2) 外国において博士の学位に相当する学位を授与された者

(専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第29条 第9条第1号に規定する専門職学位を有する者には、外国において専門職学位に相当する学位を授与された者を含むものとする。

附則 (平成24年6月29日文部科学省令第24号)

(施行期日)

- 1 この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律(平成21年法律第77号)の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律(平成21年法律第79号)の施行の日(平成24年7月9日)から施行する。

(経過措置)

- 2 この省令の施行の日から起算して6月を経過する日までの間における改正後の博物館法施行規則第11条第1項第3号の規定の適用については、同号中「住民票の写し」とあるのは、「住民票の写し(日本の国籍を有しない者にあつては、住民票の写し又は出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正す

る等の法律第4条の規定による廃止前の外国人登録法(昭和27年法律第125号)に規定する登録原票の写し若しくは登録原票記載事項証明書」とする。

○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号
〔最終改正〕平成6年3月31日教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

(登録原簿等の様式)

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

(博物館登録申請書の添付書類)

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿(第4号様式)を添付するものとする。

(登録要件の審査)

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

(登録事項等の変更)

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書(第5号様式)によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

(博物館の廃止)

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届(第6号様式)により行うものとする。

(公示)

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附 則

(平成6年3月31日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第1号様式
(第2条関係)

No. _____

備考	所在地	名称	※の名称及び住所	事項	
				登録	
				年月日	年月日
登録	変更	年月日	年月日	記号番号	第号
				年月日	年月日

(※公立の場合は設置者の名称のみ記入)

第2号様式
(第2条関係)

博物館登録申請書

文書番号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

申請者 氏名 印

博物館法第11条第1項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

- (1) 公立博物館にあつては設置条例の写し、私立博物館にあつては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
- (2) 館則の写し
- (3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
- (4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあつては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあつては収支の見積もりに関する書類
- (5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
- (6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第5号様式
(第5条関係)

博物館登録事項変更届出書

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名

印

博物館法第13条第1項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変 更 年 月 日	年 月 日
変 更 の 理 由	
変 更 事 項 の 種 類	
変更事項の内容	旧
	新

第6号様式
(第6条関係)

博物館廃止届

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名

印

博物館法第15条第1項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃 止 年 月 日	年 月 日
廃 止 し た 理 由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

○沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
平成 23 年 3 月 31 日 教育委員会規則第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 180 条の 7 の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(委任)

第 2 条 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務のうち、次に掲げる事務以外の事務を沖縄県部等設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 32 号）第 2 条第 8 号の規定により設置される文化観光スポーツ部の長（以下「部長」という。）に委任する。ただし、沖縄県立博物館・美術館管理規則（平成 19 年沖縄県教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 3 項ただし書の規定による認定に関する事務にあつては、知事が定める沖縄県立博物館・美術館の組織に関する規則の規定により設置される館長に委任する。

- (1) 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）及び沖縄県立博物館・美術館管理規則（以下「条例等」という。）の改正及び廃止に関すること。
- (2) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 21 条及び沖縄県立博物館・美術館管理規則第 12 条第 1 項の規定による博物館・美術館協議会の委員の任免に関すること。

(合議等)

第 3 条 前条の規定により事務の委任を受ける者は、当該事務の執行について、この規則以外の教育委員会規則その他の規定により教育委員会又はその補助職員に対し、合議、協議、報告等（以下「合議等」という。）を要する定めのある事務については、合議等を行わなければならない。

2 前条の規定にかかわらず、委任された事務に関し、重要かつ異例の事態が生じたときは、あらかじめ、その処理方針について、教育委員会の承認を受けなければならない。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際条例等の規定により教育委員会がした処分その他の行為で現にその効力を有するもの又はこの規則の施行の日（以下「施行日」という。）前に条例等の規定により教育委員会に対してなされた申請その他の行為で、施行日以後においては部長に委任されることとなる事務に係るものは、施行日以後における条例等の適用については、部長がした処分その他の行為又は部長に対してなされた申請その他の行為とみなす。

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

3 沖縄県教育庁組織規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第 1 号）の一部を次のように改正する。

第 11 条第 8 号を次のように改める。

(8) 博物館・美術館に関すること（沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成 23 年沖縄県教育委員会規則第 2 号）により委任される事務に関するものを除く。）。

(沖縄県立教育機関組織規則の一部改正)

4 沖縄県立教育機関組織規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第 2 号）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）」を削る。

第 4 条を削り、第 4 条の 2 を第 4 条とする。

第 6 条を次のように改める。

(職制等)

第 6 条 総合教育センター、図書館、埋蔵文化財センター及び青少年の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

2 所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第 7 条及び第 8 条を削り、第 9 条を第 7 条とする。

第 9 条の 2 の表中「総合教育センター（総務班を除く。） 博物館・美術館」を「総合教育センター（総務班を除く。）」に改め、同条を第 8 条とする。

第 10 条を第 9 条とし、第 11 条を第 10 条とし、第 11 条の 2 を第 11 条とする。

第 12 条第 1 項中「及び博物館・美術館」を削る。

第 21 条を第 23 条とし、第 20 条を第 22 条とし、第 19 条を第 21 条とする。

第 18 条中「第 7 条から第 16 条まで」を「第 6 条から第 18 条まで」に改め、同条の表中

「 | 学芸員 | 上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務に従事する。 |

及び

「 | 学芸員補 | 上司の命を受け、学芸員の職務を助ける。 |

を削り、同条を第 20 条とする。

第 17 条を第 19 条とする。

第 16 条中「第 7 条」を「第 6 条」に改め、同条を第 18 条とする。

第 15 条を第 17 条とし、第 14 条を第 16 条とし、第 13 条を削り、第 12 条の 4 を第 15 条とする。

第 12 条の 3 第 1 項中「、博物館・美術館」を削り、同条を第 14 条とする。

第 12 条の 2 を第 13 条とする。

(沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則の一部改正)

5 沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第 22 号）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 2 項中「沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、」を「沖縄県立埋蔵文化財センター及び」に改める。

○沖縄県博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則

平成23年3月31日 規則第8号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則(平成23年沖縄県教育委員会規則第2号。以下「教育委員会事務委任規則」という。)第2条の規定により知事の補助職員に委任された沖縄県立博物館・美術館(沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例(平成19年沖縄県条例第72号)で設置された沖縄県立博物館・美術館をいう。以下「博物館・美術館」という。)の管理に関する事務を執行するための組織その他必要な事項について定めるものとする。

(博物館・美術館の管理に関する事務の所掌)

第2条 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により文化観光スポーツ部の長(以下「文化観光スポーツ部長」という。)に委任された事務は、沖縄県行政組織規則(昭和49年沖縄県規則第18号。以下「行政組織規則」という。)第76条の規定により設置する文化観光スポーツ部文化振興課が所掌する。

2 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、前項に定める事務以外の事務は、博物館・美術館が所掌する。

(内部組織)

第3条 博物館・美術館に総務班、博物館班及び美術館班を置く。

(所掌事務)

第4条 総務班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の保管に関すること。
- (3) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (4) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (5) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (6) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

2 博物館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料(以下「博物館資料」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること(美術館班が分掌して処理するものを除く。)
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること(美術館班が分掌して処理するものを除く。)

3 美術館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料(以下「美術館資料」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること(美術館班が分掌して処理するものに限る。)
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること(美術館班が分掌して処理するものに限る。)

(職の設置)

第5条 博物館・美術館に、館長、副館長、班長、主査、主事及び学芸員を置く。

2 博物館・美術館に、特に必要と認められるときは、主任学芸員、主任専門員、主任、専門員及びその他の職員を置くことができる。

(職の職務内容)

第6条 前条に掲げる職の職務内容は、上司の命を受けて次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 館長は、博物館・美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- (2) 副館長は、博物館・美術館の事務を整理し、館長を補佐する。
- (3) 班長は、班の事務を処理する。
- (4) 主査は、博物館・美術館の特定事務を分掌する。
- (5) 主事は、一般的な事務を処理する。
- (6) 学芸員は、学芸業務に従事する。
- (7) 主任学芸員は、学芸業務を処理する。
- (8) 主任専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。
- (9) 主任は、一般的な事務を分掌する。
- (10) 専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。

(その他組織に関する事項)

第7条 第3条から前条までに定めるもののほか、博物館・美術館の組織に関し必要な事項は、博物館・美術館を行政組織規則第5条に規定する公の施設とみなして、同規則の規定を適用する。

(委任された事務に係る決裁等)

第8条 教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により、文化観光スポーツ部長に委任された事務は、沖縄県事務決裁規定（昭和48年沖縄県訓令第89号）の規定の例により文化観光スポーツ部長が決裁するものとする。

2 教育委員会事務委任規則第2条ただし書の規定により、館長に委任された事務の決裁は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則（昭和53年沖縄県規則第67号）の規定（第3条、第5条及び第13条を除く。）を準用する。この場合において、同規則の規定中「知事」とあるのは「沖縄県教育委員会」と、「所長等」とあるのは「館長」と読み替えるものとする。

3 前2項に定めるもののほか、文化観光スポーツ部長及び館長は、教育委員会事務委任規則第2条の規定により委任された事務の執行に関し重大な疑義が生じたときは、沖縄県教育委員会に協議する等をして適正に事務を処理しなければならない。

4 館長は、前2項の規定又は教育委員会事務委任規則第3条の規定が適用される事務については、文化観光スポーツ部長を経由して同条に規定する手続きを講ずるものとする。

（委任された事務以外の事務の委任及び決裁）

第9条 博物館・美術館の管理に関する事務を執行する組織及び職員の管理その他必要な事務の処理は、館長を沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則第2条第1項第1号に規定する所長等とみなして、同規則の規定を適用する。この場合において、館長は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則の規定の適用に関し疑義を生じたときは、知事に協議しなければならない。

（委任）

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関する事務の執行に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長に委任された事務については文化観光スポーツ部長が、館長に委任された事務については官庁がそれぞれ定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日 条例第72号
〔最終改正〕平成24年3月30日 条例第46号

（設置）

第1条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

（位置及び施設）

第2条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち3丁目1番1号とする。

2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 博物館施設
- (2) 美術館施設
- (3) その他施設

（事業）

第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館・美術館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館・美術館の施設の利用に関すること。
- (4) 博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

（博物館・美術館の管理）

第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者の業務）

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
- (2) 第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
- (3) 第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
- (4) 第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
- (5) 博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

（指定管理者の指定の申請）

第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

(指定管理者の指定)

第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
- (2) 事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

(指定管理者の指定等の告示)

第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

(休館日)

第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日
- 2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例(昭和49年沖縄県条例第42号)第2条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これに替えるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

(開館時間)

第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

(観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

- 2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。
- 4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。
- 6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。
- 7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

(観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備(以下「施設等」という。)を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者(以下「利用者」という。)が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

- 2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。
- 3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。
 - (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
 - (2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。
 - (3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

(利用期間)

第15条 施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。
- (4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至つたとき。

(原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

(利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

(事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

(博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 第2項から前項までに定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

一部改正〔平成24年条例46号〕

(教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。
(平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行)

(準備行為)

2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

(沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

3 沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。

第1条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。

第8条中「、第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

(沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。

別表第1を削り、別表第2を別表とする。

附 則（平成24年3月30日条例第46号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第11条関係）

区分		基準額（1人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円	320円
	大学生及び高校生	250円	200円
	中学生及び小学生	150円（県外の中学生及び小学生に限る）	120円（県外の中学生及び小学生に限る）
美術館施設	一般	300円	240円
	大学生及び高校生	200円	160円
	中学生及び小学生	100円（県外の中学生及び小学生に限る）	80円（県外の中学生及び小学生に限る）

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
- 「団体の場合」とは、20人以上の団体を観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第2 (第11条関係)

区分		基準額 (1人につき)		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	4,750円	450円(県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円(県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円)
美術館施設	常設展	4,900円	4,600円	300円(県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円(県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者(小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第3 (第14条、第19条関係)

1 施設利用料金

(1) 博物館施設利用料金

区分		基準額 (1日につき)
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100円
	入場料を徴収する場合	87,300円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100円
	入場料を徴収する場合	114,300円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,000円
	入場料を徴収する場合	27,000円
講座室	入場料を徴収しない場合	15,900円
	入場料を徴収する場合	47,700円

(2) 美術館施設利用料金

区分		基準額 (1日につき)
県民ギャラリー1スタジオ		8,100円
県民ギャラリー2スタジオ		7,500円
県民ギャラリー3スタジオ		7,500円
県民ギャラリースタジオ		8,200円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

(3) その他施設利用料金

区分		基準額 (1時間につき)
講堂	入場料を徴収しない場合	3,400円
	入場料を徴収する場合	10,200円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	1時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
 - 午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までの間は、超過時間30分間(30分間に満た

ない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
(2) 午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)後は、超過時間30分間(30分間に満たない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号
〔最終改正〕 平成24年2月21日 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例(平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。)の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第23条第1号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館(以下「博物館・美術館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書(第1号様式)又は博物館・美術館資料寄託申請書(第2号様式)を提出しなければならない。

2 受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書(第3号様式)又は博物館・美術館資料受託承認書(第4号様式)を交付するものとする。

3 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長(以下「館長」という。)が必要と認めた場合はこの限りでない。

4 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

5 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

2 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第4条 条例第6条の規定で定める申請書は、指定管理者指定申請書(第5号様式)によるものとする。

2 条例第6条の規定で定める書類は、次に掲げる書類とする。

(1) 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書

(2) 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る。)

(3) 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

(4) 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)

(5) 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類

(6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

(観覧券の交付)

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の免除)

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書(第6号様式)を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

2 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合

(2) 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合

(3) 70歳以上の者が常設展を観覧する場合

(4) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

(5) 知的障害者で都道府県知事又は地方自治法(昭和22年法律第67号)第252条の19第1項の指定都市の市長から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

(6) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

(入館の禁止等)

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

(2) その他指定管理者が適当でないと認める者

(施設利用の許可等)

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書(第7号様式)を提出しなければならない。

(利用期間)

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

(1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月

(2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の免除)

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

(事業報告書の内容等)

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
- (2) 業務に係る収支状況
- (3) 博物館・美術館の利用状況
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(博物館・美術館協議会の組織等)

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

- 2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。
- 8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。
- 9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。
- 10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(観覧料の割引)

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

(附属設備の利用料金の基準額)

第14条 条例別表第3第2項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

(補則)

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な申請書等)

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)

3 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）
- (2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

附則（平成24年2月21日教育委員会規則第1号）

この規則は、公布の日から施行する。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD・MDプレーヤー	1台	400円
	HD/DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ポーターライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

	区分	単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー2	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー3	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室	1時間までごとに	710円
	企画展示室2	1時間までごとに	880円
	講座室	1時間までごとに	200円
その他施設	講堂	1時間までごとに	590円

第1号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申込者 住 所 氏 名		印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。</p>		
1 種 別	記 記	
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製 作 年 月 日		
5 附 属 品		
6 資 料 所 在 地		
7 時 価 見 積 額		
8 寄 贈 の 理 由		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第2号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申請者 住 所 氏 名		印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。</p>		
1 種 別	記 記	
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製 作 年 月 日		
5 附 属 品		
6 資 料 所 在 地		
7 寄 託 期 間	年 月 日 から	年 月 日まで

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第3号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受贈承諾書	年 月 日
殿	
沖縄県立博物館・美術館長 印	
<p>年 月 日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第2条第4項の規定により返却されません。</p>	
記	
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 資料所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第4号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受託承認書	年 月 日
殿	
沖縄県立博物館・美術館長 印	
<p>年 月 日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。</p>	
記	
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 受託期間	年 月 日 から 年 月 日まで
7 備 考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第5号様式
(第4条関係)

沖縄県教育委員会 殿 申請者 所在地 団体の名称 代表者の氏名 申請者 住所 氏名 電話 印	年 月 日
指定管理者指定申請書	
沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第6条の規定により申請します。	
添付書類 1 事業計画書 2 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書 3 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る) 4 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類 5 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日に属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録) 6 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類 7 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類	
備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。	

第6号様式
(第6条関係)

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿 申請者 住所 氏名 電話 印	観覧料免除申請書 年 月 日
下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第6条第1項の規定に基づき申請します。	
記	
1 観覧者 団体名 引率者名	年 月 日 (曜日) 時～ 時
2 観覧者数	人
3 観覧日時	年 月 日 (曜日) 時～ 時
4 申請理由
承認証	
殿	
年 月 日 付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。	年 月 日
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 印	
備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。	

第7号様式
(第8条関係)

博物館・美術館施設利用許可申請書

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

申請者 氏名 電話 印
年 月 日

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

1 利用者 団体名 代表者名 職業 () 印 電話
住所

2 利用目的

3 利用する施設

4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分 }

5 予定参加人数 人
..... 許 可 証

年 月 日 付け申請の () 使用の件、申請どおり許可します。

年 月 日 沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第8号様式
(第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

申請者 住所 名称 団体名 代表者氏名 電話番号 印
年 月 日

沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願います。

記

1 催物の名称

2 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分 }

3 利用期間の変更を願う理由

4 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第9号様式

(第10条関係)

<p>沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿</p>	<p>年 月 日</p>
<p>申請者 住 所 団 体 名 代 表 者 氏 名 電 話 番 号</p>	<p>印</p>
<p>沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書</p>	
<p>次のとおり利用料金の免除を申請します。</p>	
<p>記</p>	
1 催物の名称	
2 利用目的	
3 催物の内容	
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 時 分 } () 日間 至： 年 月 日 時 分 }
5 減額・免除を申請する理由	
6 備考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第10号様式

(第10条関係)

<p>沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿</p>	<p>年 月 日</p>
<p>沖縄県立博物館・美術館 指定管理者</p>	<p>印</p>
<p>沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書</p>	
<p>次のとおり利用料金の免除を承認します。</p>	
<p>記</p>	
1 催物の名称	
2 利用目的	
3 催物の内容	
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 時 分 } () 日間 至： 年 月 日 時 分 }
5 利用料金免除額	
6 備考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程

平成 23 年 4 月 1 日 訓令第 103 号
〔最終改正〕 平成 25 年 3 月 30 日 訓令第 63 号

(趣 旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、この訓令によるものとする。

(任命及び任期)

第 2 条 館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから知事が任命する。

2 館長の任期は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 3 条 館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第 4 条 館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 館長の 1 月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は文化観光スポーツ部長が別に定める。

3 館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第 5 条 館長は、その職務の遂行に当たつて、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 館長は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 任)

第 6 条 知事は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、任期内であつても解任することができる。

(1) 館長の職務を怠つたとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 館長として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 任命の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第 7 条 この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 3 月 30 日訓令第 63 号）

この訓令は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程

平成 23 年 4 月 1 日 訓令第 106 号
〔最終改正〕 平成 25 年 3 月 30 日 訓令第 63 号

(設 置)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館に博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身 分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務等)

第 3 条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 資料の調査、収集及び整理に関すること。

(2) 資料の保存、修復等に関すること。

(3) 展示に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第 4 条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条第 1 項に規定する学芸員となる資格を有する者

(2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の 1 月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受

ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内であっても解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年3月30日訓令第63号)

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程

平成23年4月1日 訓令第107号

〔最終改正〕 平成25年3月30日 訓令第63号

(設 置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館に博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身 分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職 務)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。

(2) 教育関係機関への学習支援に関すること。

(3) ボランティア活動に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項に規定する学芸員となる資格を有する者

(2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年3月30日訓令第63号)

この訓令は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

○美術品調査嘱託員設置規程

平成 23 年 4 月 1 日 訓令第 104 号
〔最終改正〕 平成 25 年 3 月 30 日 訓令第 63 号

(趣旨)

第 1 条 県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の調査に関すること。
- (2) 県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
- (3) その他美術品の調査に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第 4 条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条第 1 項に規定する学芸員となる資格を有する者
 - (2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件等)

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の 1 月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第 7 条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第 8 条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第 3 条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。
- (5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第 9 条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 3 月 30 日訓令第 63 号）

この訓令は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成 23 年 4 月 1 日 訓令第 105 号
〔最終改正〕 平成 25 年 3 月 30 日 訓令第 63 号

(趣旨)

第 1 条 県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
- (2) 県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第 4 条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条第 1 項に規定する学芸員となる資格を有する者
 - (2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課課長は、総務部行政管理

課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成25年3月30日訓令第63号）

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年3月14日 教育長決裁

(目 的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

(1) 展示会等における原資料等の借用。

(2) 同資料の撮影。

(3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。

(4) 撮影等による複製品の製作。

(5) 原資料等の閲覧。

(6) 教育普及資料の借用。

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

(1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。

(2) 好ましくない用途に供されると認められる場合。

(3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合。

(4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。

(5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。

(6) その他、許可することが適当でないと認められる場合。

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

(1) 原資料等の借用（第1号様式）

(2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）

(3) 複製品の製作（第3号様式）

(4) 原資料等の閲覧（第4号様式）

(5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があつた場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

(1) 事業の趣旨及び内容。

(2) 事業の主体者。

(3) 事業計画。

(4) その他必要な事項。

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおり条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表 (第6条関係) 各申請の資料利用の許可条件

資料利用の許可条件	
利用申請の内容 (各申請様式)	個別条件
共通条件	
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「神縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ④借用によつて生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。
原資料等の借用 (第1号様式)	①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
写真撮影、原板 ・印画の借用 (第2号様式)	①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑥資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作 (第3号様式)	①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。 ③閲覧によつて得られた成果(論文や著作等)は、当館に1部(1点)納付すること。
原資料等の閲覧 (第4号様式)	①与期間は1週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
教育普及資料 の借用の (第5号様式)	

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書 (原資料等の借用)	平成 年 月 日 印
沖縄県立博物館・美術館長 殿	代表者名：
申請者 団体名： (担当者氏名)	住所：〒
TEL：	FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いいたします。

記

事業名	年月日～月日	員数	資料名	備考
1.				
2.				
3.				
4.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書 (原資料等の借用)	博 美 第 号 平 成 年 月 日
殿	沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名	年月日～月日	員数	資料名	備考
1.				
2.				
3.				
4.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(写真撮影、原板・印画の借用)

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名：
申請者 団体名： (担当者氏名)

住所：〒
TEL：
FAX：

平成 年 月 日 印

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日	～ 月 日	日 時	～ 時	
事項	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
出版物	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
映画	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
テレビ	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
DVD	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
C D	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
その他	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
資料名	数量 仕様 備考				
1.					
2.					
3.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(写真撮影、原板・印画の借用)

博 美 第 号
平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
日時・期間	年 月 日	～ 月 日	日 時	～ 時	
事項	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
出版物	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
映画	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
テレビ	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
DVD	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
C D	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
その他	年 月 日 <td>～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td></td>	～ 月 日 <td>部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td></td>	部 数 <td>制作予定日 <td>備考</td> </td>	制作予定日 <td>備考</td>	備考
資料名	数量 仕様 備考				
1.					
2.					
3.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(複製品の製作)

沖縄県立博物館・美術館長 殿

平成 年 月 日

印

代表者名:

申請者 団体名: ()

住所: 〒

TEL:

FAX:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
希望日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 ~ 時	時 ~ 時	
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	数量	点 販売価格 備考
1.	資 料 名	数量	仕様	
2.				
3.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 - ⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損害は、申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 - ⑨製作された写真データやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 - ⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(複製品の製作)

博 美 第 号
平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日 付けで申請のあつた特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 ~ 時	時 ~ 時	
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	数量	点 販売価格 備考
1.	資 料 名	数量	仕様	
2.				
3.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 - ⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損害は、申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 - ⑨製作された写真データやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 - ⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名: _____ 印

申請者 団体名: _____)

住 所: 〒 _____

TEL: _____

FAX: _____

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いいたします。

記

目 的	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員
1. _____		
2. _____		
3. _____		
4. _____		
5. _____		

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際は、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(原資料等の閲覧)

博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日 付けで申請のあつた資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目 的	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員
1. _____		
2. _____		
3. _____		
4. _____		
5. _____		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際は、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： _____ 印
 申請者 団体名： _____
 (担当者氏名)
 住 所： 〒 _____

TEL： _____
 FAX： _____

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 学校 (学年・学級)	行事	2 地域・団体行事	3 その他
希望日時・期間	年 月 日 (時) ~	年 月 日 (時)	年 月 日 (時)	年 月 日 (時)
行 事 名				
目 的				
	資料名		数量	備考
1.				
2.				
3.				
4.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)

博 美 第 号
 平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 学校 (学年・学級)	行事	2 地域・団体行事	3 その他
日時・期間	年 月 日 (時) ~	年 月 日 (時)	年 月 日 (時)	年 月 日 (時)
行 事 名				
目 的				
	資料名		数量	備考
1.				
2.				
3.				
4.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館・美術館年報 No. 8

2016年(平成28) 3月 22日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館

住 所：〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番地1号

T E L : 098-941-8200 (代表)

F A X : 098-941-2392 (代表)

ホームページ : <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

(沖縄県立博物館・美術館ホームページ)

印刷：株式会社 東洋企画印刷

住所：〒901-0306

沖縄県糸満市西崎町4丁目21-5

『沖縄県立博物館・美術館年報』No. 8の内容についての訂正

平成28年3月22日付けで発行致しました、『沖縄県立博物館・美術館年報』No. 8におきまして、内容の不足箇所が2点、誤記箇所が1点ございました。皆様にご迷惑をお掛けしたことをお詫びすると共に、下記の通り訂正させていただきます。

◎不足1…69ページ、常設展 展示替えに関する【歴史部門展示室】につきまして、以下の内容が欠落しておりました。当館活動にご協力いただきました、個人・団体の皆様に、深くお詫び申し上げます。

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

平成26年度の歴史部門展示室では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示をほぼ通年で展示し、11月から12月までは明星大学（東京都）と共催した「ペリー一行の見た琉球・日本」のテーマを歴史部門展示室全体で行い、そのほか「戦後の移民～再び海を渡ったウチナーンチュ～」、「琉球王国時代の地図と測量技術」のテーマを歴史部門展示室の一部に展示した。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

○「那覇港～往来する人とモノ～」

主 旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に提起し、3つのテーマに分けて紹介する。「1 王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2 往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「3 那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々の姿を示す。

展示資料：首里那覇港図屏風、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図） 他

展示期間：通年展示（11月29日～12月21日以外）

○博物館特別企画 明星大学創立50周年記念

「ペリー一行の見た琉球・日本ーウィリアム・ハイネの水彩原画展ー」

主 旨：2014年に明星大学が創立50周年を迎えることを契機として、明星大学および個人が所蔵するペリー提督の随行画家・ハイネの原画（水彩画）5枚1組（内4枚は明星大学、1枚は個人）を一堂に公開し、琉球来航を主軸としたペリー提督の日本来航の歴史を考える展示会とする。

開催形式：（主催）沖縄県立博物館・美術館、（共催）明星大学

（協力）沖縄県立図書館、琉球大学附属図書館、琉球新報社

（後援）沖縄タイムス社、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、ラジオ沖縄、FMレキオ、エフエム沖縄、タイフーンfm、沖縄ケーブルネットワーク株式会社

展示資料：ハイネの原画（水彩画）5枚1組 [内4枚は明星大学、1枚は個人所蔵]、ペリー再来航及献上品絵巻 嘉永7年2月再来航図巻 [明星大学所蔵]、ペリー『日本遠征記』、琉米条約（複製）、W・ボードの墓碑（拓本） 他

展示期間：2014年11月29日（土）～12月21日（日）

展示解説会：2014年12月7日（日）・13日（土）10:00～11:00

○「琉球王国時代の地図と測量技術」

主 旨： 琉球王国時代、琉球やその周辺を描いた地図が国内外の各地で様々な目的をもって製作された。琉球ではいつから作成されたのかははっきりしないが、18世紀に最先端の測量術を取り入れると、測量や製図の技術はめざましい発展を遂げ、現在の地図と比べても遜色のない地図が作り上げられた。

ここでは、琉球王国時代につくられた地図や測量技術に関する最新の研究成果を盛り込み、王府による測量と地図製作事業を紹介した。

展示資料：『羽地間切針竿帳』、薩摩藩調製（琉球）図〔沖縄県立図書館所蔵〕、琉球国惣絵図（間切集成図）、首里古地図（特大パネル）、久茂地村屋敷図（写）〔沖縄県立図書館所蔵〕 他

展示期間：2015年1月8日（木）～4月12日（日）

*第1期 1月8日～3月8日、第2期 3月12日～4月12日



ペリー一行の見た琉球・日本の展示風景



地図と測量技術の展示風景

◎不足2…94ページ、当館所蔵の【県指定文化財（有形文化財）】につきまして、以下の内容が欠落しておりました。深くお詫び申し上げます。

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所有者
工 芸 品	色象嵌粟絵菊花皿	1口	昭54. 9. 3	沖 縄 県

◎誤 記…191ページ、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（観覧料）別表第2（第11条関係）につきまして、次ページの通り、内容の誤りがございました。深くお詫び申し上げます。

誤（太字部分）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	4,750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円）
美術館施設	常設展	4,900円	4,600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円）

正（太字部分）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円）
美術館施設	常設展	900円	600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円）

『沖縄県立博物館・美術館年報』No. 8の内容についての訂正

平成28年3月22日付けで発行致しました、『沖縄県立博物館・美術館年報』No. 8におきまして、内容の不足箇所が2点、誤記箇所が1点ございました。皆様にご迷惑をお掛けしたことをお詫びすると共に、下記の通り訂正させていただきます。

◎不足1…69ページ、常設展 展示替えに関する【歴史部門展示室】につきまして、以下の内容が欠落しておりました。当館活動にご協力いただきました、個人・団体の皆様に、深くお詫び申し上げます。

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

平成26年度の歴史部門展示室では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示をほぼ通年で展示し、11月から12月までは明星大学（東京都）と共催した「ペリー一行の見た琉球・日本」のテーマを歴史部門展示室全体で行い、そのほか「戦後の移民～再び海を渡ったウチナーンチュ～」、「琉球王国時代の地図と測量技術」のテーマを歴史部門展示室の一部に展示した。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

○「那覇港～往来する人とモノ～」

主 旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に取り上げ、3つのテーマに分けて紹介する。「1 王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2 往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「3 那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々の姿を示す。

展示資料：首里那覇港図屏風、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図） 他

展示期間：通年展示（11月29日～12月21日以外）

○博物館特別企画 明星大学創立50周年記念

「ペリー一行の見た琉球・日本ーウィリアム・ハイネの水彩原画展ー」

主 旨：2014年に明星大学が創立50周年を迎えることを契機として、明星大学および個人が所蔵するペリー提督の随行画家・ハイネの原画（水彩画）5枚1組（内4枚は明星大学、1枚は個人）を一堂に公開し、琉球来航を主軸としたペリー提督の日本来航の歴史を考える展示会とする。

開催形式：（主催）沖縄県立博物館・美術館、（共催）明星大学

（協力）沖縄県立図書館、琉球大学附属図書館、琉球新報社

（後援）沖縄タイムス社、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、ラジオ沖縄、FMレキオ、エフエム沖縄、タイフーンfm、沖縄ケーブルネットワーク株式会社

展示資料：ハイネの原画（水彩画）5枚1組 [内4枚は明星大学、1枚は個人所蔵]、ペリー再来航及献上品絵巻 嘉永7年2月再来航図巻 [明星大学所蔵]、ペリー『日本遠征記』、琉米条約（複

製)、W・ボードの墓碑(拓本) 他

展示期間: 2014年11月29日(土)～12月21日(日)

展示解説会: 2014年12月7日(日)・13日(土) 10:00～11:00

○「琉球王国時代の地図と測量技術」

主 旨: 琉球王国時代、琉球やその周辺を描いた地図が国内外の各地で様々な目的をもって製作された。琉球ではいつから作成されたのかははっきりしないが、18世紀に最先端の測量術を取り入れると、測量や製図の技術はめざましい発展を遂げ、現在の地図と比べても遜色のない地図が作り上げられた。

ここでは、琉球王国時代につくられた地図や測量技術に関する最新の研究成果を盛り込み、王府による測量と地図製作事業を紹介した。

展示資料: 『羽地間切針竿帳』、薩摩藩調製(琉球)図 [沖縄県立図書館所蔵]、琉球国惣絵図(間切集成図)、首里古地図(特大パネル)、久茂地村屋敷図(写) [沖縄県立図書館所蔵] 他

展示期間: 2015年1月8日(木)～4月12日(日)

*第1期 1月8日～3月8日、第2期 3月12日～4月12日



ペリー一行の見た琉球・日本の展示風景



地図と測量技術の展示風景

◎不足2…94ページ、当館所蔵の【県指定文化財(有形文化財)】につきまして、以下の内容が欠落しておりました。深くお詫び申し上げます。

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所有者
工 芸 品	色象嵌粟絵菊花皿	1口	昭54. 9. 3	沖 縄 県

◎誤 記…191ページ、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例(観覧料)別表第2(第11条関係)につきまして、次ページの通り、内容の誤りがございました。深くお詫び申し上げます。

誤（太字部分）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	4,750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円）
美術館施設	常設展	4,900円	4,600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円）

正（太字部分）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円）
美術館施設	常設展	900円	600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円）